

令和4年度 法務省委託事業

受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る課題分析を通じた
問題性別就労指導プログラム及び就労問題アセスメントツール開発のための
調査研究業務
報告書

令和5（2023）年3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

■ 目 次 ■

第 I 章 調査研究の概要	1
1. 調査研究の目的	1
2. 調査研究の実施体制	2
3. 調査研究の内容	3
第 II 章 調査結果のまとめ	5
1. 問題性別就労指導プログラムの開発方針のあり方	5
(1) プログラムの対象者	5
(2) 開発するプログラムの数	6
(3) プログラムの内容	6
(4) 使用する教材・ツール	10
(5) 実施方法	10
2. 就労問題アセスメントツールの開発方針のあり方	11
3. 残された課題	12
第 III 章 受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る現状把握	13
1. 文献調査	13
(1) 調査実施概要	13
(2) 調査結果	13
2. ヒアリング調査	38
(1) 調査実施概要	38
(2) 調査結果	38
第 IV 章 アンケート調査	40
1. 調査実施概要	40
(1) 調査の目的	40
(2) 調査対象	40
(3) 調査方法	41
(4) 調査実施期間	41
(5) 調査項目	42
(6) 回収状況	44
2. 受刑者調査 結果概要	45
(1) 回答者のプロフィール	45
(2) 仕事の経験	54
(3) 出所後の仕事や生活	61
(4) 自己肯定感	77
(5) 仕事についての考え	93
(6) 人とのつきあいに関する考え	98

3. 受刑者調査（就労支援対象者票、非就労支援対象者票）の分析.....	110
(1) データ分析の概要.....	110
(2) 選択肢の妥当性の検討.....	110
(3) 設問の妥当性の検討.....	115
(4) 就労支援希望の要因分析.....	117
(5) アンケートデータの分析のまとめ.....	122
4. 職員調査 結果概要.....	123
就労支援対象者の就労意欲の評価.....	123
5. 刑務所出所者調査 結果概要.....	124
(1) 回答者のプロフィール.....	124
(2) 今の仕事について.....	125
(3) 入所中に受けた職業訓練や就労支援等について.....	129
(4) 金銭管理について.....	132
(5) 再犯と仕事の関係.....	133
第 V 章 SCRP データの分析.....	137
1. 調査実施概要.....	137
(1) データ分析の目的.....	137
2. データ分析の結果.....	137
(1) SCRP データの概要.....	137
(2) 本分析で特に注目する変数について.....	139
3. データ分析の結果.....	139
(1) 就労支援を受ける人はどんな人か.....	139
(2) 就労している人はどんな人か.....	143
(3) 就労が続いている人はどんな人か.....	147
4. 結果のまとめ.....	151
(1) 結果のまとめ.....	151
(2) 分析で残った課題、今後に向けて.....	151

(特別原稿) 大阪公立大学大学院都市経営研究科 准教授 五石敬路「データ分析報告書」

参考資料

- アンケート調査 単純集計表
- アンケート調査票

第I章 調査研究の概要

1. 調査研究の目的

(1) 目的

受刑者の再犯防止のためには、出所後直ぐに就労を開始し、安定した社会生活を送ることができるよう、刑事施設在所中の就労支援が重要である。しかしながら、「刑務所出所者等総合的就労支援対策」に基づく就労支援（以下「就労支援」という。）を受けることを希望し、その支援の対象となる者は年間約 4,000 人程度に留まっている。

就労支援を受けることを希望しない者の中には、出所後の稼働能力はあるものの就労支援を希望せず、かつ出所後の就職見込みのない者がみられる。彼らの就労意欲を喚起し出所後の就労に結び付けるため、受刑者の特性と問題を整理し、それらを踏まえたきめ細やかな指導を行う必要がある。

そこで、本調査研究では、受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る課題を分析し、そのうち刑事施設内での指導により改善が可能な課題について、効果的なプログラム（以下「就労指導プログラム」という。）の開発方針を策定する。また、各受刑者の特性、就労に関する課題の有無や程度、必要な就労指導プログラムのニーズをアセスメントするためのツール（以下「アセスメントツール」という。）の開発方針を策定する。

なお、本調査研究における「就労」とは、主に被雇用者として企業・団体等で働くことをいい、雇用形態は問わない。

(2) 本調査研究の目指す姿（アウトカム）

本調査研究の目指す姿は、以下の2点である。

- ・ 稼働能力のある受刑者が、出所後「働こう」「働き続けよう」という就労意欲・職業意識を持つこと
- ・ その結果、就労支援の希望者が増えること

2. 調査研究の実施体制

本調査研究では、調査の設計や結果について助言を得るため、検討会を設置した。

<委員：五十音順、座長◎>（敬称略）

工藤 啓 認定特定非営利活動法人育て上げネット 理事長
五石 敬路 大阪公立大学大学院都市経営研究科 准教授
高橋 哲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 准教授
竹内 政昭 認定特定非営利活動法人神奈川県就労支援事業者機構 事務局長
◎藤野 京子 早稲田大学文学学術院 教授

<法務省>

法務省矯正局成人矯正課

<事務局>

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 経済政策部

<検討会の開催経緯>

	開催日時・場所	議題
第1回	2022年7月28日（木）14時～16時 三菱UFJリサーチ&コンサルティング会議室	・事業概要について ・文献調査、ヒアリング調査について ・法務省の取組みについて
第2回	2022年9月28日（水）13時～15時 ビジョンセンター東京駅前 会議室	・令和元年・2年出所者の職業訓練・就労支援に関するデータ分について ・アンケート調査票について
第3回	2023年3月2日 三菱UFJリサーチ&コンサルティング会議室	・アンケート調査結果について ・問題性別就労指導プログラム、就労問題アセスメントツールの開発方針について

3. 調査研究の内容

(1) 文献調査

受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る取組みの現状と課題を把握し、アンケート調査票作成の参考にするとともに、就労指導プログラムやアセスメントツールの方針策定の参考となる情報を収集するため、国内外の文献調査を実施した。

文献調査では、受刑者自身が抱える就労支援上の問題について分析した文献の参照、諸外国における受刑者向けの就労支援・キャリア形成のための教育プログラムについての情報収集等を実施した。

(2) ヒアリング調査

文献調査と並行して、アンケート調査票及び就労指導プログラムやアセスメントツールの方針作成の参考とするため、刑事施設（2か所）、刑務所出所者雇用企業（3か所）、法務省職員等へのヒアリングを実施した。

(3) アンケート調査

受刑者の就労意欲及び出所後の就労継続に係る現状と課題を把握し、就労指導プログラム及びアセスメントツールの開発方針策定の参考とするため、受刑者（平成25（2013）年4月1日付け法務省矯成第796号矯正局長通達「受刑者及び少年院在院者に対する就労支援の実施について」の記3（1）に基づき就労支援対象者又は準支援対象者に選定された者（以下「就労支援対象者」という。）、平成25（2013）年4月1日付け法務省矯成第796号矯正局長通達「受刑者及び少年院在院者に対する就労支援の実施について」の記3（1）に基づき就労支援対象者又は準支援対象者に選定されていない者（以下「非就労支援対象者」という。）、2回以上の受刑歴のある者（以下「再入受刑者」という。))を対象としたアンケート調査を実施した。また、調査対象者の属性等に関する情報については、法務省より個人を特定できない形でデータの提供を受け、集計・分析を行った。

また、受刑者を対象としたアンケート調査の分析の参考とするため、出所者を対象としたアンケート調査も実施した。

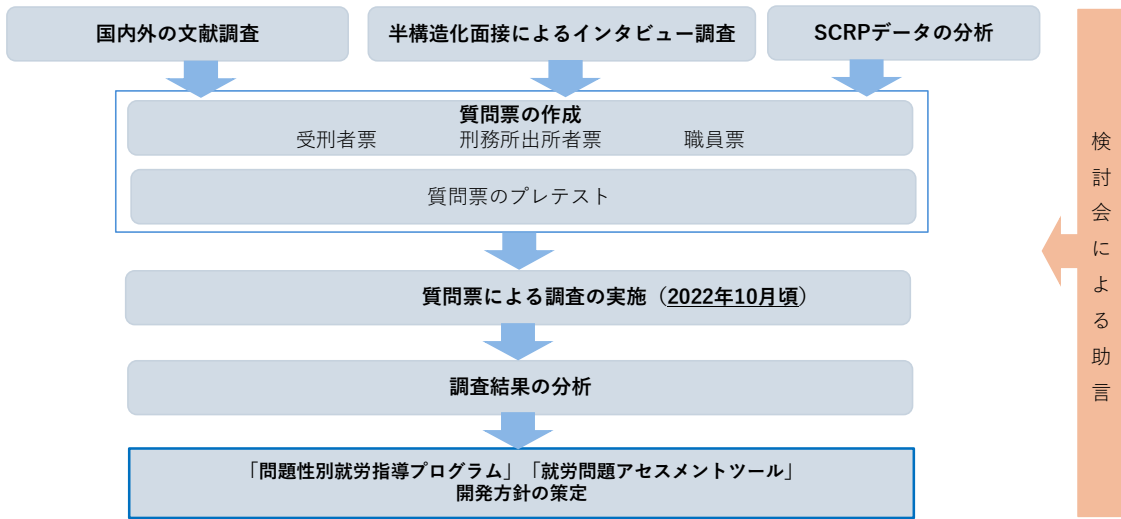
(4) SCRP データの分析

法務省では、2017（平成29）年12月から、検察、矯正施設、保護観察所等がそれぞれ保有・管理する情報を連携させ、受刑者・保護観察対象者等に対する指導や再犯の実態把握、施策の効果検証等に活用する「刑事情報連携データベースシステム（System for Crime and Recidivism Prevention : SCRP）」¹を運用している。

本調査研究では、法務省より、令和元年及び令和2年の刑務所出所者に関するSCRPデータを個人を特定できない形で提供を受け、分析を行った。

¹ SCRP から抽出したデータは、法務省が公表している各種統計値と一致しない場合がある。

<調査研究の全体像（フロー図）>



第Ⅱ章 調査結果のまとめ

ここでは、調査研究の結果及び検討会での議論を踏まえ、来年度以降に開発予定の就労指導プログラム及びアセスメントツールの開発方針について述べる。

1. 問題性別就労指導プログラムの開発方針のあり方

(1) プログラムの対象者

- ・ 今回実施したアンケート調査において、就労指導プログラムの受講対象とすべき受刑者について、当該受刑者の就労支援を担当する職員（以下「就労支援担当者」という。）に尋ねたところ、以下のような受刑者像が挙げられた。また、全ての受刑者（何らかの理由で就労が困難な者を除く。）を対象とした就労指導プログラムの必要性を述べる意見もみられた。

（就労指導プログラムの対象者）

- 仕事をする目的、やりがいについて考えることが出来ていない者
 - 就労経験が乏しい者
 - 離転職を繰り返している者
 - 就労意欲はあるが、現実的でない考えを持っている者
 - 他者とのコミュニケーションに課題がある者
 - 金銭管理ができない者
 - 自分に自信が持てない者
 - 全ての受刑者
- ・ 今回実施したアンケート調査では、就労支援対象者の 96.1%、非就労支援対象者の 94.5%が収入を伴う仕事をした経験を持っていたものの、犯罪時には「職業なし」の者が半数を超えていた（就労支援対象者 68.8%、非就労支援対象者 54.4%、再入受刑者 65.2%）。また、出所後の仕事について「職場の上司や同僚とうまくやっていけるか」（就労支援対象者 47.2%、非就労支援対象者 28.7%）、「与えられた仕事をうまくこなせるか」（就労支援対象者 38.8%、非就労支援対象者 25.6%）、「稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか」（就労支援対象者 38.5%、非就労支援対象者 31.2%）などの不安を抱えている者もみられた。
 - ・ そのため、開発するプログラムのうち基本的なものとして、全ての受刑者（何らかの理由で就労が困難な者を除く。）が受講するプログラムがあるとよいのではないか。その基本的な就労指導プログラムを受講した上で、必要に応じて問題性別に分かれた就労指導プログラムを受講するようにするとよいのではないか。
 - ・ また、就労指導プログラムの対象年齢については、まずは稼働年齢層（～64 歳未満）が中心となる。SCRIP データの分析の結果、若年者ほど就労していることを踏まえると、年齢別に就労指導プログラム（若年者向け、中高年齢者向け等）を開発することも考え

られる。ただし、検討会における議論では、最近の社会情勢を踏まえ、高齢者の就労も課題であるとの意見がみられた。

(2) 開発するプログラムの数

- ・ 受刑者の抱える課題（問題性）は多様であり、個々の受刑者によって課題は異なるため、複数の就労指導プログラムの中から選択できるようにすることが望ましい。
- ・ ただし、各刑事施設では既に様々なプログラムが行われていること、初めての試みとなる就労指導プログラムの導入は丁寧に進めていくのが望ましいことから、まずは 5 種類程度の開発を進めるとよいのではないかと。

(3) プログラムの内容

- ・ 本調査研究を実施するにあたり、目指す姿（アウトカム）を以下の 2 点とした。また、SCRIP データの分析の結果、就労支援を受けている人は就労しやすいことが明らかになった。
 - 稼働能力のある受刑者が、出所後「働こう」「働き続けよう」という就労意欲・職業意識を持つこと
 - その結果、就労支援を受けることを希望する者が増えること
- ・ そのため、就労指導プログラムはこれらの最終アウトカムを目指すものとなる。ただし、最終アウトカムは対象者にとって抽象的な印象を与えるところがあるため、就労指導プログラムの開発にあたっては、より手前の初期アウトカムを設定し、ロジックモデル（インプット→アウトプット→初期アウトカム→最終アウトカム）を作成した上で検討すべきではないか。そうすることで、対象者はより身近な目標や成功体験を実感しやすくなり、プログラム自体の効果も測定しやすくなるのではないかと。
- ・ また、就労指導プログラムの水準（レベル）に関連して、アンケート調査に回答した受刑者の最終学歴をみると、高等学校を卒業していない者の割合（不就学、中学校在学・中退、中学校卒業、高等学校在学・中退の和）が就労支援対象者で 45.8%、非就労支援対象者で 58.1%、再入受刑者で 70.3% を占めた。高等学校を卒業している者の割合は、就労支援対象者で 33.8%、非就労支援対象者で 24.9%、再入受刑者で 23.3% と、大学に進学している者の割合は低い。
- ・ そのため、開発する就労指導プログラムは、中卒・高卒者向けのものが中心となる。ただし、検討会における議論では、既存のプログラムには高学歴者を対象としたものが少なく、高学歴者のモチベーションを下げていること、高学歴者には例えばプログラミングやマーケティングなどが人気であるとの意見がみられた。将来的にプログラムの数を増やしていく場合には、このような対象者は少ないもののニーズは高い内容のプログラムを開発することも考えられるのではないかと。
- ・ 以下では、本調査研究を踏まえ、来年度（令和 5 年度）以降に開発する就労指導プログラムとして考えられる例を挙げる。

＜自分ができること／できないこと、やりたいこと／やりたくないことを知る＞

- 就労支援対象者(1,130名)の就労意欲に関する、就労支援担当者の評価をみると、就労意欲が「やや低い」が11.9%、「低い」が3.6%となっており、就労支援対象者の中にも職員からみると就労意欲が低い者もみられた。また、就労意欲が「やや低い」あるいは「低い」者の特徴として、「自己評価と現実との間にギャップがある」(50.3%)が挙げられている。
- また、就労支援対象者を、職員による評価別に「A：就労意欲が高い・やや高い」「B：就労意欲が低い・やや低い、かつ自己評価と現実との間にギャップあり」「C：就労意欲が低い・やや低い、かつ自己評価と現実との間にギャップなし」の3群に分け、自己肯定感の項目(私は、自分自身にだいたい満足している)との関係を見ると、「強くそう思う」と「そう思う」の和がAで24.2%、Bで34.1%、Cで21.8%と、本人は自分自身に満足しているものの職員から見ると自己評価が高いと思われる(自己評価と現実との間にギャップがある)例がみられた。
- 加えて、受刑者は離転職を繰り返しているなどの理由で、就労経験が乏しい者がみられ、自らの能力や適性を理解していない者も多いと考えられる。
- そこで、自分ができること・できないこと、やりたいこと・やりたくないことを考え、自己理解を深める機会を設けることが必要ではないか。また、現実的な視点を持ち、自分がやりたいこととできるとのギャップを埋めていくことも重要ではないか。
- アンケート調査では、自己肯定感が高い者ほど就労支援に参加しない傾向がみられたが、自己理解を深め、自己評価と現実のギャップを埋める過程を経ることによって、正しい自己認識に基づいた自己肯定感が醸成され、就労支援を受けることを希望する者も増えるのではないか。

＜経験を通じて成功体験をもつ、積み重ねる＞

- 受刑者の中には、高校中退など学校に通った経験が十分でない者が少なくない。そのような者は、授業以外の行事(文化祭、体育祭等)の経験を通じて、他者と協力し合いチームとなって取り組み、成功を収めた経験も十分でないと考えられる。
- さらに、就労経験が十分でない場合等には、就労すること(はたらくこと)のイメージが持ちづらい、想像しづらいことも考えられる。
- そこで、例えば、受講する受刑者でいくつかのグループをつくり、互いに意見を出し合い協力し合いながらモノづくりをする、プロジェクトを進める取り組みが必要ではないか。検討会における議論では、刑事施設内の環境が許せば、小規模なビジネス(例：商品の販売、模擬店の運営等)ができるとよいつの意見がみられた。
- これらの取り組みによる経験を通じて、少しずつ成功体験を積み重ねることが、受刑者の自信につながるのではないか。また、一般に、小規模なものであってもひとつ

のプロジェクトを進めるにあたっては、様々な業務や作業が生じるため、その遂行を通じて、各受刑者の得意なこと・不得意なことが明らかになり、出所後の仕事の選択にも役立つのではないかと。

<対人関係やコミュニケーションを円滑に進める方法・コツを身につける>

- アンケート調査では、出所後の仕事に関する不安について、就労支援対象者の47.2%、非就労支援対象者の28.7%が「職場の上司や同僚とうまくやっていけるか」を挙げていた。出所後の就労予定の有無別に「職場の上司や同僚とうまくやっていけるか」の割合をみると、就労支援対象者では「出所後の就労予定あり」で56.1%、「出所後の就労予定なし」で45.9%だった。非就労支援対象者では「出所後の就労予定あり」で22.0%、「出所後の就労予定なし」で40.0%だった。既に出所後の仕事が決まっています、就労支援を受けていない層を除き、多くの受刑者が職場でのコミュニケーションに不安を抱えている様子がうかがえる。
- また、内閣府「生活状況に関する調査（平成30年度）（本人票）」と同じ調査項目を用い、人とのつきあいに関する考えを尋ねたところ、「大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ」、「大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ」の項目のみ、内閣における一般人（広義のひきこもり以外の者）より平均点が低く（「はい」と答えた者が少なく、「いいえ」と答えた者が多い）、受刑者は周囲に相談せずに物事を決めがちである可能性がみられる。
- ついては、出所に備えて、仕事に関するコミュニケーションを学ぶ機会を設けると、受刑者の不安が和らぐのではないかと。この中には、あいさつをする、約束を守るなどの基本的な内容も含まれる。
- ただし、就労支援においては、各受刑者の個別的な特定や課題にあわせた支援が必要であるため、アセスメントの結果を踏まえ、他者とのコミュニケーションが比較的少ないなど、本人の適性に合わせて仕事を探す視点も重要となる。

<金銭管理について学ぶ>

- アンケート調査では、半数以上の者が入所前5年間に生活費が足りなくなった経験が「ある」と回答していた（就労支援対象者65.8%、非就労支援対象者56.1%、再入受刑者60.5%）。非就労支援対象者について、出所後の就労予定の有無別に「ある」の割合をみると、「出所後の就労予定あり」で53.9%、「出所後の就労予定なし」で67.0%だった。
- また、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験が「ある」割合は、就労支援対象者で49.7%、非就労支援対象者で44.3%、再入受刑者で37.2%だった。非就労支援対象者について、出所後の就労予定の有無別に「ある」の割合をみると、「出所後の就労予定あり」で41.8%、「出所後の就労予定なし」で53.3%と、一定数の受刑者が自らの家計を管理できていない様子がみられる。就労支援を受

けておらず、出所後の就労予定もない者が、金銭管理を十分にできない状況のまま、出所しているケースがある現状もうかがえる。

- このような状況を改善するため、専門家と連携し、金銭管理の考え方や方法を学ぶプログラムを設けてはどうか。金銭管理の観点から受刑者の生活上の課題を見つけ出し、受刑者自身に現状を理解してもらい、必要なノウハウを身に付けることを通して、出所後、受刑者自身が自らの家計を管理できるように促していくことが重要ではないか。

<多様な仕事や働き方があることを知る>

- 受刑者にとってこれまで一番長く続いた仕事（業種）については、「建設・土木関係」を挙げる回答が多い（就労支援対象者 30.3%、非就労支援対象者 39.5%、再入受刑者 55.9%、ただし再入受刑者は前回出所から今回入所までについて尋ねたもの）。一方、他業種の割合はいずれも低く、業種に偏りがみられるのが現状である。また、経験のある働き方については「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」が多数を占めている。
- 希望する業種や職種、働き方については、入所前の自身の経験や周囲の家族や知人等の状況が影響を与えると思われるが、受刑者の中には、世の中には様々な仕事や働き方があることを実感できず、選択の幅を狭めているものもみられるのではないか。
- そのため、協力雇用主等の企業経営者、出所後仕事を継続し活躍している刑務所出所者等の事例を通じて、多様な仕事や働き方を学ぶ機会を設けてはどうか。特に、同じ立場の元受刑者の活躍ぶりを知り、助言を得ることはピアサポートの側面もあり、受刑者のモチベーション向上に資するものと考えられる。

<仕事のルールや困った時の対応について学ぶ>

- 既に述べたとおり、出所後の仕事について、多くの受刑者は職場でのコミュニケーションに不安を抱えている。
- これまでに一番長く続いた仕事を辞めた理由についても、「逮捕・受刑等のため」（就労支援対象者 36.8%、非就労支援対象者 38.0%）を除くと、「人間関係がよくなかった」の割合が高く、就労支援対象者で 20.6%、非就労支援対象者で 17.5%だった。
- 職場での人間関係が円滑に進むようコミュニケーションを学ぶことについては上記のとおりであるが、もしうまくいかないことがあってもすぐに辞めないよう、仕事の基本的なルールや労働者の権利について学ぶ機会が必要ではないか。受刑者自身が知識を身に付けることによって、周囲と話し合い、必要に応じて自身の状況や思いを説明することができ、避けられるトラブルもあるのではないか。
- また、困ったことがあった時に一人で抱え込み、悩んだ結果、仕事を辞めてしまわ

ないよう、困った時の相談先を知っておくことが必要ではないか。

(4) 使用する教材・ツール

- 就労指導プログラムに必要な教材については、まず各受刑者に配付する、主に紙媒体のワークブックやテキスト、職員用の手引き等が考えられる。既存のプログラムでも様々なワークブックやテキスト等が作成されており、受刑者及び指導する職員の双方に馴染みやすいものと考えられる。
- 一方、就労支援担当者からは、動画等の視聴覚教材の活用を薦める意見もみられた。文字やイラストだけでなく、動画を活用することで、より具体的な理解が可能となる。また、予め先方にかがって動画を撮影するのであれば、刑務所を訪問しづらい遠方の企業や刑務所出所者の協力も得やすくなるため、紙媒体と動画を併用することも検討するとよいのではないかと。
- 検討会における議論では、プログラムの中でゲームを活用するなど、楽しみながら仕事や生活、人生について学ぶ方法も有効ではないかとの意見がみられた。また、各受刑者にタブレットを配付するなど、将来的な ICT の活用を見据え、試行庁での取組みを検討してもよいのではないかと、ICT の活用はプログラムの可能性を広げるのみならず、職員の負担軽減につながるのではないかと意見も挙げられた。

(5) 実施方法

- 就労支援担当者の意見や、検討会における議論では、就労指導プログラムの実施方法については、外部講師による講演や研修のほか、比較的少人数でのグループワークを取り入れることも有効ではないかとの意見がみられた。
- 特に、少人数でのグループワークは、受刑者が互いに意見を述べ合う機会を得られること、ひとつの目的に向かってメンバーが協力し合うプロセスが経験できること等の理由で有用な実施方法であると考えられる。就労指導プログラムを受講する受刑者の状況、各刑事施設の資源等を踏まえ、可能な範囲で取り入れることを検討してはどうか。
- なお、就労指導プログラムを実施する時期、頻度、期間については、一般的に想定される例（モデル）を示しつつ、実際の運用は各刑事施設で検討することがふさわしいのではないかと。

2. 就労問題アセスメントツールの開発方針のあり方

- ・ 1. で述べた就労指導プログラムとともに、それらを受講する対象者を選ぶため、就労に関するニーズをアセスメントするツールを開発する。各刑事施設では既に様々なプログラムが実施されており、アセスメントツールも多数あることを踏まえ、就労支援担当者等の職員の負担に配慮することがまずは重要である。
- ・ その観点から、本調査で実施したヒアリング調査では、アセスメントツール（調査票）は自記式が望ましいとの意見がみられた。他のプログラム等の関係（優先順位等）や、実施側の資源の問題を考慮する必要性を考えると、自記式を基本としつつ、その結果を見て職員が決める（裁量の余地を残す）方法がよいのではないか。
- ・ また、アセスメントツールの項目数もあまり多過ぎず、必要十分な項目数に絞ることも必要ではないか。今回実施したアンケート調査の項目をたたき台として、必要に応じて更なる分析を加え、十分な検討をしていくことが求められる。また、アセスメントツールの案が出来た段階で、試行調査や関係者からの意見聴取を行い、精度を高めていくプロセスも重要ではないか。
- ・ 加えて、今後アセスメントツールの活用が進むことを見据え、記録の管理方法やツールについて、将来的な ICT の活用を含めた方策の検討も検討課題であると考えられる。

<アセスメントツールとして検討する項目（例）>

- 年齢
 - 学歴
 - 罪名、入所度数、犯罪傾向の進捗
 - 就労経験の有無、経験のある業種、働き方
 - 離転職の回数
 - 希望する職種、働き方
 - 在所中内定の有無及び職員による評価との関係
 - 金銭管理（生活費が足りなくなった経験、公共料金や家賃の滞納経験）
 - 自己肯定感及び職員による評価との関係
- ／等

3. 残された課題

① 調査結果の更なる分析、深掘り

- ・ 本調査研究では、就労支援対象者、非就労支援対象者、再入受刑者、出所者に関する多くのデータを収集した。これらのデータについて、職員調査やSCRIPデータとの紐づけを行い、分析をした。
- ・ 令和5年度以降、これらの貴重なデータを用い、更なる分析を進めることが必要である。例えば、就労支援対象者、非就労支援対象者、及び再入受刑者の更なる比較を行うこと、就労支援の「質」とアウトカムの関係、職員から見た評価とアウトカムの関係等が挙げられる。

② 女子受刑者

- ・ 今年度は調査実施の都合上、調査対象者は男性のみとした。そのため、令和5年度以降に開発するプログラム及びアセスメントツールも基本的には男性向けのものとなる。（性別を問わず、全ての受刑者に適用されるプログラムを除く。）
- ・ 検討会における議論等の中で、女子受刑者は、配偶者やその他家族からの影響等により、男子受刑者とは就労に対する考え方が大きく異なるとの意見がみられた。そのため、女子受刑者向けのプログラムの開発に当たっては、男子受刑者と同様、事前に調査を実施し、その調査結果を踏まえて検討することが必要である。

③ 刑務所出所者の現状と課題の把握

- ・ 今回、受刑者と刑務所出所者（出所後、就労している者）を比較することを目的に、出所者調査を実施した。関係者の多大なご協力の下、出所者の貴重な意見を頂いたものの、サンプル数としては59件にとどまり、受刑者との比較をするには十分なサンプル数は得られなかった。
- ・ その要因としては、今回は刑務所出所者を雇用する企業を通じて調査票を配付したが、そもそも配付できる企業数が少なかったこと、プライバシー等には十分配慮した上で協力を依頼したものの、それでもやはり対象者が調査に回答することに抵抗感を示したこと等が挙げられる。
- ・ アンケート調査の実施にあたっては、回答者の心情に配慮しつつ協力を得ることが非常に重要であり、その意味では配付数が少ない中で多くのサンプルを得ることは難しい面がある。一方、今後受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続について検討するためには、刑務所出所者の現状と課題を把握することは欠かせないため、その手法や進め方等について検討が必要である。

第 III 章 受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る現状把握

本調査研究では、まず受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る取組みの現状と課題を把握し、アンケート調査票作成の参考にするとともに、就労指導プログラムやアセスメントツールの方針策定の参考となる情報を収集するため、文献調査及びヒアリング調査を実施した。

1. 文献調査

(1) 調査実施概要

文献調査では、主に二つの項目について調査を行った。一つ目は、受刑者自身が抱える就労支援上の問題について分析した文献（主に国内の文献）を参照した。分析の中で「就労に影響する」とされる要因の中でも、刑事施設内プログラム等の実施により後から変化させることが可能な要因（ニーズ・動的风险要因）を中心に抽出し、アンケート調査項目等の検討の際の参考とした。

二つ目の項目として、諸外国における受刑者向けの就労支援・キャリア形成のための教育プログラムについての情報を収集し、実施主体、プログラムの概要、効果、対象者（選定基準）等の項目で整理した。その上で、特に就労に特化したプログラムの具体的な支援・教育内容の抽出や、各国の事例を踏まえた傾向等を考察した。

(2) 調査結果

① 受刑者の就労に影響する要因の分析

主な参考文献における上述の抽出事項（「就労に影響する」とされる要因の中でも、刑務所内プログラム等の実施により後から変化させることが可能な要因（ニーズ・動的风险要因））は下表のとおり。

これらの文献では、受刑者・少年院在院者・生活困窮者等を対象に、就労・立ち直り・社会復帰等に影響する要因を、様々な調査方法を用いて分析している。影響する要因は多様であるが、複数の文献で言及されている点として大まかには、①性格・考え方等（自立志向、自己肯定感、セルフコントロール、目標指向性、ストレス管理等）、②対人スキル（コミュニケーション、問題解決能力）、③就労観（現実的な求職希望、求職活動の知識、堅実な将来設計等）といった点が挙げられる。

<主な参考文献と調査項目への示唆>

	文献名・著者名等	調査項目への示唆を与える分析
1	<p>「刑事施設における就労支援に係るプログラムの策定」 田辺勝海、松村茂樹 (2021)</p>	<p>(調査概要：就労に係る指導が必要な者を把握するため、受刑者(150名)に調査票及び口頭で、犯行前の就労状況、経済状況、交友関係、離職理由等の項目を聴取。犯行時から遡り1年以内の合計就労期間(4つの群に分類)と、他の項目のクロス集計により分析。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 合計就労期間が6か月以下の者は、経済的に困窮しやすく、他者との関係が希薄で、契約期間満了や会社の倒産など、自身の力ではどうにもならない事情により離職し、その後新たな就労先を確保できていない傾向がある。合計就労期間が長い者は出所後の就労意思が明確な傾向があるが、過半数が「人間関係」「給与不満」「待遇不満」といった(対人スキル向上や認知の再構成で改善可能な)理由で離職し、「正式な手続きを伴わない離職」も見受けられる。 ■ 刑事施設における就労に関する指導において設けるべき3つの項目として、以下を挙げている。 <ul style="list-style-type: none"> ①基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力) ②就労継続要因(働く大切さを考える機会がある、有休が取得しやすい、尊敬できる人がいる等)について認知や価値観を自覚させ、必要に応じ再構成させる。 ③出所後に直面する課題(過去の就労生活と犯罪への影響、自身の受刑歴の扱い、離職の検討・準備、賠償責任への対応等)
2	<p>‘Career counselling ex-offenders: Issues and interventions’ Charles P Chen & Brittany Shields (2020)</p>	<p>(調査概要：文献調査に基づく定性的な分析。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 刑務所出所者の就労に係る困難として以下4つの要因を指摘している。 <ul style="list-style-type: none"> ①雇用されるためのスキルの欠如：教育・訓練及び就労経験の不足、一般的なスキルの不足(職業開発・求職スキル、自立に必要なスキル、即戦力となるための時間厳守・勤労・信頼構築、成熟さ、積極的な勤務態度、衝動性の抑制能力、抽象的推論、社会感覚性、対人問題解決) ②否定的な態度：出所後の限定的な就職機会による自己肯定感、成果への期待、興味、選択、パフォーマンス等の低下 ③限定的な就労機会：犯罪歴による差別や、「暴力的」、「職場で犯罪行為をする」、「責任感や信頼性が欠ける」、といった雇用主からのスティグマ(烙印)による ④合法的なキャリアを模索し獲得する動機付けの欠如：初心者レベルのポジションに着くことによる動機の欠如(これに対して、薬物売買や詐欺等の非合法的な職業は、自己肯定感・高収入・仲間からのサポート等、出所者が合法的な職業では得られないものを提供する) ■ 特に自己効力感等に働きかける下記3種類の介入を分析した過去研究を概観 <ul style="list-style-type: none"> ①社会的認知キャリア理論：社会的認知論(Bandura, 1986)に基づき、自己肯定感を高める介入により、自身のキャリアについて積極的な決定を可能とするアプローチ。

		<p>本理論に基づく取り組み例として、プログラム（Project PROVE）を紹介。同プログラムは、出所 6 か月前の女子受刑者向けの 12 週間のプログラムであり、環境と自身の行動・自己認識の関係の理解、学習と行動変容を理解するための取り組み、労働者としての自身の理解、目標設定と実用スキルの習得、将来設計の 5 つの要素が含まれる。</p> <p>②認知情報処理論：キャリアの意思決定は、自身と就労にかかる情報処理に基づき行われるとし、個人のキャリアに関する決定や、問題解決・意思決定手法の習得を支援することを目的としている。</p> <p>本理論に基づく取り組み例として、本理論を基にした介入評価ツール（Career Thoughts Inventory; CTI）に言及し、意思決定にかかる理解不足・混乱、キャリア選択に関する不安、自身の見解と他者の指摘のバランスの 3 つの観点からキャリアの意思決定に関する否定的な考えを測る本ツールの有用性に言及。</p> <p>③ナラティブアプローチ：自身のシナリオの再構築・明確化が目標達成のための順応性・スキル開発に有用であるとする考え方に基づくアプローチ。</p> <p>本見解に基づく取り組み例として、Good Lives Model Programme を紹介しており、同プログラムでは、（1）過去の自身の出来事と現在のつながりを考え、自分の核となる価値を決定・再構築し、それに基づく将来目標を定め、（2）将来の計画達成に障害となる要因を見出し、カウンセラーと共に代替策を考えて備える取り組みを行うとしている。</p>
3	<p>「矯正施設における就労支援の効果的な実施方法について」 眞鍋 明稔、神垣 一規（2019）</p>	<p>（調査概要：被収容者が抱える就労に係る問題の分析として、平成 30 年上半期及び下半期の就労支援の成功事例合計 282 件について、記載されている支援対象者本人の問題点と、それに対して執られた支援方法を一つずつ書き出し、KJ 法を用いて分類。）</p> <p>■ 受刑者の抱える就労上の問題点として、以下 6 カテゴリー・25 の問題点が見いだされたとしている。</p> <p>①帰住先関係：帰住先がない、帰住地に希望求職がない・遠い、雇用先に帰住する場合土地勘がなく不安</p> <p>②高齢、精神障害、知的障害、その他身体障害や持病等</p> <p>③犯罪関係：罪名により企業から拒否される・地元に戻れない、常習性（窃盗・覚せい剤等）、不良交友、受刑が長期で就労の前に社会適応が必要、暴力団関係</p> <p>④本人の特性：就労に付随する問題（親に世話になればいい等の甘え、過去の仕事の成功体験への固執、就労についての自信欠如）、本人の人間性に関する問題（自己愛性の高さ、主体性の乏しさ、自己否定感の強さ、猜疑心の強さ）、コミュニケーション能力不足（自己表現が下手、内向的）、所内適応の問題（懲罰を繰り返す）等</p> <p>⑤社会生活力：経験不足（職歴がない、離職期間が長い、短期就労を繰り返している）、知識不足（求職活動に関する知識不足、社会常識が不足）</p> <p>⑥希望職種関係：職種のこだわり（過去に経験した職種を希望し他に興味を示さない）、無謀な求職希望（経験がない職種への希望）、求人がなく希望職種の変更が必要、希望職種を頻繁に変える</p>

4	<p>「法務省研究部報告 58 青少年の立ち直り（デシスタンス）に関する研究」 法務省（2018）</p>	<p>（調査（1）概要：少年院の出院者（社会内での回答者 72 人、再入院者 47 人）について、立ち直っている者と再入院した者の比較、及び一般青少年（260 人）との比較を、生活習慣、対人関係、心理的特徴、更生意欲等の項目を含む質問紙調査を用いて行い、出院後立ち直っている者の特徴を検討。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 特に心理的特徴に関し、立ち直っているものは再入院者に比して、自己肯定感、セルフコントロール可能性、内的統制傾向、目標指向性、希望、といった項目が高い傾向が見られた。また、内的統制傾向及び目標指向性については、一般群に比しても優位に高い傾向が見られた。一方、過去受容については、一般群より優位に低かった。 <p>（調査（2）概要：少年院を出院した者（立ち直っている者と再入院した者）に対して、1 年程の期間を空けて二度の面接調査を実施し、これまでの出来事や自分自身の捉え方、将来の見通し、非行からの離脱を促進・阻害する出来事等について聴取し、立ち直っている者の特徴を分析。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 将来の見通しについて、立ち直っている者・再入院者共に就労・就学、資格取得について言及するが、立ち直っている者は現状に根差した比較的近い将来を語る傾向があり、堅実な将来設計をしている様子がうかがえた。また、立ち直っている者は、これまでの人生の良い出来事について、特に家族を含む対人関係の良い思い出や就労・就学を通じて得た達成感に言及し、悪い出来事として自身の非行が与えた周囲への悪影響を述べる一方、再入院者は、家族を含む対人関係の良い思い出に言及する者は少なく、また悪い出来事として外的環境に起因する出来事を挙げる傾向が見られた。出院後の困難について、立ち直った者は再入院者に比べ困難にどう対処したかを語る傾向が見られた。さらに、影響を与えた出会いに関し、立ち直っている者の中には職場の上司等を挙げた者も一定数いたが、再入院者には少なく、暴力団関係者を挙げる者もいた。
5	<p>「男子受刑者が有するキャリア発達上の課題—就労安定性とその背景要因との関係に注目して—」 神垣一規、川本喜久子（2017）</p>	<p>（調査概要：受刑が初めての男子受刑者に対する半構造化面接を通し、就労安定性に影響する要因を分析。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 経験業種数には少年時の貧困や学力不足が影響し、自立志向（収入安定性）には養うべき家族の有無、社会との関係性、性格特性（安定的に物事に取り組む気質等）が影響する。また、就労維持力は、少年時の非行や家庭環境だけでなく、疾患や IQ 相当値、生活状況や性格特性とも強く結びつくと分析。 （※性格特性の項目は、法務省式人格目録（MJPI）の測定結果から把握。） ■ 就労自体の捉え方等、認知面については分析の対象としていない点を、今後の課題としている。
6	<p>「出所受刑者の生活問題と社会復帰支援の課題」</p>	<p>（調査概要：更生保護施設利用者の生活問題について、一般生活者との差異、出所を契機とした変化を、一般成人には調査票形式、出所受刑者には構造化面接による調査を用いて分析。）</p>

桐原宏行 (2014)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特に職業関連項目に関して、一般者との比較において、出所受刑者群は「自分は会社に必要とされている」「自分の意見が職場で取り上げられる」「自分は会社に貢献している」などの動機づけ要因項目（仕事の達成や成果の承認、仕事の内容や責任等、仕事に満足を感じるときの要因）、「生活に困らない給料はもらっている」「自分の仕事で人生の見通しが立つ」「知力を必要とする仕事である」「コミュニケーション力を必要とする仕事である」などの衛生要因項目（会社の管理や監督者との関係、作業条件、賃金、人間関係等、仕事上で不満を引き起こす要因）の両方で一般者群と比較して否定的に捉えていた。 ■ 入所前と出所後の比較では、出所を契機に動機づけ要因項目のすべて及び衛生要因項目で状況が悪化。（出所直後の職業生活再開の段階にあり、就労環境に慣れることに精一杯で、意欲を持って仕事に臨めるような状況にはないことがうかがえる。）
-------------	---

② 諸外国における受刑者向けの就労・キャリア形成支援のための教育プログラム

諸外国（英国、米国、カナダ、豪州、ニュージーランド、アイルランド）における就労・キャリア形成支援のためのプログラム事例（計 22 例）について、下表のとおりまとめた。事例の選定にあたっては、対象を刑事施設内で行われる支援を含むプログラムとし、また、刑務作業や職業訓練は対象からできるだけ除き、受刑者が就労について抱える具体的な課題（就労に関する知識、コミュニケーション能力など職場で必要となるソフトスキル、金銭管理能力など）に対応したプログラムを主な対象とした。

・ プログラムの実施主体

各種の就労支援プログラムの実施主体は、各国司法省や矯正局等の公的な機関、これらの機関から支援を受けたり、連携する非営利団体や慈善団体、また、公共調達等により参加する民間企業等がある。公的機関の取組みとしては、カナダやニュージーランドにおける国レベルでの雇用能力向上や適性向上のための取組や、米国の州矯正局による特徴的な取り組みが見られる。また、支援を提供する非営利団体は、受刑者・刑務所出所者の就労支援に特化した団体や企業も多く見られ（英国、米国、豪州等の事例）、専門的な支援サービスを提供していることがうかがえる。

- プログラムの主な類型

調査の対象とした就労についての具体的課題に対応したプログラムとしては、(多くの場合出所時期が一定程度近づいてきた段階で行われる。) 就労に向けた実践的な内容の教育や準備活動(履歴書作成等)を行ったり、就労において必要な雇用適正スキルを身に着けるための教育プログラム(具体的なプログラム内容は後述)が多く見られた。その他、起業や起業家精神の促進の観点からビジネススキルの習得や就労・起業等を支援するもの、また出所時期を問わずに、様々な職業分野に関する知識を得られるプログラム等もある。

なお、今回の調査の主な対象ではないが、これらの出所前の支援から継続して出所後の就労維持や社会復帰に関する支援を提供する団体やプログラムも複数みられた。

また、プログラムや支援の実施形態については、内容に応じて、キャリアカウンセラーやメンターと個別面談を行う場合や、講義形式(グループワーク等含む)、オンラインコースの受講などがある。(今回の調査の対象とはしていないが、刑事施設外への外出制度を活用して、刑事施設外での実習の機会を提供するプログラムもある。)

- プログラムの具体的な内容(例)

具体的なプログラム内容の例として、ニュージーランド更生保護局(下表の(21))では「雇用適正スキル」として以下の7項目を示し、受刑者の就業準備状況の向上に活用する取り組みが行われた。

- コミュニケーション
- 自己管理能力
- 前向きな姿勢
- チームワーク
- 学習意欲
- 思考力(問題解決と意思決定)
- 回復力

また、米国のカリフォルニア州矯正局(下表の(10))では、次の5つの単元で構成された「移行プログラム」を実施し、受刑者の雇用可能性向上と金銭リテラシーのスキルアップに取り組んでいる。特に金銭リテラシーについては、信用履歴と銀行サービスについて多くの受刑者を教育することで、金銭問題について十分な情報を得た上で決断し、上手く管理し、財務および信用履歴を改善する可能性が高くなる、としている。

- 単元1: 労働力としての準備-自己知識
- 単元2: 労働力としての準備-基本的ニーズ
- 単元3: 雇用適正-準備
- 単元4: 雇用適性-機能
- 単元5: 金銭リテラシーとポートフォリオ

上記から、さらに実践的な就労に向けたプログラムとして、ニューヨーク州矯正地域監督局（下表の（12））では、以下の雇用に関する支援サービスを提供している。

- 有給の経過的雇用とインターンシップ
 - 職業訓練と就職準備ワークショップ
 - 履歴書の書き方と面接の準備
 - ソフトスキルワークショップ
 - 正規雇用への接続
 - 金銭リテラシーのワークショップ
 - キャリア認定
- （復帰のためのピア・コーチ、食品管理、安全衛生、現場安全、防火警備員）

他にも、英国の受刑者の社会復帰支援団体である Stand Out（下表の（6））は、受刑者を対象に4週間の集中プログラムを実施しており、受刑者はグループワークと1対1のセッションを組み合わせ以下の内容を学習する。またコース終了後も1対1の実践的なサポートを提供し、出所後の生活や仕事についての計画を立てる支援を行っている。

- コミュニケーション、リーダーシップ、組織力
- 雇用主の訪問
- 履歴書の書き方と模擬面接
- 自信の形成
- 住居、精神衛生、薬物乱用に関するサポート

• プログラムの効果

プログラムの効果が明示されていないものも多数あるが、複数の支援プログラムについて、一般的な受刑者と比較して、参加者の再犯・再入率の低下や、出所後1年以内の就労率の高さ、といった観点で、効果が認められたとされている。また、米国やカナダの公的機関によるプログラムの中には、効果の分析が行われているものがある（下表の（12）、（13）、（17））。

• 対象者の選定

プログラムに参加する対象者の選定条件は様々であるが、出所までの期間、懲戒処分等の有無、分類委員会による選定、面接等による意欲・労働倫理の有無の判断、年齢といった条件を課すプログラムがみられた。

<諸外国における受刑者向けの雇用・キャリア支援プログラムの例>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
英国				
<p>(1) 英国司法省</p>	<p>●新未来ネットワーク(The New Futures Network; NFN) NFN は刑事施設と雇用者の連携を仲介する刑事施設サービスの専門部署。連携する雇用主は、刑務所内の専用スペースに訓練等用の施設を設置し、外部組織が運営するワークショップにおいて、服役中の受刑者を専用の労働力として活用できる。同時に、受刑者にとっては貴重な技術や資格を取得する助けとなり、出所後に雇用を確保できる可能性が高まる。</p> <p>●一時的な許可による外出(ROTL) NFN におけるスキームの一つで、出所までの刑期が2年以内でリスクが高くないと評価された受刑者が、刑事施設外への外出 (on day release) 中に働くことを認めるもので、週5日又はパートタイムで行われる。雇用主は、受刑者に研修や職業体験を提供し、自社に適切な人材かを（将来的な出所時の採用オファーを行う前に）評価する機会を得られる。釈放後は正式な従業員として勤務する権利が得られる。NFN は、出所前の候補者と雇用主との面接の手配を支援することができる。</p>	<p>NFN のワークショップ、一時的な許可による外出 (ROTL) といった取り組みを通して、400 以上の企業や政府部門が受刑者に雇用機会を提供している。</p> <p>（参考）下院教育委員会の報告書（2022 年）※では、（NFN に限らず一般に）英国の刑事施設における教育・雇用プログラムの成果に関するデータが不足していることが指摘されている。Prisoner Learning Alliance によると、調査研究は行われているものの、プログラムの効果に関するエビデンスは僅少で、また、プログラムの提供者について、成果を確認できる共有のデータソースがないと指摘されている。</p>	<p>NFN は性別に関係なく、受刑者・刑務所出所者に提供している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Ministry of Justice, 'Guidance Employing prisoners and ex-offenders' <https://www.gov.uk/government/publications/unlock-opportunity-employer-information-pack-and-case-studies/employing-prisoners-and-ex-offenders> • HM Government, 'Offender Employment' <https://offenderemployment.campaign.gov.uk/> <p>※下院教育委員会報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> • House of Commons Education Committee, 'Not just another brick in the wall: why prisoners need an education to climb the ladder of opportunity' (2022) <https://committees.parliament.uk/publications/22218/documents/164715/default/> <p>全て 2023/03/15 アクセス（以下同じ）。</p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(2) The Forward Trust *薬物やアルコール依存症、犯罪歴、ホームレス、失業等の課題を抱える人々を支援する英国の慈善団体</p>	<p>●受刑者実習ルート（Prisoner Apprenticeship Pathway; PAP） 受刑者に接客業分野において実習生（見習い；apprenticeships）となる道筋を提供するもので、出所まで3ヶ月以内の受刑者の中から、出所後の実習に適していると思われる人々を特定して実施する。この取り組みは、一連の短時間のセッションから成り、参加者（多くは実習制度について聞いたことがないと思われる）に実習制度に関する情報を提供するだけでなく、実習制度の内容や受刑者について抱かれがちな誤った示唆を払拭する役割も果たす。</p> <p>・PAPは、以下の3段階のアプローチに基づいている。 （1）「心」の段階では、仕事を得ることは可能であるというメッセージを伝え、現実的な仕事の機会に対する認識を高めることで、受刑者を惹きつけ、動機付ける。 （2）「頭」の段階では、実践的な学習方法を通じて、スキル、自信、即戦力となる振る舞いを培う。 （3）「手」の段階では、参加者が特定の産業における職業スキルや資格を取得するための支援を行い、実際の就労や長期的な雇用につなげる。</p> <p>・プロジェクトの参加者は、以下の支援を受けることができる： （出所までの3か月間） - 接客業に関する様々なトピックについて、トレーナーや雇用主による講習 - 接客業分野の刑務所作業または一時的な許可による外出（ROTL）を受けるための支援 - 実習／求職の応募書類の作成と提出の支援 （出所前及び後） - 実習先や雇用主との面談による接客業の実習の詳細について知るための面会と、初回面接の設定 （出所後） - 面接を受け、実習を開始するための地域社会での支援、より広範な心理的ケア、包括的な支援</p> <p>●情報提供・アドバイス・ガイダンス（IAG）サービス 上述のPAPは2021～22年の2年間実施され、フォワード財団の既存の情報や、プログラムが実施される刑事施設で提供される情報提供・アドバイス・ガイダンス（IAG）サービスと密接に連携していく。Forward Trustでは、IAGアドバイザーとして経験豊富なキャリア・アドバイザーを雇用しており、PAPにおいて接客業や実習に関心のある出所者がこのプログラムや進路に進めるための支援において重要な役割を果たす。</p>	<p>・2022年8月、ロンドンのHMP Isis、サフォークのHMP Hollesley BayとHighpointの3つの刑務所で、試験的にPAPプロジェクトが開始され、100人がプログラムの下で支援を受け、少なくとも50%が接客業の分野で実習を開始している。</p> <p>・2025年までに、刑事施設外への外出（day release）の資格を持ち、刑事施設での生活が終わりに近づいている受刑者、最大300人がPAPの枠組みの下で就労予定。</p> <p>・The Forward Trustでは、2021/22年、2,500人以上の受刑者に情報提供・アドバイス・ガイダンス（IAG）サービスの下でキャリア・アドバイスを提供した。</p>	<p>PAPの支援を受ける際の条件： ・HMPs Isis (London), Hollesley Bay, または Highpoint (Suffolk) に収容されている者 ・12～13週間以内に釈放される予定の者 ・英国での居住・就労が可能 ・接客分野での仕事に興味がある</p>	<p>・ Ministry of Justice, 'Education and Employment Strategy' (2018) <https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/710406/education-and-employment-strategy-2018.pdf></p> <p>・ Forward Trust, 'Forward launches innovative new Prison Apprenticeship Pathway' <https://www.forwardtrust.org.uk/news-story/forward-launches-innovative-new-prison-apprenticeship-pathway/></p> <p>・ GOV.UK, 'Press release: Prisoners start as apprentices at big name employers' <https://www.gov.uk/government/news/prisoners-start-as-apprentices-at-big-name-employers></p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(3) New Leaf Initiative *New Leaf Initiative</p> <p>は、地方自治体、英国教育技能助成局、刑務所・保護観察局の支援を受けている。</p>	<p>●New Leaf Initiative New Leaf Initiative は、受刑者や刑務所出所者のための刑務所産業と雇用可能性の訓練と機会に焦点を当てたピアメンター組織である。プログラム参加者の参加をより促進するために、ピア主導のモデル（指導者は刑務所出所者自身）が用いられている。</p> <p>本プログラムでは、職業教育のほか、刑事施設や保護観察所から委託を受け、独自の認定・非認定コースも提供しており、これらのコースは、受刑者や刑務所出所者の考え方を換え、社会復帰、スキル習得、将来の目標に対してより前向きで自信を持てるようにすることに重点を置いている。</p> <p>さらに、本プログラムでは、前向きな社会復帰の可能性を最大限に高め、出所後に真正な雇用機会を得られるよう、以下関するサービスを提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 銀行・給付金申請サポート - 薬物/薬物治療の紹介 - 教育、トレーニング、資格取得 - 雇用 - 住宅/宿泊施設 - 身分証明書取得 - メンタルヘルス - ボランティア活動 	<p>2014年から2018年にかけて、New Leaf Initiative は180人以上の受刑者や刑務所出所者を指導し、支援の結果89人がAvanti West Coast社やVirgin Trains社などの企業における持続可能な雇用を得た。</p>	<p>New Leaf Initiative は、性別に関係なく、受刑者や刑務所出所者を対象としており、バーミンガムの刑事施設及び地域社会で提供されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • IMPACT Pathways West Midlands, 'The New Leaf Initiative CIC' <https://www.ipwm.org.uk/The-New-Leaf-Initiative-CIC/Pathway-Services/> • The New Leaf Initiative CIC <https://newleafcic.org/>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(4) Prisoners Education Trust</p>	<p>●Prisoners Education Trust (PET) 刑務所教育トラスト（PET）は、受刑者が独房内で自主的に履修できる 120 以上の遠隔学習コースに資金を提供している。履修内容についてのフィードバックは、個人チューターが郵送で行う。受刑者は、他の刑事施設に移された場合でも、コースを継続することができる。また、PET のスタッフが日毎に訪問を行ったり、手紙や電話を受け、指導を行い、教育や資格取得を希望する受刑者たちを支援している。</p> <p>提供されるコース： - 短期コース - GCSEs（中等教育修了資格） - A レベル（高校教育修了資格） - 公開大学（オープンユニバーシティ）の授業科目 - 芸術&ライティング - ビジネス・経営・IT - 建設と安全衛生 - カウンセリング、メンタリング、指導 - ファイナンス - フィットネス - 健康および社会的ケア - 園芸とアニマルケア - 言語 - 輸送、ロジスティクス、セーリング</p>	<p>1989 年以来、PET は 4 万以上のコースと教材を受刑者に提供してきた。毎年 1500 のコースに資金を提供し、120 以上の刑事施設で活動を行う。専門家によるアドバイスチームは、年間 4,500 件以上の電話、電子メール、手紙に対応している。</p>	<p>このプログラムは、英国の全ての刑事施設で提供されており、性別に関係なく利用することができる。</p> <p>サービス利用者の条件は以下： 1.在所中である 2.刑期が 6 ヶ月以上残っている。 3.18 歳以上 4.一定程度の英語レベルを有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Prisoners Education Trust 'Our work in prisons' <https://www.prisonerseducation.org.uk/what-we-do/distance-learning-in-prisons/> Prisoners Education Trust 'Get support' <https://www.prisonerseducation.org.uk/get-support/> Prisoners Education Trust 'Course Prospectus 2022-2023' <https://www.prisonerseducation.org.uk/wp-content/uploads/2022/10/Prisoners-Education-Trust-Course-Prospectus-2022-2023.pdf>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(5) 英国司法省 及び刑務所・ 保護監察局</p>	<p>●刑事施設教育枠組み（Prison Education Framework; PEF） Prison Education Framework (PEF) は、受刑者に数値計算、読み書き、IT コースのコアカリキュラムを提供するための枠組みであり、カリキュラムは契約を結んだ企業から提供される。契約は総額 1 億 2900 万ポンドで、通常 4 年間行われるが、延長することも可能である。2022-3 年は、ミルトン・ケインズ・カレッジ、Novus、PeoplePlus、ウェストン・カレッジが落札し、刑事施設で以下のコースを実施する予定となっている。</p> <p>ミルトン・ケインズ・カレッジ： （教育プログラムと、以下のスキルを身につけることに重点を置いた就職アカデミーを提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自己啓発 - コミットメント - 前向きな姿勢 - 学ぶ意欲 - マルチタスクの能力 - 読み、書き、計算ができること <p>Novus： - 英語、数学、デジタルスキル - 高等教育および通信教育 - キャリアパス (Novus Works Employer Partnership) - 職業・技術教育 - クリエイティブアート - 個人と社会の発展</p> <p>PeoplePlus： - 英語と数学 - 職業教育（建設と芸術） - 出所後のキャリアサポート</p> <p>ウェストン・カレッジ： - 英語と数学 - 職業教育（ケータリング、接客、建築） - 芸術</p>	<p>・ミルトン・ケインズ・カレッジは、過去 3 年間で 700 人の受刑者の出所後の就職を支援している。</p> <p>・Novus は、6 万人以上の学習者と関わりを有している。</p> <p>・PeoplePlus は、毎年 600 のコースで 200 万時間以上の対面学習を刑事施設に提供している。</p>	<p>・ミルトン・ケインズ・カレッジは、イングランド全土の 19 の刑事施設で活動している。</p> <p>・Novus は、イングランドとウェールズの 50 以上の刑事施設で、あらゆる年齢の男女を対象に活動している。</p> <p>・PeoplePlus は、イングランドの 22 の刑事施設で、あらゆる年齢の男女を対象に活動している。</p> <p>・ウェストン・カレッジのプログラムは、性別を問わず、南イングランドの 19 の刑事施設で実施されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • House of Commons Education Committee, 'Not just another brick in the wall: why prisoners need an education to climb the ladder of opportunity'(2022) <https://committees.parliament.uk/publications/22218/documents/164715/default/> • Milton Keynes College, 'PRISON SERVICES: What do we do?' <https://mkcollege.ac.uk/prison-services/what-do-we-do/> • NOVUS, 'Prison Education For Adults' <https://www.novus.ac.uk/what-we-do/adult-prison-education/> • PeoplePlus, 'Reducing Reoffending' <https://peopleplus.co.uk/reducing-reoffending/> • Weston College, 'Prison Education' <https://www.prison-education.co.uk/prisons/> • Weston College, 'College wins £17m prison learning contract' <https://www.weston.ac.uk/news/college-wins-ps17m-prison-learning-contract/> • Milton Keynes College, 'Prison Services: What do we do?' <https://mkcollege.ac.uk/prison-services/what-do-we-do/>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(6) StandOut *受刑者の社会復帰を目指す慈善団体</p>	<p>●Stand Out StandOut は、受刑者を対象とした 4 週間の集中プログラムであり、刑事施設内において、グループワークと 1 対 1 のセッションが組み合わされた形で、次のような内容を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション、リーダーシップ、組織力 - 雇用主からの訪問 - 履歴書の書き方と模擬面接 - 自信の形成 - 住居、精神衛生、薬物乱用に関するサポート <p>コース終了後も、コーチは 1 対 1 の実践的なサポートを提供し、受刑者が出所後の生活や仕事についての計画を立てられるよう、関係者と協力して支援を行う。また、出所後は 1 対 1 のコーチングと包括的支援が提供される。この活動は、住宅や薬物乱用回復支援者など、他の支援サービスと連携して行われることが多い。</p>	<p>Stand Out のプログラム受講者は出所から 1 年後の時点で、平均的な刑務所出所者に比べて 3 倍以上就労している割合が高く、また再入者とならない可能性が 2 倍高い。昨年、Stand Out は 4,328 件の問い合わせに対応し、608 人の男性を支援した。</p>	<p>StandOut は現在、イギリスの 2 つの刑事施設（Pentonville と Wandsworth）で男子受刑者を対象としてプログラムを提供している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • StandOut, 'The StandOut Program' <https://www.standout.org.uk/standout-programme> • Russel Webster 'StandOut Evaluation Executive Summary 2022' <https://static1.squarespace.com/static/5bd1c2265d6020baa051183461b52/1664963397490/StandOut+Evaluation+2022+-+Executive+Summary.pdf>
<p>(7) Beating Time *刑事施設の雇用プログラムを運営する慈善団体</p>	<p>●Inside Job Beating Time が提供する受刑者のための雇用プログラムであり、以下のようなサービスを提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自身も受刑者である訓練を受けた所内リクルーターが常駐する雇用デスクの設置（所内リクルーターは事業主と候補者のマッチングを行うため、外部のコンサルタントと連携） - 履歴書・職務経歴書の作成支援 - 雇用主が刑事施設の中で求職者と面接 - 出所後、仕事を始めるまでのサポート <p>●UpStart 刑事施設にいる間に事業を創設し、出所後は次のようなサービスを通じて支援を行うプログラム。</p> <ul style="list-style-type: none"> - KPMG 社のメンターによる 6 週間のスタートアップ・コース - 心理的なサポート - 事業アイデアのプレゼンテーションの練習 - パフォーマンス・アート - 銀行業務と税務の支援 - 助成金の支給 	<p>インサイドジョブは 90 の雇用主と連携し、375 の求人を得て、202 名の就労を可能にした。</p>	<p>Beating Time は、イギリスの男女 11 の刑事施設で活動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Beating Time 'Inside Job' <https://www.beatingtime.org/inside-job/> • Beating Time 'UpStart' <https://www.beatingtime.org/upstart/>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(8) Nacro *英国最大の刑事司法関連のチャリティ団体の一つ。</p>	<p>Nacro は、雇用や教育へのアクセスに関するアドバイスを提供し、受刑者の就職を支援している。Nacro のアプローチは、以下の点に重点を置いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一人ひとりのニーズとリスクを評価し、本人や他の機関と協力して、一人ひとりに合った再定住行動計画を策定する。 - サービス利用者と適切で協力的、かつ挑戦的な専門的関係を構築すること。 - Nacro の活動を支援し、サービス利用者のメンターやピアメンターとして活動する刑務所出所者のボランティアの募集。 - 警察、保護観察所（CRC と NPS）、ジョブセンタープラス（職業安定所）、訓練機関や大学、雇用者、宿泊施設提供者、医療サービス、幅広い法定およびボランティア機関など、Nacro のパートナーや関係者との密接かつ迅速で有効な業務関係の構築。 <p>個別の取組の一例として、Nacro Peterborough Education, Training and Employment Programme は、受刑者が出所し社会復帰するための効果的な準備ができるよう、雇用に関するアドバイスを提供している。また、Nacro Transforming Rehabilitation Essex は、宿泊施設、教育、訓練、雇用に関する支援を提供している。</p>	<p>(Nacro によれば、参加者は再犯を大幅に減らすことができ、また、HP 上では British Heart Foundation、Curry/PC World、Barclays、Co-op Food などの雇用主からのポジティブな声を紹介している。)</p>	<p>Nacro は、23 の刑事施設、若年犯罪者施設、訓練センターで、あらゆる年齢と性別の犯罪者に対応している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Nacro, 'Supporting people in the justice system' <https://www.nacro.org.uk/who-we-support/we-support-people-in-the-criminal-justice-system/> • Nacro, 'Nacro Education' <https://www.nacro.org.uk/about-us/case-studies/employer-case-studies/>
<p>(9) Switchback *英国ロンドンの若年受刑者を支援する非営利組織</p>	<p>Switchback は、「刑務所出所者が困難を克服し、選択肢を実現するのを阻むのは、機会の欠如ではなく、むしろ自信や知識、継続的な支援の欠如である」という前提のもと、2008 年に支援を開始した。同団体は、一貫した長期的な関係と実際の職業訓練を通じて、訓練生の社会に対する考え方や参加の仕方を大きく変えることを可能にしている。</p> <p>支援内容は訓練生によって異なるが、以下の 3 つのコア・ステージがある。</p> <p>(1) 在所中： 受刑者は、刑事施設内での最後の 3 ヶ月間、Switchback のメンターと定期的に会い、出所への準備と計画を立てる。(刑事施設内で会うことが不可能な場合は、出所後すぐに始めることも可能。)</p> <p>(2) 訓練中： 出所日に同じ Switchback のメンターが面会。最大 12 週間の実働訓練と治療的メンタリングを行い、生活のあらゆる領域で安定した生活を送れるようにする。</p> <p>(3) 就労中： 訓練生は、各人にとって適切な時期に、持続的な就労またはさらなる訓練に移行する。就労段階の支援期間中は、良い変化が長期的に持続させるための支援が提供される。支援期間終了後も、いつでも Switchback に戻ってこられるように門戸が開かれている。</p>	<p>Switchback の訓練生の 56% が長期的な仕事、教育、訓練に移行している。これは、全国の刑務所出所者のうち、出所後 6 カ月で仕事に就いている人がわずか 12% であることと比較して、非常に高い数字である。さらに、全国平均では刑務所出所者の 45% が出所後 1 年以内に再犯しているが、Switchback の訓練生では、わずか 9% となっている。</p>	<p>Switchback は、刑事施設からロンドンに戻ってきた 18～30 歳の男性を支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Switchback, 'The Switchback Programme' <https://switchback.org.uk/what-we-do/>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
米国				
<p>(10) カリフォルニア州更生保護局</p>	<p>(カリフォルニア州における受刑者向けのプログラム提供) カリフォルニア州では、良好な素行で服役中または服役していた受刑者は、必要と判断された場合、多くのリハビリテーションプログラムやサービスを利用することができる。犯罪者がどこで刑期を終えたかによって、リハビリテーション・プログラムやサービスの選択肢は異なる場合がある。</p> <p>刑事施設のプログラムでは、刑事施設にいる間、受刑者のための包括的な教育プログラム、治療プログラム、および釈放前のリハビリテーションプログラムを提供しており、これらのプログラムは、認知行動介入、釈放前の教育、計画、技能、カリフォルニア州の身分証明書の取得に重点を置いている。</p> <p>●移行プログラム（Transitions Program） 移行プログラムは、参加者に雇用可能性と金銭リテラシーのスキルを提供し、地域社会への復帰を成功させるための準備をさせることを目的とし、次の5つの単元で構成されている。 単元1：労働力の準備-自己知識 単元2：労働力としての準備-基本的ニーズ 単元3：雇用の可能性-準備 単元4：雇用適性-機能 単元5：金銭リテラシーとポートフォリオ</p> <p>このカリキュラムは、就職準備、仕事探しのスキル、競争の激しい就職市場で必要とされる前提スキルを学ぶために作られている。実用的で戦略的な情報、実践的な活動、個人およびチーム指向の演習、ロールプレイ、及び励みとなるような動機付けのための情報が含まれている。</p> <p>さらに、このカリキュラムは、個人が金銭知識を身につけ、金銭管理に自信を持ち、より節約に長け、銀行サービスを効果的に利用できるようになるよう支援する。同州の更生保護局は、金銭的な判断を誤ると、何年にもわたる経済的負担を強いられる可能性があり、クレジットと銀行サービスについて多くの受刑者を教育することで、金銭問題について十分な情報を得た上で決断し、上手く管理し、財務および信用履歴を改善する可能性が高くなる、としている。</p> <p>また、移行プログラムの各指導者は受刑者に、リハビリテーションカタログ及び情報検索システム（ARCAID）やその他の社会復帰に関する補足情報を提供する。加えて、同州の成人更生保護事業部と提携し、受刑者をジョブセンター（公共職業安定所）や居住する郡のその他の関連社会サービス機関と結び付けている。このコースは、受刑者の生徒がコース中に作成・収集した、出所時に必要となる書類をまとめたポートフォリオを完成させることで完結する。</p>	<p>移行プログラムの成果に関するデータは限られている。</p>	<p>移行プログラムは、カリフォルニア州矯正更生局（CDCR）の全施設で提供される75時間のオープンエントリーコースである。</p> <p>このプログラムへの参加は、資格のあるすべての受刑者が、出所18ヶ月前まで可能である。受刑者は、分類委員会を通じてこのプログラムに参加するよう指定される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> California Department of Corrections and Rehabilitation, 'Transitions Program' <https://www.cdcr.ca.gov/rehabilitation/transitions/> California Department of Corrections and Rehabilitation et al. 'DRAFT AS OF 3/17/21 Successful Reentry/Transition from the California Department of Corrections and Rehabilitation: Identification of Barriers and Solutions to Address Them' <https://www.cdcr.ca.gov/cjbbh/wp-content/uploads/sites/172/2021/03/Barriers-Table_For-Public-Release_3.17.21-2.pdf>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(11) ニューヨーク州矯正地域監督局 (DOCCS)</p>	<p>●地域司法社会復帰管理ネットワーク (Community Justice Reentry Network) 2018年4月、ニューヨーク市は、約5,000人の刑事司法制度の下にある人々に向けた有給の移行雇用、職業訓練、高等教育へのアクセス、支援サービスの提供に焦点を当てた市全体のリエントリーイニシアチブ、Jails to Jobs（注：以後、地域司法リエントリー管理ネットワークとなった）を開始した。本プログラムは、再犯を防止し、刑務所を出た人々が生産的で安定した未来に踏み出す機会を確保するために設けられ、NY市は個人の職業、教育、治療のニーズに合わせたシステムを構築し、以下のサービスを提供している。</p> <p>雇用に関するサービス： -有給の経過的雇用とインターンシップ -職業訓練と就職準備ワークショップ -履歴書の書き方と面接の準備 -ソフトスキルワークショップ -正規雇用への接続 -金銭リテラシーのワークショップ -キャリア認定（復帰のためのピア・コーチ、食品管理、安全衛生、現場安全、防火警備員の認定等）</p> <p>総合的な支援サービス： - 精神的、行動的、身体的な健康管理 - 薬物使用治療 - 家族支援と再統合 - 住宅支援 - 個人およびグループカウンセリング - 1対1のメンタリング - ケースマネジメント - 福利厚生登録 - 法律サービス - 教育支援（高校進学、大学進学、個別指導）</p> <p>2020年1月、このプログラムは、より多くの人に幅広くより充実したサービスを提供するために拡充され、以下が含まれるようになった： - 在所時に始まり、出所後の地域社会で継続するサービスの強化 - 刑務所出所者への追加的なサポートの構築 - 契約している非営利団体で、刑事司法制度における生活経験を持つ（前科等を有する）職員をピアメンターとして増員する。 - 多くの出所者が戻る地域の近隣で支援が受けられるよう、サービスを地域化する。 - 包括的なソーシャルサービスとケアへの接続の拡大</p> <p>2022年1月、「地域司法社会復帰管理ネットワーク」と名付けられたこの取り組みはさらに拡大し、州刑務所からニューヨーク市に戻ってきた人への社会復帰サービスを提供するようになった。この拡大には、刑事施設からの出所後の計画、刑務所からコミュ</p>	<p>・本取組の成果に関する情報は限られている。</p> <p>(参考) ニューヨーク州によると、矯正教育プログラムに参加した受刑者は、再犯の可能性が43%低く、地域社会に戻った後に雇用を獲得・維持する可能性が13%高いが、これは一般的な統計であり、必ずしも本プログラムへの参加の成果を反映しているとは言えない。</p>	<p>地域司法社会復帰管理ネットワークは、年間約8,000人の刑事司法制度の下にある人々にサービスを提供している。プログラムは男女を問わないが、参加者の多くは男性で、2021年には参加者の88%が男性であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • NYC Mayor's Office of Criminal Justice, 'Community Justice Reentry Network' <https://criminaljustice.cityofnewyork.us/programs/community-justice-reentry-network/> • NYC Mayor's Office for Economic Opportunity, 'Community Justice Reentry Network' <https://equity.nyc.gov/city-services/community-justice-reentry-network> • New York State, 'Governor Hochul Announces 'Jails to Jobs' — A New Initiative to Improve Re-Entry into the Workforce and Reduce Recidivism' <https://www.governor.ny.gov/news/governor-hochul-announces-jails-jobs-new-initiative-improve-re-entry-workforce-and-reduce>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
	<p>ニティ内の非営利サービス提供組織への送迎、そして既存のサービスの数々が含まれている。</p>			
<p>(12) ミネソタ州 矯正局 (MNDOC)</p>	<p>●EMPLOY</p> <p>EMPLOY は、ミネソタ州矯正局（MNDOC）による受刑者復帰雇用プログラムで、参加者が出所後に仕事を見つけ、就労を継続できるようにすることで再犯を減らすことを目的としている。具体的には、参加者が州の刑務所産業プログラムであるミネソタ州矯正産業プログラム（MINNCOR）での雇用を通じて得た職業経験や職業スキルを活用できるよう支援している。</p> <p>本プログラムでは、受刑者は出所直前に職業訓練の専門家と会い、2回、8時間のセッションで履歴書と面接のスキルを身につける。職業専門家は、出所予定地域の雇用先を探し、雇用主に電話をかけて求人情報を探し、求職者をサポートする。本プログラムでは出所後1年間、支援を継続する。</p>	<p>本プログラムについては、評価レポートが公開されており、以下の成果が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EMPLOY は非参加者に比べて、平均して3種類（一般、暴力、性犯罪）の再犯のリスクを32～55%減少させたことが明らかになった。 • EMPLOY に参加した者は、技術的違反（逮捕にいたらない違反）による仮釈放の取り消しを経験する確率が63%低かった。 • プログラムの参加者は、比較対象グループに比べて、出所後1年以内に就職する確率が72%高かった。 	<p>EMPLOY は、受刑者のための自主的なプログラムであり、関心のある者は申請書を提出する。参加者は以下の条件を満たしている必要がある：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 服役後5年以内にプログラムに応募している。 2. 現在または過去に6ヶ月以上のミネソタ州矯正産業プログラム（MINNCOR）の下での就労経験がある。 3. MINNCOR の下での就労を否定的な理由で停止させられたことがないこと。 <p>解雇や他施設への異動によりMINNCOR から解雇された者でも、6ヶ月の実務経験があれば、EMPLOY に参加する資格があるとみなされる。</p> <p>前年度に隔離収容された場合、またはプログラム開始前6カ月間に懲戒処分を受けた場合は、通常、プログラムへの参加は認められない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Minnesota Department of Corrections, 'AN OUTCOME EVALUATION OF MINNCOR'S EMPLOY PROGRAM' (2011) <https://mn.gov/doc/assets/03-11EMPLOYEvaluation_tcm1089-272766.pdf> • National Institute of Justice: Crime SOLUTIONS, 'Program Profile: EMPLOY (Minnesota)' <https://crimesolutions.ojp.gov/ratedprograms/508#ar> • Emilee Green, 'An Overview of Evidence-Based Practices and Programs in Prison Reentry' (2019) <https://icjia.illinois.gov/researchhub/articles/an-overview-of-evidence-based-practices-and-programs-in-prison-reentry>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(13) ペンシルベニア州アレゲニー群 (Allegheny County)</p>	<p>●ペンシルベニア州アレゲニー群のリエントリープログラムにおける就労支援 アレゲニー群のリエントリープログラムは、認知再構築プログラム、コミュニティへの復帰支援、教育、就労支援、薬物乱用防止、住宅支援、家族機能と人間関係、釈放後の保護観察などを含む包括的なプログラムとなっている。このうち、就労に関しては、①及び②のような段階的なアプローチが行われる：</p> <p>①22時間のUrban League（米国の市民権団体）によるリエントリー支援プログラム（Reentry Assistance Management Program；RAMP） -Holland Internet Surveyを含む有効なアセスメントを活用して受刑者の興味やスキルと仕事の候補をマッチングさせたり、実施前後に犯罪者再統合尺度（Offender Reintegration Scale；ORS）を用いて進捗を測定する。 -教室における指導では、コミュニケーションや問題解決のスキル、仕事探しや雇用者の期待に焦点を当てた指導が行われる。また、受刑者は潜在的な雇用者への自分の犯罪歴の打ち明け方、犯罪記録のコピーの入手方法、（該当する場合は）と犯罪歴の抹消方法について指導を受ける。</p> <p>②Goodwill Industriesの職業技能プログラム -上記のRAMP参加者の多くは、Goodwill Industries（リエントリーを支援する非営利団体のネットワーク）による技能訓練と能力開発に特化したプログラムを利用する。 Goodwillのケースマネジャーは、CareerLink（州の求人データベース）に参加者を登録し、同団体の求人開拓や雇用支援サービスを提供する。</p>	<p>本リエントリープログラム（就労支援以外の要素も含む）の効果については評価レポートが公開されている（Wilson et al. 2014）。同レポートによれば、プログラム参加者の再逮捕の確率が10%であったのに対し、比較群では34%であったとし、本プログラムが再入所の確率に統計的に有意な影響を与えているとしている。</p>	<p>・6ヶ月以上の懲役を科され、釈放後にアレゲニー郡に戻る男女であり、また、現在の年齢、初回逮捕時の年齢、前科の数の3つの要素から受刑者の再犯リスクを判定するProxy Triage Risk screenerで中～高リスクの犯罪者に分類された者。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • National Institute of Justice: Crime SOLUTIONS, 'Program Profile: Allegheny County (Pa.) Jail-Based Reentry Specialist Program' <https://crimesolutions.ojp.gov/ratedprograms/494#relatedpractices> • Janeen Buck Willison et al., 'Evaluation of the Allegheny County Jail Collaborative Reentry Programs' (2014) <https://www.urban.org/sites/default/files/publication/33641/413252-Evaluation-of-the-Allegheny-County-Jail-Collaborative-Reentry-Programs.PDF> • Urban League, 'Urban Reentry Jobs Program' <https://nul.org/program/urban-reentry-jobs-program> •

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(14) 刑事施設内アントレプレナーシップ・プログラム (PEP)</p> <p>*PEP は、テキサス州刑事司法省と連携する独立した非営利団体。</p>	<p>●刑事施設内アントレプレナーシップ・プログラム (Prison Entrepreneurship Program; PEP)</p> <p>テキサス州の 2 つの施設で運営されるプログラムであり、教育、資格取得、メンタリング、出所後のサポートを通じて、受刑者の起業家精神を奨励する。PEP では以下の在所中プログラムを提供する。</p> <p>-リーダーシップ・アカデミー： 3 ヶ月間の人格形成プログラムで、参加者が有している前向きな人生への転換を阻む性格的特徴や行動を特定し、取り除くことを支援する。</p> <p>-ビジネスプランコンテスト： PEP のスタッフ、理事、企業幹部が、それぞれの専門分野のトピックについて講義する「ミニ MBA」プログラム。この刑事施設内のプログラムでは、参加者全員が金融リテラシーコース、雇用ワークショップ、ビジネスエチケットコース、トーストマスターズクラス（トーストマスターズは、コミュニケーション、スピーチ、リーダーシップを促進する非営利の教育組織）を修了しなければならない。</p> <p>- 資格認定： ベイラー大学ハンカマー・ビジネススクールは、PEP のすべての卒業生に起業家精神の認定証を授与している。また、PEP の金融リテラシー・プログラムとトーストマスターズ・コースの修了証書を取得することもできる。</p>	<p>・ PEP の卒業生の 100%が 出所後 90 日以内に就職しており、出所から最初の給与を受け取るまで平均 20 日となっている。</p> <p>・ PEP の卒業生が立ち上げたビジネスは 500 を超え、そのうち 5 つは年間総収入が 100 万ドルを超えている。</p> <p>・ 平均初任給は時給 12.63 ドルで、3 年後には時給 23.62 ポンドに上昇する。</p> <p>・ PEP の卒業生の 3 年間の再犯率は、全国平均が約 50%であるのに対し、8.3%である。</p>	<p>・ PEP はテキサス州の 2 つの施設で運営されており、男性を対象としている。</p> <p>・ PEP は、テキサス州刑事司法省が提供する適格受刑者リストの中から参加者を選ぶ。その後、PEP は約 10,000 人の候補者にプログラムへの応募を呼びかけ、通常、3,000 人以上の候補者から返事を受け取る。そこから、一連の評価と面接（どの候補者がプログラムで成功するための労働倫理とコミットメントを備えているかを判断する）によって最終的に 450～500 人に絞られる。</p>	<p>• Prison Entrepreneurship Program, 'Empowering Innovation' <https://www.pep.org/empowering-innovation></p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
<p>(15) 受刑者から 起業家へ (Inmates to Entrepreneurs) * Brian Hamilton Foundation が支援する 企業支援を 目的とした 非営利団体</p>	<p>●受刑者から起業家へ (Inmates to Entrepreneurs) 本取組みでは、ノースカロライナ州及びオンラインにおいて定期的に矯正施設でのブートキャンプを開催し、受刑者にビジネス構築の基本を指導している。ブートキャンプで指導が行われる項目には、マーケティング、顧客向けサービス、ビジネス・ファイナンスなどがある。</p>	<p>ホームページには体験談のみ掲載。</p>	<p>・対面のブートキャンプはノースカロライナ州の刑事施設に於いて行われており、オンラインのブートキャンプも提供している。</p>	<p>• Inmates to Entrepreneurs, 'CORRECTIONAL FACILITY BOOT CAMPS' <https://inmatestoentrepreneurs.org/programs/correctional-facility-workshops-2></p>
<p>(16) 連邦刑務所 局</p>	<p>●連邦刑務所局の施設における共通の取組み 全ての連邦刑務所局の施設では、識字クラス、第二言語としての英語、子育てクラス、ウェルネス教育、成人継続教育、図書館サービス、余暇活動の指導などを提供している。また、職業訓練や大学のコースを提供している施設もある。</p> <p>連邦レベルでの雇用に関する刑事施設内での一般的な取り組みとしては、刑務作業と職業・職業訓練がある。受刑者は、食品関連サービス、倉庫作業、配管、塗装、整備等の作業で、時給12セントから40セントの報酬を得る。</p> <p>職業訓練プログラムは、受刑者のニーズ、一般労働市場の状況、施設の労働力のニーズに基づいて行われる。受刑者は施設での刑務作業や連邦刑務所産業の作業等の実地訓練を通じて、重要な要素を学ぶ。</p>	<p>連邦刑務所局のプログラムの成果に関するデータは限られている（薬物乱用常駐プログラムと性犯罪者治療プログラムの成果のみ入手可能）。</p>	<p>連邦刑務所局は、年齢や性別に関係なく、すべての受刑者にプログラムを提供している。</p>	<p>• Federal Bureau of Prisons, 'Education Programs' <https://www.bop.gov/inmates/custody_and_care/education.jsp></p> <p>• Federal Bureau of Prisons, 'Directory of National Programs' <https://www.bop.gov/inmates/custody_and_care/docs/20170518_BOPNationalProgramCatalog.pdf></p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
カナダ				
<p>(17) カナダ矯正局(CSC)</p>	<p>●CORCAN による雇用・就業可能性プログラム (Employment and Employability Program; EEP) CORCAN は、カナダ矯正局 (CSC) 内の特別運営機関であり、カナダ矯正局 (CSC) の他の部門と協力し、受刑中、受刑者に雇用・就業可能性プログラムを提供している。取組みの目的は、重要なスキルを身につけることで、刑務所出所者が地域社会で雇用を見つけ、維持できるようにすることであり、以下を含む支援を提供する： -トレーニング 技術的なもの（認定トレーニング、OJT）、伝達に関するもの（コミュニケーション、チームワーク）、必須スキル（信頼性、時間管理、整理）。 - CORCAN や CSC、地域雇用センター (CECs) を通じた雇用支援サービス（下記参照※） - 国家雇用能力プログラム (NESP) または CORCAN の職業プログラムによる就職準備トレーニング (NESP は、コミュニケーション、問題解決、情報管理、前向きな姿勢・行動、適応力、他者との協働など、雇用可能なスキルや態度・行動を対象として特別に開発された機関ベースのプログラム) - CORCAN コミュニティ産業を通じての移行雇用の機会提供（地域監督下にある受刑者と労働釈放中の受刑者のみを対象とする）</p> <p>これにより、犯罪者が地域社会に再統合され、地域社会の監督下にありながら、雇用を見つけ、維持することができる。</p> <p>※また、CORCAN は職業証明書を発行して、（通常、出所者を対象とする）地域雇用センター (CEC) が提供するサービスの利用機会を受刑者にも提供する。CEC は、出所後、CSC の社会内監督指導下にある者が、追加の訓練や雇用を見つげられるよう支援することを目的としており、雇用に関する支援サービスは、政府パートナー (Human Resources and Skills Development Canada など)、非政府コミュニティパートナー (John Howard Society, OPEX, St.Leonard's Society など)、民間セクターとのパートナーシップにより提供されている。受刑者は CORCAN を通じて、（通常、出所者を対象とする）個別の雇用評価、職業相談、求職テクニック等の支援サービスを利用することができるようになる。</p> <p>CORCAN は、今後数年間にわたり、地域雇用サービスと地域産業の改善を計画しており、雇用・トレーニングの文脈では以下の主要目標に取り組んでいる。 - 先住民族と非先住民族の参加者間の格差是正 - 参加者の男女差の縮小 - 移行期の雇用機会を通じた OJT の増加 - 他の政府部門、外部パートナー、非政府組織、顧客との協働</p>	<p>・2018年から2019年にかけて、全国で3,800人以上の受刑者が CORCAN の OJT の支援を受けた。</p> <p>・EEP の成果についての研究が2014年に実施されており、結果は以下のとおり： 以下の3つのグループにおいて、5年間のプログラム参加と出所後の成果との関係が調査された。 1.EEP に参加した受刑者 2.一般的な矯正施設内就労に参加した受刑者 3.受刑中に雇用の割り当てがなかった受刑者</p> <p>この研究では、施設内での懲戒や隔離施設への入所率、地域社会への出所までの時間と種類、地域社会での仕事の達成と維持、再犯率（条件付き出所中の新たな犯罪を伴う取り消し及びその他の取消しで測定）など、施設と地域の両方のアウトカムを調査した。</p> <p>本研究では、プログラム参加と釈放後の成果との関係を媒介する可能性のある中間成果、例えば、仕事に対するモチベーションやコミットメント、プログラムが対象とする特定の種類のスキルの獲得、釈放後に利用できるコミュニティサポートなどは検証していない。</p> <p>EEP への参加は、多くの肯定的な結果と関連しており、例えば、EEP 参加者の61%が刑事施設外への外出 (day parole) を認められたのに対し、一般的な矯正施設内就労参加者の41%および非雇用犯罪者の51%は、刑事施設外への外出を認められていない。さらに、EEP 参加者は、一般的な矯正施設内就労参加者に比べて1.09倍、非雇用犯罪者に比べて1.37倍、仕事を得る可能性が高かった。</p> <p>CORCAN EEP への参加と、犯罪者が出所後に最初の仕事を維持する期間の長さ、および再犯の減少との関連は見いだされなかった。</p>	<p>CORCAN は性別を問わず、受刑者や地域社会の監視下にある犯罪者を対象としている。</p>	<p>• Correctional Service Canada, 'Research Results - Community Corrections' <https://www.csc-ccc.gc.ca/publications/005007-3029-eng.shtml></p> <p>• Correctional Service Canada, 'Evaluation Report: Community Employment Centres Initiative' <https://www.csc-ccc.gc.ca/text/pa/ccc/inde x-eng.shtml#_Toc271889422></p> <p>• Cision, 'Launch of the Edmonton Community Industry in support of Indigenous offender employment' <https://www.newswire.ca/news-releases/launch-of-the-edmonton-community-industry-in-support-of-indigenous-offender-employment-845685828.html></p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
オーストラリア				
<p>(18) 西オーストラリア州矯正サービス局</p>	<p>●受刑者就労プログラム (Prisoner Employment Program; PEP) 西オーストラリア州矯正サービス局の受刑者就労プログラムは、以下のような 5 段階の出所前～出所後のプログラムとなっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.申請 2.評価 3.ケースマネジメント 4.就職斡旋 5.就職後のサポート <p>本プログラムは、西オーストラリア州の首都圏および地方の刑事施設を含む 9 カ所で実施されている。</p>	<p>オーストラリアのディーキン大学の研究によると、このプログラムは刑務所出所後の就労に寄与しているが、プログラムの成果に関するデータは限られている。</p>	<p>・本プログラムは、西オーストラリア州の首都圏および地方の刑事施設を含む9カ所で実施されている。</p> <p>・参加者は、刑期の半分以上を終えていることが条件となる。</p> <p>・参加者は、標準的な条件（警察チェック、労働者災害補償保険など）に合格しなければ、有給雇用の資格を得ることはできない。</p>	<p>・ UNESCO chair in Applied Research for Education in Prison, 'Creating a Pathway to Reintegration: Australian correctional services employment programs and their connection to VET' <https://cmv-educare.com/en/reference-center/papers-of-the-scientific-committee-members/creating-a-pathway-to-reintegration-australian-correctional-services-employment-programs-and-their-connection-to-vet/></p>
<p>(19) workRestart</p>	<p>●workRestart workRestart は、刑務所出所者が人生を再スタートさせ、地域社会に積極的に貢献できるよう支援する社会的企業である。同社は、刑事施設内外で活動し、参加者の潜在能力を引き出し、キャリアを開発する。</p> <p>刑事施設内では、地元の起業家や社会的企業とのパートナーシップを通じて、起業家精神を促進する。この就業体験は、参加者がビジネスの運営方法を学び、出所後に自力で雇用機会を創出することを支援する起業家プログラム「ピボット (Pivot) 」と組み合わせられて実施されている。</p> <p>さらに同社は、業界をリードする実績あるさまざまなプログラムを通じて、トレーニング、コーチング、教育を行っている。参加者は、トレーニング、雇用への移行計画の支援、出所後のサービス利用についての助言等を受ける。また、技術、ハードスキル、ソフトスキルを身につけ、再就職のための目標を設定する。</p> <p>workRestart は、可能な場合には出所前に受刑者と雇用主を結びつけ、成功への道筋をつける手助けをする。出所後、プログラムの参加者は、受入れ企業ネットワークや就労サービス提供者とつながることができる。</p>	<p>オーストラリアの平均的な再犯率は 46%であるが、workRestart プログラムに参加した人の再犯率は 25%未満である。</p>	<p>workRestart は、在所中の受刑者と刑務所出所者を対象としている。</p>	<p>・ workrestart <https://www.workrestart.com.au/></p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
ニュージーランド				
<p>(20) ニュージーランド更生保護局</p>	<p>●就労に関する活動、リハビリテーション、教育及び支援プログラム</p> <p>就労に関する活動、リハビリテーション、教育及び支援プログラムは、再犯率低下に大きく貢献しており、ニュージーランド矯正局の職員は協力して、受刑者が社会復帰の計画を立てられるよう支援を行っている。具体的には次の事項を担当する：</p> <ul style="list-style-type: none"> -重要な関係先 -居住先 -金銭面 -仕事または訓練についての選択肢 -健康上の必要事項 -被害者の問題 -リスク管理 <p>このうち、就労サービスチームは、刑務所出所者・受刑者、または現在コミュニティ刑（刑事施設所外の施設での服役や監督）に服している人に、以下の支援サービスを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> -家族や地域のサポートを含むニーズ評価 -教育・訓練へのアクセス -履歴書と面接の準備 -仕事とスキルのマッチング -個々のニーズに合わせた支援ネットワーク <p>また、リハビリテーションプログラムも用意されており、同プログラムは、社会復帰のための動機づけ、認知行動学的介入、一般的なスキルに重点を置いている。</p>	<p>2014年～2018年の期間については、以下の統計があるが、左記の就労にかかる取組みに特化した効果や評価結果は示されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> -更生ニーズが確認された女性犯罪者向けのグループベースのプログラム「Kowhiritanga」によって、2.7～6.4%（再犯）のRQ効果量が達成された。 <p>（参考）「リハビリテーション指数」（RQ） ニュージーランド更生保護局は、RQを通じて、リハビリテーションと再統合活動の効果を測定している。RQは、リハビリテーションの介入を受けた犯罪者の再犯率や再入所率を、同等の再犯リスクを持ちながら特定の介入を受けなかった犯罪者の記録と比較することにより、再犯がどの程度減少したかを測定するものである。</p> <p>RQスコアは0から20の間の数値で報告され、再入所または再犯の割合の変化と一致する。これらの数値は、プログラムの「効果量」とも呼ばれる。RQスコアは、治療を受けた犯罪者と受けていない犯罪者の間のパーセントの数値の差に基づいている。したがって、RQの再犯率が10であれば、例えば、治療を受けていない犯罪者の再犯率が35%で、プログラム修了者の再犯率が25%であることを示すかもしれない。国際的な基準では、効果の大きさが10ポイントであれば、優れた成果であると考えられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刑務所出所者、受刑者、または現在コミュニティ刑に服している人が、雇用と支援のプログラムを受けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Department of Corrections, 'Annual Report' (2022) <https://www.corrections.govt.nz/_data/assets/pdf_file/0005/48506/Annual_Report_2021_22_Digital.pdf> ・ Department of Corrections, 'Employment and Support Programs' <https://www.corrections.govt.nz/our_work/in_prison/employment_and_support_programmes> ・ Peter Johnston (Department of Corrections), 'The effectiveness of Corrections' rehabilitation interventions with Māori' <https://www.corrections.govt.nz/resources/research/journal/volume_6_issue_2_november_2018/the_effectiveness_of_corrections_rehabilitation_interventions_with_maori>
<p>(21) ニュージーランド更生保護局</p>	<p>●雇用適正スキル枠組み</p> <p>（背景）</p> <p>2016年、ニュージーランド矯正局は、雇用適正スキルの開発を始めるのに刑事施設は最適な場所であるとし、以下の理由から、雇用適正スキル枠組みの試験的開発を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> -刑事施設にいる多くの人は、仕事の経験がないか、長い間仕事から離れているため、この分野での支援を最も必要としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、試験的な取り組み（下記に記載）のレビューが行われており、成果に関する情報は限られている。 ・ 4つの試験的な取り組みの場が設けられており、それぞれ以下の異なる形式で、雇用適正スキルに関する取り組みが試された。 - パターン1：受講生は、各スキルについて自分が考える具体例と意見を記載し、講師と情報について 	<p>雇用適正スキル枠組みの試験運用は、性別に関係なく、刑期終了間際の受刑者を対象に行われた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Amy McElroy (Department of Corrections), 'Employability Skills Framework - improving the work preparedness of people with criminal convictions' <https://www.corrections.govt.nz/resources/research/journal/volume_6_issue_2_november_2018/employability_skills_framework>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
	<p>- 刑事施設で行われる職業訓練は、就業体験を模倣しているため、雇用適性スキルの育成を定着させるための自然な機会を提供する。</p> <p>- 刑事施設の産業研修の講師は、研修生に雇用可能なスキルを身につけさせるが、これは計画的でないことが多い（つまり、特定のプログラムを通じてスキルを身につける方が効果的である）。</p> <p>上記に加えて、雇用主は、関連する訓練や資格と同様に、雇用適正スキルを高く評価していることが、多くの国際的なエビデンスによって示されている。このため、同局は、刑務所産業における雇用適性スキルの正式な開発及び、出所後の求職者に有益となるような雇用適性スキルの習得状況の把握の方法を確立することが有用であるとした。</p> <p>・雇用適性スキル枠組みの概要 雇用適性スキル枠組みは、ニュージーランドの Pathways Advisory Group（教育省と連携する組織）が開発し、広く受け入れられている雇用適性スキルの内容をベースにしている。ニュージーランドの雇用主が従業員に求めるスキルとして合意した以下の7つの雇用適性スキルの項目を示している。</p> <p>-コミュニケーション -自己管理能力 -前向きな姿勢 -チームワーク -学習意欲 -思考力（問題解決と意思決定） -回復力</p> <p>・枠組みの目的・利点 この取り組みの主な目的は、同省が担当する求職者の就業準備状況をより良くすることで、これにより、雇用主の需要に見合った適切な求職者の供給が促進され、最終的にはより多くの求職者が仕事を見つけ、維持することができるようになる。また、その他の利点として以下が挙げられる。</p> <p>- 刑事施設内で提供できる職業訓練には限りがあるため、出所後に進みたい産業に適用できる一般的な技能成果を追加することで、職業訓練の価値を高める。</p> <p>- 刑事施設での訓練活動と地域社会への復帰の機会との間に強い結びつきが生まれる。</p> <p>- 刑事施設にいる研修生に、仕事で成功する自信を持たせる。特に、これまで仕事をしたことがない人や、刑事施設に長くいた人は、自信を持てるようにする。</p> <p>- 刑事施設内での、雇用適正スキルに関する役割分担を超えたコミュニケーションを増やす。</p>	<p>て話し合いながら最終的なプロフィール（情報をまとめた書類）を作成した。</p> <p>- パターン2：講師が、各スキルの具体例と意見を記載した上で、受講生とプロフィールに盛り込む内容について議論した。</p> <p>- パターン3：講師が具体例と意見を記載し、また、各就業能力について、講師が各雇用適正スキルについての準備状況を A（評価不能）から E（優秀）までの尺度で評価した。</p> <p>- パターン4：上記と同様だが、プロフィールを、受講者の学習成果の概要についても記載された文書に含む形とした。</p> <p>雇用適正スキル枠組みの研修は 2018 年 7 月初旬に完了し、試験運用は 2018 年 10 月下旬まで実施された。現在、プログラムがどの程度実施されたか、意図した成果を満たしたか、異なるニーズ（年齢、性別、文化的識別など）にどの程度対応できたか、各バージョンがどのように機能したかを確認するためにレビューを行っており、成果に関する情報は限られている。</p>		<p>rk_ _improving_the_work_pr eparedness_of_people_wi th_criminal_convictions></p>

実施主体	プログラム名及び概要	効果	対象者（選定基準）	引用元
アイルランド				
<p>(22) アイルランド刑務所サービス、犯罪者の社会的統合のためのアイルランド協会 (IASIO)</p>	<p>アイルランド刑務所は、犯罪者社会統合協会 (IASIO) と協力し、「GATE サービス」と「社会復帰サービス」の、2つのサービスを提供している。</p> <p>●GATE サービス GATE (Gaining Access to Training and Employment) サービスは、出所後の訓練・雇用の確保のため、対象となる受刑者に指導・カウンセリングと職業支援を提供する職業サービスであり、以下を目的としている：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 対象者が別の人生設計を模索できるよう、信頼できる環境を整える。 - 対象者が、刑事施設や地域社会で提供されている訓練や教育についての知識を深める。 - 対象者が、地域社会での雇用機会やその条件についての知識を深める。 - 対象者の可能性の感覚を養い、存在する障害に対する理解を深める。 - 受刑者の出所後のために、雇用、訓練、教育などの代替的な選択肢を開発する。 - 刑事施設での訓練や教育の機会を建設的に利用することを促進する。 - 対象者の変化のため、本人のモチベーションと取り組む姿勢を深める。 - 各刑事施設における社会復帰のための能力向上。 - 希望を抱かせる。 <p>●社会復帰サービス 社会復帰サービスは、服役期間が18カ月未満の受刑者を対象とした、主要なニーズについての社会復帰支援サービスであり、在所中から地域社会へ戻った後まで、1対1の支援を行い、受刑者が出所後に住宅や福祉支援を受けられるよう支援を行う。</p>	<p>2020年末までに34,236人がGATEサービス及び社会復帰サービスの対象者として紹介された。GATEサービスに紹介された人のうち約2万人が訓練、教育、雇用の場に配置された。6,000人が社会復帰サービスを通じて、主要なニーズに関する支援（住宅、医療カード、社会福祉など）を受けた。</p>	<p>刑事施設にある2つのサービスは、統合的刑罰管理 (ISM) 担当者、心理学者、自治体の長、最高責任者、医療ユニット、宗教指導者など、刑事施設内の関係者からの紹介によってのみ利用することが可能。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Irish Prison Service, 'Resettlement & Reintegration' <https://www.irishprisons.ie/prisoner-services/reintegration/> • Irish Association for Social Inclusion Opportunities, 'IASIO SERVICES IN THE PRISON' <https://www.iasio.ie/information-for-governors-and-prison-staff/iasio-services-in-the-prison/> • Irish Association for Social Inclusion Opportunities, 'Service Impacts' <https://www.iasio.ie/about-us/service-impacts/>

2. ヒアリング調査

(1) 調査実施概要

アンケート調査票作成及び就労指導プログラムやアセスメントツールの開発方針作成の参考とするため、以下を調査対象としたヒアリング調査を実施した。

- ・ A 刑事施設 職員
- ・ B 刑事施設 職員
- ・ 刑務所出所者雇用企業関係者（製造業）
- ・ 刑務所出所者雇用企業関係者（介護）
- ・ 刑務所出所者雇用企業関係者（建設業）

(2) 調査結果

① 対象者の特徴・就労意欲を左右する要因等

- ・ 対人関係のトラブルを経験している者が多い。
- ・ 失敗が重なったなどで、頑張っても無意味という無力感を抱えている受刑者もいる。
- ・ もともと職場でうまくやっていく力（コミュニケーション能力）が低い。
- ・ 入所前に生活が乱れていた、簡単に離職してしまった経緯があり離職へのハードルが低く続かない。
- ・ 自分と他者（社会）との状況の理解が不足している。
- ・ 落ち着いた生活をする、安定した環境を維持するといった生活習慣がないなど。（以上、刑事施設職員）

- ・ 前職でいじめや差別、給与面などで不当に扱われるなどの経験があるとモチベーションを持ちづらい。（製造業）
- ・ もともとの環境（家族など）の中で本人自身の短所を指摘され続けてきた経験があると、本人自身が長所を自覚できず、自分の能力を過小評価するケースが多い。本人の長所が活かされ、それが実際に感謝されるようなケースは就労が継続しやすい。（製造業）
- ・ 発達障害など、障害の傾向がみられる人が多い印象がある。ひらがなが書けない、特定のことができない、金銭管理ができず給料をすぐ使ってしまうなど。（介護）

② アセスメントツールに関するご意見

- ・ 何をアセスメントするかは、何のプログラムを提供するかによって大きく変わってくると思う。費用対効果の観点から、介入効果を受けやすい層に介入するだけにとどめる方法もあると思う。
- ・ 自記式のアセスメントツールのほうが活用しやすい。（以上、刑事施設職員）

③ プログラムに関するご意見

<内容>

- ・ コミュニケーションなどの点で問題を抱えた受刑者は、職業訓練プログラムを受講しない層に多いが、本来は彼らにこそ何らかの対応が必要である。
- ・ プログラムを提供する上では、受刑者の能力や特性のばらつきの大きさも考慮に入れる必要がある。
- ・ 対人関係構築能力については職場への定着上重要と考える。自己理解については、社会の中の自分の位置づけの理解や、そもそも 2 時間の通勤が可能なのかというようなある種常識的な部分を含めた「全体的」なものとする。
- ・ 「ひとところで根を下ろし、落ち着いて生活する」といったような生活感、習慣作りというようなプログラムもあればいいと思う。
- ・ 社会人基礎力が必要。一般の大学生、新入社員と重なるところがある。(以上、刑事施設職員)

- ・ 出所前に受刑者にアプローチする(何らかの働き掛けをする)必要性を感じていたので、プログラムを設けるという考えは全面的に支持している。(製造業)
- ・ 刑事施設で、自己認識やモチベーション管理、自己管理のテーマで講演を行っている。講演後にコメントシートを読むと、更生意欲の高まりを感じられるものが散見される。特にその中でも、「出所後のビジョンはイメージできていないが、何か更生に向けて一歩踏み出したいという意思をもっている」というケースが見られる。そうした人たちを抜き出して、小集団ないしマンツーマンで面談を行い「もう一押し」することができれば、再犯率は大きく下がると感じている。(製造業)

- ・ 「金銭管理能力」「アルコール、薬物、ギャンブルなどへの依存」に問題を抱えている場合、就労を続けていても金銭面で困窮し、再犯につながったり、失職につながったりするケースが多い。(製造業)
- ・ 義務教育レベルの一般常識(例:規則正しい生活)、金銭管理及び資格取得を可能にするプログラムの拡充が必要である。(建設業)
- ・ 出所後、役所の手続きなどでうまく言葉が出てこない人もいる。(建設業)

第 IV 章 アンケート調査

1. 調査実施概要

(1) 調査の目的

受刑者の就労意欲及び出所後の就労継続に係る現状と課題を把握し、就労指導プログラム及びアセスメントツールの開発方針策定の参考とするため、受刑者（就労支援対象者、非就労支援対象者、再入受刑者）を対象としたアンケート調査を実施した。

また、受刑者を対象としたアンケート調査の分析の参考とするため、刑務所出所者を対象としたアンケート調査も実施した。

(2) 調査対象

① 受刑者調査

<就労支援対象者>

収容されている男子受刑者のうち、令和 4（2022）年 9 月 30 日までに、平成 25（2013）年 4 月 1 日付け法務省矯成第 796 号矯正局長通達「受刑者及び少年院在院者に対する就労支援の実施について」の記 3（1）に基づき就労支援対象者又は準支援対象者に選定され、在所している全ての者。

ただし、調査票（就労支援対象者票）記載の日本語が理解できる者のみを対象とし、外国人の受刑者、調査票配付時点において 65 歳以上の者、調査票の実施を拒否する者及び傷病等のため調査票の実施が困難な者を除く。

<非就労支援対象者>

釈放前の指導を受ける男子受刑者のうち、就労支援対象者に選定されていない者。

ただし、令和 4（2022）年 11 月 9 日から同年 12 月 9 日の間に、全国の各刑務所及び少年刑務所において、釈放前の指導を開始した順に最大 20 名までを調査対象とした²。釈放前の指導を複数の者が同時に開始したため、それらの者で 20 名を超す場合は、その中から入所日の早い者 20 名とした。

また、調査票（非就労支援対象者票）記載の日本語が理解できる者のみを対象とし、外国人の受刑者、調査票配付時点において 65 歳以上の者、福祉的支援を受けている者、調査票の実施を拒否する者及び傷病等のため調査票の実施が困難な者を除く。

<再入受刑者>

以下（A）（B）（C）の条件に該当する再入受刑者。（A）（B）（C）の該当者から、無作為抽出にて、それぞれ 100 名を抽出した。

² 調査実施期間において、本対象者が 20 名に満たない場合は、調査実施期間終了時点で調査票の配付を終了した。

- (A) 刑務所出所後の保護観察終了時及び再入所に係る犯罪時において収入を伴う仕事に就いていた者
- (B) 刑務所出所後の保護観察終了時は収入を伴う仕事に就いていたが、再入所に係る犯罪時には収入を伴う仕事に就いていなかった者
- (C) 刑務所出所後の保護観察終了時及び再入所に係る犯罪時において収入を伴う仕事に就いていなかった者。

② 職員調査

上記①の受刑者を収容する刑事施設（ただし、女子刑務所を除く。以下同様。）の職員。ただし、就労意欲等に関する設問については、なるべく当該受刑者の就労支援を担当した職員による回答を依頼した。

③ 刑務所出所者調査

刑事施設を出所し、協力雇用主等に雇用されている者。

(3) 調査方法

① 受刑者調査

郵送配付・郵送回収。事務局から各刑事施設に調査票を送付し、調査対象者に配付して頂いた。また、調査対象者の属性等に関する情報については、法務省より個人を特定できない形でデータの提供を受けた。

② 職員調査

法務省内のネットワークシステムによる調査票（電子ファイル）の配付・回収

③ 刑務所出所者調査

郵送配付・郵送回収。

事務局から刑務所出所者等を雇用している事業主に調査票を送付し、当該事業主経由で調査対象者に配付して頂いた。

(4) 調査実施期間

受刑者調査、職員調査：令和4（2022）年11月9日～12月9日

出所者調査：関西事務局分 令和5年（2023）年1月16日～2月13日

九州事務局分 令和5年（2022）年1月10日～2月2日

(5) 調査項目

① 受刑者調査

	就労支援対象者票	非就労支援対象者票	再入受刑者票
仕事経験	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの仕事経験の有無 (問1) ・就労期間の合計、働き方、転職経験、一番長く続いた仕事、一番長く続いた仕事を辞めた理由 (問2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの仕事経験の有無 (問1) ・就労期間の合計、働き方、転職経験、一番長く続いた仕事、一番長く続いた仕事を辞めた理由 (問2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの仕事経験の有無 (問11) ・前回出所から今回入所までの仕事経験の有無 (問2) ・転職経験 (問3) ・就労期間の合計 (問4) ・最も長く続いた勤め先 (問5) ・一番長く続いた仕事 (問6) ・一番長く続いた仕事を辞めた理由 (問7) ・無職期間の有無 (問8) ・今回逮捕時の状況 (問9) ・仕事をしなかった理由 (問10)
出所後の仕事や生活	<ul style="list-style-type: none"> ・今回出所後の同居予定者の有無 (問4) ・主な稼ぎ手 (問5) ・生活費の把握等 (問6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回出所後の同居予定者の有無 (問4) ・主な稼ぎ手 (問5) ・生活費の把握等 (問6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回出所後の同居家族 (問14) ・主な稼ぎ手 (問15) ・住居の状況 (問16) ・今回出所後の生活費の把握等 (問23)
	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点の出所後の就労予定の有無 (問10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点の出所後の就労予定の有無 (問10) ・就労予定が決まった経緯、就労先からの連絡 (問11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回入所中に受けた職業訓練や就労支援、受けた (受けなかった) 理由、出所後役立ったもの、今回についての希望 (問18) ・前回出所時の在所中内定の有無 (問1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した収入の伴う仕事の希望 (問7) ・仕事をする目的、希望する月収、就労支援を希望した理由 (問8) ・安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由 (問9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した収入の伴う仕事の希望 (問7) ・仕事をする目的、希望する月収、就労支援を希望しなかった理由 (問8) ・安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由 (問9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した収入の伴う仕事の希望 (問19) ・仕事をする目的 (問20) ・希望する月収 (問21) ・安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由 (問22)
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を決める時に重視すること (問11) ・出所後の仕事についての不安 (問12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を決める時に重視すること (問12) ・出所後の仕事についての不安 (問8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回出所から今回入所までに仕事を決める時に重視したこと (問12) ・出所後の仕事についての不安 (問13)
自己肯定感	<ul style="list-style-type: none"> ・自分についての考え (問3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分についての考え (問3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分についての考え (問17)
仕事や生活についての考え	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事についての考え (問13) ・人とのつきあいに関する考え (問14) ・就労支援、出所後の仕事や生活についての意見 (問15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事についての考え (問13) ・人とのつきあいに関する考え (問14) ・就労支援、出所後の仕事や生活についての意見 (問15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と再犯の関係 (問24) ・仕事についての考え (問25) ・人とのつきあいに関する考え (問26) ・就労支援、出所後の仕事や生活についての意見 (問27)

<調査対象者について SCRP データの提供を受けた項目>

	SCRP データの項目
受刑者のプロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時の年齢、入所年月日 ・最終学歴 ・精神障害の有無、種別、能力検査値、 ・犯罪時の職業の有無 ・配偶関係 ・帰住先
	<ul style="list-style-type: none"> ・罪名、刑期、入所度数、累犯 ・属性及び犯罪傾向の進捗

② 職員調査

	職員調査
受刑者調査の対象者について	<ul style="list-style-type: none"> ・（就労支援対象者のみ）就労意欲 ・（就労支援対象者のみ）就労意欲が低い対象者の特徴
受刑者の就労支援に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・受刑者の就労意欲喚起のために効果的なプログラム（受講する受刑者の特性、プログラムの内容、実施方法） ・受刑者の就労支援に関する課題やその対応策

③ 刑務所出所者調査

	出所者調査
属性等	<ul style="list-style-type: none"> ・職親プロジェクトの対象者かどうか（問 1） ・年齢（問 3） ・出所した時期（問 7）
仕事経験	<ul style="list-style-type: none"> ・出所後の転職経験の有無（問 12） ・転職回数（問 13） ・出所後の就労期間の合計（問 14） ・出所後最も長く続いた勤め先での期間、その仕事を辞めた主な理由（問 15） ・無職期間の有無（問 16）
出所後の仕事や生活	<ul style="list-style-type: none"> ・同居家族（問 5） ・主な稼ぎ手（問 6） ・住居の状況（問 4） ・生活費の把握等（問 24）
	<ul style="list-style-type: none"> ・入所中に受けた職業訓練や就労支援、受けた・受けなかった理由、出所後役立ったもの（問 19） ・在所中内定の有無（問 2）
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の仕事（業種）（問 9） ・現在の勤め先での勤続年数（問 10） ・転職希望（問 11） ・安定した収入の伴う仕事の希望（問 20） ・仕事をする目的（問 21） ・希望する月収（問 22） ・安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由（問 23）
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を決める時に重視したこと（問 17） ・出所後の仕事についての不安（問 18）
自己肯定感	<ul style="list-style-type: none"> ・自分についての考え（問 8）
仕事や生活についての考え	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と再犯の関係（問 25） ・仕事に関する意見（問 26） ・人とのつきあいに関する意見（問 27） ・刑務所の中での就労支援や出所後の仕事や生活に関する意見（問 28）

(6) 回収状況

① 受刑者調査

就労支援対象者票 : 回収数 1,142 件、有効回答数 1,130 件

非就労支援対象者票 : 回収数 778 件、有効回答数 732 件

再入受刑者票 : 回収数・有効回答数 296 件 (有効回収率 98.7%)

- (A) 保護観察終了時、及び再入所時において仕事に就いていた者 100 人
- (B) 保護観察終了時は収入を伴う仕事に就いていたが、再入所時には仕事に就いていなかった者 98 人
- (C) 保護観察終了時、及び再入所時において収入を伴う仕事に就いていなかった者 98 人

② 職員調査

回収数・有効回答数 72 件 (有効回収率 100%)

③ 刑務所出所者調査

回収数・有効回答数 59 件

2. 受刑者調査 結果概要³

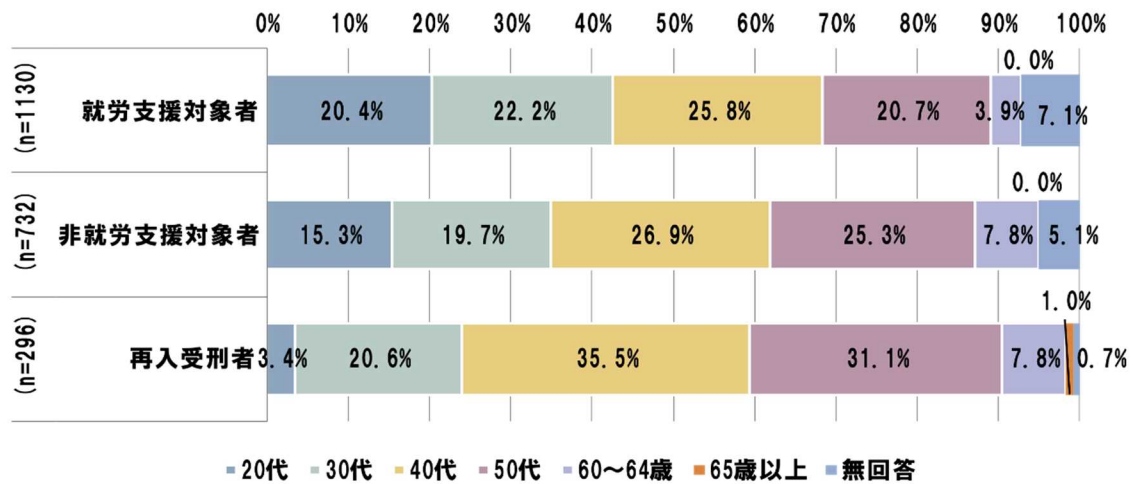
(1) 回答者のプロフィール

ここでは、回答のあった就労支援対象者 1,130 名、非就労支援対象者 732 人、再入受刑者 296 名のプロフィールについて述べる。

① 調査回答時の年齢

調査回答時の年齢は、「40代」が就労支援対象者で 25.8%、非就労支援対象者で 26.9% だった。平均年齢は、就労支援対象者で 40.9 歳、非就労支援対象者で 43.4 歳、再入受刑者で 46.1 歳だった。

図表 1 調査回答時の年齢



(注) 調査回答時の年齢は、データの「入所時年齢」及び「入所月」のデータをもとに、入所月から 2022 年 12 月までの年数（満たない場合は切り捨て）を加えて算出した。

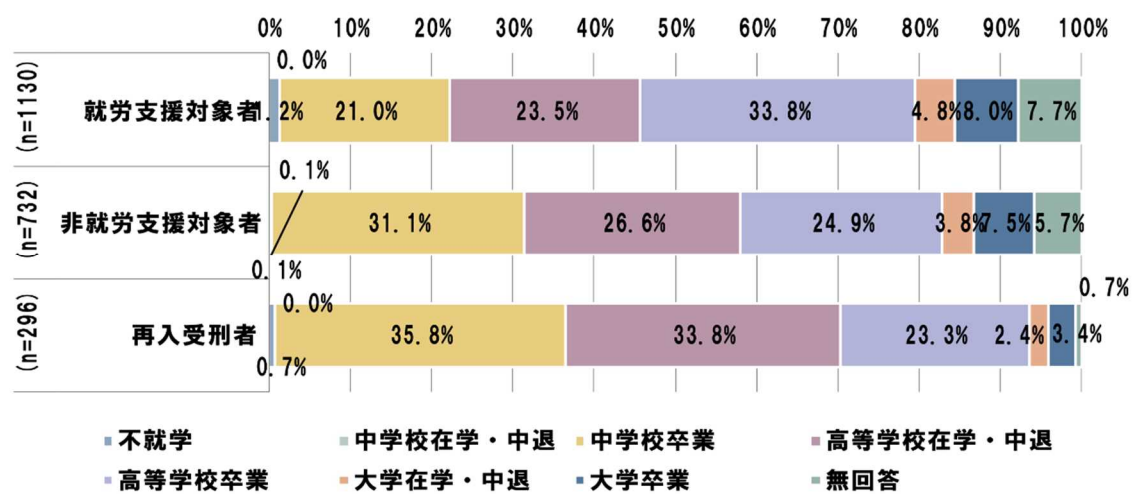
³ 各設問の単純集計結果については、巻末「参考資料」の単純集計表を参照のこと。

② 最終学歴

最終学歴について、高校に進学していない者の割合（不就学、中学校在学・中退、中学校卒業の和）は、就労支援対象者で22.2%、非就労支援対象者で31.4%、再入受刑者で36.5%だった。

高校中退者を加えると、高等学校を卒業していない者の割合（不就学、中学校在学・中退、中学校卒業、高等学校在学・中退の和）は、就労支援対象者で45.8%、非就労支援対象者で58.1%、再入受刑者で70.3%を占める。

図表2 最終学歴



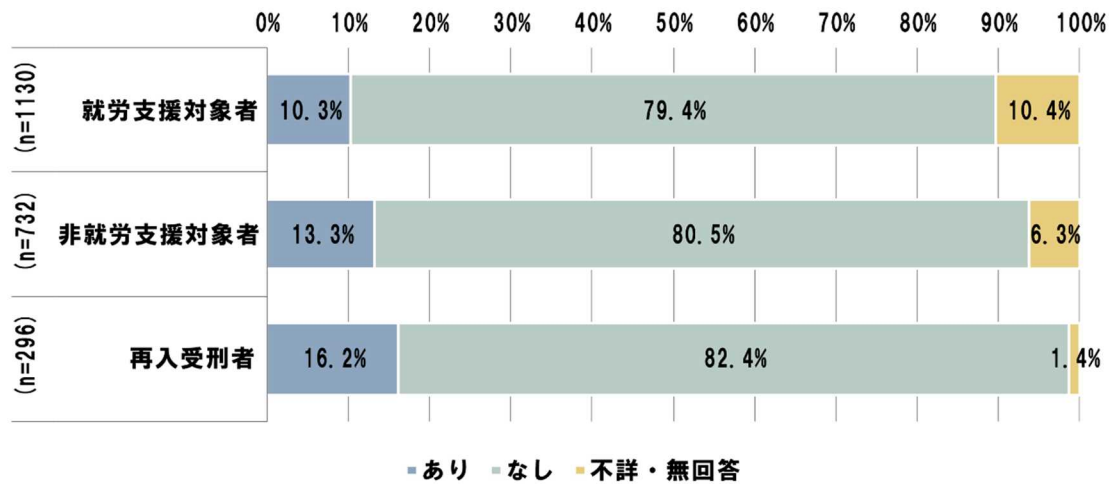
(参考) 全国の高等学校等進学率は98.9% (文部科学省「令和3年度学校基本調査」)

(注) 一部再入受刑者に関しては、今回の受刑での最終学歴が確認できなかったため、前回刑務所出所時のデータセットより最終学歴を補完している。

③ 精神障害

精神障害あり（知的障害、精神病質、神経症、その他の精神障害の和）は、就労支援対象者で10.3%、非就労支援対象者で13.3%、再入受刑者で16.2%だった。

図表3 精神障害

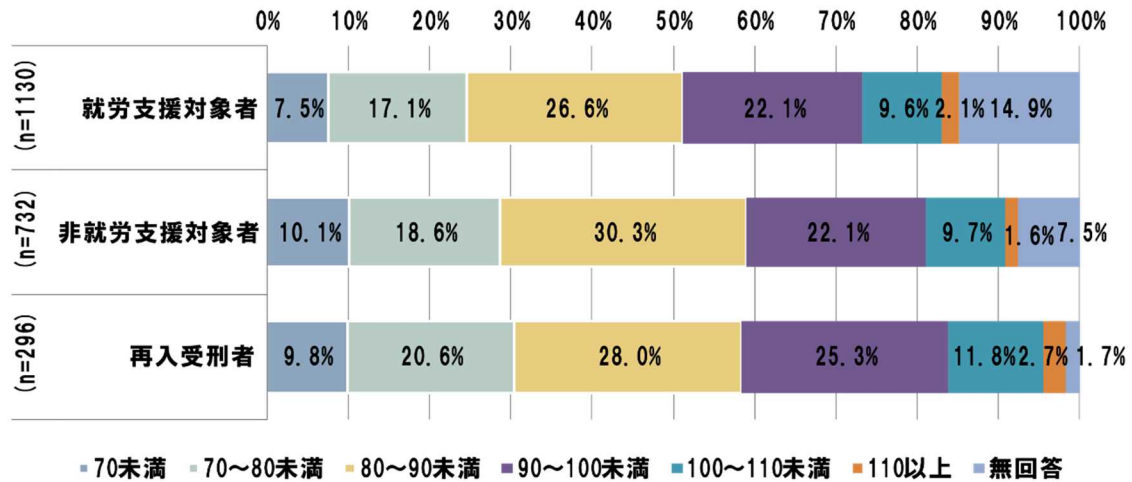


(注) 一部の再入受刑者に関しては、今回の受刑での精神状況に関するデータが確認できなかったため、前回刑務所出所時のデータセットより精神状況に関するデータについて補完している。

④ 能力検査値

能力検査値について「70未満」の割合は、就労支援対象者で7.5%、非就労支援対象者で10.1%、再入受刑者で9.8%だった。

図表4 能力検査値

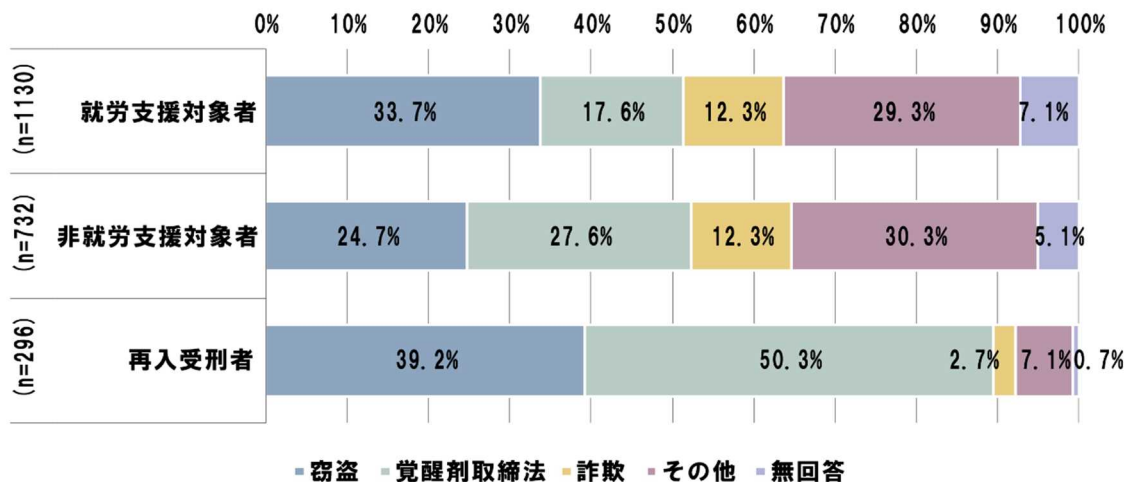


(注) 一部の再入受刑者に関しては、今回の受刑での能力検査値が確認できなかったため、前回刑務所出所時のデータセットより能力検査値を補完している。

⑤ 罪名

罪名は、「窃盗」が就労支援対象者で33.7%、非就労支援対象者で24.7%、再入受刑者で39.2%だった。また、「覚醒剤取締法（違反）」が就労支援対象者で17.6%、非就労支援対象者で27.6%、再入受刑者で50.3%だった。

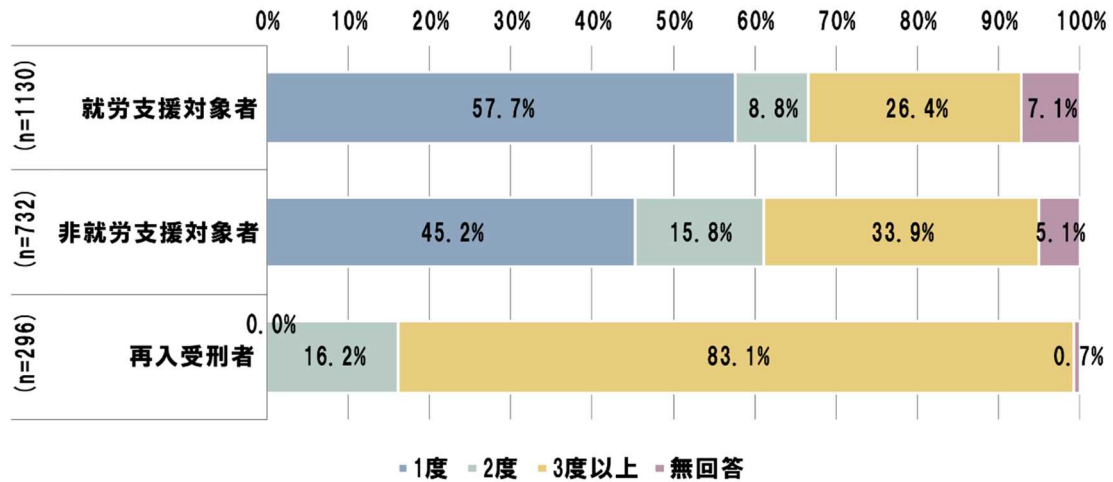
図表5 罪名



⑥ 入所度数

入所度数は、「1度（初入者）」が就労支援対象者で57.7%、非就労支援対象者で45.2%だった。再入受刑者は、2度が16.2%、3度以上が83.1%だった。

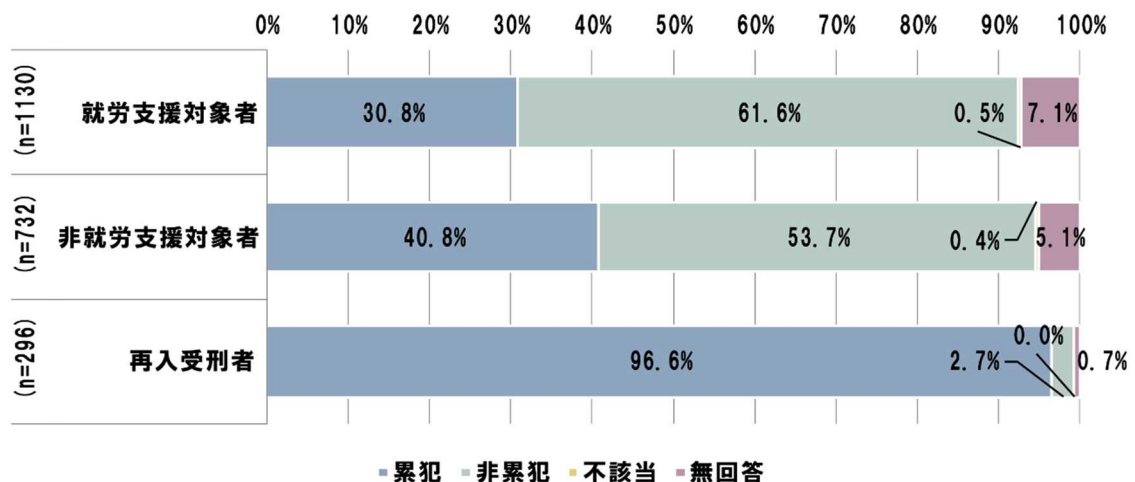
図表6 入所度数



⑦ 累犯

累犯者（懲役に処せられたのちその執行をおわり、または執行の免除のあった日から、5年以内にさらに罪を犯して、有期懲役に処せられた者）は、就労支援対象者で30.8%、非就労支援対象者で40.8%、再入受刑者で96.6%だった。

図表7 累犯

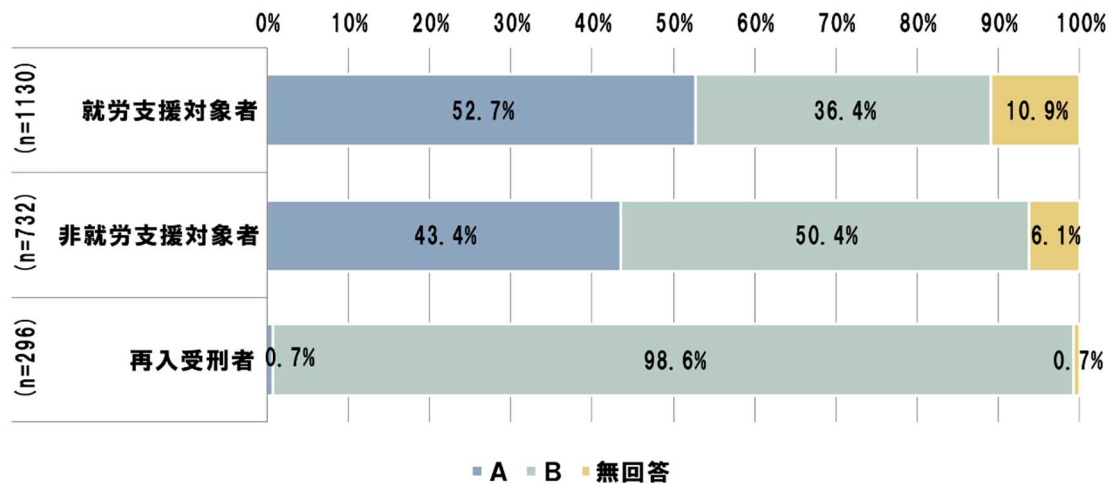


(注) 今回の刑が死刑、無期懲役、禁錮又は拘留の場合は「不該当」となる。

⑧ 属性及び犯罪傾向の進捗

犯罪傾向の進捗をみると、就労支援対象者は「A」が52.7%、「B」が36.4%、非就労支援対象者は「A」が43.3%、「B」が50.4%だった。再入受刑者は「A」が0.7%、「B」が98.6%だった。

図表 8 犯罪傾向の進捗



図表 9 属性及び犯罪傾向の進捗

	就労支援対象者		非就労支援対象者		再入受刑者	
全体	1130	100.0%	732	100.0%	296	100.0%
A	443	39.2%	250	34.2%	2	0.7%
B	389	34.4%	357	48.8%	268	90.5%
F A	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
F B	1	0.1%	0	0.0%	1	0.3%
I A	6	0.5%	3	0.4%	0	0.0%
I B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
J A	5	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
J B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
L A	12	1.1%	2	0.3%	0	0.0%
L B	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
Y A	128	11.3%	59	8.1%	0	0.0%
Y B	19	1.7%	9	1.2%	5	1.7%
MA	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
MB	0	0.0%	2	0.3%	0	0.0%
PA	0	0.0%	2	0.3%	0	0.0%
PB	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
無回答	123	10.9%	45	6.1%	20	6.8%

(参考：属性及び犯罪傾向の進度)

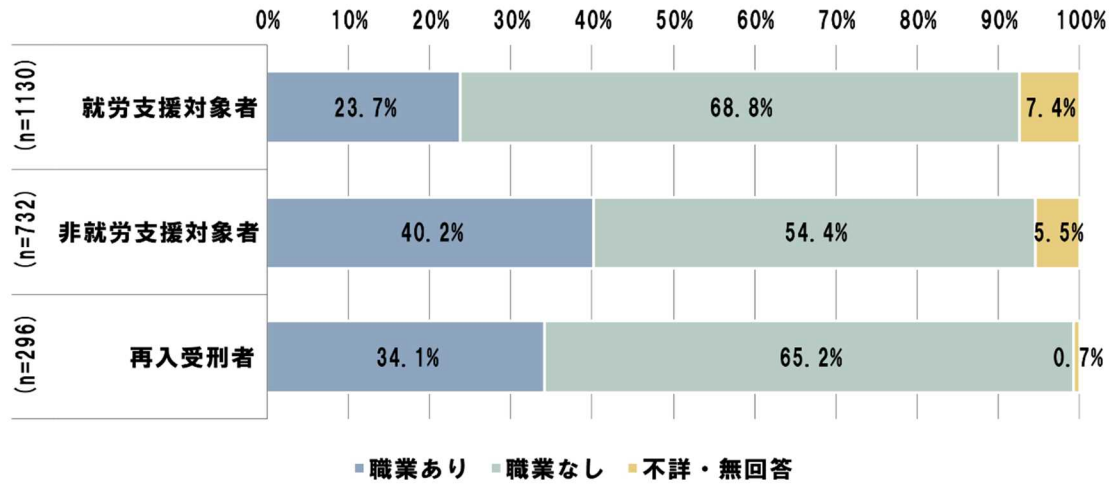
属性及び犯罪傾向の進度	符 号
拘留受刑者	D
少年院への収容を必要とする16歳未満の少年	J t
精神上の疾病又は障害を有するため医療を主として行う 刑事施設等に収容する必要があると認められる者	M
身体上の疾病又は障害を有するため医療を主として行う 刑事施設等に収容する必要があると認められる者	P
女子	W
日本人と異なる処遇を必要とする外国人	F
禁錮受刑者	I
少年院への収容を必要としない少年	J
執行すべき刑期が10年以上である者	L
可塑性に期待した矯正処遇を重点的に行うことが相当と 認められる26歳未満の成人	Y
犯罪傾向が進んでいない者	A
犯罪傾向が進んでいる者	B

(出所) 法務省「令和2年版 犯罪白書」

⑨ 今回の入所に係る犯罪時における職業の有無

今回の入所に係る犯罪時において「職業なし」の割合は、就労支援対象者で68.8%、非就労支援対象者で54.4%、再入受刑者で65.2%だった。

図表 10 今回の入所に係る犯罪時における職業の有無

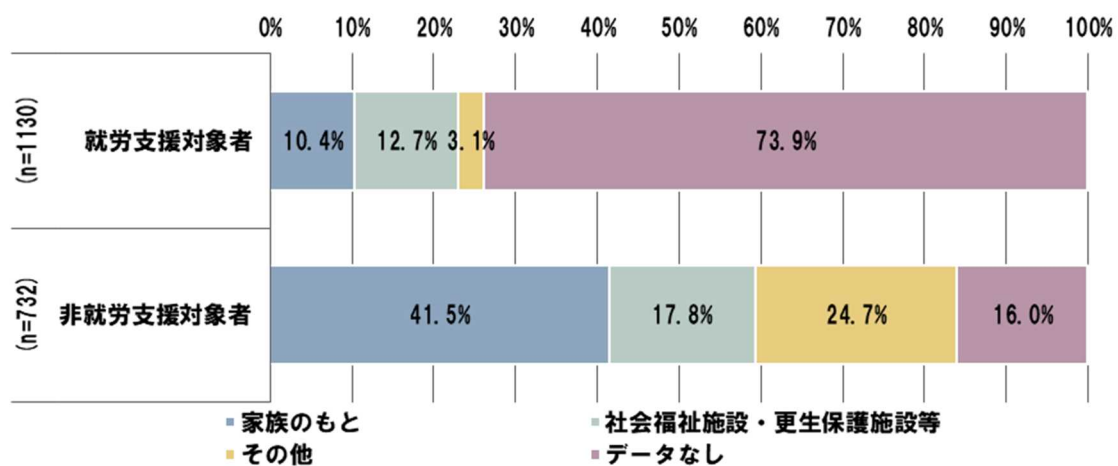


⑩ 帰宅先

帰宅先については、帰宅先が家族である者の割合（父、母、配偶者、兄弟、姉妹の和）は、就労支援対象者で 12.3%、非就労支援対象者で 42.3%、社会福祉施設・更生保護施設等と回答した者の割合は、就労支援対象者で 14.4%、非就労支援対象者で 19.1%となっている。

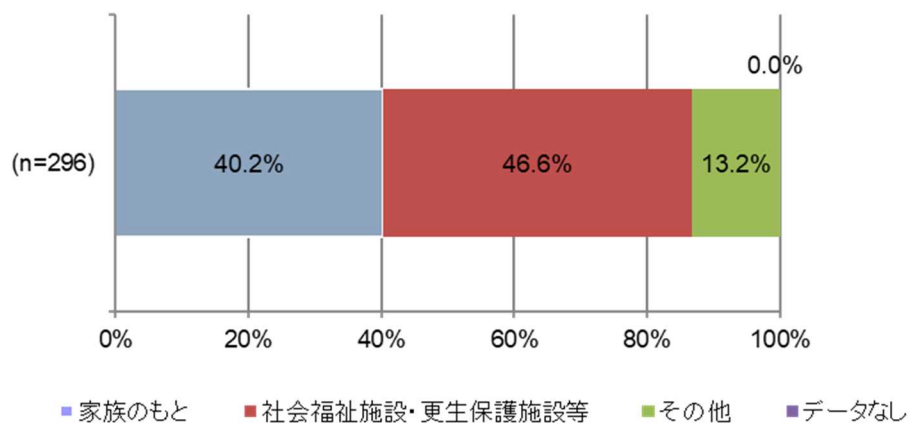
また再入受刑者に関しては、前回刑務所出所時の帰宅先が「家族」の割合が 40.2%、「社会福祉施設・更生保護施設等」の割合が 46.6%だった。

図表 11 帰宅先



(注) 出所を終えた者のみデータが存在するため、就労支援対象者については「データなし」が約 7 割を占めている。

図表 12 (参考) 再入受刑者の前回刑務所出所時の帰宅先

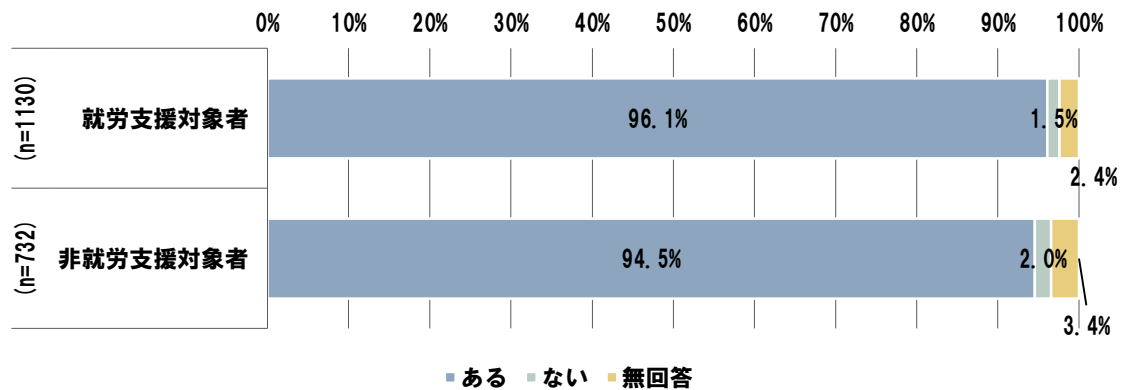


(2) 仕事の経験

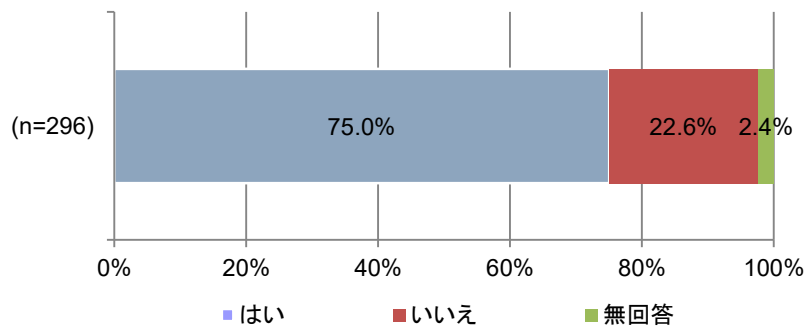
① これまでに収入の伴う仕事をした経験の有無

就労支援対象者、非就労支援対象者ともに、これまでに収入を伴う仕事をした経験が「ある」が9割を超え、就労経験のない回答者は少なかった。

図表 13 これまでに収入を伴う仕事をした経験の有無
(就労支援対象者票問1、非就労支援対象者票問1)



図表 14 前回刑務所出所時から今回入所の間、収入の伴う仕事をした経験の有無
(再入受刑者票問2)

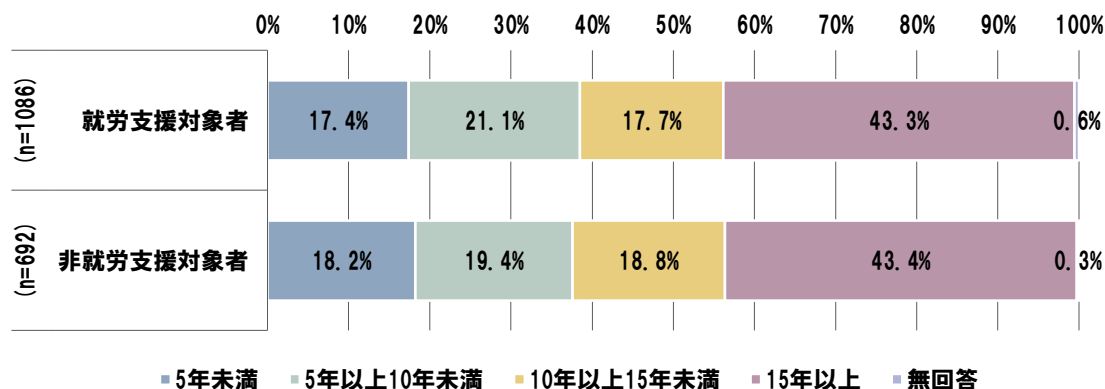


		合計	Q2 前回出所時から、今回入所の間、収入の伴う仕事をした経験有無		
			はい	いいえ	無回答
全体		296	222	67	7
		100.0	75.0	22.6	2.4
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100	93	6	1
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98	87	8	3
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	100.0	88.8	8.2	3.1
		98	42	53	3
		100.0	42.9	54.1	3.1

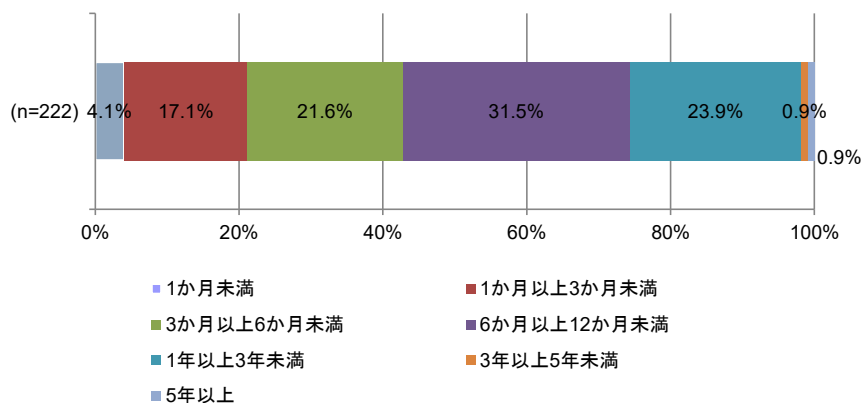
② 就労期間の合計

これまでに収入を伴う経験をしたことがあると回答した方に、就労期間（短期のアルバイトを含む）の合計を尋ねたところ、「15年以上」が就労支援対象者で43.3%、非就労支援対象で43.4%だった。

図表 15 就労期間の合計
(就労支援対象者票問 2①、非就労支援対象者票問 2①)



図表 16 収入の伴う仕事をした経験のある者について、
前回出所時から今回入所までの間の就労期間の合計
(再入受刑者票問 4)

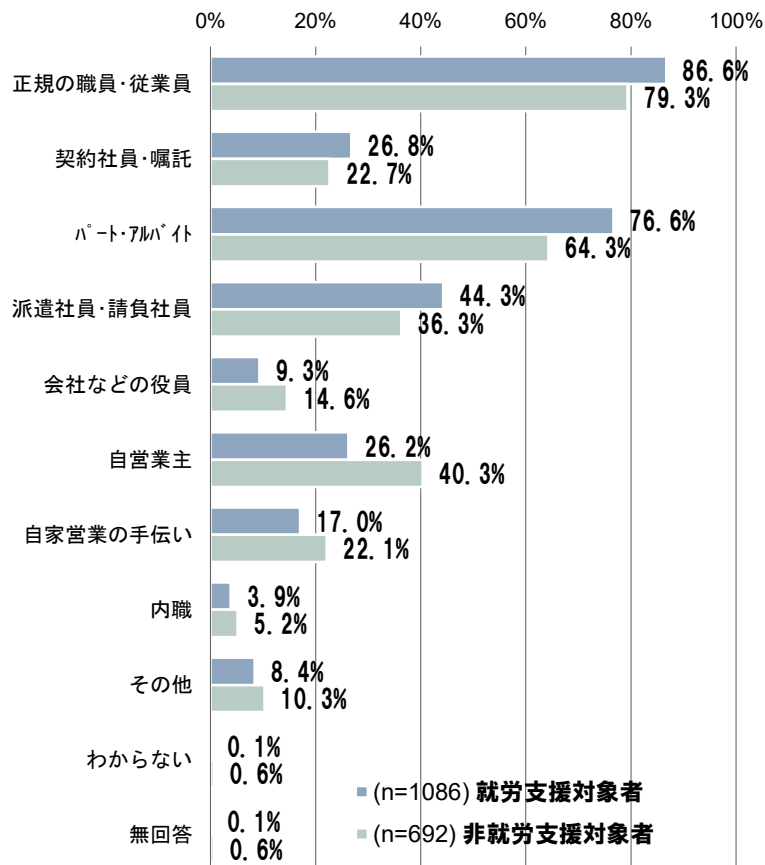


	合計	Q4 前回出所時から、今回入所までの間の合計就労期間							無回答	非該当	
		1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上12か月未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上			
全体	222	9	38	48	70	53	2	2	0	74	
	100.0	4.1	17.1	21.6	31.5	23.9	0.9	0.9	0.0	0.0	
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	93	0	6	19	36	31	1	0	0	7
		100.0	0.0	6.5	20.4	38.7	33.3	1.1	0.0	0.0	0.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	87	2	22	17	27	16	1	2	0	11
		100.0	2.3	25.3	19.5	31.0	18.4	1.1	2.3	0.0	0.0
保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	42	7	10	12	7	6	0	0	0	56	
	100.0	16.7	23.8	28.6	16.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	

③ これまでに経験した働き方

これまでに経験した働き方についてみると、「正規の職員・従業員」の経験がある回答者が多く、就労支援対象者で86.6%、非就労支援対象者で79.3%だった。非就労支援対象者では、「自営業主」の割合が比較的高く40.3%となっている（就労支援対象者は26.2%）。

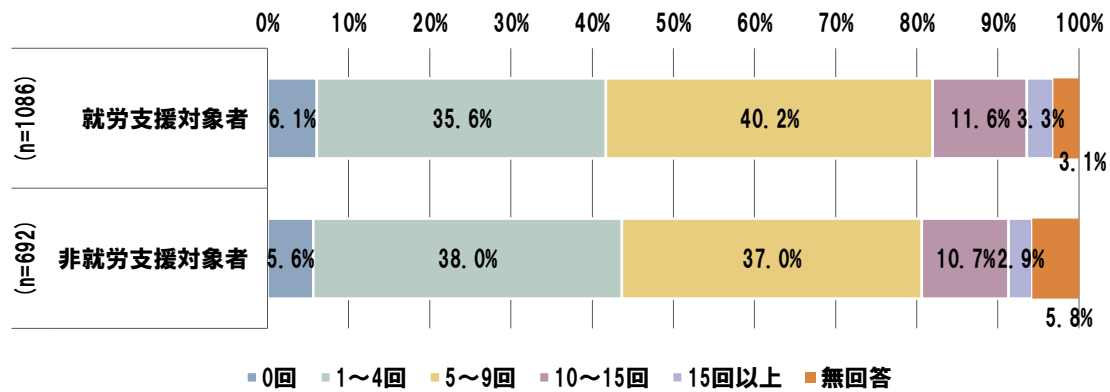
図表 17 これまでに経験した働き方（複数回答）
（就労支援対象者票問 2②、非就労支援対象者票問 2②）



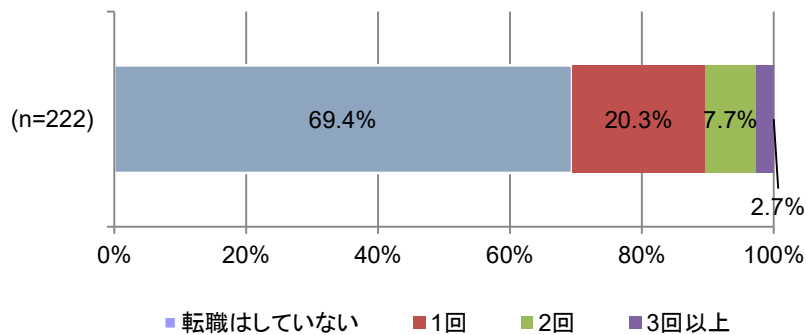
④ 転職回数

これまでに転職した回数を尋ねたところ、転職経験のない（0回）回答者は就労支援対象者で6.1%、非就労支援対象者で5.6%だった。10回以上転職経験のある回答者（「10～15回」、「15回以上」の和）は、就労支援対象者で14.9%、非就労支援対象者で13.6%だった。

図表 18 これまでに転職をした回数
(就労支援対象者票問 2③、非就労支援対象者票問 2③)



図表 19 前回出所時から今回入所までの間の転職回数 (再入受刑者票問 3)

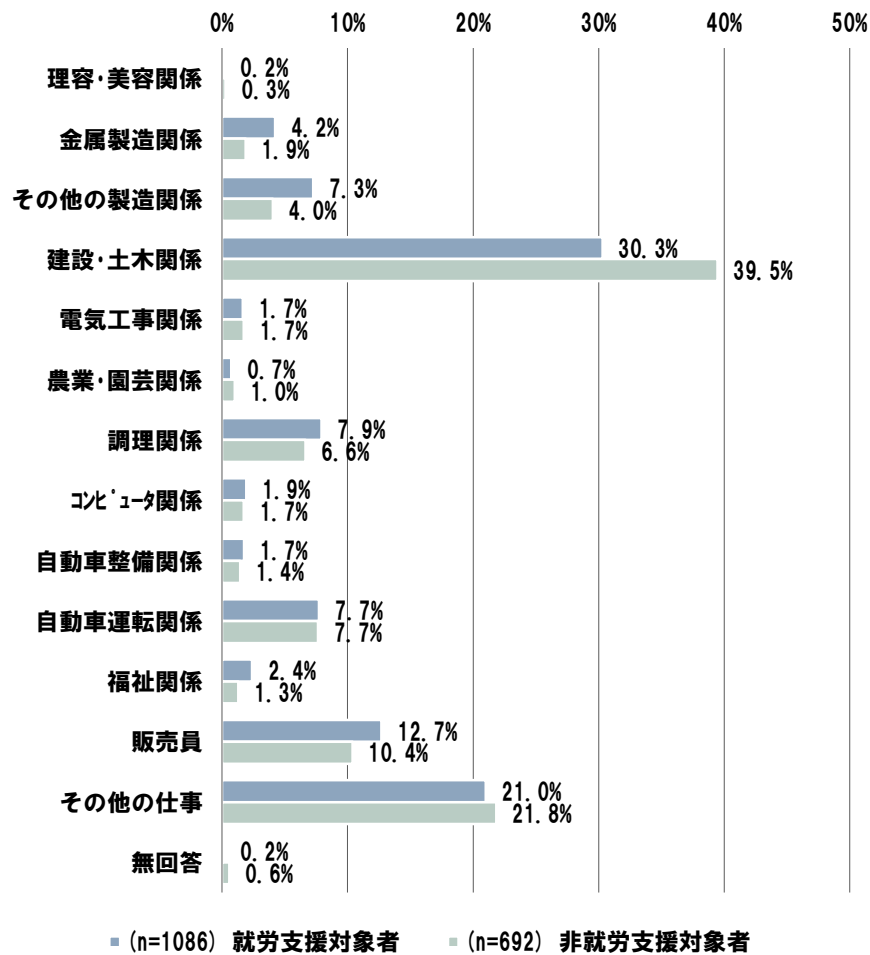


	合計	Q3 前回出所時から、今回入所の間の転職回数					非該当	
		転職はし ていない	1回	2回	3回以上	無回答		
全体	222 100.0	154 69.4	45 20.3	17 7.7	6 2.7	0 0.0	74	
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所時に就労 (A)	93 100.0	69 74.2	15 16.1	7 7.5	2 2.2	0 0.0	7
	保護観察終了時就労、再入所時不就労 (B)	87 100.0	53 60.9	23 26.4	7 8.0	4 4.6	0 0.0	11
	保護観察終了時及び再入所時に不就労 (C)	42 100.0	32 76.2	7 16.7	3 7.1	0 0.0	0 0.0	56

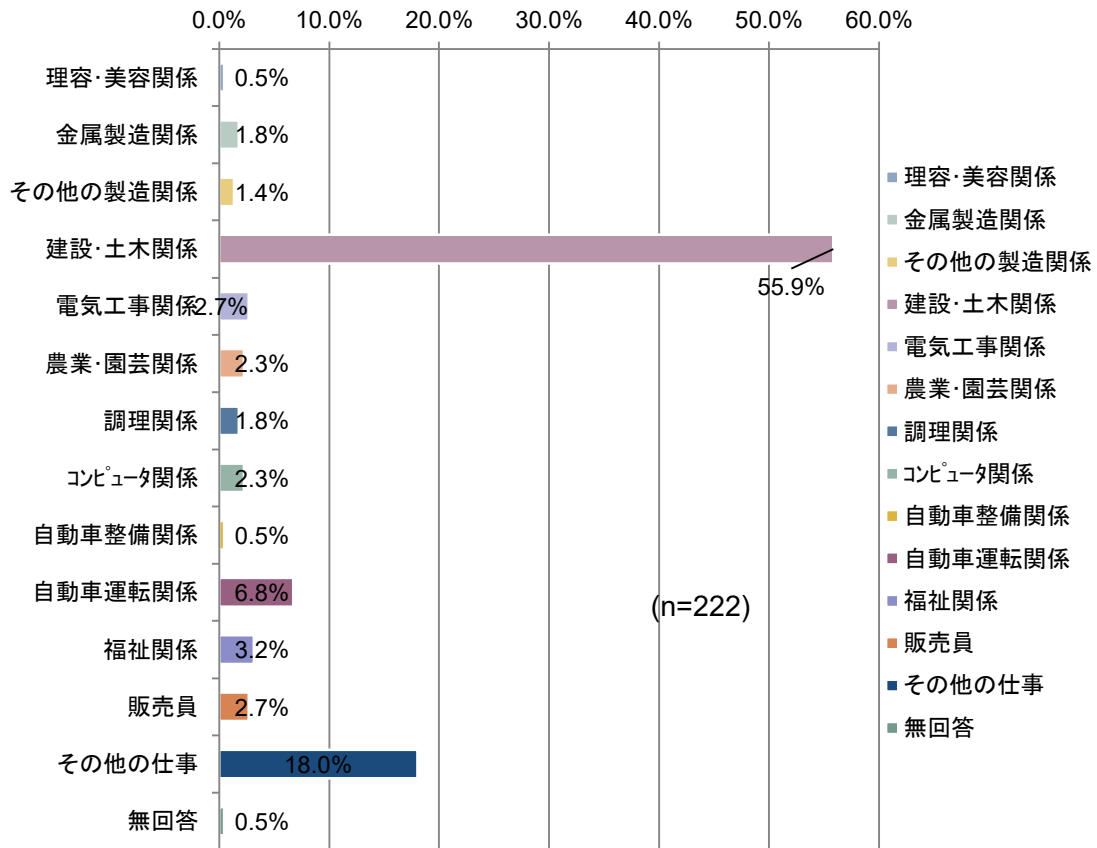
⑤ これまでに一番長く続いた仕事

これまでに一番長く続いた仕事は「建設・土木関係」の割合が高く、就労支援対象者で30.3%、非就労支援対象者で39.5%となっている。

図表 20 これまでに一番長く続いた仕事（複数回答）
 （就労支援対象者票問 2④、非就労支援対象者票問 2④）



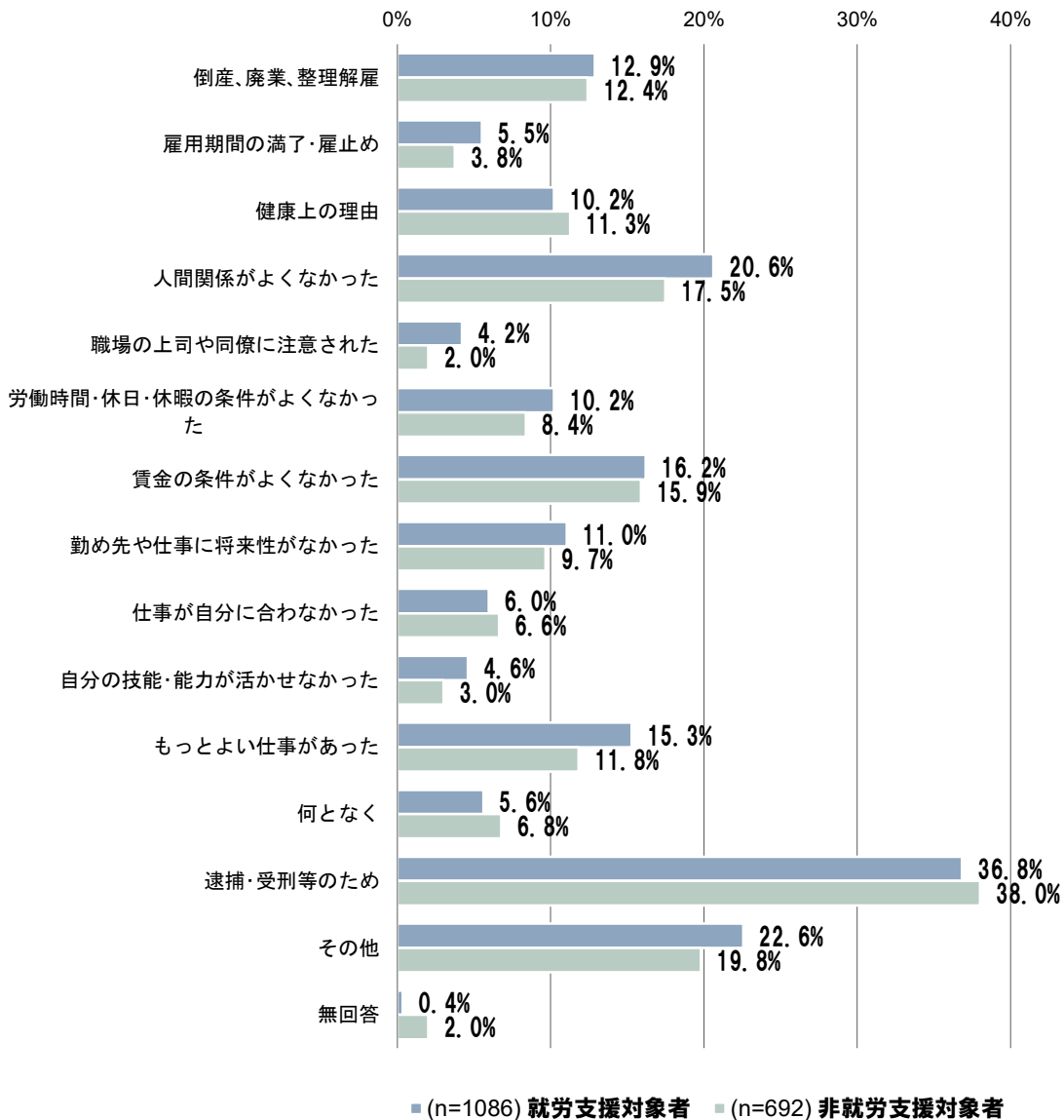
図表 21 前回出所から今回入所までの間で、一番長く続いた仕事（複数回答）
 （再入受刑者票問 6）



これまでに一番長く続いた仕事を辞めた理由は、「逮捕・受刑等のため」の割合が最も高く、就労支援対象者で36.8%、非就労支援対象者で38.0%だった。

次いで、「人間関係がよくなかった」の割合が、就労支援対象者で20.6%、非就労支援対象者で17.5%だった。

図表 22 これまでに一番長く続いた仕事を辞めた理由（複数回答）
（就労支援対象者票問 2⑥、非就労支援対象者票問 2⑥）

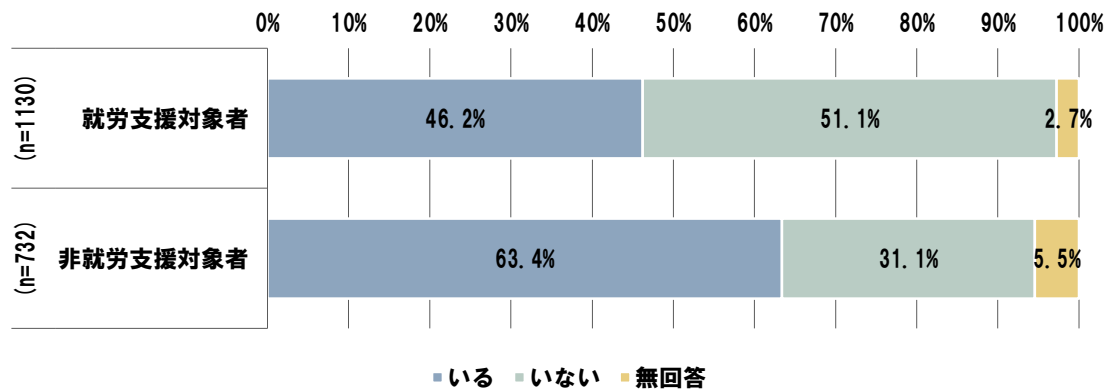


(3) 出所後の仕事や生活

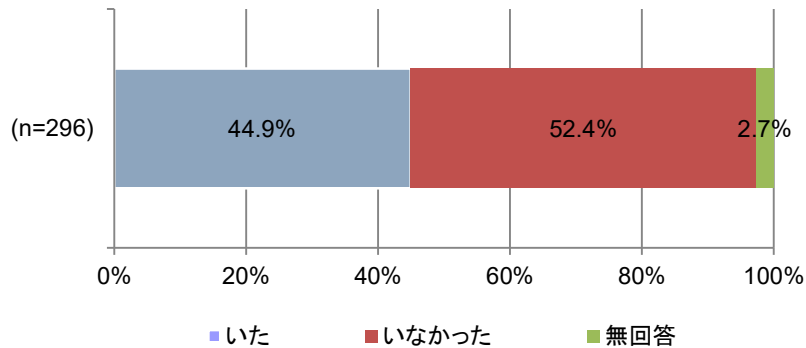
① 出所後の同居予定者の有無

今回の出所後に同居予定者が「いる」割合は、就労支援対象者で46.2%、非就労支援対象者で63.4%だった。

図表 23 今回出所後の同居予定者の有無
(就労支援対象者票問 4、非就労支援対象者票問 4)



図表 24 前回出所時の同居予定者の有無 (再入受刑者票問 14)

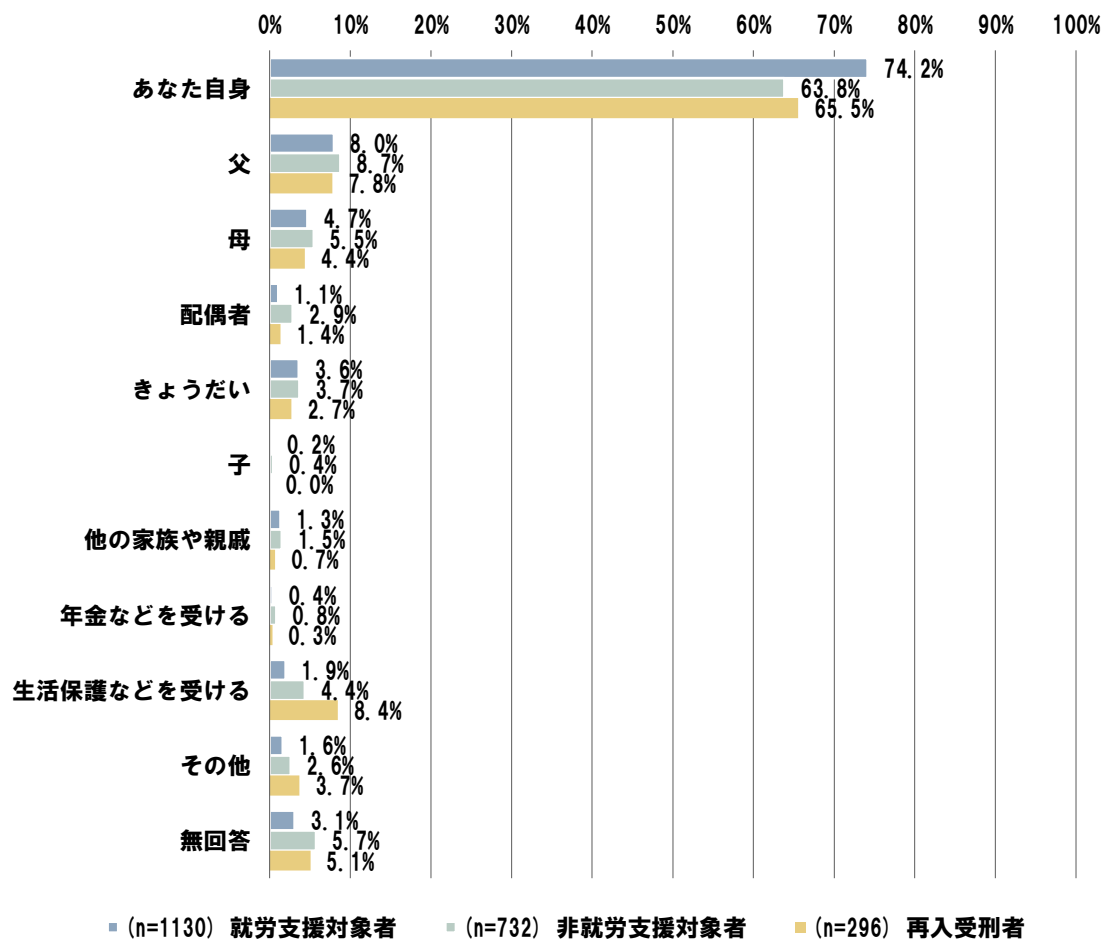


	合計	Q14 前回の出所時に、同居家族等の有無			
		いた	いなかった	無回答	
全体	296 100.0	133 44.9	155 52.4	8 2.7	
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	50 50.0	49 49.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	42 42.9	52 53.1	4 4.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	41 41.8	54 55.1	3 3.1

② 出所後の生活費の主な稼ぎ手

出所後の生活費の主な稼ぎ手は「回答者本人（あなた自身）」の割合が高く、就労支援対象者で74.2%、非就労支援対象者で63.8%、再入受刑者で65.5%だった。

図表 25 出所後の生活費の主な稼ぎ手（複数回答）
 （就労支援対象者票問 5、非就労支援対象者票問 5、再入受刑者票問 15）



		合計	Q15 前回の出所時の主な稼ぎ手					子
			あなた自身	父	母	配偶者	きょうだい	
全体		296 100.0	194 65.5	23 7.8	13 4.4	4 1.4	8 2.7	0 0.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	81 81.0	5 5.0	3 3.0	1 1.0	3 3.0	0 0.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	70 71.4	9 9.2	4 4.1	0 0.0	2 2.0	0 0.0
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	43 43.9	9 9.2	6 6.1	3 3.1	3 3.1	0 0.0
	合計			他の家族や親戚	年金などを受ける	生活保護などを受ける	その他	無回答
全体		296 100.0	2 0.7	1 0.3	25 8.4	11 3.7	15 5.1	
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	2 2.0	3 3.0	
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	0 0.0	0 0.0	5 5.1	1 1.0	7 7.1	
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	1 1.0	1 1.0	19 19.4	8 8.2	5 5.1	
	合計							

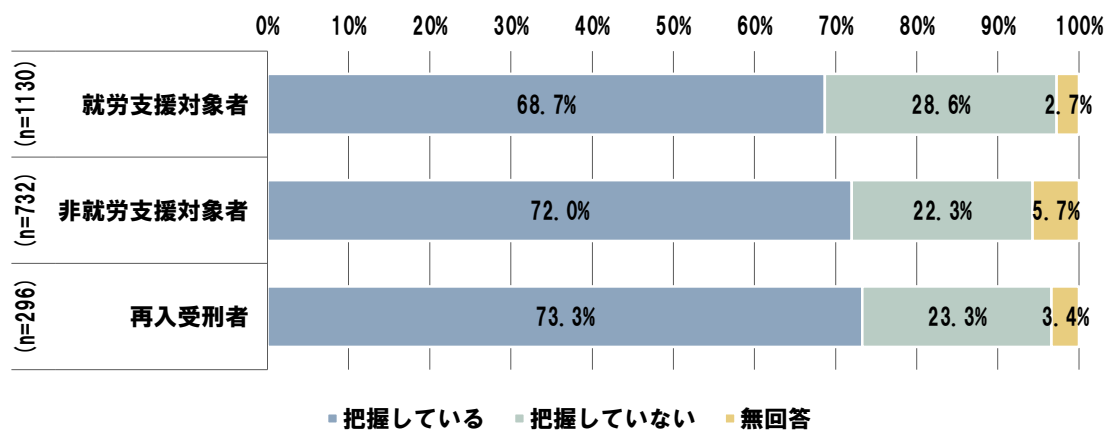
③ 生活費の把握等

出所後1か月間に必要な生活費の把握状況は「把握している」の割合が高く、就労支援対象者で68.7%、非就労支援対象者で72.0%、再入受刑者で73.3%だった。

一方、入所前5年間に生活費が足りなくなった経験は「ある」の割合が高く、就労支援対象者で65.8%、非就労支援対象者で56.1%、再入受刑者で60.5%だった。家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験が「ある」割合は就労支援対象者で49.7%、非就労支援対象者で44.3%、再入受刑者で37.2%だった。

図表 26 出所後1か月間に必要な生活費の把握状況

(就労支援対象者票問 6①、非就労支援対象者票問 6①、再入受刑者票問 23①)



図表 27 出所後の就労予定の有無別 出所後1か月間に必要な生活費の把握状況

(就労支援対象者票問 10×問 6①)

	合計	Q6① 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況			
		把握している	把握していない	無回答	
全体	1130	776	323	31	
	100.0	68.7	28.6	2.7	
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	285	210	73	2
	100.0	73.7	25.6	0.7	
まだ決まっていない	800	557	242	1	
	100.0	69.6	30.3	0.1	

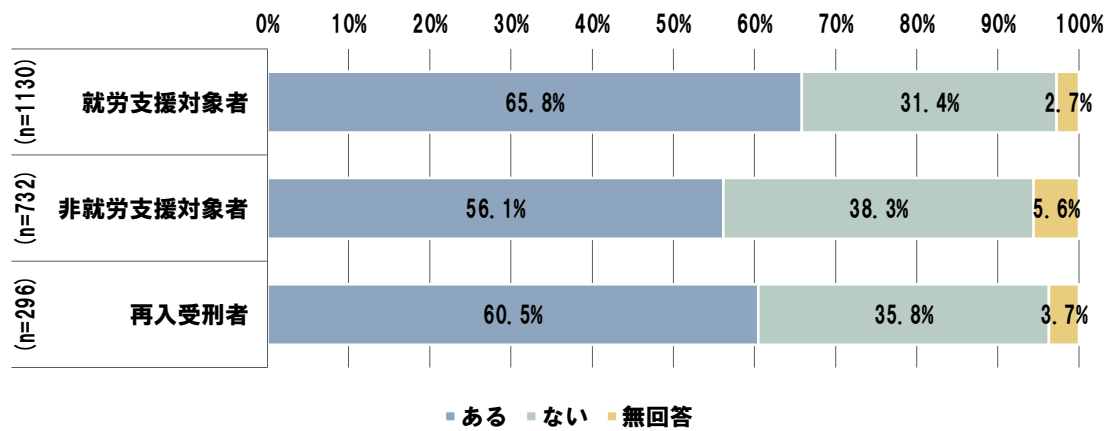
図表 28 出所後の就労予定の有無別 出所後 1 か月間に必要な生活費の把握状況
(非就労支援対象者票問 10×問 6①)

		合計	Q6① 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況		
			把握している	把握していない	無回答
全体		732 100.0	527 72.0	163 22.3	42 5.7
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	326 82.5	66 16.7	3 0.8
	まだ決まっていない	276 100.0	182 65.9	91 33.0	3 1.1

図表 29 再入受刑者の類型別 出所後 1 か月間に必要な生活費の把握状況
(再入受刑者票問 23①)

		合計	Q23① 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況		
			把握している	把握していない	無回答
全体		296 100.0	217 73.3	69 23.3	10 3.4
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	75 75.0	22 22.0	3 3.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	74 75.5	21 21.4	3 3.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	68 69.4	26 26.5	4 4.1

図表 30 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験
 (就労支援対象者票問 6②、非就労支援対象者票問 6②、再入受刑者票問 23②)



図表 31 出所後の就労予定の有無別 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験
 (非就労支援対象者票問 10×問 6②)

		合計	Q6② 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験有無		
			ある	ない	無回答
全体		1130 100.0	744 65.8	355 31.4	31 2.7
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	285 100.0	190 66.7	93 32.6	2 0.7
	まだ決まっていな い	800 100.0	546 68.3	253 31.6	1 0.1

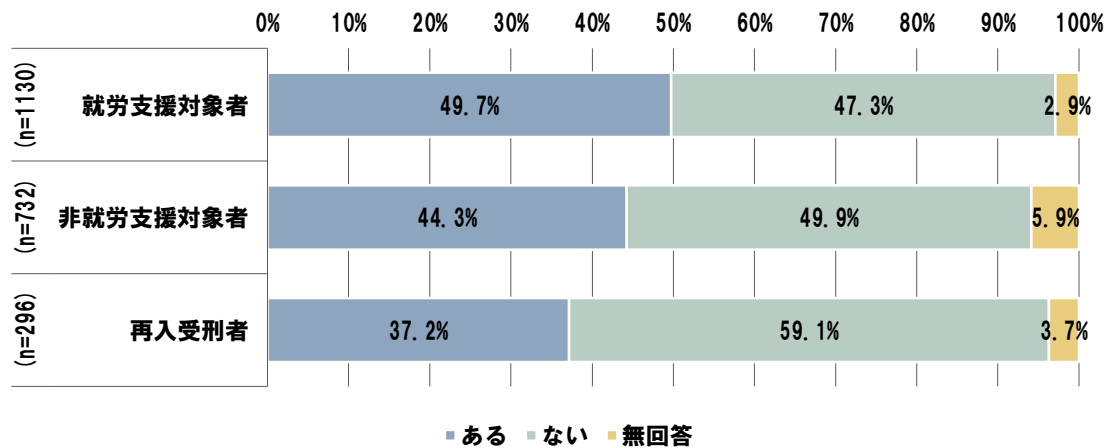
図表 32 出所後の就労予定の有無別 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験
 (非就労支援対象者票問 10×問 6②)

		合計	Q6② 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験有無		
			ある	ない	無回答
全体		732 100.0	411 56.1	280 38.3	41 5.6
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	213 53.9	179 45.3	3 0.8
	まだ決まっていな い	276 100.0	185 67.0	89 32.2	2 0.7

図表 33 再入受刑者の類型別 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験
(再入受刑者票問 23②)

	合計	Q23②入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験有無		
		ある	ない	無回答
全体	296 100.0	179 60.5	106 35.8	11 3.7
再入受刑者タイプ				
保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	61 61.0	36 36.0	3 3.0
保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	62 63.3	32 32.7	4 4.1
保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	56 57.1	38 38.8	4 4.1

図表 34 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験
(就労支援対象者票問 6③、非就労支援対象者票問 6③、再入受刑者票問 23③)



図表 35 出所後の就労予定の有無別入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験

(就労支援対象者票 10×問 6③)

		合計	Q6③ 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れた		
			ある	ない	無回答
全体		1130 100.0	562 49.7	535 47.3	33 2.9
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	285 100.0	161 56.5	122 42.8	2 0.7
	まだ決まっていない	800 100.0	394 49.3	403 50.4	3 0.4

図表 36 出所後の就労予定の有無別 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験

(非就労支援対象者票問 10×問 6③)

		合計	Q6③ 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れた		
			ある	ない	無回答
全体		732 100.0	324 44.3	365 49.9	43 5.9
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	165 41.8	226 57.2	4 1.0
	まだ決まっていない	276 100.0	147 53.3	126 45.7	3 1.1

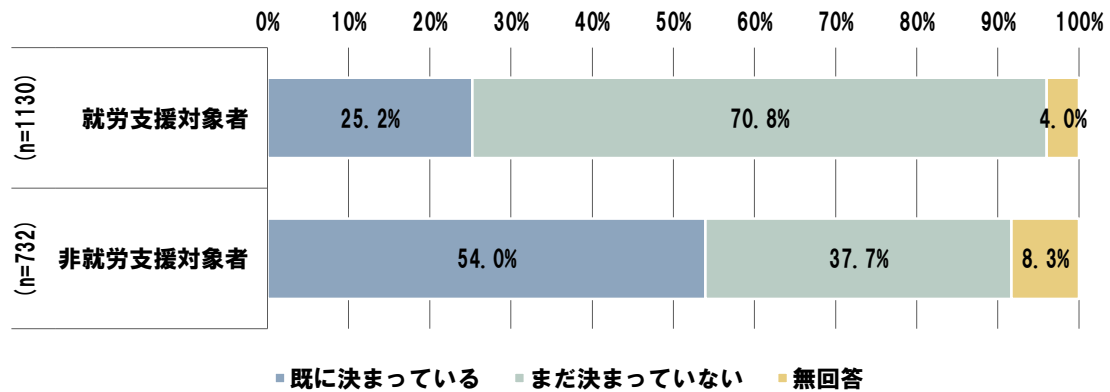
図表 37 再入受刑者の類型別 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験 (再入受刑者票問 23③)

		合計	Q23③ 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験有無		
			ある	ない	無回答
全体		296 100.0	110 37.2	175 59.1	11 3.7
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	35 35.0	62 62.0	3 3.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	39 39.8	55 56.1	4 4.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	36 36.7	58 59.2	4 4.1

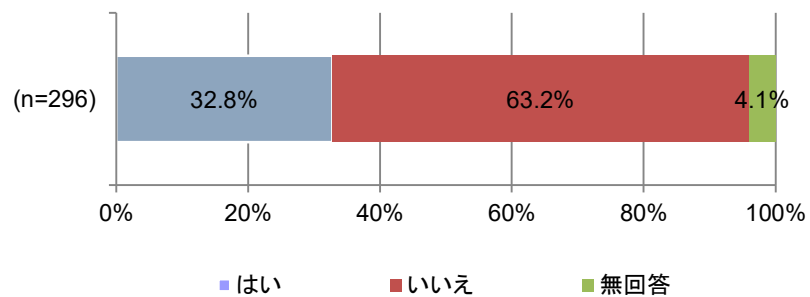
④ 出所後の就労予定の有無

出所後の就労予定の有無については、「既に決まっている」の割合が就労支援対象者で25.2%、非就労支援対象者で54.0%だった。

図表 38 出所後の就労予定の有無（就労支援対象者票問 10、非就労支援対象者票問 10）



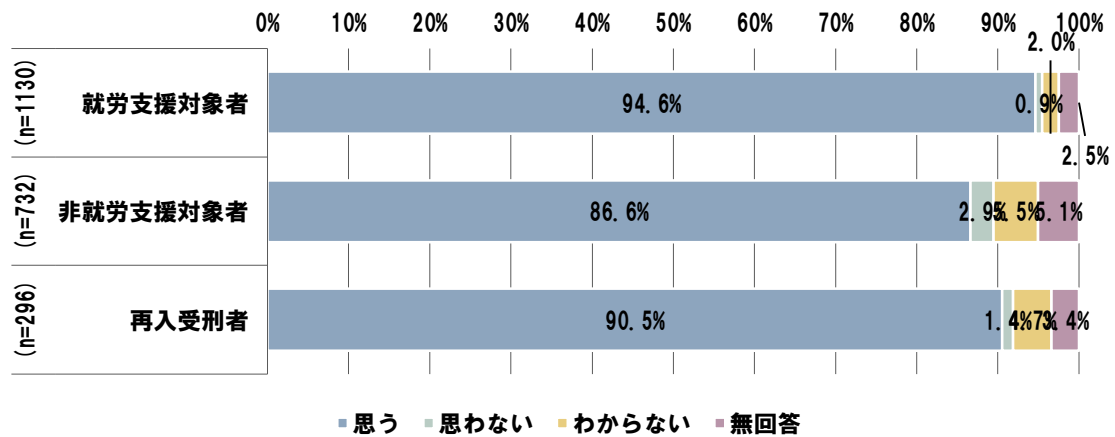
図表 39 前回出所時における、在所中内定の有無（再入受刑者票問 1）



⑤ 安定した収入の伴う仕事の希望

安定した収入の伴う仕事をしたいと「思う」割合は、就労支援対象者で94.6%、非就労支援対象者で86.6%、再入受刑者で90.5%と多数を占めた。

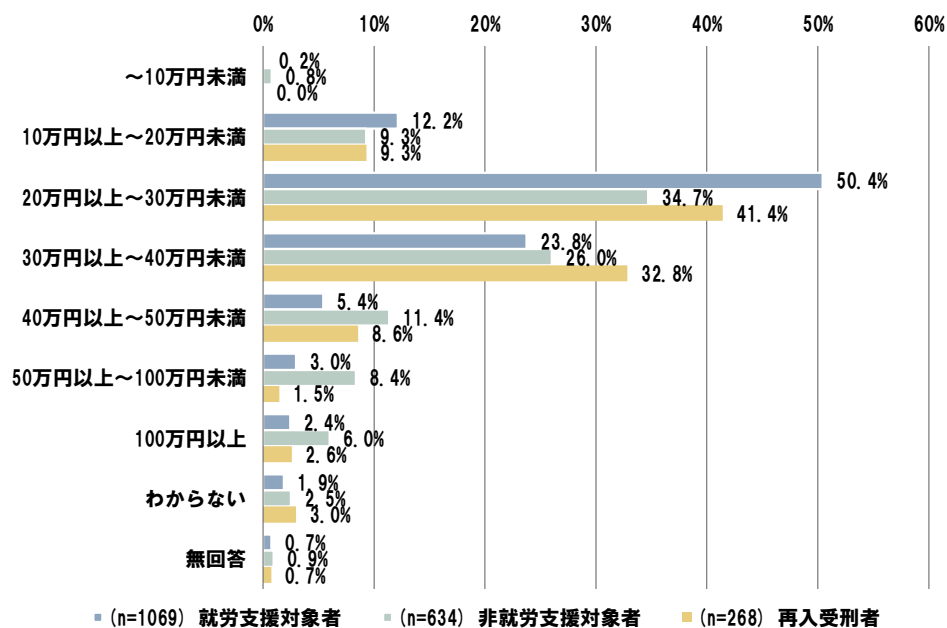
図表 40 出所後、安定した収入の伴う仕事をしたいと思うか
(就労支援対象者票問7、非就労支援対象者票問7、再入受刑者票問19)



⑥ 希望する月収

希望する月収は「20万円以上～30万円未満」の割合が高く、就労支援対象者で50.4%、非就労支援対象者で34.7%、再入受刑者で41.4%だった。

図表 41 希望する月収（複数回答）
(就労支援対象者票問8②、非就労支援対象者票問8②、再入受刑者問21)



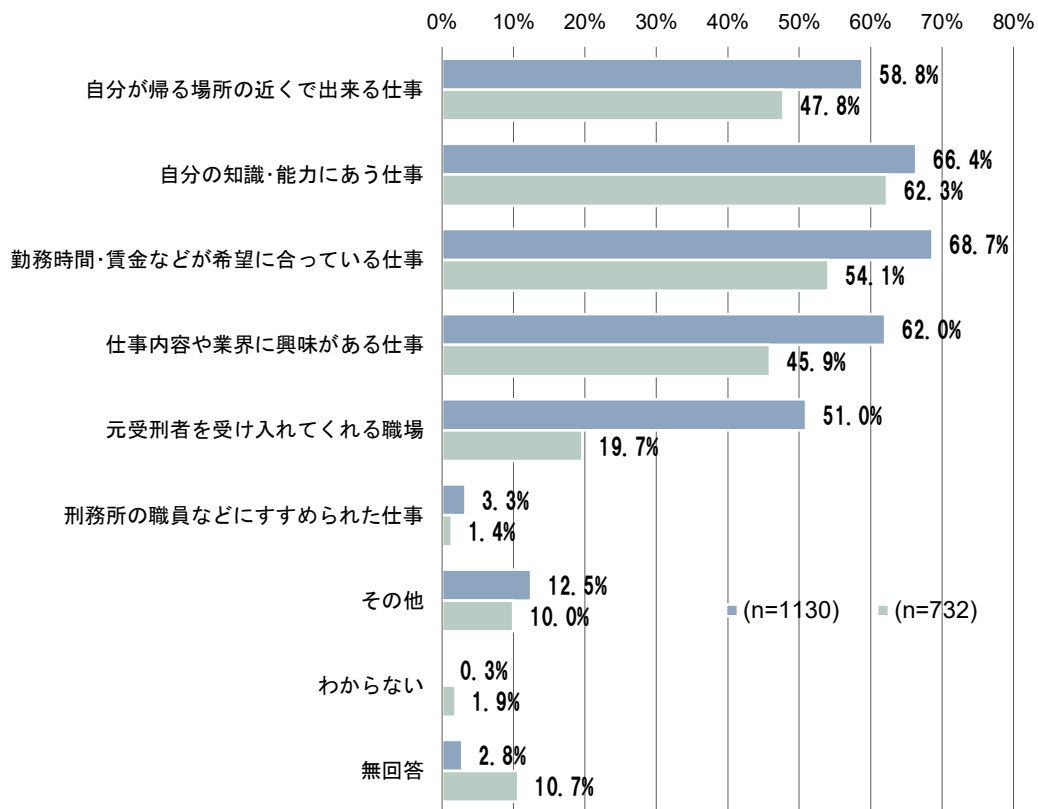
⑦ 仕事を決める時に重視すること

仕事を決める時に重視することは、就労支援対象者では「勤務時間・賃金などが希望になっている仕事」の割合が68.7%と最も高く、次いで「自分の知識・能力にあう仕事」が66.4%、「仕事内容や業界に興味がある仕事」が62.0%だった。

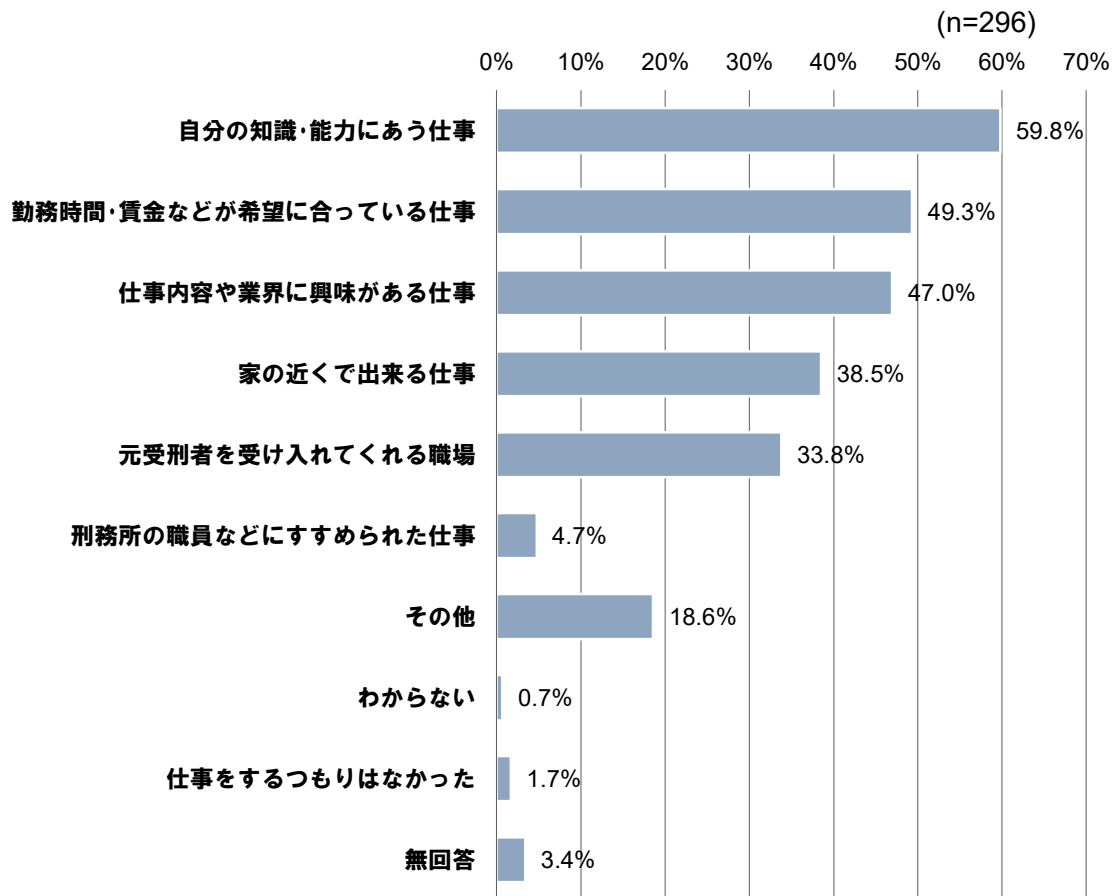
非就労支援対象者では、「自分の知識・能力にあう仕事」が62.8%、「勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事」が54.1%、「自分が帰る場所の近くで出来る仕事」が47.8%だった。

再入受刑者では、「自分の知識・能力にあう仕事」が59.8%、「勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事」が49.3%、「仕事内容や業界に興味がある仕事」が47.0%だった。

図表 42 仕事を決める時に重視すること（複数回答）
（就労支援対象者票問 11、非就労支援対象者票問 12）



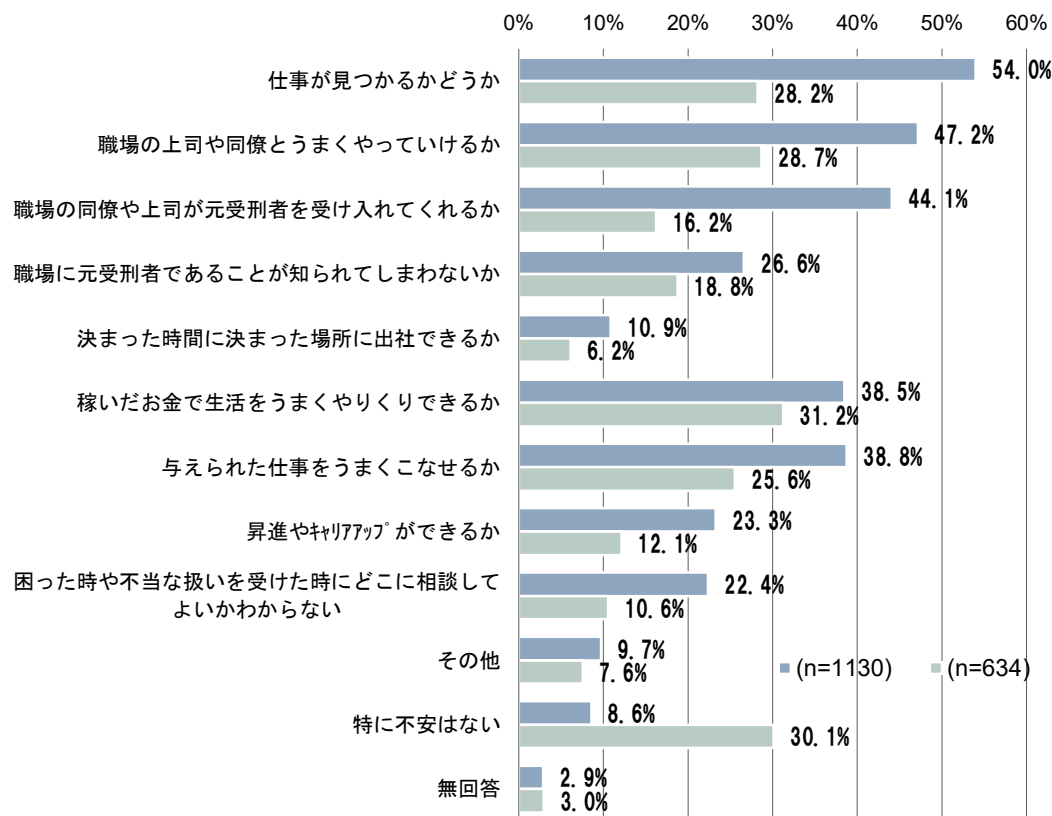
図表 43 前回出所から今回入所までの間で仕事を決める時に重視したこと
 (複数回答) (再入受刑者票問 12)



⑧ 出所後の仕事についての不安

出所後の仕事についての不安は、就労支援対象者では「仕事が見つかるかどうか」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「職場の上司や同僚とうまくやっていけるか」が 47.2%だった。非就労支援対象者では「稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「特に不安はない」が 30.1%だった。

図表 44 出所後の仕事についての不安（複数回答）
 （就労支援対象者票問 12、非就労支援対象者票問 8④）



図表 45 出所後の就労予定の有無別 出所後の仕事についての不安（複数回答）
（就労支援対象者票問 10×問 12）

		合計	Q12 出所後の仕事について不安なこと						
			仕事が見 つかるか どうか	職場の上 司や同僚 とうまく やってい けるか	職場の同 僚や上司 が元受刑 者を受け 入れてく れるか	職場に元 受刑者で あること が知られ てしまわ ないか	決まった 時間に決 まった場 所に出社 できるか	稼いだお 金で生活 をうまく やりくり できるか	与えられ た仕事を うまくこ なせるか
全体		1130 100.0	610 54.0	533 47.2	498 44.1	301 26.6	123 10.9	435 38.5	438 38.8
Q10 出所後の 仕事について	既に決まっている	285 100.0	27 9.5	160 56.1	80 28.1	48 16.8	33 11.6	122 42.8	123 43.2
	まだ決まっていな い	800 100.0	577 72.1	367 45.9	412 51.5	248 31.0	88 11.0	308 38.5	312 39.0
		合計	昇進やキャ リアップが できるか	困った時 や不当な 扱いを受 けた時に どこに相 談してよ いかわか らない	その他	特に不安 無回答 はない			
全体		1130 100.0	263 23.3	253 22.4	110 9.7	97 8.6	33 2.9		
Q10 出所後の 仕事について	既に決まっている	285 100.0	78 27.4	55 19.3	29 10.2	43 15.1	2 0.7		
	まだ決まっていな い	800 100.0	182 22.8	196 24.5	79 9.9	52 6.5	2 0.3		

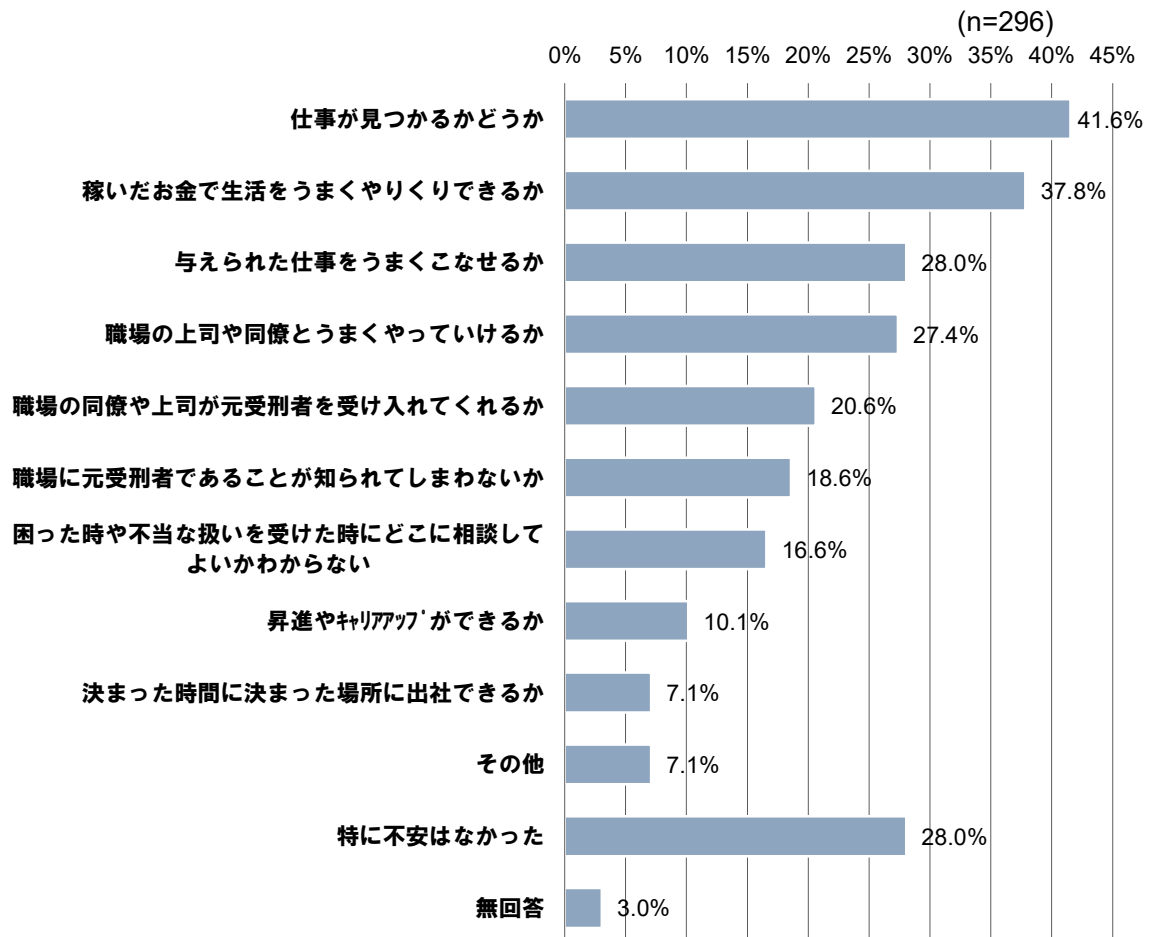
図表 46 出所後の就労予定の有無別 出所後の仕事についての不安（複数回答）

(非就労支援対象者票問 10×問 8④)

		合計	Q8④ 出所後の仕事についての不安						
			仕事が見 つかるか どうか	職場の上 司や同僚 とうまく やってい けるか	職場の同 僚や上司 が元受刑 者を受け 入れてく れるか	職場に元 受刑者で あること が知られ てしまわ ないか	決まった 時間に決 まった場 所に出社 できるか	稼いだお 金で生活 をうまく やりくり できるか	与えられ た仕事を うまくこ なせるか
全体		634 100.0	179 28.2	182 28.7	103 16.2	119 18.8	39 6.2	198 31.2	162 25.6
Q10 出所後の 仕事について	既に決まっている	372 100.0	22 5.9	82 22.0	37 9.9	44 11.8	20 5.4	104 28.0	87 23.4
	まだ決まってい ない	240 100.0	152 63.3	96 40.0	63 26.3	72 30.0	19 7.9	89 37.1	71 29.6
		合計	昇進やキ ャリアッ プができ るか	困った時 や不当な 扱いを受 けた時に どこに相 談してよ いかわか らない	その他	特に不安 はない	無回答	非該当	
全体		634 100.0	77 12.1	67 10.6	48 7.6	191 30.1	19 3.0	98	
Q10 出所後の 仕事について	既に決まっている	372 100.0	43 11.6	22 5.9	32 8.6	153 41.1	7 1.9	23	
	まだ決まってい ない	240 100.0	34 14.2	43 17.9	16 6.7	34 14.2	2 0.8	36	

再入受刑者では「仕事が見つかるかどうか」の割合が41.6%と最も高く、次いで「稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか」が37.8%だった。

図表 47 前回在所中における出所後の仕事についての不安
(複数回答) (再入受刑者票問 13)



(4) 自己肯定感

受刑者の自己肯定感については、ローゼンバーグ自尊感情尺度を用い、選択肢①③④⑦⑩については、「強くそう思う」を4点、「そう思う」を3点、「そう思わない」を2点、「強くそう思わない」を1点、選択肢②⑤⑥⑧⑨については、「強くそう思う」を1点、「そう思う」を2点、「そう思わない」を3点、「強くそう思わない」を4点として点数化した。平均をみると、就労支援対象者より、非就労支援対象者のほうが若干点数が高い傾向がみられる。

図表 48 自己肯定感（就労支援対象者票 問3）

	件数	平均	標準偏差
①私は、自分自身にだいたい満足している	1,082	2.12	0.71
②時々、自分はまったくダメだと思うことがある	1,081	2.17	0.84
③私には、けっこう長所があると感じている	1,081	2.51	0.75
④私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	1,077	2.71	0.78
⑤私には誇れるものが大してないと感じる	1,081	2.43	0.85
⑥時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	1,081	2.58	0.85
⑦自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	1,078	2.52	0.78
⑧自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	1,079	2.07	0.76
⑨よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう	1,082	2.49	0.87
⑩私は、自分のことを前向きに考えている	1,082	2.87	0.83

（注1）件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

（注2） 選択肢①③④⑦⑩については、「強くそう思う」を4点、「そう思う」を3点、「そう思わない」を2点、「強くそう思わない」を1点として点数化した。選択肢②⑤⑥⑧⑨については、「強くそう思う」を1点、「そう思う」を2点、「そう思わない」を3点、「強くそう思わない」を4点として点数化した。

（非就労支援対象者票、再入受刑者票についても同様）

図表 49 自己肯定感（非就労支援対象者票 問3）

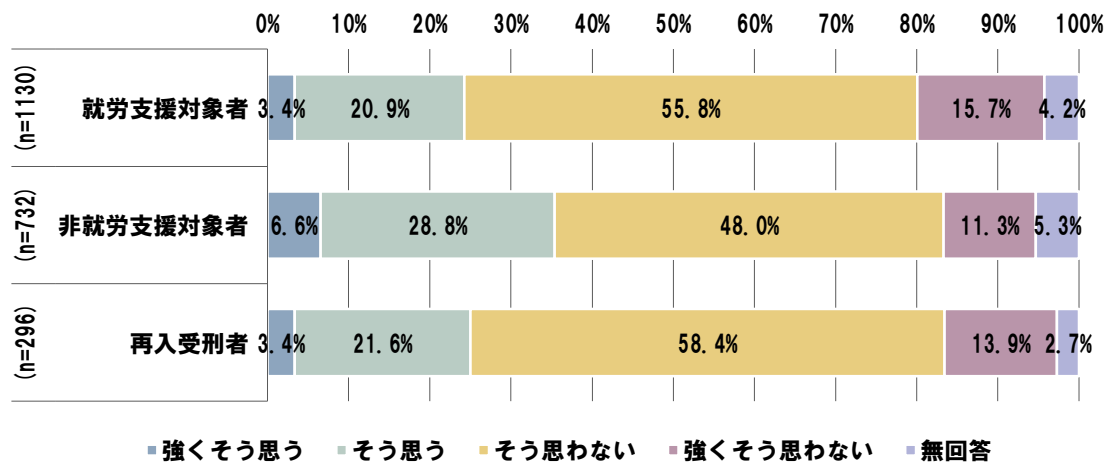
	件数	平均	標準偏差
①私は、自分自身にだいたい満足している	693	2.32	0.77
②時々、自分はまったくダメだと思うことがある	692	2.26	0.83
③私には、けっこう長所があると感じている	687	2.62	0.72
④私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	689	2.79	0.75
⑤私には誇れるものが大してないと感じる	688	2.62	0.78
⑥時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	690	2.65	0.81
⑦自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	686	2.60	0.73
⑧自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	688	2.17	0.78
⑨よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう	689	2.64	0.85
⑩私は、自分のことを前向きに考えている	688	2.93	0.79

図表 50 自己肯定感（再入受刑者票 問 17）

	件数	平均	標準偏差
①私は、自分自身にだいたい満足している	288	2.15	0.69
②時々、自分はまったくダメだと思うことがある	289	2.16	0.76
③私には、けっこう長所があると感じている	288	2.51	0.65
④私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	288	2.68	0.74
⑤私には誇れるものが大してないと感じる	287	2.37	0.74
⑥時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	287	2.63	0.77
⑦自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	287	2.48	0.71
⑧自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	287	2.08	0.77
⑨よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう	287	2.49	0.83
⑩私は、自分のことを前向きに考えている	287	2.73	0.82

(参考：各項目の分布)

<私は、自分自身にだいたい満足している>



(就労支援対象者：職員による評価別)

	合計	Q3① 自分の考え：私は、自分自身にだいたい満足している					
		強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答	
全体	1130 100.0	38 3.4	236 20.9	631 55.8	177 15.7	48 4.2	
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	30 3.4	185 20.8	512 57.7	137 15.4	24 2.7
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88 100.0	6 6.8	24 27.3	36 40.9	20 22.7	2 2.3
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87 100.0	1 1.1	18 20.7	51 58.6	14 16.1	3 3.4

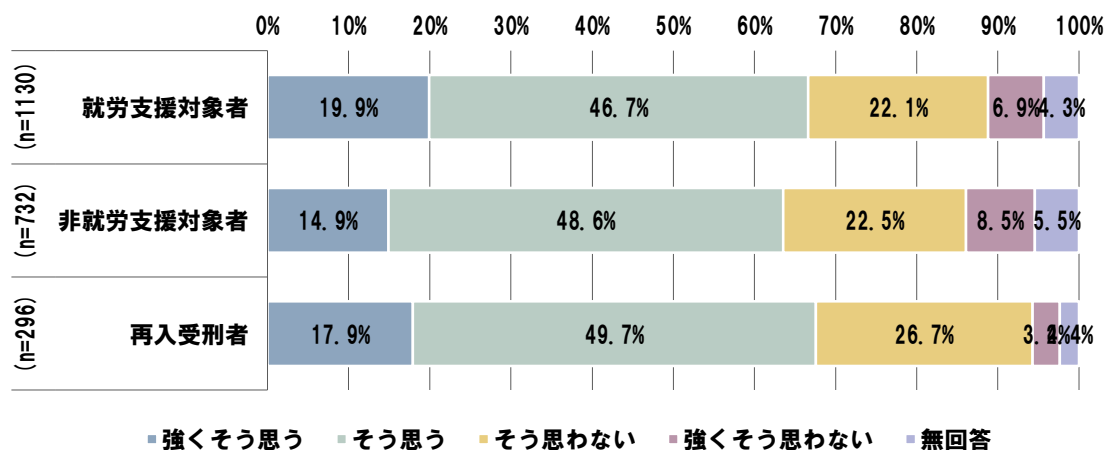
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

	合計	Q3① 自分の考え：私は、自分自身にだいたい満足している					
		強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答	
全体	732 100.0	48 6.6	211 28.8	351 48.0	83 11.3	39 5.3	
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	26 6.6	128 32.4	194 49.1	37 9.4	10 2.5
	まだ決まっていない	276 100.0	20 7.2	70 25.4	141 51.1	41 14.9	4 1.4

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17① 自分の考え：私は、自分自身にだいたい満足している				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	10 3.4	64 21.6	173 58.4	41 13.9	8 2.7
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	2 2.0	23 23.0	63 63.0	11 11.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	3 3.1	19 19.4	63 64.3	9 9.2	4 4.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	5 5.1	22 22.4	47 48.0	21 21.4	3 3.1

<時々、自分はまったくダメだと思うことがある>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3② 自分の考え：時々、自分はまったくダメだと思うことがある				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		1130 100.0	225 19.9	528 46.7	250 22.1	78 6.9	49 4.3
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	172 19.4	424 47.7	205 23.1	63 7.1	24 2.7
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88 100.0	24 27.3	38 43.2	15 17.0	9 10.2	2 2.3
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87 100.0	22 25.3	39 44.8	17 19.5	5 5.7	4 4.6

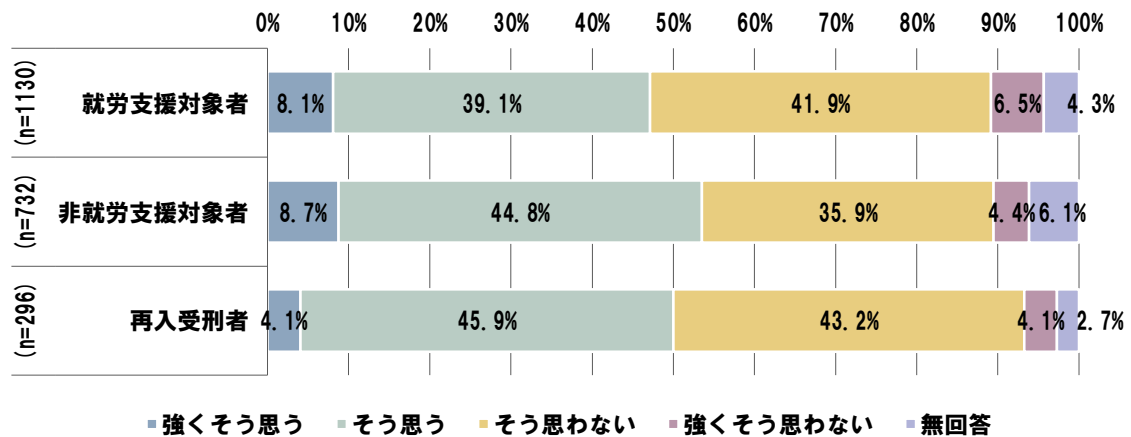
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3② 自分の考え：時々、自分はまったくダメだと思ふことがある				
			強くそう 思ふ	そう思ふ	そう思わ ない	強くそう 思わない	無回答
全体		732 100.0	109 14.9	356 48.6	165 22.5	62 8.5	40 5.5
Q10 出所後の 仕事について	既に決まっている	395 100.0	52 13.2	196 49.6	95 24.1	41 10.4	11 2.8
	まだ決まっていな い	276 100.0	51 18.5	140 50.7	62 22.5	19 6.9	4 1.4

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17② 自分の考え：時々、自分はまったくダメだと思ふことがある				
			強くそう 思ふ	そう思ふ	そう思わ ない	強くそう 思わない	無回答
全体		296 100.0	53 17.9	147 49.7	79 26.7	10 3.4	7 2.4
再入受刑者タ イプ	保護観察終了時及び 再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	17 17.0	53 53.0	27 27.0	2 2.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、 再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	14 14.3	49 50.0	28 28.6	4 4.1	3 3.1
	保護観察終了時及び 再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	22 22.4	45 45.9	24 24.5	4 4.1	3 3.1

<私には、結構長所があると感じている>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3③ 自分の考え：私には、けっこう長所がある と感じている				
			強くそう 思う	そう思う	そう思わ ない	強くそう 思わない	無回答
全体		1130 100.0	91 8.1	442 39.1	474 41.9	74 6.5	49 4.3
職員による評 価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	74 8.3	357 40.2	374 42.1	59 6.6	24 2.7
	就労意欲が低い・やや低い	88 100.0	11 12.5	32 36.4	37 42.0	6 6.8	2 2.3
	かつ自己評価と現実との間にギャップあり	87 100.0	6 6.9	31 35.6	38 43.7	8 9.2	4 4.6
	かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87 100.0	6 6.9	31 35.6	38 43.7	8 9.2	4 4.6

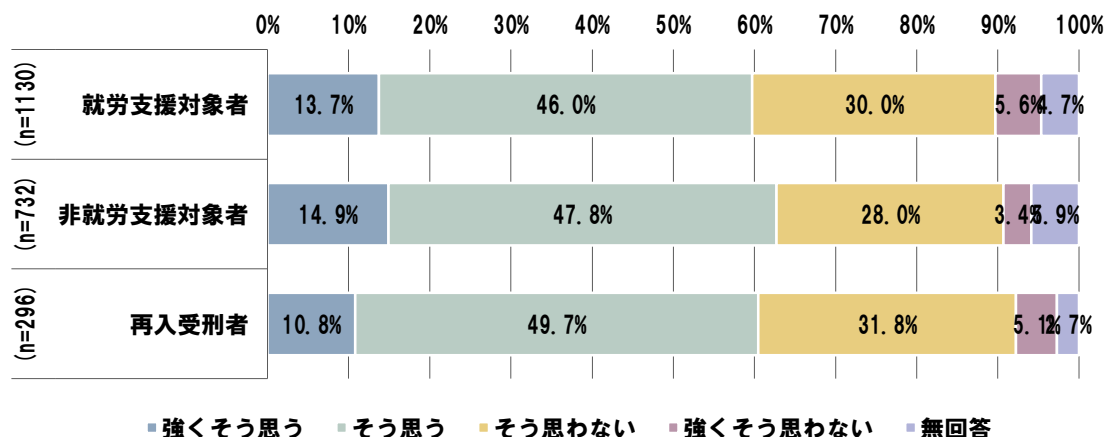
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3③ 自分の考え：私には、けっこう長所がある と感じている				
			強くそう 思う	そう思う	そう思わ ない	強くそう 思わない	無回答
全体		732 100.0	64 8.7	328 44.8	263 35.9	32 4.4	45 6.1
Q10 出所後の 仕事について	既に決まっている	395 100.0	37 9.4	193 48.9	138 34.9	15 3.8	12 3.0
	まだ決まっていな い	276 100.0	23 8.3	123 44.6	110 39.9	12 4.3	8 2.9

(再入者：類型別)

		合計	Q17③ 自分の考え：私には、けっこう長所がある と感じている				
			強くそう 思う	そう思う	そう思わ ない	強くそう 思わない	無回答
全体		296 100.0	12 4.1	136 45.9	128 43.2	12 4.1	8 2.7
再入受刑者タ イプ	保護観察終了時及び 再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	2 2.0	46 46.0	50 50.0	1 1.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、 再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	5 5.1	46 46.9	38 38.8	5 5.1	4 4.1
	保護観察終了時及び 再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	5 5.1	44 44.9	40 40.8	6 6.1	3 3.1
		98 100.0	5 5.1	44 44.9	40 40.8	6 6.1	3 3.1

<私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		1130	155	520	339	63	53
		100.0	13.7	46.0	30.0	5.6	4.7
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888	134	419	263	45	27
		100.0	15.1	47.2	29.6	5.1	3.0
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88	11	40	26	8	3
		100.0	12.5	45.5	29.5	9.1	3.4
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87	7	36	32	8	4
		100.0	8.0	41.4	36.8	9.2	4.6

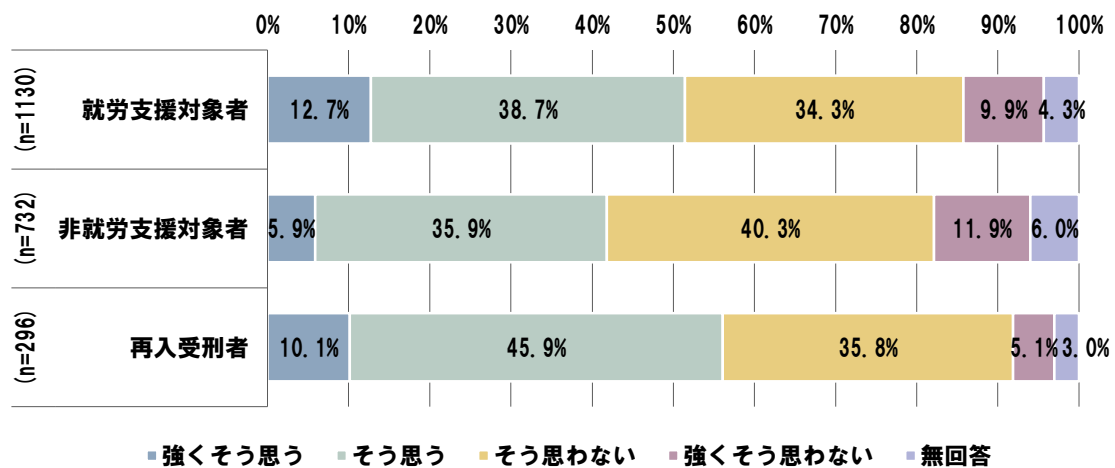
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		732	109	350	205	25	43
		100.0	14.9	47.8	28.0	3.4	5.9
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395	64	202	105	12	12
		100.0	16.2	51.1	26.6	3.0	3.0
	まだ決まっていない	276	38	130	92	10	6
		100.0	13.8	47.1	33.3	3.6	2.2

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	32 10.8	147 49.7	94 31.8	15 5.1	8 2.7
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	6 6.0	56 56.0	34 34.0	3 3.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	15 15.3	47 48.0	24 24.5	8 8.2	4 4.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	11 11.2	44 44.9	36 36.7	4 4.1	3 3.1

<私には誇れるものが大してないと感じる>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3⑤ 自分の考え:私には誇れるものが大してないと感じる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		1130 100.0	144 12.7	437 38.7	388 34.3	112 9.9	49 4.3
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	116 13.1	347 39.1	311 35.0	90 10.1	24 2.7
	就労意欲が低い・やや低い	88 100.0	16 18.2	30 34.1	28 31.8	11 12.5	3 3.4
	かつ自己評価と現実との間にギャップあり	87 100.0	9 10.3	42 48.3	27 31.0	5 5.7	4 4.6
	かつ自己評価と現実との間にギャップなし						

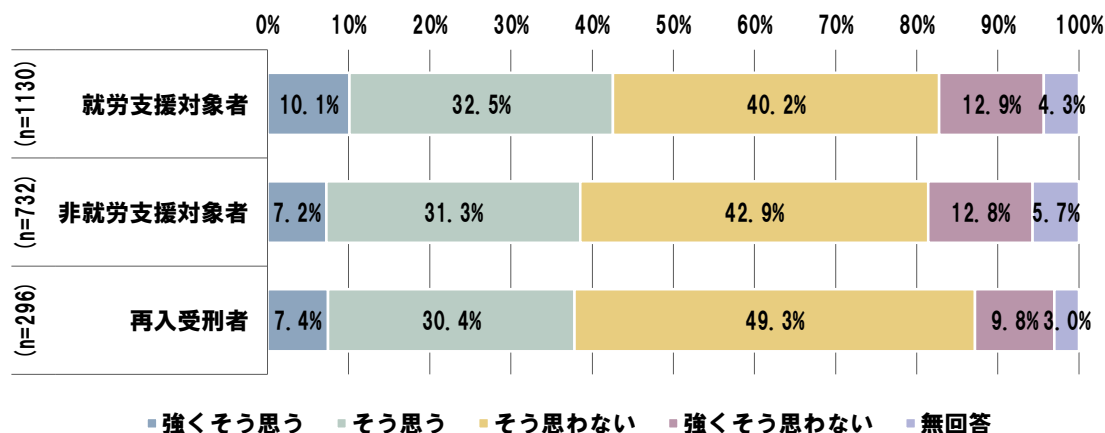
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3⑤ 自分の考え：私には誇れるものが大してないと感じる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		732 100.0	43 5.9	263 35.9	295 40.3	87 11.9	44 6.0
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	18 4.6	116 29.4	193 48.9	55 13.9	13 3.3
	まだ決まっていない	276 100.0	23 8.3	135 48.9	84 30.4	28 10.1	6 2.2

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17⑤ 自分の考え：私には誇れるものが大してないと感じる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	30 10.1	136 45.9	106 35.8	15 5.1	9 3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	7 7.0	51 51.0	40 40.0	1 1.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	9 9.2	41 41.8	37 37.8	6 6.1	5 5.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	14 14.3	44 44.9	29 29.6	8 8.2	3 3.1

<時々、自分は役に立たないと強く感じることもある>



(就労支援対象者：職員による評価別)

	合計	Q3⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある					
		強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答	
全体	1130 100.0	114 10.1	367 32.5	454 40.2	146 12.9	49 4.3	
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	88 9.9	290 32.7	365 41.1	121 13.6	24 2.7
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88 100.0	11 12.5	31 35.2	30 34.1	13 14.8	3 3.4
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87 100.0	12 13.8	26 29.9	36 41.4	9 10.3	4 4.6

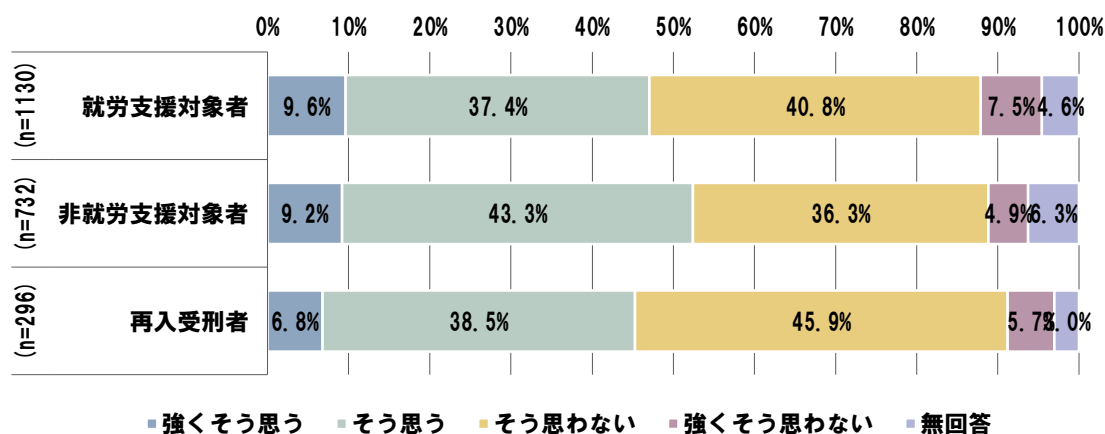
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

	合計	Q3⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある					
		強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答	
全体	732 100.0	53 7.2	229 31.3	314 42.9	94 12.8	42 5.7	
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	21 5.3	107 27.1	192 48.6	62 15.7	13 3.3
	まだ決まっていない	276 100.0	30 10.9	112 40.6	105 38.0	25 9.1	4 1.4

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	22 7.4	90 30.4	146 49.3	29 9.8	9 3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	6 6.0	31 31.0	55 55.0	7 7.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	7 7.1	22 22.4	48 49.0	16 16.3	5 5.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	9 9.2	37 37.8	43 43.9	6 6.1	3 3.1

<自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3⑦ 自分の考え:自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		1130 100.0	109 9.6	423 37.4	461 40.8	85 7.5	52 4.6
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	88 9.9	342 38.5	365 41.1	68 7.7	25 2.8
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88 100.0	11 12.5	29 33.0	35 39.8	9 10.2	4 4.5
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87 100.0	7 8.0	29 33.3	42 48.3	5 5.7	4 4.6

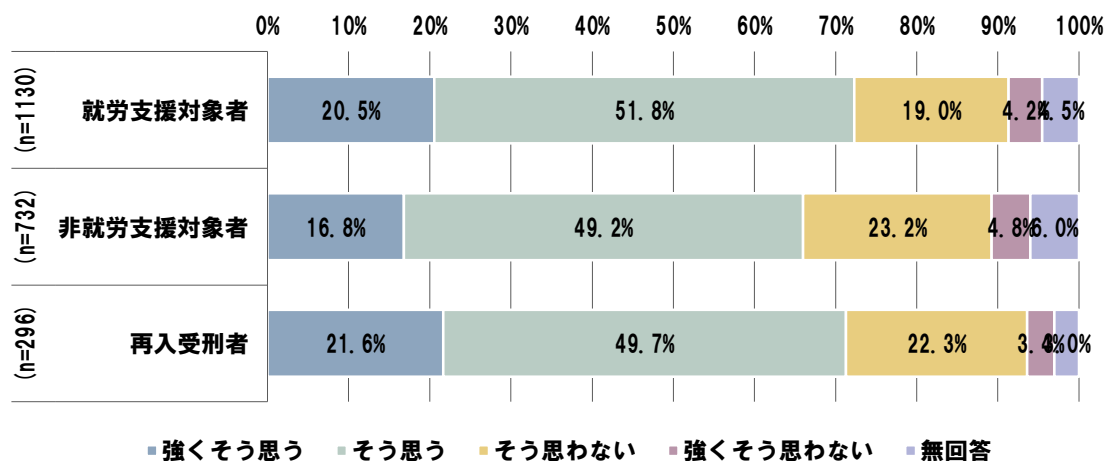
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3⑦ 自分の考え：自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		732 100.0	67 9.2	317 43.3	266 36.3	36 4.9	46 6.3
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	40 10.1	183 46.3	144 36.5	14 3.5	14 3.5
	まだ決まっていない	276 100.0	25 9.1	109 39.5	115 41.7	20 7.2	7 2.5

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17⑦ 自分の考え：自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	20 6.8	114 38.5	136 45.9	17 5.7	9 3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	5 5.0	43 43.0	46 46.0	5 5.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	6 6.1	36 36.7	44 44.9	7 7.1	5 5.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	9 9.2	35 35.7	46 46.9	5 5.1	3 3.1

<自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3⑧ 自分の考え：自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		1130 100.0	232 20.5	585 51.8	215 19.0	47 4.2	51 4.5
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	181 20.4	469 52.8	176 19.8	36 4.1	26 2.9
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88 100.0	17 19.3	47 53.4	14 15.9	8 9.1	2 2.3
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップなし	87 100.0	24 27.6	45 51.7	12 13.8	2 2.3	4 4.6

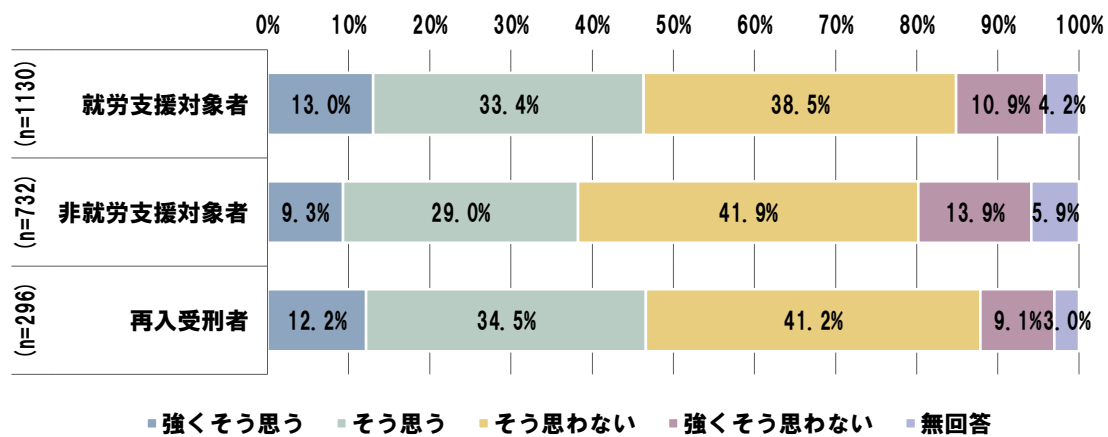
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3⑧ 自分の考え：自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		732 100.0	123 16.8	360 49.2	170 23.2	35 4.8	44 6.0
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	64 16.2	202 51.1	94 23.8	21 5.3	14 3.5
	まだ決まっていない	276 100.0	54 19.6	139 50.4	67 24.3	11 4.0	5 1.8

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17⑧ 自分の考え：自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	64 21.6	147 49.7	66 22.3	10 3.4	9 3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	22 22.0	51 51.0	22 22.0	4 4.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	20 20.4	47 48.0	23 23.5	3 3.1	5 5.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	22 22.4	49 50.0	21 21.4	3 3.1	3 3.1

<よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう>



(就労支援対象者：職員による評価別)

	合計	Q3⑨ 自分の考え:よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう					
		強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答	
全体	1130	147	377	435	123	48	
	100.0	13.0	33.4	38.5	10.9	4.2	
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888	122	280	361	101	24
		100.0	13.7	31.5	40.7	11.4	2.7
	就労意欲が低い・やや低い かつ自己評価と現実との間にギャップあり	88	14	32	29	11	2
		100.0	15.9	36.4	33.0	12.5	2.3
	87	8	42	27	6	4	
	100.0	9.2	48.3	31.0	6.9	4.6	

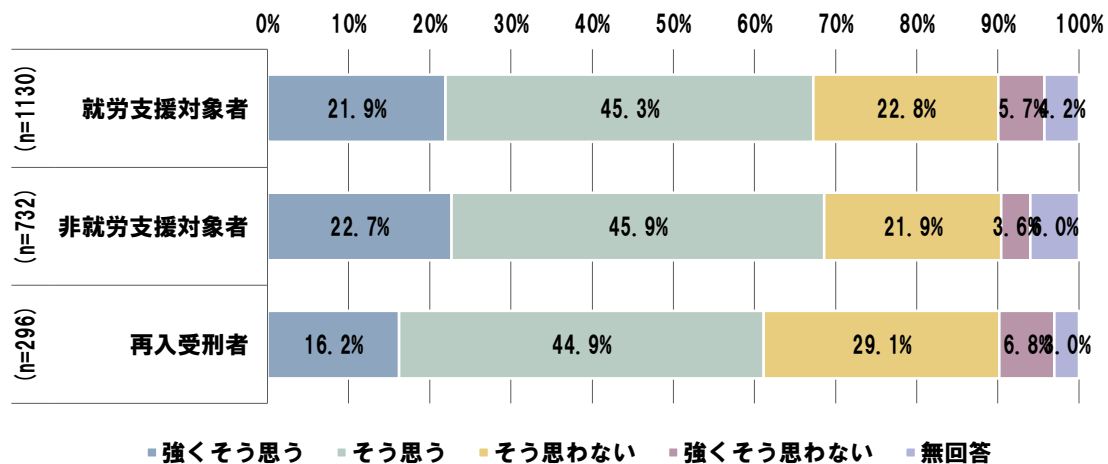
(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

	合計	Q3⑨ 自分の考え:よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう					
		強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答	
全体	732	68	212	307	102	43	
	100.0	9.3	29.0	41.9	13.9	5.9	
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395	33	104	181	64	13
		100.0	8.4	26.3	45.8	16.2	3.3
	276	31	99	110	31	5	
	100.0	11.2	35.9	39.9	11.2	1.8	

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17⑨ 自分の考え：よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	36 12.2	102 34.5	122 41.2	27 9.1	9 3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	9 9.0	36 36.0	48 48.0	6 6.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	11 11.2	31 31.6	39 39.8	12 12.2	5 5.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	16 16.3	35 35.7	35 35.7	9 9.2	3 3.1

<私は、自分のことを前向きに考えている>



(就労支援対象者：職員による評価別)

		合計	Q3⑩ 自分の考え：私は、自分のことを前向きに考えている				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		1130 100.0	248 21.9	512 45.3	258 22.8	64 5.7	48 4.2
職員による評価	就労意欲が高い・やや高い	888 100.0	204 23.0	405 45.6	210 23.6	45 5.1	24 2.7
	就労意欲が低い・やや低い	88 100.0	17 19.3	42 47.7	16 18.2	11 12.5	2 2.3
	かつ自己評価と現実との間にギャップあり	87 100.0	13 14.9	40 46.0	23 26.4	7 8.0	4 4.6
	かつ自己評価と現実との間にギャップなし						

(非就労支援対象者：出所後の就労予定の有無別)

		合計	Q3⑩ 自分の考え：私は、自分のことを前向きに考えている				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		732 100.0	166 22.7	336 45.9	160 21.9	26 3.6	44 6.0
Q10 出所後の仕事について	既に決まっている	395 100.0	108 27.3	189 47.8	72 18.2	13 3.3	13 3.3
	まだ決まっていない	276 100.0	49 17.8	129 46.7	79 28.6	13 4.7	6 2.2

(再入受刑者：類型別)

		合計	Q17⑩ 自分の考え：私は、自分のことを前向きに考えている				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296 100.0	48 16.2	133 44.9	86 29.1	20 6.8	9 3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100 100.0	18 18.0	54 54.0	22 22.0	5 5.0	1 1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98 100.0	18 18.4	36 36.7	30 30.6	9 9.2	5 5.1
	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98 100.0	12 12.2	43 43.9	34 34.7	6 6.1	3 3.1

(5) 仕事についての考え

仕事についての考えについては、内閣府「生活状況に関する調査（平成 30 年度）（本人票）」（以下「内閣府調査」という。）と同じ項目を用い、「はい」を 4 点、「どちらかといえばはい」を 3 点、「どちらかといえばいいえ」を 2 点、「いいえ」を 1 点として点数化した。

（ただし、「⑤嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をする事ができる」を除く。）

内閣府調査の平均と比べると「①自分にふさわしい仕事があると思う」、「②まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う」は受刑者（就労支援対象者、非就労支援対象者、再入受刑者）のほうが点数が高く、「③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」、「④定職につかない方が自由でいいと思う」は点数が低い傾向がみられる。

図表 51 仕事についての考え（就労支援対象者票 問 13）

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3, 201、無回答を含む)
①自分にふさわしい仕事があると思う	1, 098	3. 65	0. 62	2. 92
②まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	1, 099	2. 96	1. 07	2. 29
③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1, 098	2. 05	1. 16	2. 43
④定職に就かない方が自由でいいと思う	1, 097	1. 68	0. 94	1. 76

（注 1）件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

（注 2）内閣府調査に倣い、「はい」を 4 点、「どちらかといえばはい」を 3 点、「どちらかといえばいいえ」を 2 点、「いいえ」を 1 点として点数化した。

（注 3）「内閣府調査平均」は、広義のひきこもり群以外の数字を掲載している。

（非就労支援対象者票、再入受刑者票も同様）

図表 52 仕事についての考え（非就労支援対象者票 問 13）

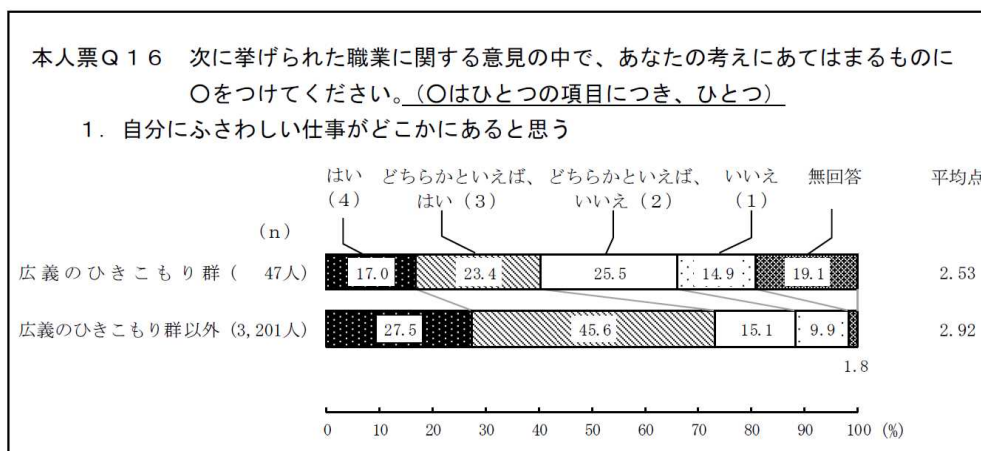
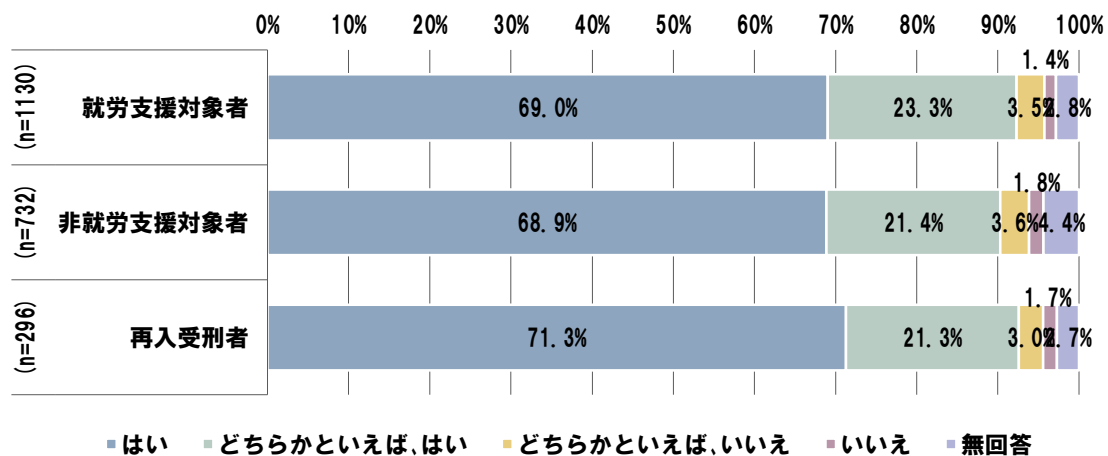
	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3, 201、無回答を含む)
①自分にふさわしい仕事があると思う	700	3. 65	0. 64	2. 92
②まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	694	2. 76	1. 10	2. 29
③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	694	2. 29	1. 20	2. 43
④定職に就かない方が自由でいいと思う	696	1. 86	1. 04	1. 76

図表 53 仕事についての考え（再入受刑者票 問 25）

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3,201、無回答を含む)
①自分にふさわしい仕事があると思う	288	3.71	0.52	2.92
②まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	286	2.97	1.07	2.29
③仕事をしなくても生活できるのなら、仕事はしたくない	287	2.23	1.24	2.43
④定職に就かない方が自由でいいと思う	296	1.77	1.01	1.76

(参考：各項目の分布)

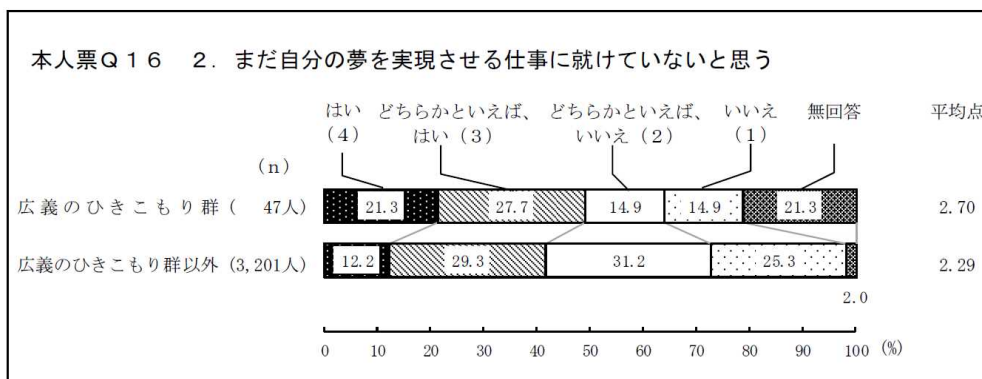
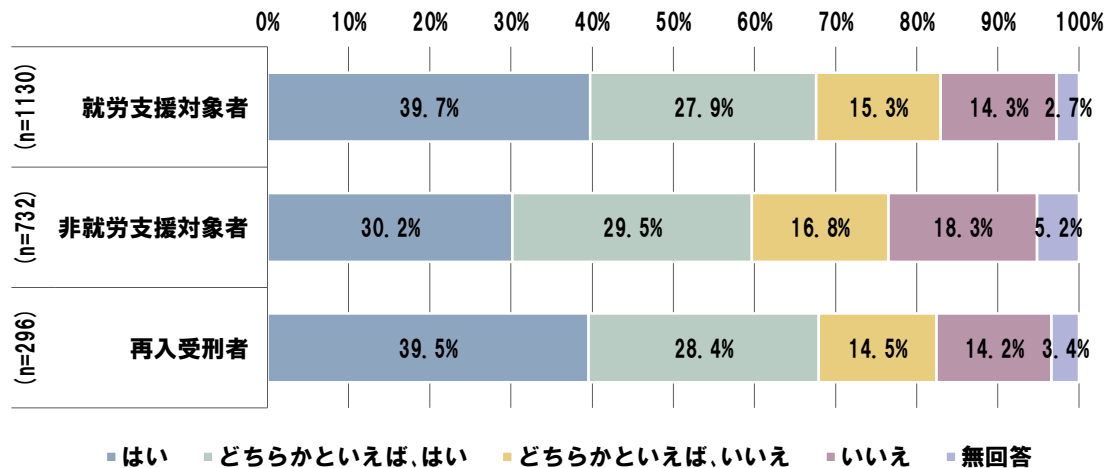
<自分にふさわしい仕事があると思う>



		合計	Q17⑩ 自分の考え:私は、自分のことを前向きに考えている				
			強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない	無回答
全体		296	48	133	86	20	9
		100.0	16.2	44.9	29.1	6.8	3.0
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に就労 (A)	100	18	54	22	5	1
		100.0	18.0	54.0	22.0	5.0	1.0
	保護観察終了時就労、再入所犯罪時不就労 (B)	98	18	36	30	9	5
		100.0	18.4	36.7	30.6	9.2	5.1
再入受刑者タイプ	保護観察終了時及び再入所犯罪時に不就労 (C)	98	12	43	34	6	3
		100.0	12.2	43.9	34.7	6.1	3.1

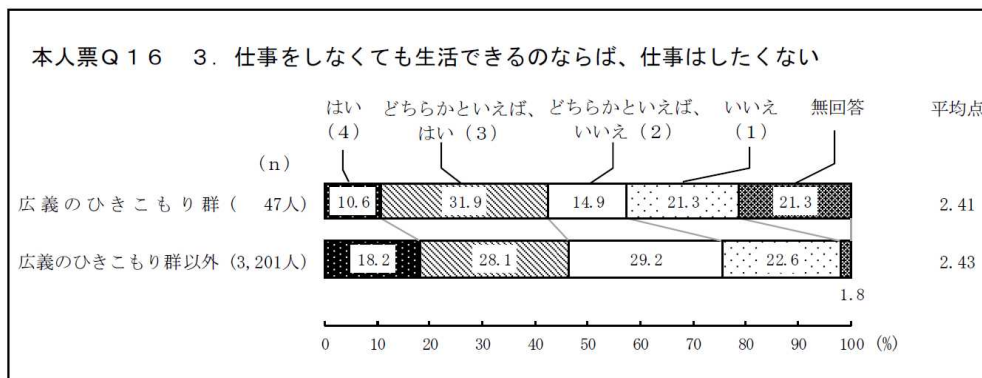
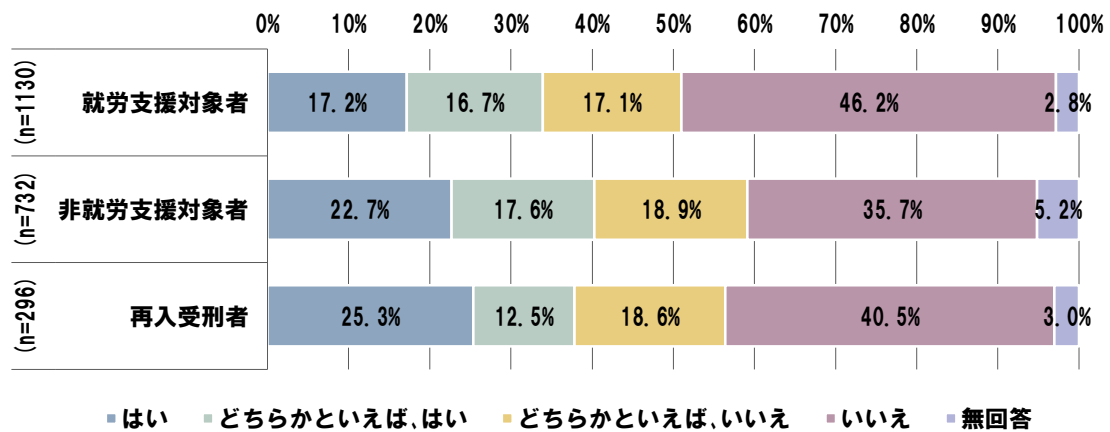
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査 (平成 30 年度) (本人票)」

<まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う>



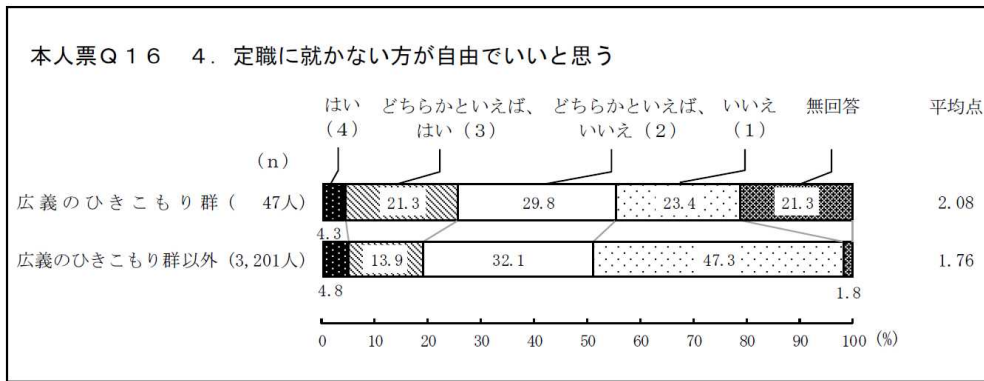
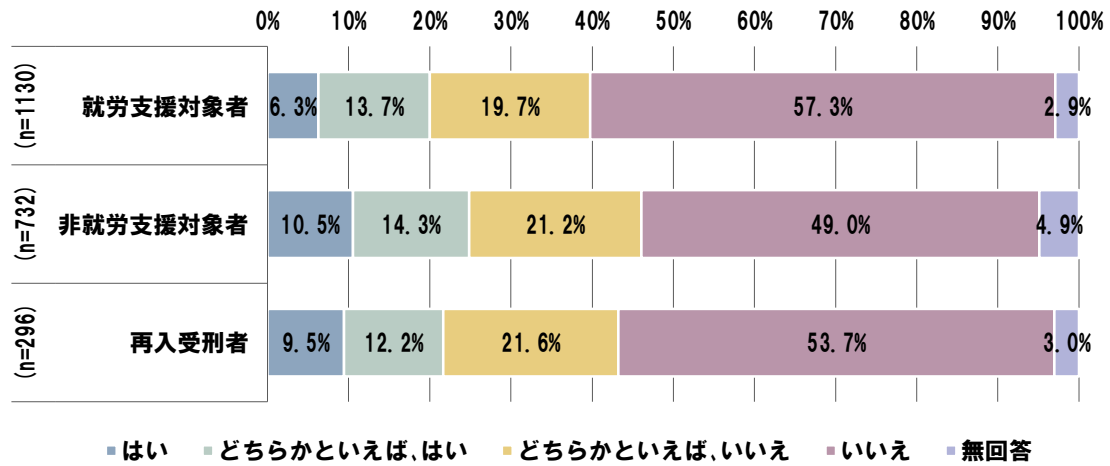
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査 (平成 30 年度) (本人票)」

<仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない>



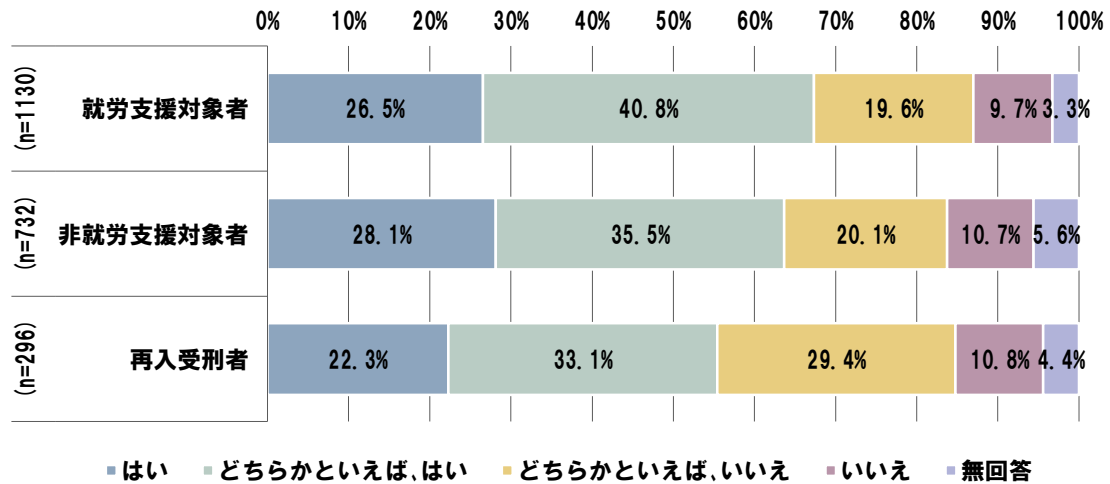
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

<定職に就かない方が自由でいいと思う>



(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

<嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をする事ができる>



(6) 人とのつきあいに関する考え

人とのつきあいに関する考えについては、内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」(以下「内閣府調査」という。)と同じ項目を用い、「はい」を4点、「どちらかといえばはい」を3点、「どちらかといえばいいえ」を2点、「いいえ」を1点として点数化した。

内閣府調査の平均と比べると、「⑤大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ」、「⑥大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ」の項目は受刑者(就労支援対象者、非就労支援対象者、再入受刑者)のほうが点数が低かった。非就労支援対象者では、「⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ」の項目も、内閣府調査の平均より点数が低かった。

図表 54 人とのつきあいに関する考え(就労支援対象者票 問14)

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3,201、無回答を含む)
①自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1,102	2.49	0.98	2.37
②人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	1,100	2.16	1.05	1.77
③周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1,100	2.09	1.05	1.67
④他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	1,099	2.29	1.01	2.10
⑤大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ	1,097	1.79	0.90	1.95
⑥大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1,098	2.05	1.04	2.26
⑦初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1,097	2.88	1.04	2.76
⑧人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1,099	2.39	1.07	2.08
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	1,097	2.35	1.06	2.18
⑩周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1,098	2.12	1.02	1.94

(注1) 件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

(注2) 内閣府調査に倣い、「はい」を4点、「どちらかといえばはい」を3点、「どちらかといえばいいえ」を2点、「いいえ」を1点として点数化した。

(注3) 「内閣府調査平均」は、広義のひきこもり群以外の数字を掲載している。

(非就労支援対象者票、再入受刑者票も同様)

図表 55 人とのつきあいに関する考え（非就労支援対象者票 問 14）

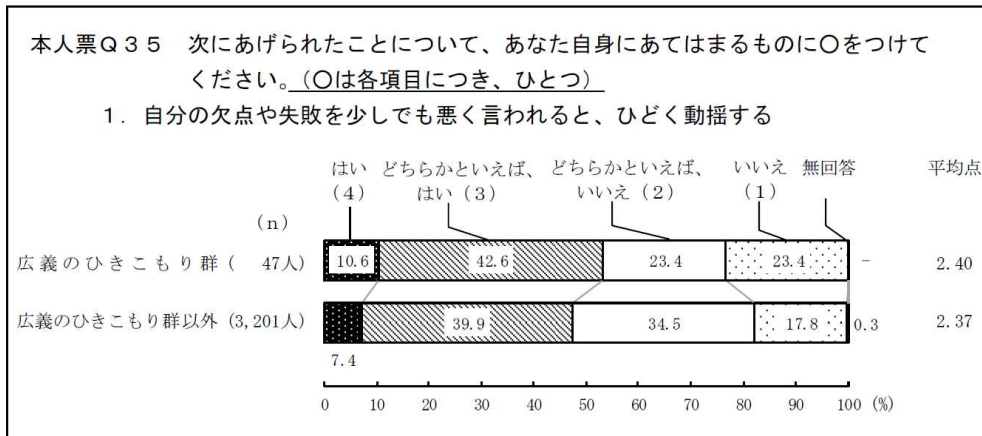
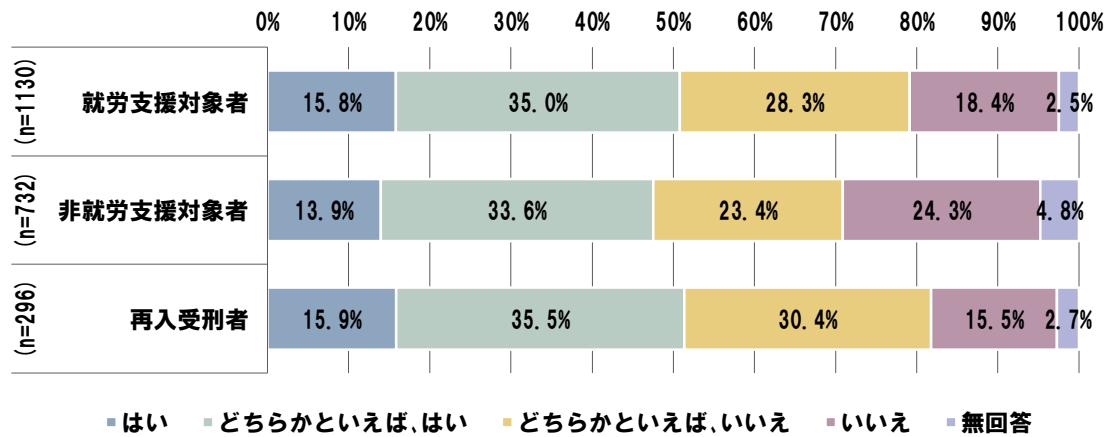
	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3, 201、無回答を含む)
①自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	697	2.39	1.02	2.37
②人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	695	2.08	1.04	1.77
③周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	692	1.99	1.03	1.67
④他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	692	2.27	1.05	2.10
⑤大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ	692	1.77	0.90	1.95
⑥大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	692	2.02	1.03	2.26
⑦初対面の人とすぐに会話できる自信がある	692	2.96	1.04	2.76
⑧人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	694	2.21	1.09	2.08
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	693	2.15	1.05	2.18
⑩周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	693	1.97	1.02	1.94

図表 56 人とのつきあいに関する考え（再入受刑者票 問 26）

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3, 201、無回答を含む)
①自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	288	2.53	0.95	2.37
②人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	287	2.11	0.98	1.77
③周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	288	1.97	0.95	1.67
④他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	287	2.36	0.99	2.10
⑤大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ	286	1.82	0.90	1.95
⑥大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	287	2.05	1.02	2.26
⑦初対面の人とすぐに会話できる自信がある	287	2.93	1.02	2.76
⑧人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	286	2.19	1.03	2.08
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	287	2.20	0.99	2.18
⑩周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	287	1.97	0.97	1.94

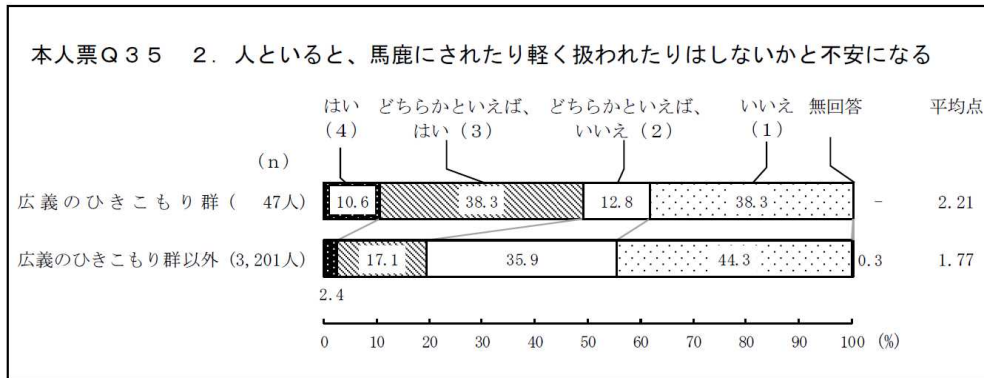
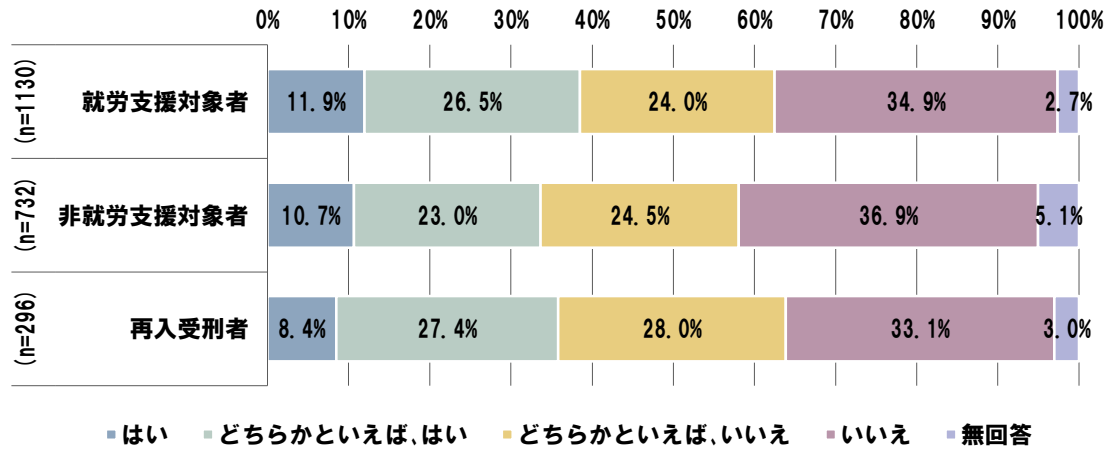
(参考：各項目の分布)

<自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する>



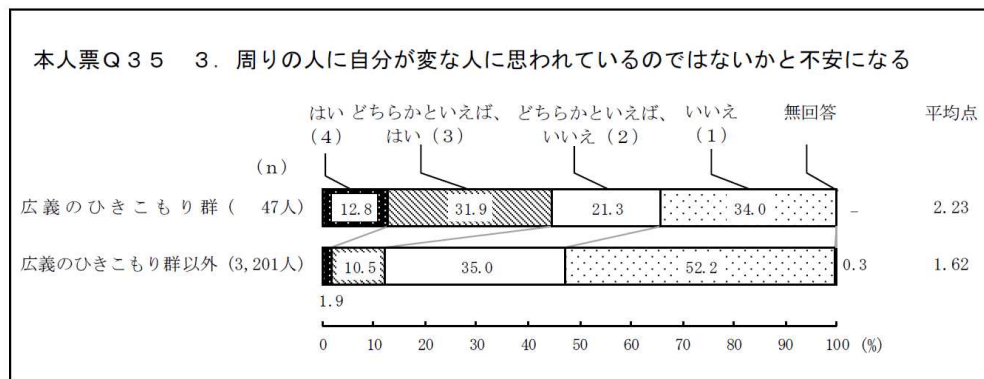
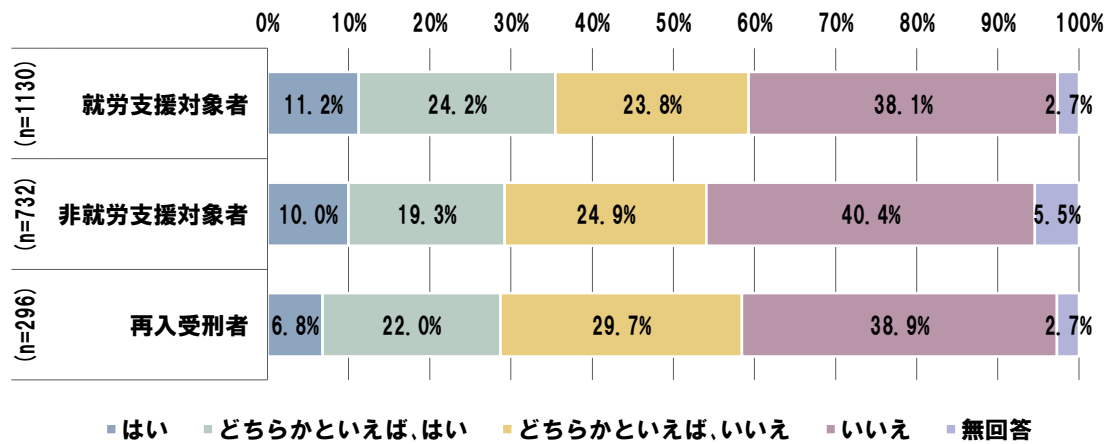
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

<人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる>



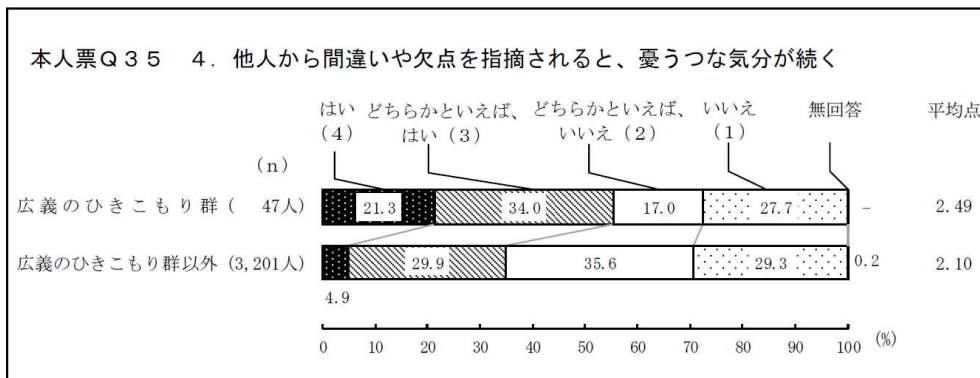
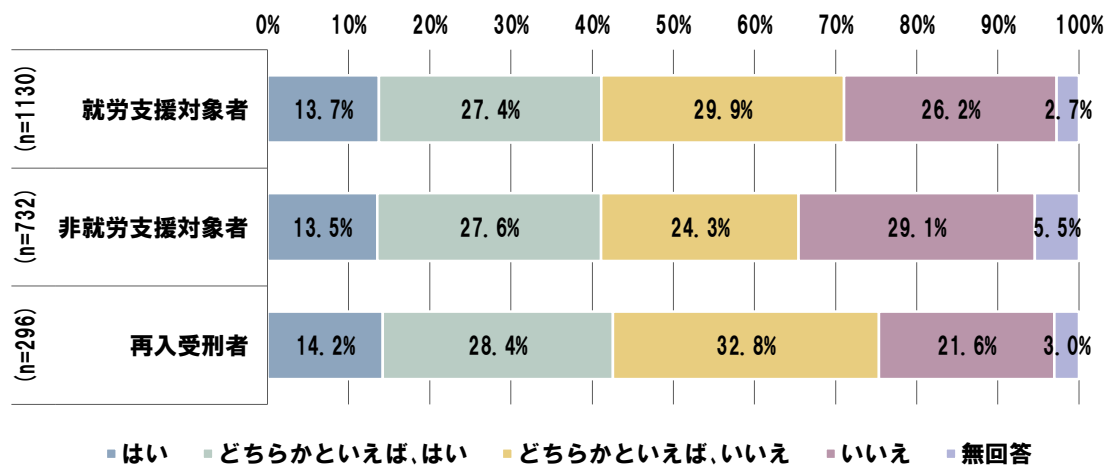
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

＜周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる＞



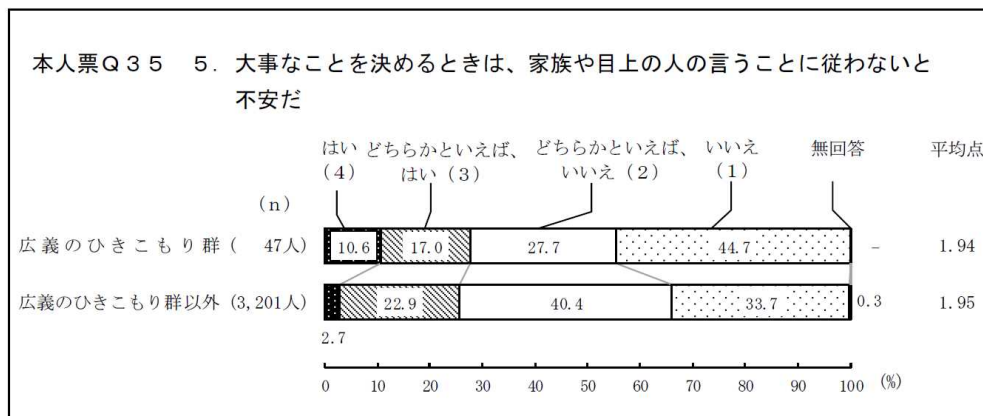
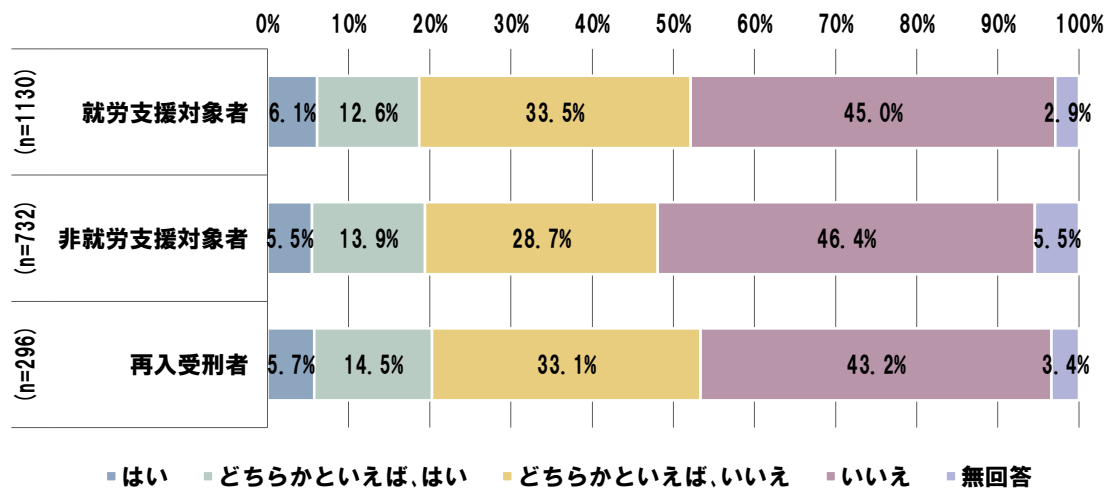
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

＜他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く＞



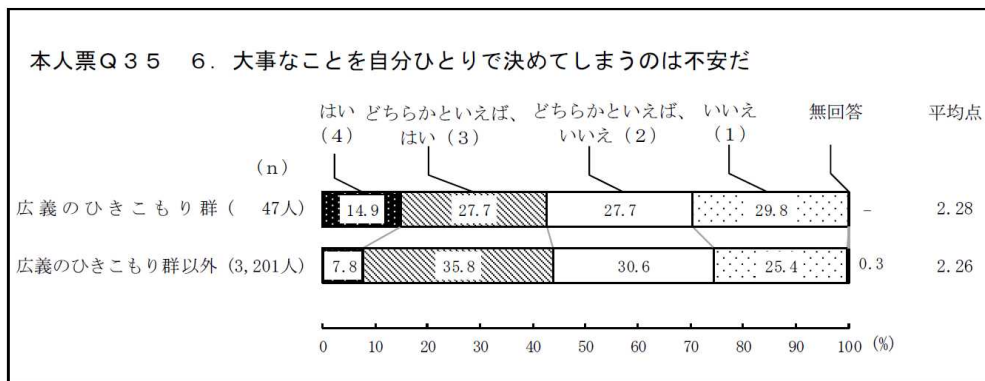
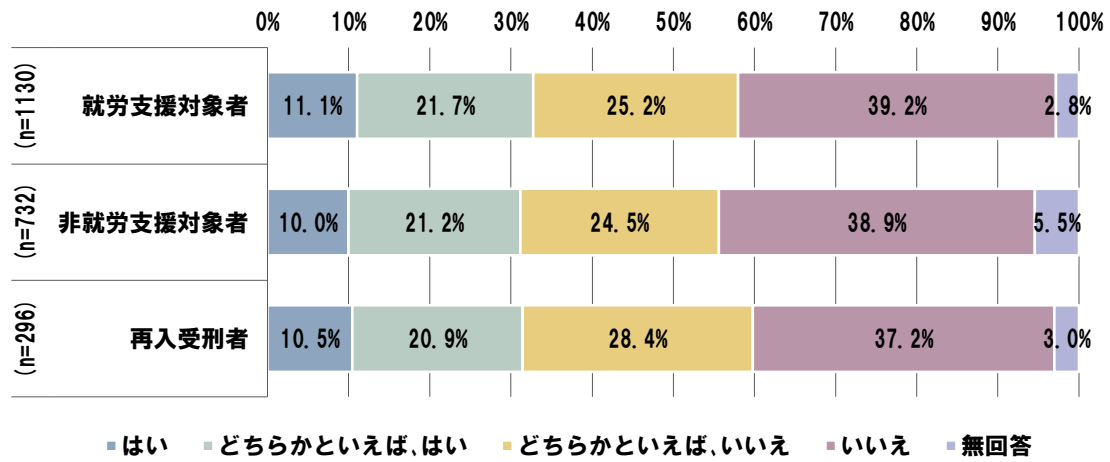
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査（平成30年度）（本人票）」

＜大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ＞



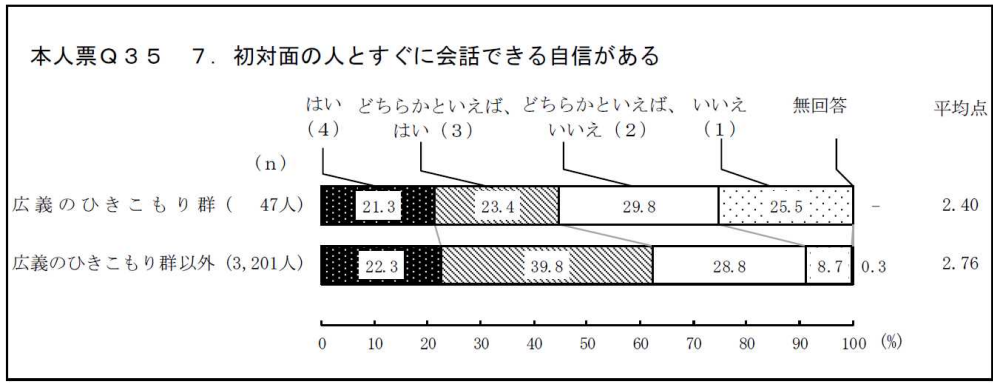
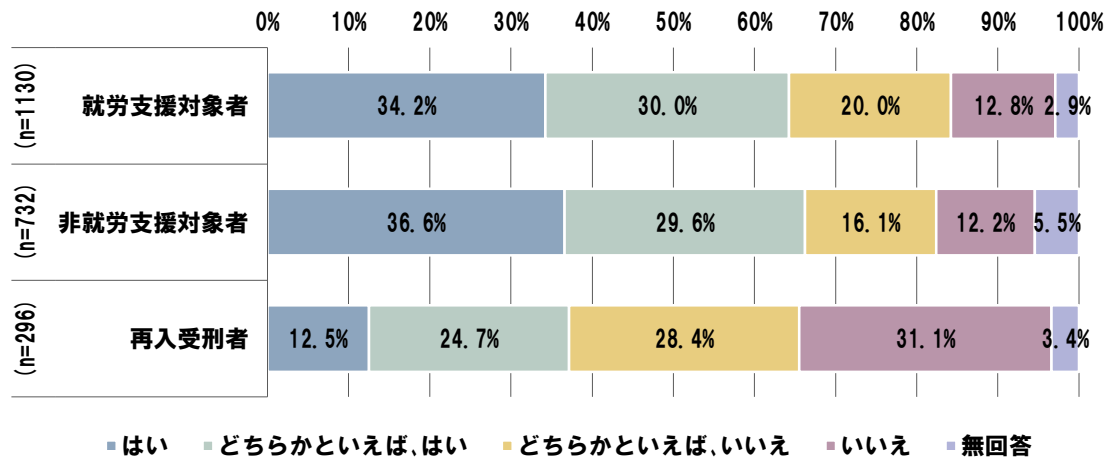
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

<大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ>



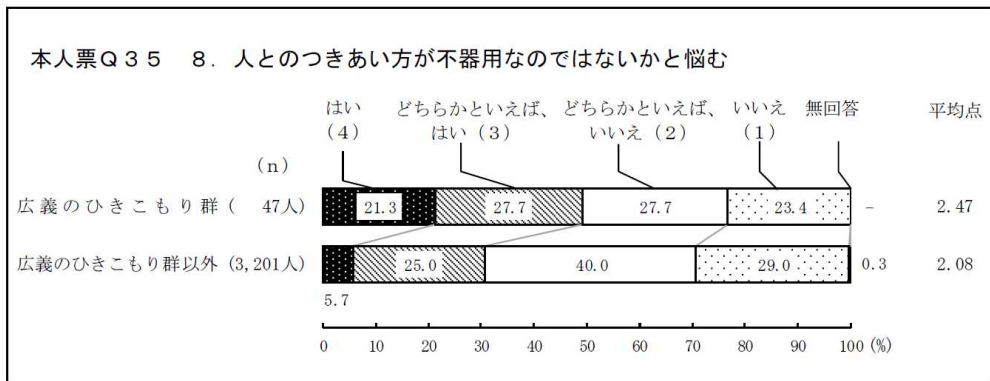
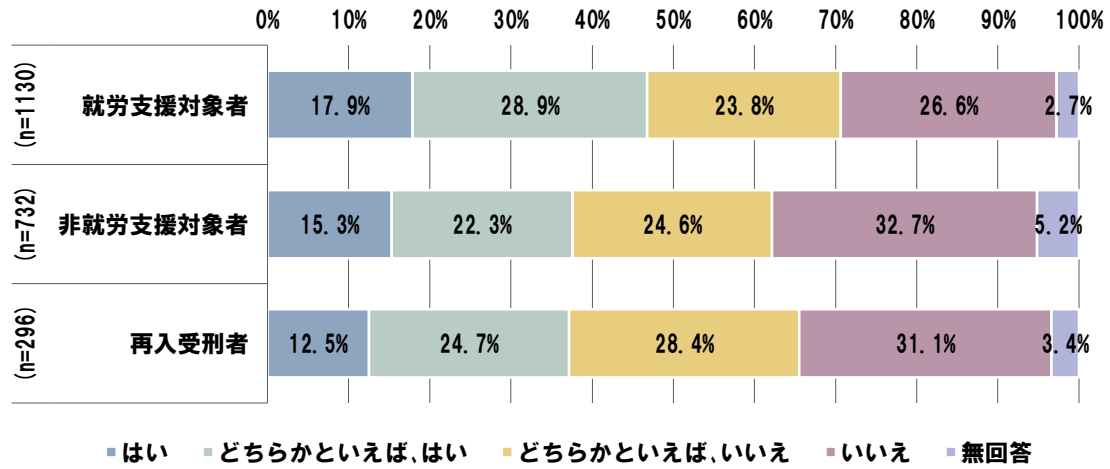
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

＜初対面の人とすぐに会話できる自信がある＞



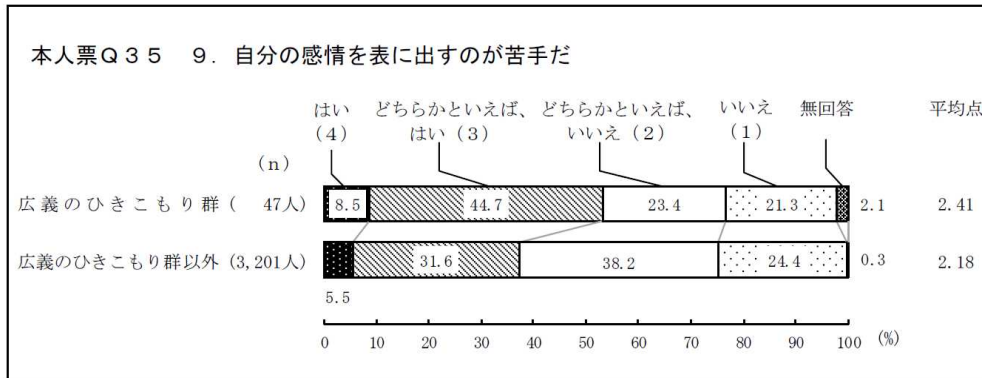
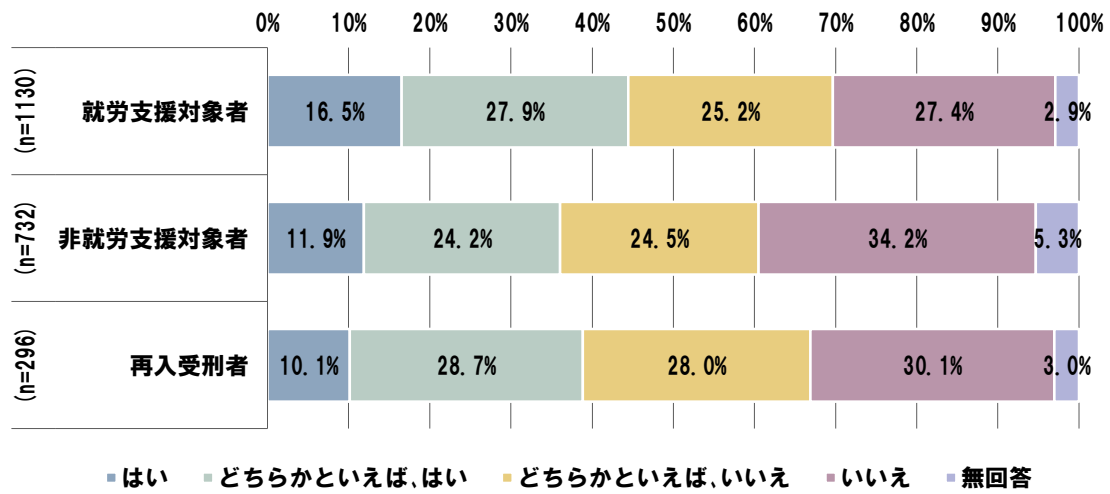
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査 (平成 30 年度) (本人票)」

<人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む>



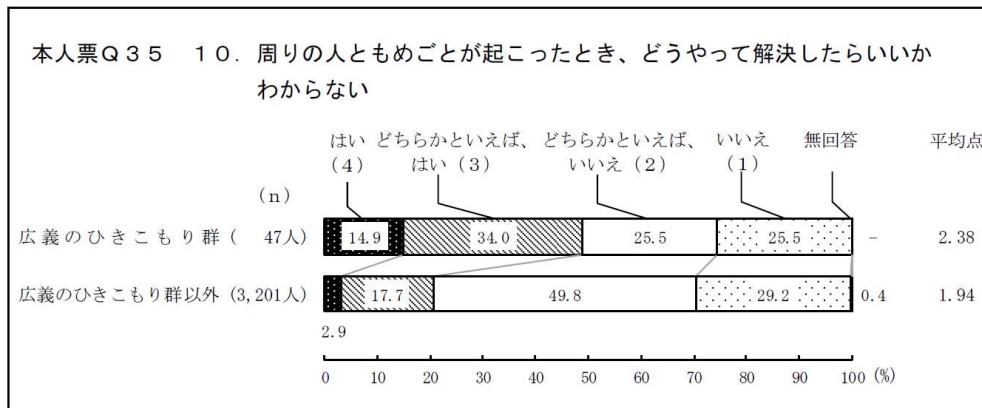
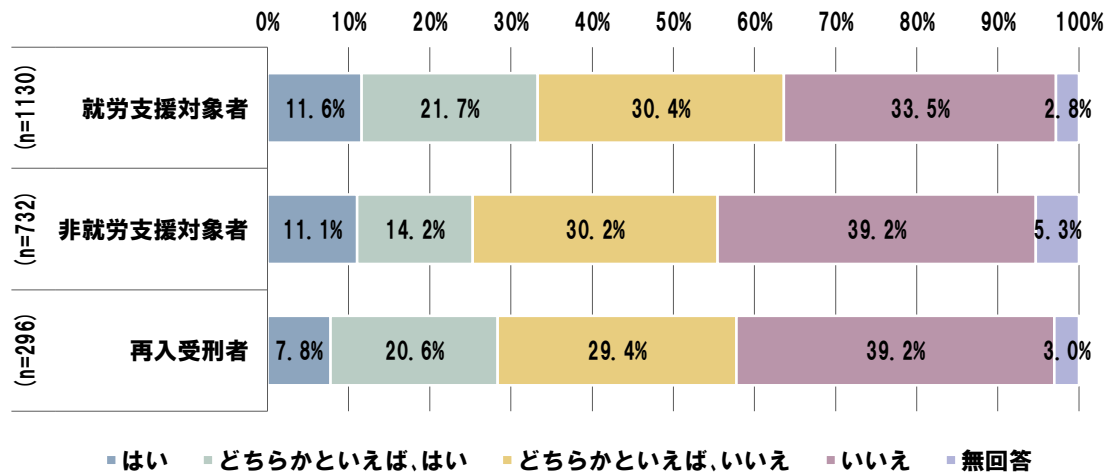
(出典) 内閣府「生活状況に関する調査 (平成 30 年度) (本人票)」

<自分の感情を表に出すのが苦手だ>



(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

<周りの人ともめごとが起こった時、どうやって解決したらいいかわからない>



(出典) 内閣府「生活状況に関する調査(平成30年度)(本人票)」

3. 受刑者調査（就労支援対象者票、非就労支援対象者票）の分析

(1) データ分析の概要

就労指導プログラム及びアセスメントツールの開発方針策定の参考とするため、就労支援対象者票、非就労支援対象者票の問3「自己肯定感」、問6「生活費の把握」、問13「仕事についての考え」、問14「人とのつきあいに関する考え」について、選択肢の妥当性の検討と設問の妥当性の検討を行った。また、就労支援の対象になっているかどうかの要因を探るため、上記の変数を用いて就労支援の対象有無を被説明変数とする分析を行った。

(2) 選択肢の妥当性の検討

アンケートの回答状況について、例えば特定の選択肢に回答が集中する場合、その設問からは有用な情報が得られにくい。また、平均値が選択範囲の上限や下限に近い場合も同様にばらつきが見られないため、アセスメントツールを検討するうえでは有効な選択肢を設定できているとは言い難い。本節では、選択肢の平均が偏っていないか、選択肢の標準偏差が適度にばらついているかを先にあげた記述統計を基に確認した。

図表 57、図表 58 では、自己肯定感に関する問3の各設問の回答結果の平均値、標準偏差を示している。すべての選択肢が4つで1から4の範囲を取っている。「私は、自分自身にだいたい満足している」「時々、自分はまったくダメだと思うことがある」「自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う」の3つに関しては平均値がやや2に近く、「私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる」や「私は、自分のことを前向きにとらえている」は平均値がやや3に近い傾向が見られた。標準偏差は0.726から0.86の範囲に収まっていた。以上から、きわめて偏りのある設問はみられないと判断できる。

図表 57 自己肯定感（就労支援対象者票 問3）※図表 48 再掲

	件数	平均	標準偏差
①私は、自分自身にだいたい満足している	1,082	2.12	0.71
②時々、自分はまったくダメだと思うことがある	1,081	2.17	0.84
③私には、けっこう長所があると感じている	1,081	2.51	0.75
④私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	1,077	2.71	0.78
⑤私には誇れるものが大してないと感じる	1,081	2.43	0.85
⑥時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	1,081	2.58	0.85
⑦自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	1,078	2.52	0.78
⑧自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	1,079	2.07	0.76
⑨よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう	1,082	2.49	0.87
⑩私は、自分のことを前向きに考えている	1,082	2.87	0.83

（注1）件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

（注2）選択肢①③④⑦⑩については、「強くそう思う」を4点、「そう思う」を3点、「そう思わない」を2点、「強くそう思わない」を1点として点数化した。選択肢②⑤⑥⑧⑨については、「強くそう思う」を1点、「そう思う」を2点、「そう思わない」を3点、「強くそう思わない」を4点として点数化した。

（非就労支援対象者票、再入受刑者票についても同様）

図表 58 自己肯定感（非就労支援対象者票 問3）※図表 49 再掲

	件数	平均	標準偏差
①私は、自分自身にだいたい満足している	693	2.32	0.77
②時々、自分はまったくダメだと思うことがある	692	2.26	0.83
③私には、けっこう長所があると感じている	687	2.62	0.72
④私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	689	2.79	0.75
⑤私には誇れるものが大してないと感じる	688	2.62	0.78
⑥時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	690	2.65	0.81
⑦自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	686	2.60	0.73
⑧自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	688	2.17	0.78
⑨よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう	689	2.64	0.85
⑩私は、自分のことを前向きに考えている	688	2.93	0.79

図表 59、図表 60 では、仕事への考えに関する問 13 の各設問の回答結果の最小値と最大値、平均値、標準偏差を示している。受刑者は、5つの設問について1から4の選択肢で回答する。「自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う」については、平均が3.6とやや「いいえ」の多さを示唆しており、選択肢の回答に偏りが懸念される。

図表 59 仕事についての考え（就労支援対象者票 問 13）※図表 51 再掲

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3,201、無回答を含む)
①自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う	1,098	3.65	0.62	2.92
②まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	1,099	2.96	1.07	2.29
③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1,098	2.05	1.16	2.43
④定職に就かない方が自由でいいと思う	1,097	1.68	0.94	1.76

(注 1) 件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

(注 2) 内閣府調査に倣い、「はい」を4点、「どちらかといえばはい」を3点、「どちらかといえばいいえ」を2点、「いいえ」を1点として点数化した。

(注 3) 「内閣府調査平均」は、広義のひきこもり群以外の数字を掲載している。

(非就労支援対象者票、再入受刑者票も同様)

図表 60 仕事についての考え（非就労支援対象者票 問 13）※図表 52 再掲

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3,201、無回答を含む)
①自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う	700	3.65	0.64	2.92
②まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	694	2.76	1.10	2.29
③仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	694	2.29	1.20	2.43
④定職に就かない方が自由でいいと思う	696	1.86	1.04	1.76

図表 61 と図表 62 では、人とのつきあいに関する考えに関する問 14 の各設問の回答結果の最小値と最大値、平均値、標準偏差を示している。受刑者は、5 つの設問について 1 から 4 の選択肢で回答する。平均や標準偏差より、選択肢の回答に大きな偏りは見られなかった。

図表 61 人とのつきあいに関する考え（就労支援対象者票 問 14）※図表 54 再掲

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3,201、無回答を含む)
①自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1,102	2.49	0.98	2.37
②人というと、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	1,100	2.16	1.05	1.77
③周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1,100	2.09	1.05	1.67
④他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	1,099	2.29	1.01	2.10
⑤大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ	1,097	1.79	0.90	1.95
⑥大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1,098	2.05	1.04	2.26
⑦初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1,097	2.88	1.04	2.76
⑧人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1,099	2.39	1.07	2.08
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	1,097	2.35	1.06	2.18
⑩周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1,098	2.12	1.02	1.94

(注 1) 件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

(注 2) 内閣府調査に倣い、「はい」を 4 点、「どちらかといえばはい」を 3 点、「どちらかといえばいいえ」を 2 点、「いいえ」を 1 点として点数化した。

(注 3) 「内閣府調査平均」は、広義のひきこもり群以外の数字を掲載している。

(非就労支援対象者票、再入受刑者票も同様)

図表 62 人とのつきあいに関する考え（非就労支援対象者票 問 14）※図表 55 再掲

	件数	平均	標準偏差	内閣府調査平均 (n=3,201、無回答を含む)
①自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	697	2.39	1.02	2.37
②人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	695	2.08	1.04	1.77
③周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	692	1.99	1.03	1.67
④他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	692	2.27	1.05	2.10
⑤大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ	692	1.77	0.90	1.95
⑥大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	692	2.02	1.03	2.26
⑦初対面の人とすぐに会話できる自信がある	692	2.96	1.04	2.76
⑧人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	694	2.21	1.09	2.08
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	693	2.15	1.05	2.18
⑩周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	693	1.97	1.02	1.94

(3) 設問の妥当性の検討

アンケート調査の設計に際しては先行研究を参考に、自己肯定感などの項目を説明するための複数の設問を設定している。本調査の対象となる受刑者において、項目を示す尺度として機能するのか、因子分析を用いて検討した。

まず図表 63 では、自己肯定感に関する因子分析の結果を示している。分析の結果、 α 係数は 0.8 を超えている。また、「自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う」については、因子負荷量が小さいことが分かる。

図表 63 設問の妥当性：自己肯定感（就労支援対象者票、非就労支援対象者票 問 3）

	因子負荷量	α 係数
私は、自分自身にだいたい満足している	0.486	0.831
時々、自分はまったくダメだと思うことがある (*)	0.527	
私には、けっこう長所があると感じている	0.595	
私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	0.509	
私には誇れるものが大してないと感じる (*)	0.667	
時々、自分は役に立たないと強く感じることもある (*)	0.752	
自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	0.682	
自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う (*)	0.236	
よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう (*)	0.691	
私は、自分のことを前向きに考えている	0.592	

注) 因子の推定には最尤法を用い、因子の回転にはプロマックス回転を用いた。また、設問文中の*は逆転項目を表す。平行分析の結果、推奨される因子は 3 であった。

図表 64 では、仕事の考え方に関する設問の因子分析の結果を示している。分析の結果、 α 係数は 0.481 にとどまっている。因子負荷量を見ると、「仕事をしなくても生活できるのであれば、仕事はしたくない」「定職に就かないほうが自由でいいと思う」は高いが、その他の項目で低くなっている。 α 係数を高めるために、設問の検討が必要と考えられる。

図表 64 設問の妥当性：

仕事についての考え（就労支援対象者票、非就労支援対象者票 問 13）

	因子負荷量	α 係数
自分にふさわしい仕事はどこかにあると思う (*)	0.095	0.481
まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	0.233	
仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	0.709	
定職に就かないほうが自由でいいと思う	0.666	
嫌いな人や気にいらぬ人とも、一緒に仕事をすることができる (*)	0.274	

注) 因子の推定には最尤法を用い、因子の回転にはプロマックス回転を用いた。また、設問文中の*は逆転項目を表す。平行分析の結果、推奨される因子は 3 であった。

仕事の考え方について、平行分析より推奨された因子数3の設定の下、再度因子分析を行った。図表 65 に示すように、1つ目の因子には「自分にふさわしい仕事はどこかにあると思う」、2つ目の因子には「まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う」となった。また、残り3つの設問で3つ目の因子を構成することがわかる。しかし、「嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をする事ができる」については因子負荷量が小さいことも確認できた。そこで、3つ目の因子の合成には「嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をする事ができる」を除いて合算することとした。

図表 65 設問の妥当性：

仕事についての考え（就労支援対象者票、非就労支援対象者票 問 13）

※因子 3 での推定結果

	因子負荷量①	因子負荷量②	因子負荷量③
自分にふさわしい仕事はどこかにあると思う	-0.069	1.023	-0.101
まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う (*)	-0.047	-0.051	0.444
仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない (*)	0.516	-0.012	0.152
定職に就かない方が自由でいいと思う (*)	0.956	-0.092	-0.199
嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をする事ができる	0.162	0.070	0.132

注) 因子の推定には最尤法を用い、因子の回転にはプロマックス回転を用いた。また、設問文中の*は逆転項目を表す。

図表 66 では、生活の考え方に関する設問の因子分析の結果を示している。α 係数は 0.857 である。因子負荷量を見ると、すべての設問で 0.4 を超えていることが分かる。

図表 66 設問の妥当性：人とのつきあいに関する考え

(就労支援対象者票、非就労支援対象者票 問 14)

	因子負荷量	α 係数
自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	0.668	0.857
人という、馬鹿にされたり軽く扱われたりはないかと不安になる	0.821	
周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	0.788	
他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	0.711	
大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ	0.479	
大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	0.430	
初対面の人とすぐに会話できる自信がある (*)	0.412	
人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	0.598	
自分の感情を表に出すのが苦手だ	0.487	
周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	0.627	

注) 因子の推定には最尤法を用い、因子の回転にはプロマックス回転を用いた。また、設問文中の*は逆転項目を表す。平行分析の結果、推奨される因子は 4 であった。

(4) 就労支援希望の要因分析

就労支援対象者と非就労支援対象者ではどのような違いにあるのかを確認するため、アンケート調査の結果と受刑者の属性情報を用いた分析を行った。具体的には、就労支援対象者は1を、非就労支援対象者を0とするダミー変数を被説明変数として、アンケート調査から作成した指標と受刑者の属性情報を説明変数としている。また、就労支援対象者は1を、非就労支援対象者のうち出所後の就労予定が無い者を0とするダミー変数もまた被説明変数として設定している。これは、就労支援を受けておらず内定先のない者は、本来就労支援を受けるべきであった者と考えられるためである。

分析に用いた各変数の記述統計は図表67のとおりである。まず、就労支援対象者ダミー変数は、就労支援対象者なら1、非就労支援対象者なら0のダミー変数である。「自己肯定感」はアンケートの間3の各回答結果を合算して作成した。10の選択肢について、1から4の得点が与えられているため、最小値は10、最大値は40となっている。得点が高いほど、自己肯定感が高い傾向を表す。「生活費の把握」に関しては、生活費に関する3項目を含めて検討を行う。1か月の必要生活費は、出所後の1か月間に必要な生活費を把握しているかを尋ねており、把握していない場合1を取るダミー変数とした。同様に、入所5年前までの間に生活費が不足した経験がある場合に1を取るダミー変数、入所5年前までの間に家賃や公共料金の支払いが遅れた・払わなかったことがある場合に1を取るダミー変数を作成している。「仕事についての考え」は、5つの設問について1から4の選択肢を設けている。理論上の最小値は5、最大値は20である。設問②～④の選択肢を反転させ、数値が高いほど就労への意欲が低く、低いほど仕事への意欲が高い傾向を示すように作成している。ただし、因子分析の結果を踏まえ、1因子とみなすのは難しいこともあり、設問③と④の合成指標と項目反転を考慮した各設問を変数として利用した分析も行う。「人との付き合いに関する考え」では、10の設問に対して1からの4の選択肢を合算して作成している。数値が大きいほど、人との付き合いに対する自信を表現しており、反対に低いほど不安や苦手を感じていることを示している。

統制を目的として属性のデータも分析モデルに含める。帰住先が家族は、法務省から提供を受けたデータから帰住先が家族（親族含む）である場合は1、そうではない場合は0のダミー変数である。表より、49%が帰住先が家族であることが分かる。学歴：大卒は、受刑者の学歴（教育程度）が大学である時、1を取るダミー変数である。本調査の回答者のうち13%が大学に通っていたことがわかる。また、同様に小学校・中学校についてもダミー変数を作成し、分析にあたっては高等学校の教育程度である受刑者を基準としている。矯正処遇：薬物依存は、矯正処遇において薬物依存の受刑者について1をとるダミー変数であり、本調査では33%の受刑者があてはまる。同様に矯正処遇：暴力団では、暴力団に関する矯正処遇があれば1を取るダミー変数、矯正処遇：性犯罪は、性犯罪に関する矯正処遇があれば1を取るダミー変数である。入所度数は刑務所に入った回数を表しており、最小値が1であり、最大15である。刑期は1か月単位であり、平均が約33か月である。犯罪傾向Bは犯罪傾向の進度がBである者であれば1を取るダミー変数である。修了職業訓練種目ありは、デー

タ内に修了した職業訓練種目が1つでもある場合に1を取るダミー変数である。また、取得資格免許ありも属性データ内に取得した資格免許等の情報がある場合に1を取るダミー変数である。

図表 67 各変数の記述統計

変数名	n	最小値	最大値	平均値	標準偏差
就労支援対象者ダミー	1742	0	1	0.603	0.489
同上（※非就労者・就労先無しが対象）	1318	0	1	0.797	0.402
自己肯定感（合成指標）	1673	10	40	24.883	5.01
生活費：1か月の必要生活費	1705	0	1	0.268	0.443
生活費：生活費不足の経験	1706	0	1	0.648	0.478
生活費：公共料金支払い遅延等	1703	0	1	0.499	0.5
仕事についての考え（合成指標）	1690	5	19	10.264	2.806
仕事探しへの意識（設問①）	1713	1	4	1.356	0.631
夢の実現（設問②の反転項目）	1709	1	4	2.866	1.091
就労への反発感（設問③④の合成指標）	1705	2	8	3.904	1.867
仕事上での対人関係（設問⑤）	1700	1	4	2.132	0.944
人との付き合いに関する考え（合成指標）	1699	10	40	21.466	6.743
年齢	1742	18	64	40.15	11.668
帰住先が家族	1742	0	1	0.271	0.445
学歴：大卒	1704	0	1	0.13	0.337
学歴：中卒以下	1704	0	1	0.272	0.445
矯正処遇：薬物依存	1742	0	1	0.193	0.395
矯正処遇：暴力団	1742	0	1	0.017	0.128
矯正処遇：性犯罪	1742	0	1	0.026	0.16
入所度数	1742	1	15	2.421	2.239
刑期	1742	3	180	33.142	23.522
犯罪傾向B	1671	0	1	0.457	0.498
懲罰回数	1037	0	9	0.846	1.817
修了職業訓練種目あり	1034	0	1	0.207	0.405
統計取得資格免許あり	1034	0	1	0.143	0.35

次に、ロジスティック回帰モデルによる推定結果を示す。

図表 68 で示している推定結果では、被説明変数の就労支援の有無について、就労支援を受けている者と受けなかった者の違いを示している。1 列目ではアンケートの各項目のみを分析に用いており、仕事に対する考え方には合成指標を用いている。2 列目では 1 列目の変数に属性データを加えたものである。3 列目では仕事に対する考え方の合成指標ではなく、2 つの設問のみを合成指標として他の設問はそのまま組み込んでいる。4 列目では 3 列目のモデルに属性データを加えている。

1 列目の分析結果より、自己肯定感が高い人ほど就労支援を受けない傾向が分かる。1 か月の生活費の把握をしていない人ほど支援を受けていることも分かり、生活費の不足の経験がある者も就労支援を受けている。仕事についての意識が低い人は、就労支援を受けていない。2 列目では属性データをモデルに含め、生活費の不足の経験のみが有意なものとして残った。3 列目の結果では、1 列目同様に自己肯定感の高い人は就労支援を受けない傾向が見られる。また、生活費不足の経験があるものは就労支援を受けている傾向が確認できる。仕事に対する考え方としては、夢の実現⁴についてスコアの高い者ほど就労支援を受けていることがわかる。また、就労への反発感が高い者ほど、就労支援を受けていないことがわかる。4 列目の結果は、3 列目の結果にコントロール変数を加えたものである。生活費不足の経験、夢の実現、就労への反発感は統計的な有意差の残る変数であることがわかった。

図表 69 に示している推定結果は、就労支援を受けている者と就労支援を受けず内定を得ていない者を比較している。1 列目ではアンケートの各項目のみを分析に用いており、仕事に対する考え方には合成指標を用いている。2 列目では 1 列目の変数に属性データを加えたものである。3 列目では仕事に対する考え方の合成指標ではなく、2 つの設問のみを合成指標として他の設問はそのまま組み込んでいる。4 列目では 3 列目のモデルに属性データを加えている。

1 列目の分析結果より、仕事についての意識が低い人は就労支援を受けていないことがわかる。2 列目では属性データをモデルに含めた回帰を行ったが、有意な変数は残らなかった。3 列目の結果では、仕事を探す意識の低い人は就労支援を受けていないこと、就労への反発感のある人は就労支援を受けていないことがわかる。4 列目の結果は、3 列目の結果にコントロール変数を加えたもので、仕事探しへの意識が有意なものとして残った。

なお、アンケートの調査時期の前後関係より相関関係を探る分析である点に注意が必要である。すでに就労支援対象である（非就労支援対象者である）受刑者に対して仕事や生活に関する現在の考えを聞いているため、例えば、就労支援を受けたことで人付き合いに自信が高まっているといった、逆の因果の可能性も考えられるためである。

⁴ 「まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う」の反転項目、「はい」だと 4、「いいえ」だと 1 である。

図表 68 ロジスティック回帰分析による推定結果：
就労支援を受けている者と受けなかった者の比較

	(1)	(2)	(3)	(4)
自己肯定感	0.97 [0.004]	0.97 [0.163]	0.97 [0.008]	0.97 [0.115]
生活費：1か月の必要生活費	1.24 [0.084]	1.25 [0.226]	1.23 [0.102]	1.23 [0.254]
生活費：生活費不足の経験	1.28 [0.051]	1.45 [0.053]	1.21 [0.132]	1.40 [0.080]
生活費：公共料金支払い遅延等	1.04 [0.735]	0.83 [0.310]	1.07 [0.599]	0.81 [0.253]
仕事についての考え	0.95 [0.005]	1.00 [0.990]		
仕事探しへの意識			0.95 [0.577]	0.92 [0.506]
夢の実現			1.23 [0.000]	1.29 [0.001]
就労への反発感			0.86 [0.000]	0.91 [0.039]
仕事上での対人関係			0.96 [0.446]	1.04 [0.673]
人との付き合いに関する考え	1.01 [0.272]	1.01 [0.472]	1.01 [0.379]	1.01 [0.658]
年齢		0.99 [0.136]		0.99 [0.127]
帰住先の家族有り		0.55 [0.001]		0.55 [0.001]
学歴：大卒		1.08 [0.751]		1.01 [0.968]
学歴：中卒以下		0.62 [0.011]		0.62 [0.013]
矯正処遇：薬物依存		0.72 [0.066]		0.71 [0.058]
矯正処遇：暴力団		0.00 [0.977]		0.00 [0.977]
矯正処遇：性犯罪		0.82 [0.606]		0.88 [0.745]
入所度数		1.01 [0.823]		0.99 [0.865]
刑期		1.01 [0.001]		1.01 [0.001]
犯罪傾向B		1.20 [0.411]		1.27 [0.279]
懲罰回数		0.91 [0.059]		0.90 [0.037]
修了職業訓練種目あり		0.97 [0.903]		0.97 [0.927]
統計取得資格免許あり		1.22 [0.537]		1.21 [0.559]
N	1627	820	1627	820

注) 学歴は高等学校を基準値として設定している。表内の数値はオッズ比、括弧内の数値はP値を表す。図表内には表示していないが、各推定結果には定数項も含む。

図表 69 ロジスティック回帰分析による推定結果：
就労支援を受けている者と支援を受けず出所後就労予定がない者の比較

	(1)	(2)	(3)	(4)
自己肯定感	0.97 [0.125]	1.00 [0.929]	0.97 [0.102]	0.99 [0.607]
生活費：1か月の必要生活費	0.96 [0.813]	1.07 [0.753]	0.96 [0.784]	1.03 [0.885]
生活費：生活費不足の経験	1.05 [0.765]	1.24 [0.380]	1.04 [0.845]	1.24 [0.380]
生活費：公共料金支払い遅延等	0.97 [0.834]	0.75 [0.203]	0.98 [0.885]	0.73 [0.173]
仕事についての考え	0.90 [0.000]	0.95 [0.149]		
仕事探しへの意識			0.83 [0.087]	0.77 [0.072]
夢の実現			1.02 [0.777]	1.07 [0.524]
就労への反発感			0.86 [0.000]	0.92 [0.125]
仕事上での対人関係			0.93 [0.366]	1.02 [0.839]
人との付き合いに関する考え	0.99 [0.301]	0.99 [0.436]	0.99 [0.297]	0.98 [0.385]
年齢		0.98 [0.090]		0.98 [0.105]
帰住先の家族有り		0.85 [0.469]		0.85 [0.467]
学歴：大卒		0.63 [0.100]		0.62 [0.098]
学歴：中卒以下		0.63 [0.042]		0.61 [0.034]
矯正処遇：薬物依存		0.89 [0.612]		0.88 [0.567]
矯正処遇：暴力団		0.00 [0.980]		0.00 [0.980]
矯正処遇：性犯罪		0.55 [0.156]		0.57 [0.191]
入所度数		1.00 [0.956]		0.99 [0.874]
刑期		1.01 [0.042]		1.01 [0.053]
犯罪傾向B		1.32 [0.323]		1.33 [0.312]
懲罰回数		0.88 [0.022]		0.87 [0.013]
修了職業訓練種目あり		1.11 [0.785]		1.09 [0.816]
統計取得資格免許あり		1.12 [0.793]		1.12 [0.793]
N	1248	491	1248	491

注) 学歴は高等学校を基準値として設定している。表内の数値はオッズ比、括弧内の数値はP値を表す。図表内には表示していないが、各推定結果には定数項も含む。

(5) アンケートデータの分析のまとめ

以上の分析より以下の示唆が得られた。

- ・ 選択肢の回答に極端な偏りは見られず、ばらつきが確認されたため、有効な選択肢の設計となっている。
- ・ 自己肯定感と生活への考えについては、各設問は項目を適切に構成していると考えられる。一方、仕事への考え方については α 係数が低く、因子負荷量の小さい設問も見られる。平行分析より推奨される因子数を踏まえ、各項目を構成する下位項目についても検討の余地がある。
- ・ 就労支援の有無に関する回帰分析より、就労支援を受けない人の傾向として仕事への意識の低い人が挙げられる。

なお、ロジスティック回帰分析については、さらに分析を深める余地がある。例えば、懲罰回数が 0 かどうかのダミー変数を作成する、修了職業訓練種目や取得した資格免許の内訳を考慮するなどよりモデルの改善の可能性がある。

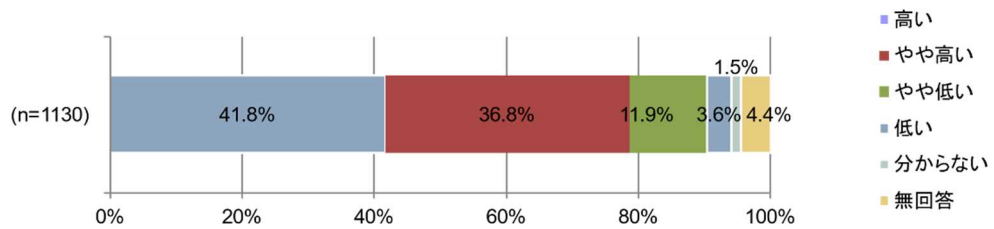
4. 職員調査 結果概要

就労支援対象者の就労意欲の評価

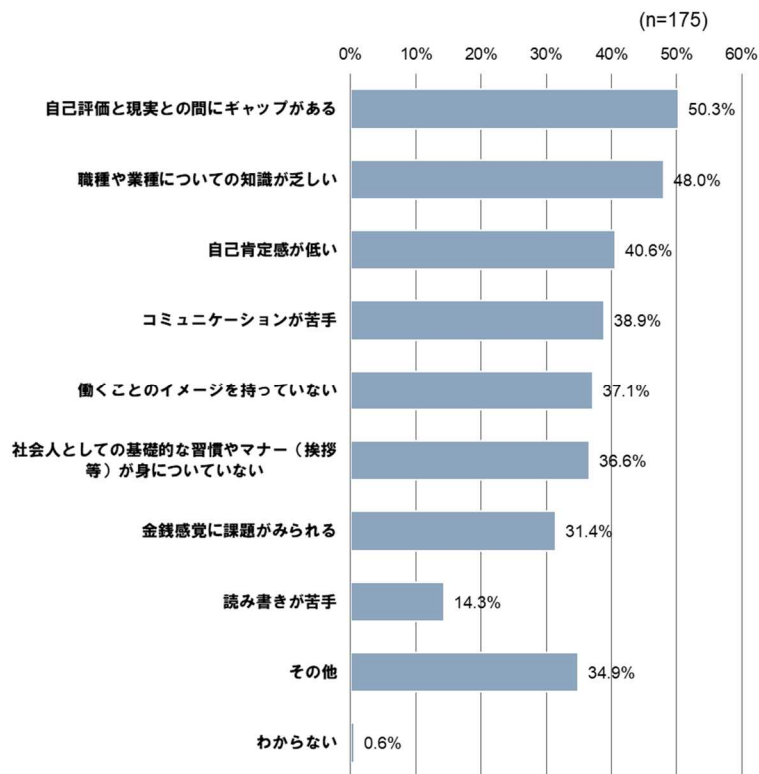
受刑者の就労支援を担当する職員（以下「就労支援担当者」という。）に、就労支援対象者 1,130 名について就労意欲の評価をしてもらったところ、「高い」が 41.8%、「やや高い」が 36.8%、「やや低い」が 11.9%、「低い」が 3.6%で、就労支援対象者の中にも、就労意欲が低いと思われる者がみられた。

就労意欲が「やや低い」、「低い」と評価された 175 名について、対象者の特徴を尋ねたところ、「自己評価と現実との間にギャップがある」が 50.3%、「職種や業種についての知識が乏しい」が 48.0%だった。

図表 70 就労支援対象者の就労意欲の評価



図表 71 就労支援対象者のうち、就労意欲が低い者の特徴（複数回答）



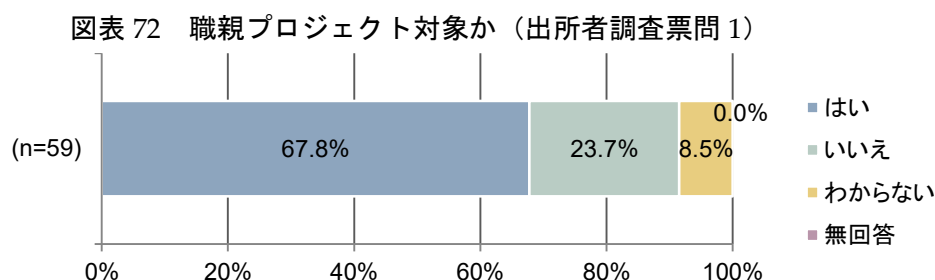
5. 出所者調査 結果概要

(1) 回答者のプロフィール

ここでは、回答のあった59名のプロフィールについて記載する。

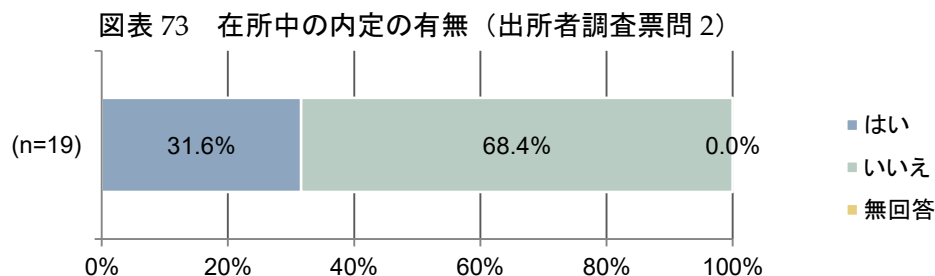
① 職親プロジェクト対象か（問1）

「はい」が67.8%（59名中40名）となっている。「いいえ」は23.7%（14名）、「わからない」は8.5%（5名）となっている。



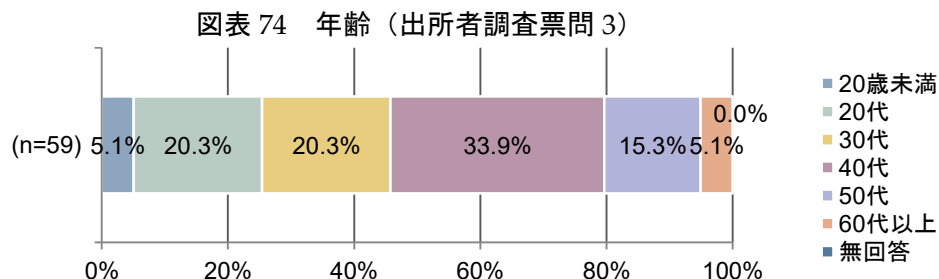
② 【職親プロジェクト対象でない人】在所中の内定の有無（問2）

職親プロジェクトの対象者かとの問いに「いいえ」または「わからない」と回答した人に、在所中に内定があったかを尋ねたところ、「はい」が31.6%、「いいえ」が68.4%となっている。



③ 年齢（問3）

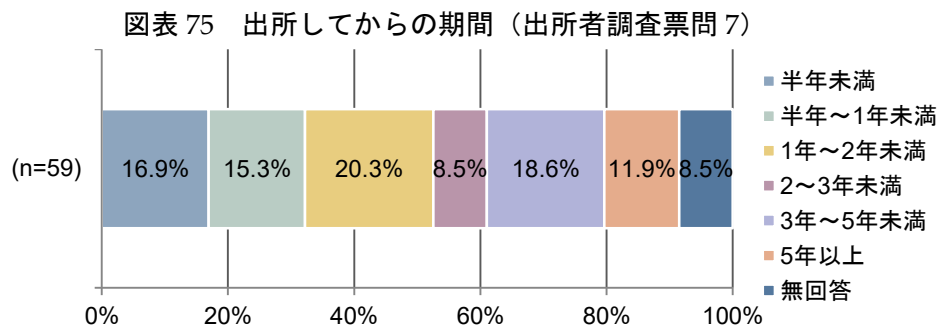
回答時の年齢は、「20代（20.3%）」、「30代（20.3%）」、「40代（33.9%）」、「50代（15.3%）」と、ばらついている。



④ 出所してからの期間（問7）

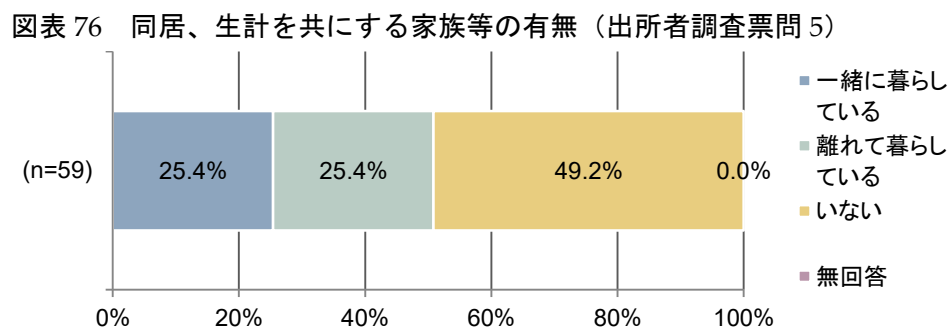
出所したのは何年何月かを尋ね、「2023年1月」を出所後0か月とみなして年換算すると、「半年未満」の割合が最も高く20.3%となっている。次いで「1年～2年未満

(18.6%)」、「3年～5年未満 (16.9%)」、となっている。(出所後1年未満の回答者が33.9%を占めている。)



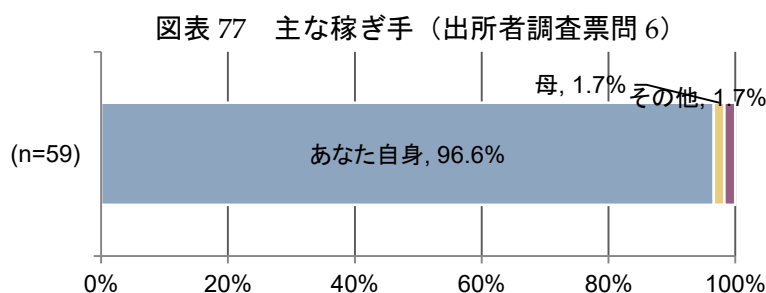
⑤ 同居したり、生計を共にする家族等の有無 (問 5)

「いない」と「いる」がほぼ半々となっている。



⑥ 主な稼ぎ手 (問 6)

回答者自身が96.6%を占めている。他には、「母」、「その他」が各1.7%となっている。

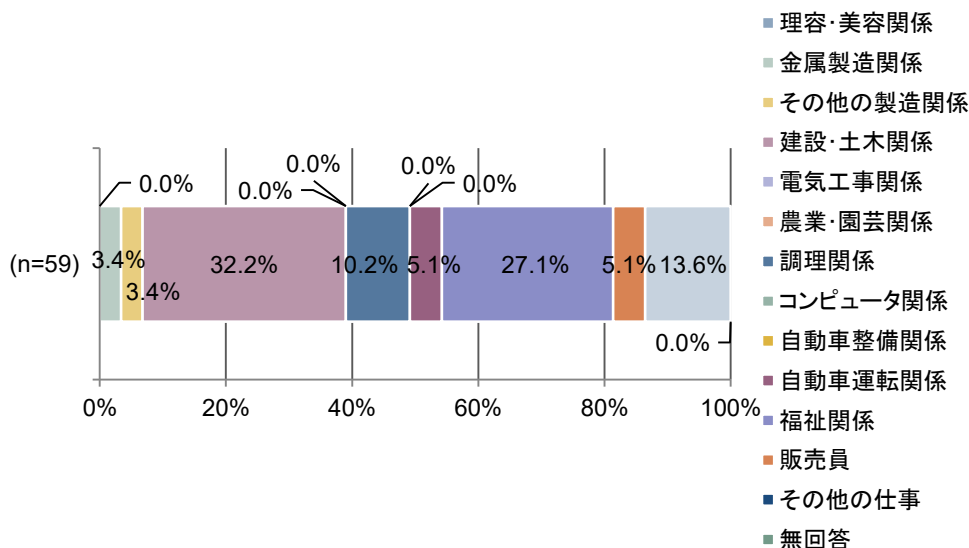


(2) 今の仕事について

① 今の仕事 (問 9)

「建設・土木関係」の割合が最も高く32.2%となっている。次いで、「福祉関係 (27.1%)」、「その他の仕事 (13.6%)」となっている。

図表 78 今の仕事（出所者調査票問 9）



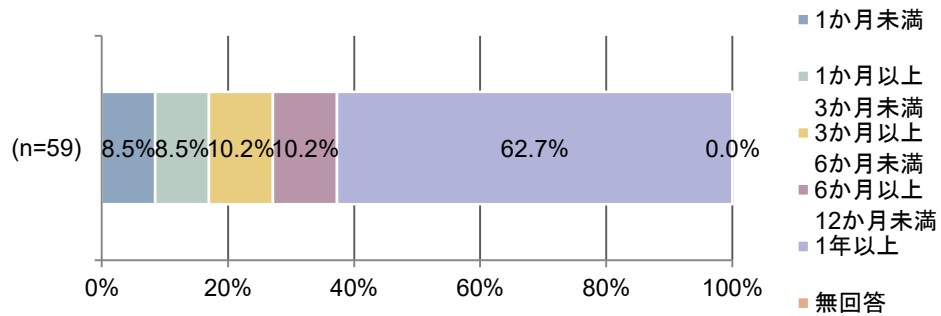
図表 IV-1 問 9 今の仕事の詳細（FA）（抜粋）（出所者調査票問 9）

金属製造関係	製造芯金の串取り、機械オペレーター
その他の製造関係	車の組立て作業、自動車の製造に携わっておりフォークリフト業務を主にしている
建設、土木関係	土木・解体・作業員、土木工事で重機の手元をしている、家屋解体作業員、資材運び等々、アスベストはがし、道路や護岸工事など・OP・手元・OT 運転、ダム工事の雑工
調理関係	飲食店で調理をしている、鉄板焼のお店で調理をしている、焼肉店で調理師として働いている、飲食店で店舗マネジメント、調理・接客をしている
自動車運転関係	企業や個人宅への配達をしている、軽貨物での配送（宅配）
福祉関係	介護ヘルパー、介護施設で介護職として働いている 利用者様の生活援助、入浴介助、食事介助などなど… 介護施設で介護のサービスをしています。掃除や洗濯、移動の手伝いなど。 介護施設でサービス（掃除、入浴介助・食事誘導）等をしたたり、グループホームで仕事の手伝いや食事を作っている。 障害者施設にて、障害を持っている人が自立するためのサポート 福祉施設入居者促進営業 本社のバックサポート事業部にて総務関係、レセプト処理など 就労支援事業所施設長、障がい者施設の管理業務全般
販売員	コンビニエンスストア、マンション等巡回・定期・美装の営業、不動産・建築関係の営業や現場作業
その他	産業廃棄物の仕分け・解体、産業廃棄物事業・工場勤務、ガス工事、アパートの清掃巡回、不動産の管理（入居者さんに住みやすい環境などを考える）、不動産の管理、調査、取得の打診補助、問い合わせへの対応、役員移動の際の運転業務、業者との打合せなど、飲食店統括店長

② 今の仕事の就労期間（問 10）

今の勤め先（会社等）に就職してどのくらいかについては、「1年以上」の割合が最も高く 62.7%となっている。

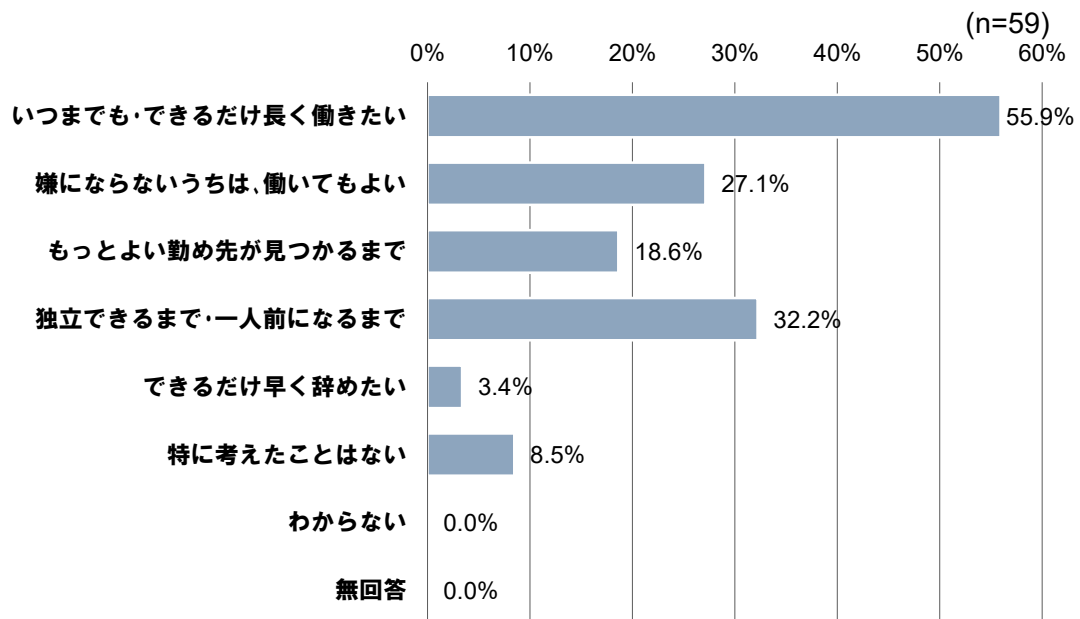
図表 79 今の仕事の就労期間（出所者調査票問 10）



③ 今の仕事の就労意向（問 11）

今の勤め先（会社等）でいつまで働きたいかについては、「いつまでも・できるだけ長く働きたい」の割合が 55.9%と最も高く、「独立できるまで・一人前になるまで（32.2%）」、「嫌にならないうちは、働いてもよい（27.1%）」が次いでいる。

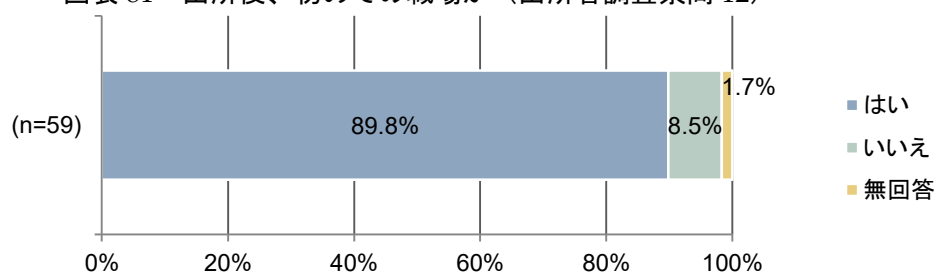
図表 80 問 11 今の仕事の就労意向（複数回答）（出所者調査票問 11）



④ 転職経験について（問 12）

今の勤め先（会社等）が、出所して初めての勤め先であるかについては、「はい」が 89.8%を占めている（59名中 53名）。

図表 81 出所後、初めての職場か（出所者調査票問 12）



⑤ 転職経験者について（問 13）

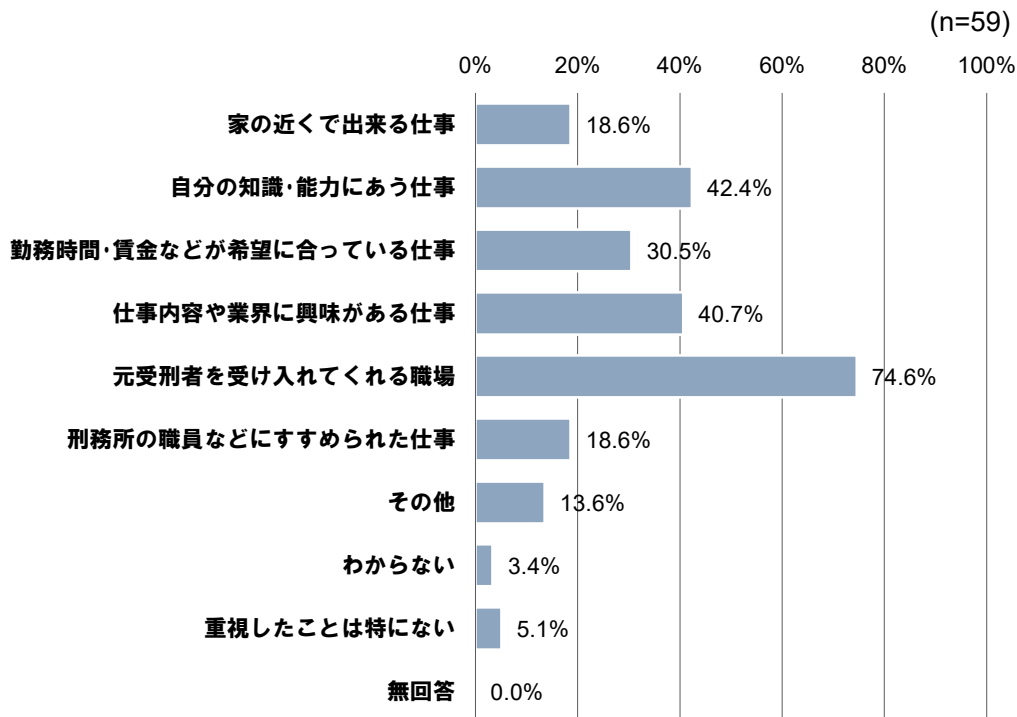
問 12 において「いいえ」と回答した 5 名については、以下のとおりとなっている。

出所後の転職回数（問 13）	「1 回」が 2 名（40.0%）、「2 回」が 1 名、「3 回以上」が 2 名
出所後、収入の伴う仕事をしてきた期間（通算）（問 14）	「1 年以上」が 2 名（40.0%）、「1 か月未満」、「1 か月以上 3 か月未満」、「6 か月以上 12 か月未満」が各 1 名 ※問 16 より期間が短い回答者については、収入のない期間があったためと思われる
出所後、最も長くいた勤め先（会社等）で、仕事をしていた期間（問 15(1)）	「1 年以上」が 4 名（80.0%）、「6 か月以上 12 か月未満」が 1 名
出所後の最も長い仕事を辞めた理由（問 15(2)）	「雇用期間の満了・雇止め」「人間関係がよくなかった」「もっとよい仕事があった」の 3 つを選んだ者が 1 名、 「健康上の理由」「何となく」の 2 つを選んだ者が 1 名、「賃金の条件がよくなかった」「勤め先や仕事に将来性がなかった」の 2 つを選んだ者が 1 名、「その他」が 1 名。「辞めていない」が 1 名。 ※「辞めていない」と回答した人は、勤め先（会社等）は変わっても「仕事」は変わっていない（辞めていない）と回答した可能性がある
職親プロジェクトの対象者か（問 1）	「対象」1 名、「対象でない」3 名、「わからない」1 名
いまの仕事の詳細（問 9FA）	「介護ヘルパー」「ダム工事の雑工」「ガス工事」「土木」「製造 金の串取り」
入所中の就労訓練等（問 19）	「受けていない」1 名、「職業訓練」1 名、「職場体験制度」1 名、「ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介」1 名、無回答 1 名
いまの仕事の就労継続意向（問 11）	「いつまでも・できるだけ長く働きたい」1 名、「できるだけ早く辞めたい」1 名、など

⑥ 出所後の仕事を決める時に重視したこと（問 17）

「元受刑者を受け入れてくれる職場」の割合が最も高く 74.6%となっている。

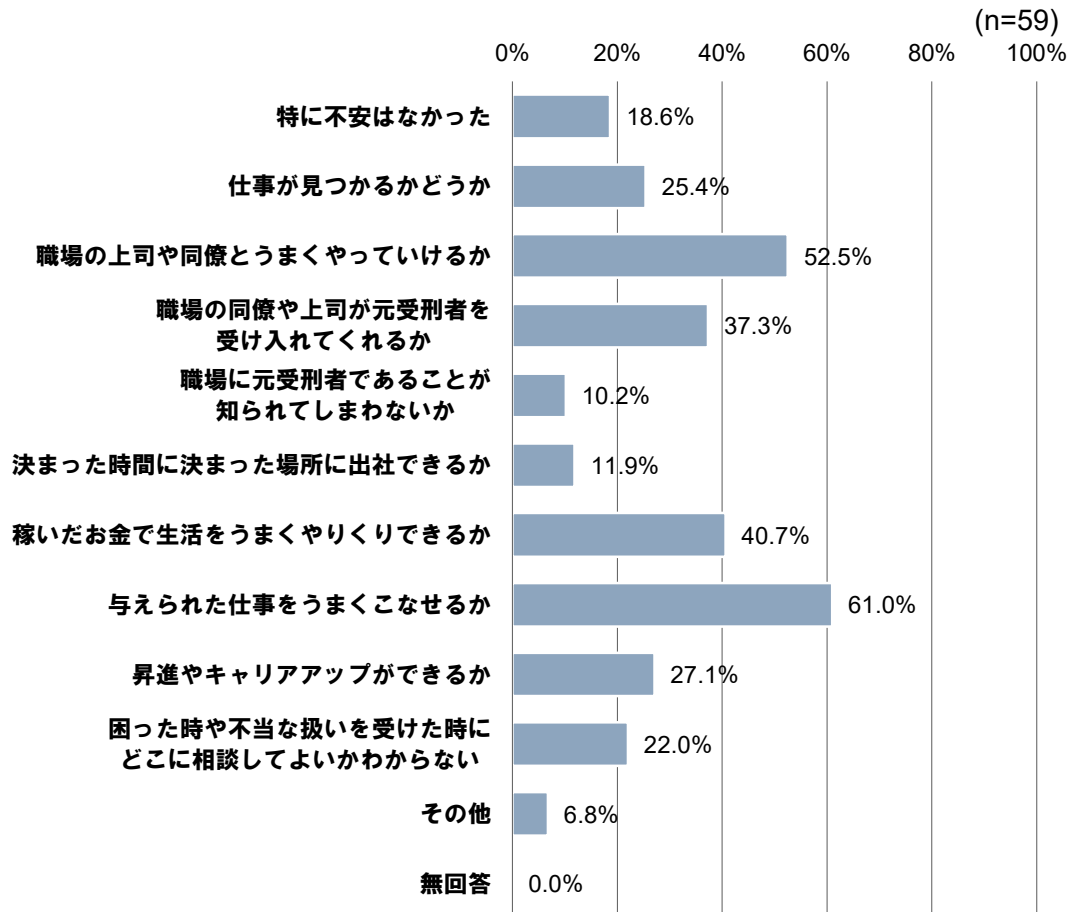
図表 82 出所後の仕事を決める時に重視したこと（複数回答）（出所者調査票問 17）



⑦ 出所後の仕事について持っていた不安（問 18）

「特に不安はなかった」は 18.6%であり、回答者の多くが不安を持っていたとしている。不安の内容としては、「与えられた仕事をうまくこなせるか」の割合が最も高く 61.0%となっている。次いで、「職場の上司や同僚とうまくやっていけるか（52.5%）」、「稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか（40.7%）」となっている。

図表 83 出所後の仕事について持っていた不安（複数回答）（出所者調査票問 18）

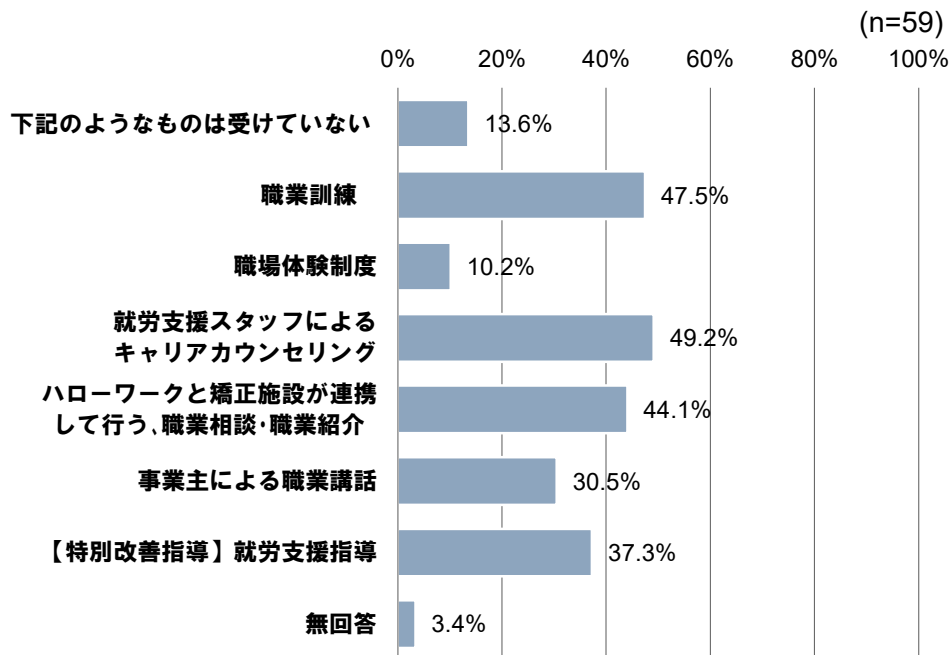


(3) 入所中に受けた職業訓練や就労支援等について

① 入所中に受けた就労支援等（問 19(1)）

「受けていない」とする割合は 13.6%（59 名中 8 名）となっている。受けたものとしては、「就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング（49.2%）」の割合が最も高く、「職業訓練（47.5%）」、「ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介（44.1%）」が次いでいる。

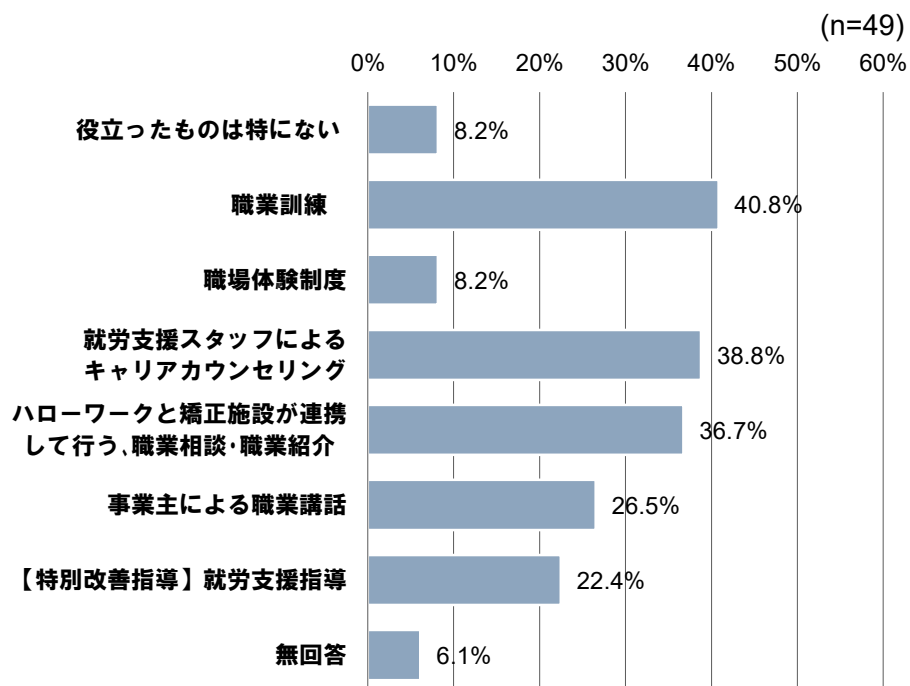
図表 84 入所中に受けた就労支援等（複数回答）（出所者調査票問 19(1)）



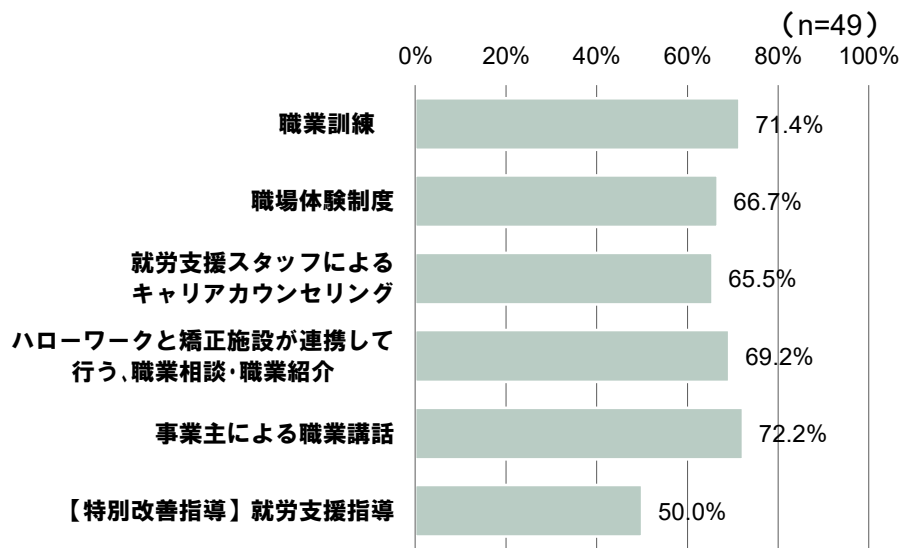
② 入所中に受けた就労支援等で出所後の就労に役立ったと思うもの（問 19(4)）

問 19(1) で選んだもののうち、出所後の就労に役立ったと思うものを尋ねた。「役だったものは特にない」とする回答は 8.2%（4 名）、無回答は 6.1%（3 名）で、受けた者の多く（49 名中 42 名）は役だったと思っていることがうかがえる。

図表 85 問 19(4) 入所中に受けた就労支援等で出所後の就労に役立ったと思うもの（複数回答）（出所者調査票問 19(4)）



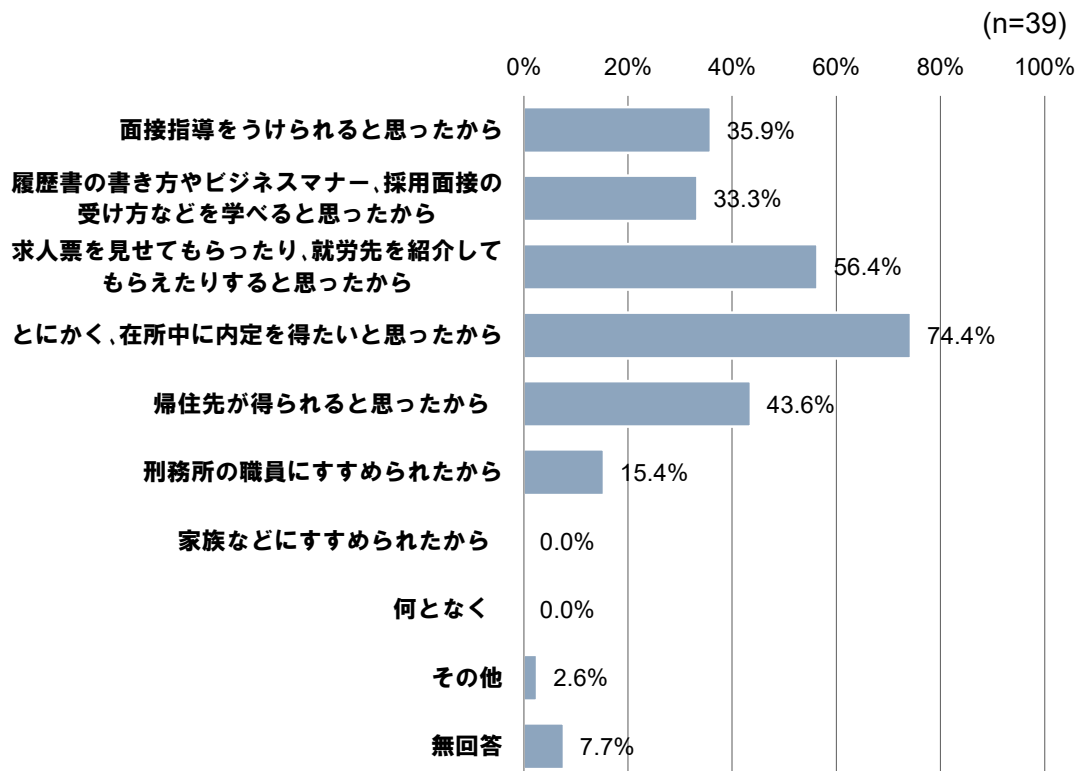
図表 86 問 19(4) 入所中に受けた就労支援等で出所後の就労に役立ったと思うもの
 (受けたとする人数に対する、役だったとする人数の割合)



③ 入所中に就労支援を受けた理由 (問 19(3))

「とにかく、在所中に内定を得たいと思ったから (74.4%)」の割合が最も高くとなっている。

図表 87 問 19(3) 入所中に就労支援を受けた理由
 (複数回答) (出所者調査問 19(3))

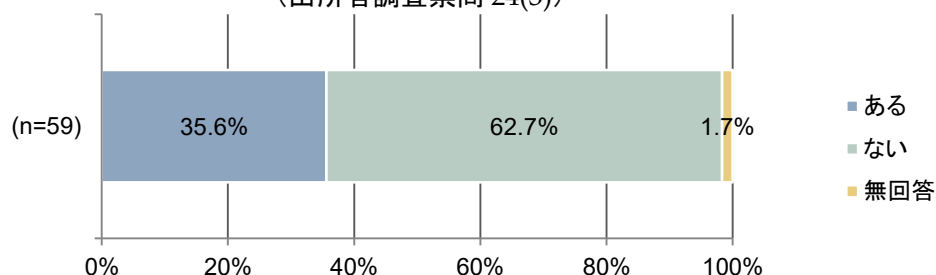


(4) 金銭管理について

① 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験の有無（問 24(3)）

出所後に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験があるかについては、「ある」が 35.6%、「ない」が 62.7%となっている。

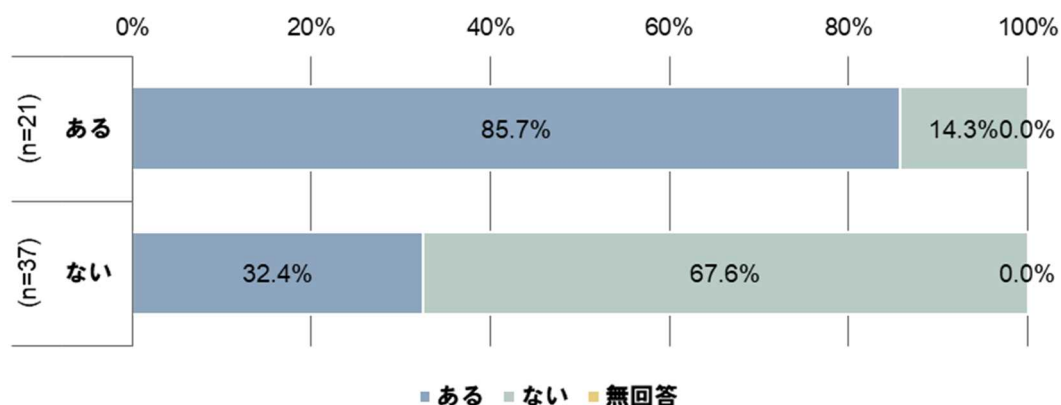
図表 88 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験の有無
(出所者調査票問 24(3))



② 生活費が足りなくなった経験（問 24(2)）

家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験がある人は、うまくお金のやりくりができず、生活費が足りなくなったことがあるとする割合も高い。

図表 89 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験の有無（出所者調査票問 24(3)）×生活費が足りなくなった経験の有無（出所者調査票問 24(2)）



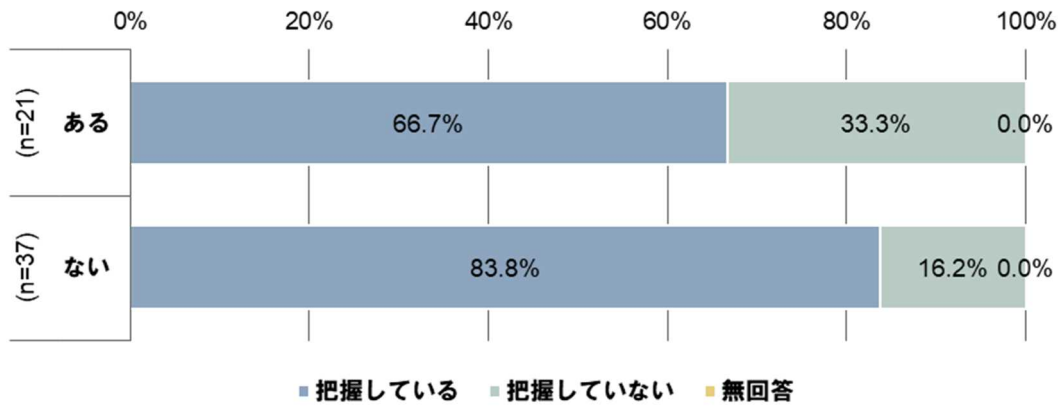
③ 生活費の把握（問 24(1)）

家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験がない人のほうが、出所後、1 か月間に必要な生活費を把握しているとする割合が高い。

ただし、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験がある人でも、過半数は、1 か月にかかる生活費を把握していると回答している（把握していても支払えなかったのか、自己認識と実際にギャップがあるのかは判別できない）。

図表 90 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験の有無
 (出所者調査票問 24 (3))

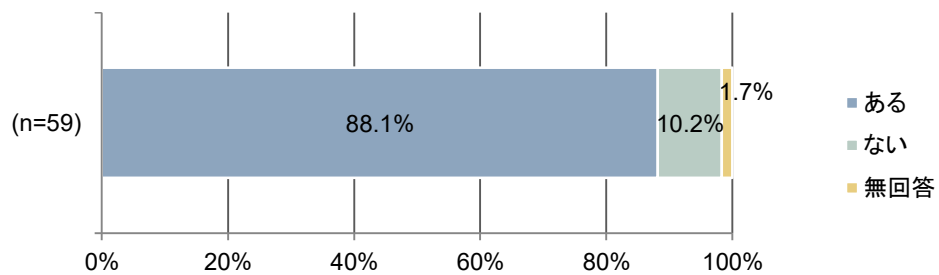
× 生活費の把握 (出所者調査票問 24(1))



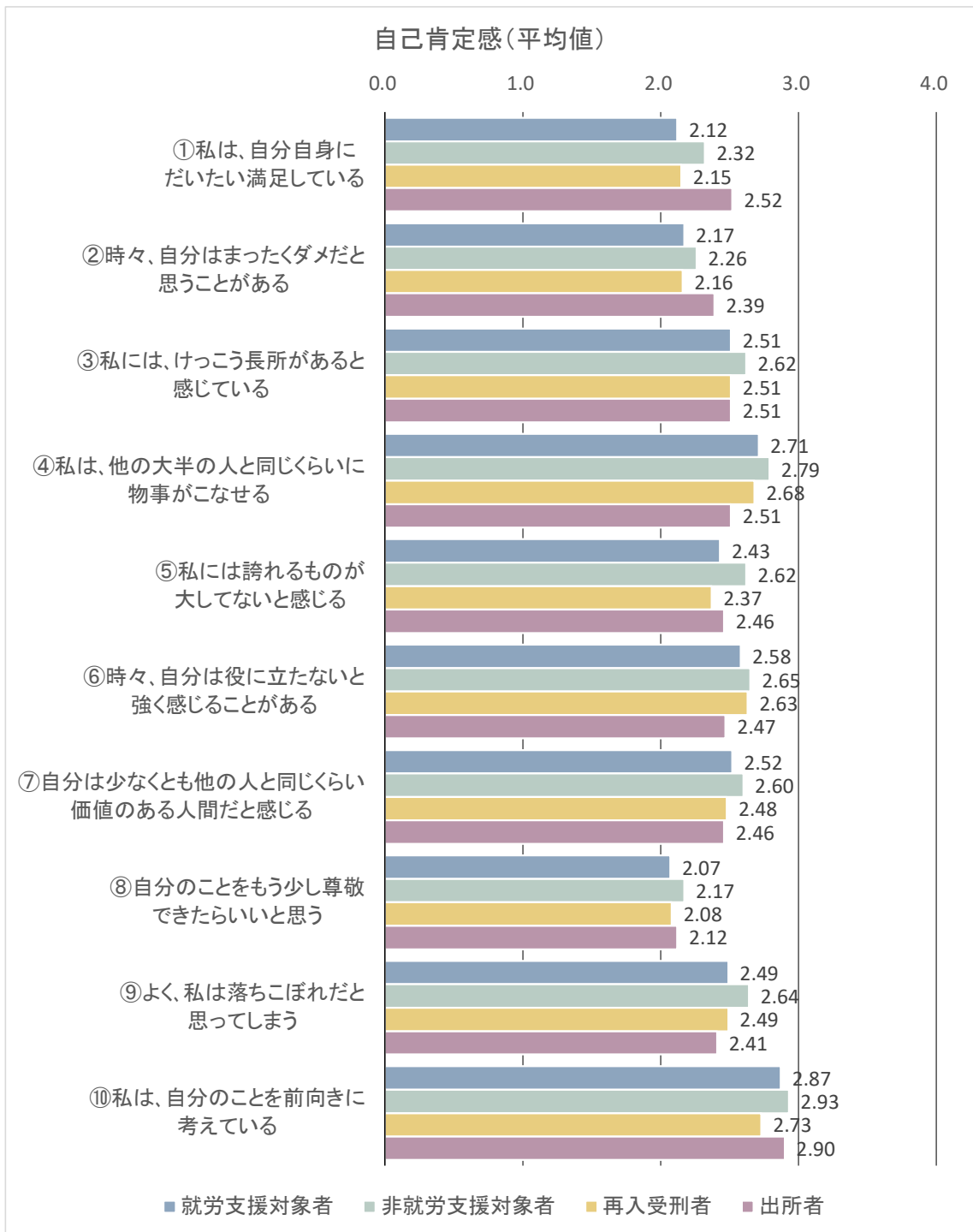
(5) 再犯と仕事の関係

「ある」が 88.1%を占めている。「ない」は 10.2% (6名) となっている。

図表 91 仕事をしていることと、再犯をしないことは関係があると思うか
 (出所者調査票問 25)

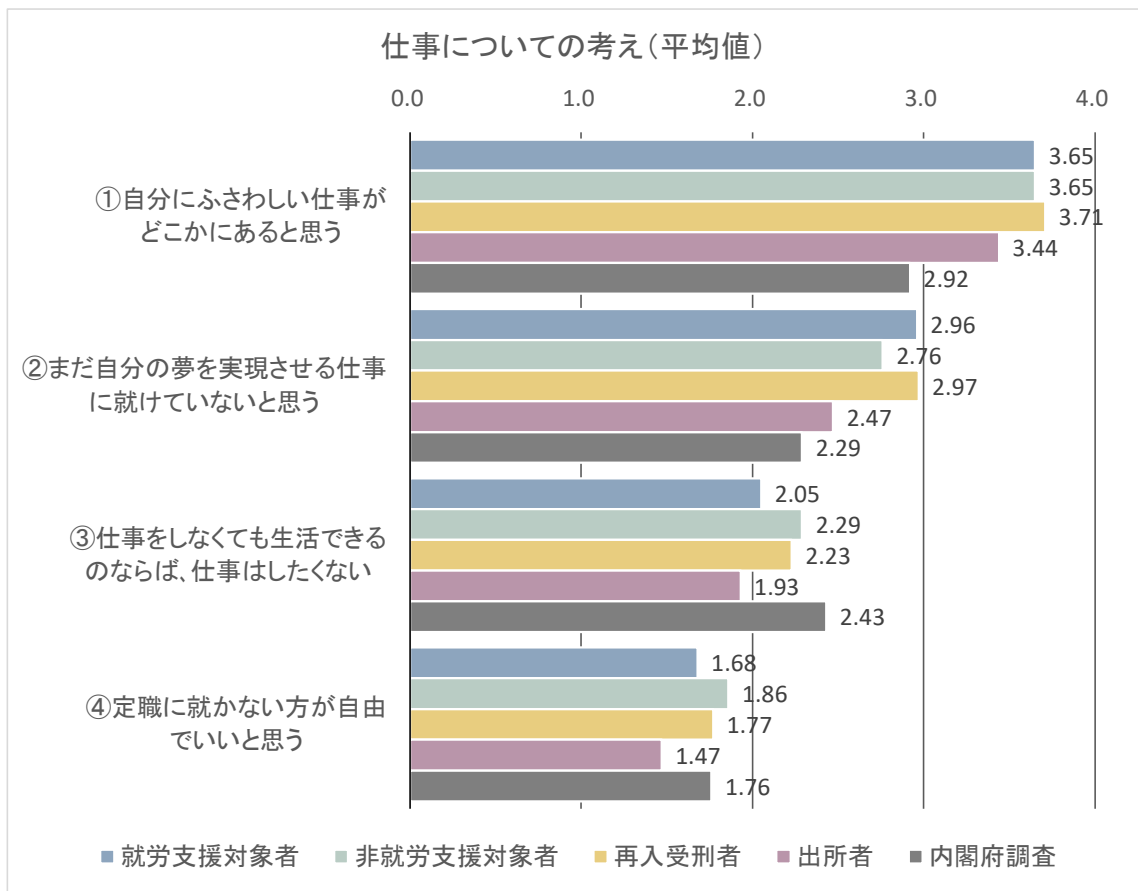


(参考) 調査間の比較 (自己肯定感、仕事や人とのつきあいについての考え)

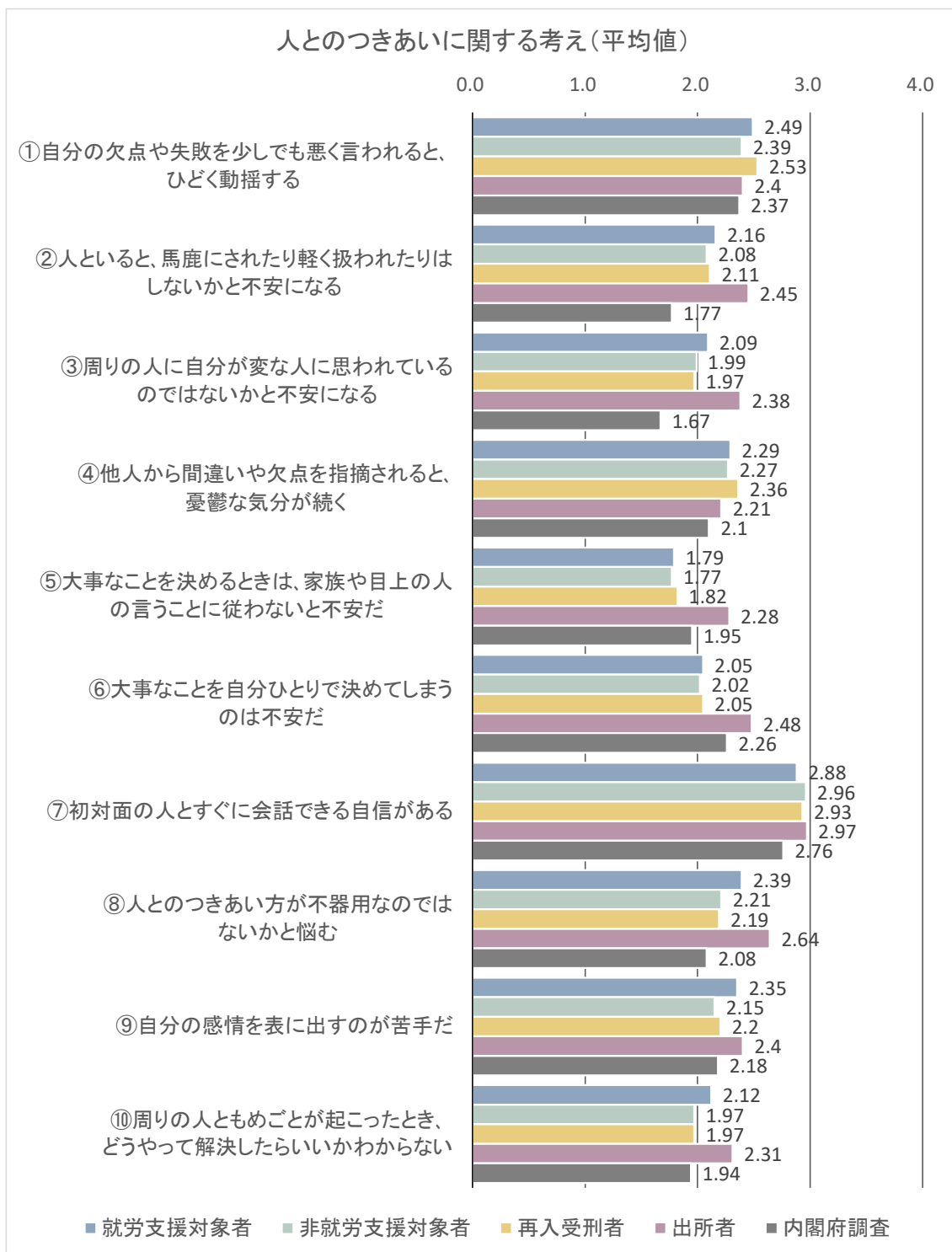


(注1) 件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。

(注2) 選択肢①③④⑦⑩については、「強くそう思う」を4点、「そう思う」を3点、「そう思わない」を2点、「強くそう思わない」を1点として点数化した。選択肢②⑤⑥⑧⑨については、「強くそう思う」を1点、「そう思う」を2点、「そう思わない」を3点、「強くそう思わない」を4点として点数化した。



- (注1) 件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。
 (注2) 内閣府調査に倣い、「はい」を4点、「どちらかといえばはい」を3点、「どちらかといえはいえ」を2点、「いいえ」を1点として点数化した。
 (注3) 「内閣府調査平均」は、広義のひきこもり群以外の数字を掲載している。



(注1) 件数は無回答を除いているため、各項目で異なっている。
(注2) 内閣府調査に倣い、「はい」を4点、「どちらかといえばはい」を3点、「どちらかといえばいいえ」を2点、「いいえ」を1点として点数化した。
(注3) 「内閣府調査平均」は、広義のひきこもり群以外の数字を掲載している。

第V章 SCRP データの分析

1. 調査実施概要

(1) データ分析の目的

SCRP データを用いたデータ分析では、受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る課題の分析を目的として、受刑者の就労や就労に至る過程、就労の継続や再犯の関係性についての実態把握を行った。

以下のテーマについて、検証を行った。

- ・ 就労支援を受ける人はどんな人か
- ・ 就労している人はどんな人か
- ・ 就労が続いている人はどんな人か

2. データ分析の結果

(1) SCRP データの概要

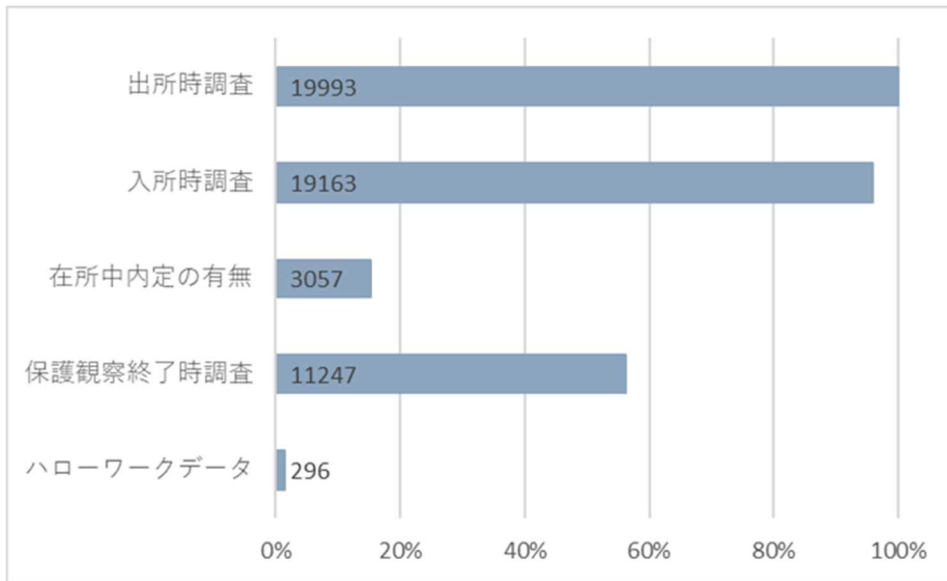
法務省の提供データは、以下に示す通りである。受刑者が受けた各種調査の情報が接続されている。令和元年、同2年の出所者を対象に分析を行った。

図表 92 分析用データセットの概要

分析用データの概要	
出所時調査	<ul style="list-style-type: none">■ 出所時の状況を調査している。■ 令和元年・2年の出所者について、以下のデータを接合している。
入所時調査 処遇内容調査	<ul style="list-style-type: none">■ 出所者の入所時の状況を記録(逮捕時の情報や検査結果など)■ 刑が確定する拘置所や検査を行う刑事施設で記録される。■ 在所中の就労支援指導の実施に関する情報を記録。
在所中調査	<ul style="list-style-type: none">■ 刑事施設側で稼働能力等があり就労可能性があると思われる受刑者を対象に調査を実施■ 希望職種や職歴などを記録している。
保護観察開始時調査 保護観察終了時調査	<ul style="list-style-type: none">■ 仮釈放された受刑者等(約6割)を対象に、保護観察の開始時と終了時に調査を実施■ 調査時点での就業状況などを記録している。
ハローワーク	<ul style="list-style-type: none">■ 厚生労働省より提供のデータ。■ 保護観察所で就労支援の対象に選ばれて職業紹介を受けて就職した受刑者のうち、上記出所時調査と接合が可能だった者のデータがある。
入所時調査(再入所)	<ul style="list-style-type: none">■ 出所年+2年で再犯によって再入所したかどうかを接合している。■ 令和元年出所者のデータには再入所日も含む。

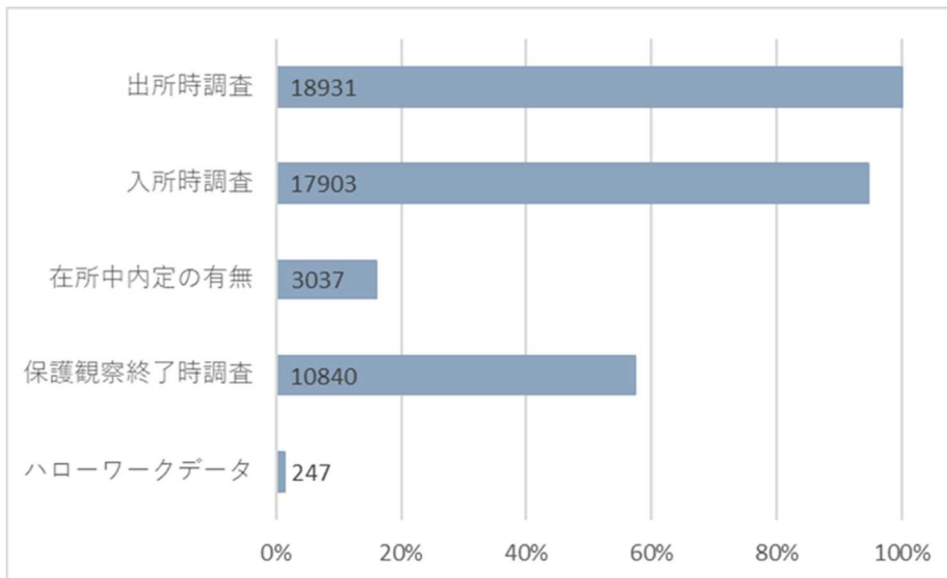
データの規模は図表 93、図表 94 に示すとおりである。令和元年出所者は 19,993 人、令和 2 年で 18,931 人であった。図表では各調査の代表的な変数(入所時調査は「統計性別」を、在所中調査からは「在所中内定の有無」を、保護観察終了時調査では「職の有無」を、ハローワークデータから「求職受理」を用いた)の接続状況を表している。

図表 93 令和元年データの接続状況



注) グラフの横軸は出所時調査の回答者数(出所者数)を100%とし、各データの接合割合を示している。グラフ内の数字はデータ内の回答者数(紐づいている出所者数)を示している。

図表 94 令和2年データの接続状況



注) グラフの横軸は出所時調査の回答者数(出所者数)を100%とし、各データの接合割合を示している。グラフ内の数字はデータ内の回答者数(紐づいている出所者数)を示している。

(2) 本分析で特に注目する変数について

本分析において、特に注目する変数は図表 95 に示す通りである。

図表 95 注目すべき変数一覧

アウトカム	変数名	データ元	説明
①就労支援の有無	■ 支援/準支援の別	■ 在所中内定調査	■ 在所中内定対象者の就労支援種別(支援・準支援)より、それぞれを1とするダミー変数を作成する。
②就労の有無	■ 保護観察終了時職	■ 保護観察終了時調査	■ 保護観察終了時に、職業が「定収入のある者」「学生・生徒」「家事従事者」「その他無職者」「不詳」以外の者を就労状態にあるとみなす。
③就労の継続	■ 保護観察終了時職	■ 在所中内定調査 ■ 保護観察終了時調査	■ 在所中内定を得て出所した者について、保護観察終了時に有職であるかどうかをもって就労継続の分析を行う。 ■ 在所中内定後、いつ時点から就労を開始したのかデータからは把握できない(就労開始前に保護観察終了の可能性)。また、就業継続は保護観察終了時の短期間に限られる。
	■ 雇入れ期間(離職日)	■ ハローワークデータ	■ 雇用保険の加入日と、加入した事務所を離職した日から雇入れ期間と打ち切り有無を把握。 ■ サンプルサイズが限られるため、予備的に分析を行うことを検討する。
④再犯	■ 再入所_2年以内	■ 入所調査(R1)	■ 出所日から730日以内に入所した者について該当者に「1」を、非該当者を「0」とするダミー変数。
	■ 再入所_白書	■ 入所調査(R1, R2)	■ 犯罪白書定義に基づく2年以内再入所の有無。 ※R1, R2共にデータあり。
⑤再犯までの期間	■ 再入所までの期間(再入所有無)	■ 入所調査(R1)	■ 出所年月と再入日を用い、再入所日までの期間を算出。 ■ R1出所者を対象に、出所日から730日以内に入所した者について、再入所時の入所日が記録されている。

3. データ分析の結果

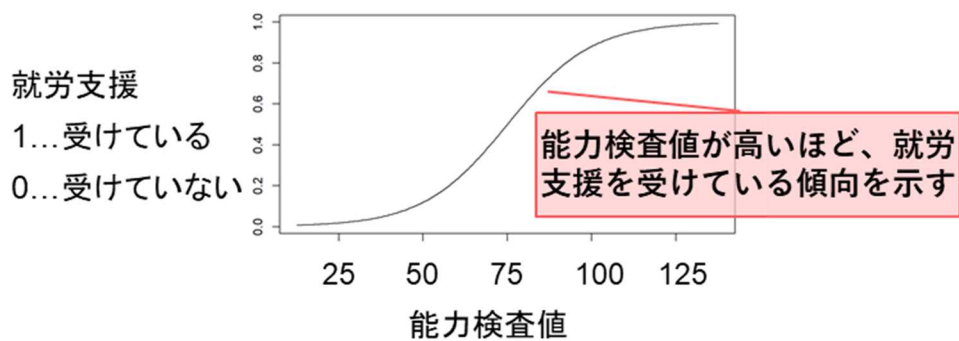
(1) 就労支援を受ける人はどんな人か

・分析のデザイン

就労支援対象又は準就労支援対象を被説明変数として、就労支援又は準就労支援の対象となっている人・なっていない人の特徴を整理する。被説明変数は就労支援対象になっていれば 1 を、そうでなければ 0 を取るダミー変数である。説明変数に受刑者の属性変数(基本的には受刑中に変化しない変数)を利用した。ロジスティック回帰モデルを構築し、個々の変数と就労支援の関係性を分析した。

ロジスティック回帰モデルを活用することで、例えば能力検査値という説明変数と就労支援の有無に正の関係が見られる場合、図表 96 のように示すことができる。図では、能力検査値が高くなるほど、就労支援が 1 となる確率が高まることを示している。

図表 96 ロジスティック回帰モデルのイメージ



・データセット

分析用のデータセット構築に向けて、令和元年、令和2年の出所者データから、被説明変数である就労支援を受けているかどうかの変数が欠損していない対象者を抽出する。就労を促す関係上、65歳未満の受刑者を分析対象とした。また、説明変数に用いる変数に欠損を含むレコードを除いた、18,184人のデータを用いた。

・記述統計

分析に用いる変数の記述統計は図表 97 に示すとおりである。ここでは、欠損を取り除いたことで特定の受刑者を取り出すバイアスが起きていないか確認している。出所者全体と分析対象のそれぞれについて各変数の平均、標準偏差を算出したものが以下の表である。全体の傾向として、平均値が大きく異なるように見られる。平均を比較すると犯罪傾向の進度が A の割合が高くなり（犯罪傾向が B の時 1 を取るダミー変数の平均値が減少しており、0 である犯罪傾向 A の比率が高まっていることがわかる）、入所回数 1 回目の受刑者の割合が高くなっている。帰住先が家族が高くなる傾向がある。ただし、大きく乖離しているとはいえないため、欠損によって特定のサンプルに偏っていないと考えられる。

図表 97 就労支援を受けているかどうかの分析に用いる変数の記述統計

変数名	R1, R2出所者全体			分析用のデータセット		
	N	平均	標準偏差	N	平均	標準偏差
女性	33383	0.09	0.29	18184	0.1	0.3
出所時年齢	33383	43.73	10.67	18184	42.61	10.54
中卒	30763	0.34	0.47	18184	0.3	0.46
高卒	30763	0.56	0.5	18184	0.59	0.49
大卒	30763	0.09	0.29	18184	0.1	0.31
能力検査値	28855	83.04	13.6	18184	85.01	12.55
入所度数_1回	33383	0.43	0.49	18184	0.5	0.5
入所度数_2回	33383	0.17	0.38	18184	0.17	0.38
入所度数_3回	33383	0.12	0.32	18184	0.12	0.32
入所度数_4回以上	33383	0.28	0.45	18184	0.22	0.41
刑期_1年以内	33371	0.15	0.36	18184	0.09	0.28
刑期_1_2年	33371	0.34	0.47	18184	0.38	0.48
刑期_2_3年	33371	0.28	0.45	18184	0.31	0.46
刑期_3_4年	33371	0.12	0.32	18184	0.13	0.34
刑期_4年以上	33371	0.11	0.31	18184	0.09	0.29
精神障害あり	30482	0.15	0.36	18184	0.11	0.32
外国籍	21077	0.04	0.2	18184	0.03	0.17
犯罪傾向B	33383	0.61	0.49	18184	0.53	0.5
帰住先_家族	33383	0.3	0.46	18184	0.37	0.48
刑期	33371	30.31	24.69	18184	29.12	15.59
出所時矯正処遇_薬物依存	33383	0.34	0.48	18184	0.4	0.49
出所時矯正処遇_暴力団	33383	0.04	0.2	18184	0.01	0.09
出所時矯正処遇_性犯罪	33383	0.04	0.19	18184	0.03	0.17

・分析結果

ロジスティック回帰モデルの分析の結果、出所時年齢の若い者のほうが就労支援を受ける傾向が確認された（図表 98）。全体としては男性よりも女性のほうが就労支援を受ける傾向が見られる。また、女性に関しては犯罪傾向 B である者のほうが就労支援を受けていることがわかる。帰住先が家族である受刑者に関しては、性別や犯罪傾向問わず就労支援を受けていない傾向が見られる。学歴について見ると、中学校卒の受刑者は就労支援を受けにくく、大学卒の受刑者は受けている傾向が見られる。ただし、統計的な有意差の観点からは、男性で犯罪傾向 A の者で特にこの傾向が見られ、女性に関しては明確に学歴の違いがあるとは言い難い結果であった。能力検査値の違いと就労支援を受けるかどうかには明確な違いは得られなかった。入所度数に関しては高いほど就労支援を受ける傾向が見られる。ただし、女性に関しては入所度数が多い者は就労支援を受けていない傾向が見られる。刑期に関しては長いほど就労支援を受ける傾向が見られた。

矯正処遇の観点からは、薬物と暴力団関係の矯正処遇を受けている者は就労支援を受けにくい傾向が見られた。精神障害ありの者については、男性の犯罪傾向 A については受けやすく、女性については受けにくいことがわかった。外国籍については総じて就労支援を受けていない傾向が見られた。

図表 98 就労支援に関するロジスティック回帰モデルの推定結果

	全体	男性(犯罪傾向A)	男性(犯罪傾向B)	女性
出所時年齢	0.99 [0.000]	0.99 [0.000]	0.99 [0.003]	0.98 [0.000]
女性	1.99 [0.000]			
犯罪傾向B	1.27 [0.102]			3.10 [0.012]
帰住先_家族	0.60 [0.000]	0.50 [0.000]	0.66 [0.000]	0.80 [0.083]
中卒	0.79 [0.000]	0.68 [0.000]	0.84 [0.003]	0.90 [0.416]
大卒	1.14 [0.044]	1.23 [0.015]	1.12 [0.369]	0.90 [0.592]
能力検査値	1.00 [0.420]	1.00 [0.710]	1.00 [0.297]	1.00 [0.399]
入所度数_2回	1.00 [0.968]	0.74 [0.256]		0.46 [0.090]
入所度数_3回	1.16 [0.211]		1.22 [0.014]	0.42 [0.065]
入所度数_4回以上	1.41 [0.003]		1.47 [0.000]	0.44 [0.081]
刑期_1_2年	1.60 [0.000]	1.91 [0.000]	1.25 [0.046]	2.31 [0.000]
刑期_2_3年	1.97 [0.000]	2.28 [0.000]	1.58 [0.000]	2.72 [0.000]
刑期_3_4年	2.36 [0.000]	2.80 [0.000]	1.75 [0.000]	4.20 [0.000]
刑期_4年以上	2.50 [0.000]	3.45 [0.000]	1.40 [0.025]	5.97 [0.000]
出所時矯正処遇_薬物依存	0.70 [0.000]	0.60 [0.000]	0.72 [0.000]	0.82 [0.128]
出所時矯正処遇_暴力団	0.42 [0.001]	2.09 [0.488]	0.42 [0.001]	
出所時矯正処遇_性犯罪	1.04 [0.719]	0.98 [0.858]	1.14 [0.560]	
精神障害あり	0.98 [0.800]	1.29 [0.031]	0.89 [0.211]	0.82 [0.147]
外国籍	0.34 [0.000]	0.19 [0.000]	0.59 [0.013]	0.34 [0.001]

注) 数値はオッズ比。括弧内は P 値を表している。出所年月、所属刑務所をコントロール変数に加えている。また刑期は 1 年以内、入所度数は 1 回を基準としている。

(2) 就労している人はどんな人か

・分析のデザイン

アウトカム

本分析では、就職している人とそうでない人の特徴を整理する。被説明変数は保護観察終了時に職についているかどうか表しており、仕事があれば1を、そうでなければ0を取るダミー変数である。説明変数に受刑者の属性変数（基本的には受刑中に変化しない変数）を利用した。就労支援の分析と同様、ロジスティック回帰モデルを構築し、個々の変数と保護観察終了時職の関係性を分析した。

・データセット

分析用のデータセット構築に向けて、令和元年、令和2年の出所者データから、被説明変数である保護観察終了時職が欠損していない対象者を抽出する。また、説明変数に用いる変数に欠損を含むレコードを除いた、16,499人のデータを用いた。

また、提供されたデータの性質上⁵、出所後から保護観察終了までの期間が13か月以下の出所者に分析の対象を限定する。また、保護観察の終了事由が保護観察期間の満了による者を分析の対象とする。

・記述統計

分析に用いる変数の記述統計は図表99に示すとおりである。ここでは、欠損を取り除いたことで特定の受刑者を取り出すバイアスが起きていないか確認している。出所者全体と分析対象のそれぞれについて各変数の平均、標準偏差を算出したものが以下の表である。全体の傾向として、平均値が大きく異ならないように見られる。平均を比較すると犯罪傾向の進捗がAの割合が高くなり、入所度数は低くなる。帰住先が家族が高くなる傾向がある。ただし、大きく乖離しているとはいえないため、欠損によって特定のサンプルに偏っていないと考えられる。

⁵ 令和元年出所者については令和2年12月31日までに保護観察が終了した者、令和2年出所者については令和3年12月31日までに保護観察が終了した者がデータに含まれている。

図表 99 保護観察終了時に有職かどうかの分析に用いる変数の記述統計

変数名	R1, R2出所者全体			分析用のデータセット		
	N	平均	標準偏差	N	平均	標準偏差
就労支援あり	33383	0.19	0.39	16499	0.22	0.42
女性	33383	0.09	0.29	16499	0.1	0.3
出所時年齢	33383	43.73	10.67	16499	42.65	10.55
中卒	30763	0.34	0.47	16499	0.3	0.46
高卒	30763	0.56	0.5	16499	0.6	0.49
大卒	30763	0.09	0.29	16499	0.11	0.31
能力検査値	28855	83.04	13.6	16499	85.11	12.5
入所度数_1回	33383	0.43	0.49	16499	0.5	0.5
入所度数_2回	33383	0.17	0.38	16499	0.17	0.38
入所度数_3回	33383	0.12	0.32	16499	0.12	0.32
入所度数_4回以上	33383	0.28	0.45	16499	0.21	0.41
刑期_1年以内	33371	0.15	0.36	16499	0.09	0.28
刑期_1_2年	33371	0.34	0.47	16499	0.38	0.49
刑期_2_3年	33371	0.28	0.45	16499	0.32	0.47
刑期_3_4年	33371	0.12	0.32	16499	0.13	0.34
刑期_4年以上	33371	0.11	0.31	16499	0.08	0.28
精神障害あり	30482	0.15	0.36	16499	0.11	0.31
外国籍	21077	0.04	0.2	16499	0.03	0.17
犯罪傾向B	33383	0.61	0.49	16499	0.53	0.5
帰住先_家族	33383	0.3	0.46	16499	0.53	0.5
刑期	33371	30.31	24.69	16499	28.71	14.92
出所時矯正処遇_薬物依存	33383	0.34	0.48	16499	0.39	0.49
出所時矯正処遇_暴力団	33383	0.04	0.2	16499	0.01	0.08
出所時矯正処遇_性犯罪	33383	0.04	0.19	16499	0.03	0.18

・分析結果

ロジスティック回帰の推定結果は図表 100 に示すとおりである。オッズ比が 1 より大きい場合は、説明変数が増加したときに就職している傾向も強くなり、オッズ比が 1 より小さい場合は説明変数が増加したときに就職している傾向が弱くなることを示している。

統計的有意性について見ると、就労支援を受けている者は保護観察終了時に有職である傾向が見られる。これは、性別や犯罪傾向に関わらず見られる。同様に出身時年齢についても、年齢が若い人ほど就労している傾向が見られる。

分析対象について全体の分析からは、男性と比較して女性のほうが就労していない傾向が見られた。犯罪傾向の違いは職の有無に影響しないことも分かった。

帰住先に家族がいる受刑者は、保護観察終了時に就労していない傾向が見られる。特に男性の犯罪傾向 B の者や女性でその傾向が確認できる。学歴について、高校卒業時を基準とすると中学卒業の者は保護観察終了時に就労している傾向があり、大学卒業程度の者は就労していない傾向が見られる。ただし、女性に関しては学歴間で有意な差は見られなかった。能力検査値については高いほうが高まる傾向が見られる。入所度数については、犯罪傾向 A の者で 2 回目の入所のものにつ

いては就労の傾向が見られる。女性に関しては入所度数が 4 回目以上の者は就労の傾向が見られた。

刑期の長さには明確な関係性は見られなかった。矯正処遇に関しては、犯罪傾向 A の者について薬物依存の処遇があれば保護観察終了時に就労していない傾向が見られたが、それ以外では確認されなかった。

その他、精神障害ありとされる者や外国籍の者については、保護観察終了時に有職でない傾向が見られた。

図表 100 保護観察終了時有職に関する
ロジスティック回帰モデルの推定結果

	全体	男性(犯罪傾向A)	男性(犯罪傾向B)	女性
就労支援あり	1.25 [0.000]	1.24 [0.013]	1.14 [0.049]	1.66 [0.000]
出所時年齢	0.97 [0.000]	0.97 [0.000]	0.96 [0.000]	0.97 [0.000]
女性	0.17 [0.000]			
犯罪傾向B	1.05 [0.713]			0.63 [0.272]
帰住先_家族	0.75 [0.000]	0.90 [0.147]	0.63 [0.000]	0.67 [0.001]
中卒	1.21 [0.000]	1.22 [0.018]	1.24 [0.000]	1.18 [0.188]
大卒	0.75 [0.000]	0.69 [0.000]	0.76 [0.014]	0.97 [0.857]
能力検査値	1.01 [0.000]	1.02 [0.000]	1.01 [0.001]	1.03 [0.000]
入所度数_2回	1.17 [0.144]	2.14 [0.005]		1.41 [0.420]
入所度数_3回	1.27 [0.032]		1.11 [0.151]	1.34 [0.511]
入所度数_4回以上	1.19 [0.114]		1.01 [0.845]	1.61 [0.279]
刑期_1_2年	0.94 [0.407]	0.82 [0.106]	1.00 [0.976]	1.06 [0.785]
刑期_2_3年	0.93 [0.338]	0.84 [0.204]	0.94 [0.570]	1.09 [0.730]
刑期_3_4年	0.87 [0.130]	0.81 [0.156]	0.85 [0.221]	1.16 [0.608]
刑期_4年以上	0.95 [0.596]	1.02 [0.893]	0.77 [0.083]	1.29 [0.480]
出所時矯正処遇_薬物依存	0.86 [0.000]	0.77 [0.001]	0.93 [0.228]	0.82 [0.116]
出所時矯正処遇_暴力団	0.82 [0.355]	0.67 [0.746]	0.83 [0.376]	
出所時矯正処遇_性犯罪	0.94 [0.571]	0.86 [0.302]	0.96 [0.852]	
精神障害あり	0.52 [0.000]	0.45 [0.000]	0.50 [0.000]	0.75 [0.028]
外国籍	0.27 [0.000]	0.20 [0.000]	0.44 [0.000]	0.72 [0.234]

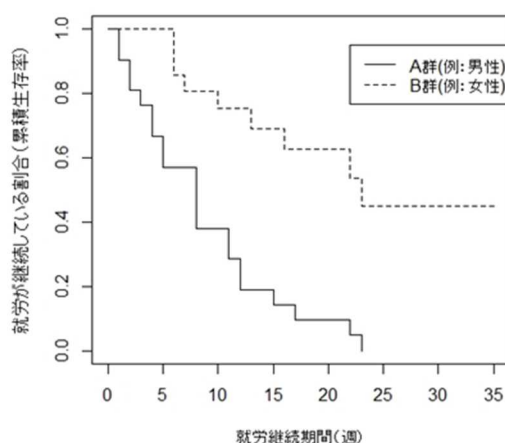
注) 数値はオッズ比。括弧内は P 値を表している。出所年月、所属刑務所をコントロール変数に加えている。また刑期は 1 年以内、入所度数は 1 回を基準としている。

(3) 就労が続いている人はどんな人か

・分析のデザイン

ハローワークデータ内にある就業が継続した期間を分析対象として、就労が継続できている人とできていない人について分析を行う。説明変数に受刑者の属性変数（基本的には受刑中に変化しない変数）を利用した。分析にあたっては、コックス比例ハザードモデルを利用し、特定の属性を持つ出所者について、特定の期間が経過するごとに、就労継続の確率がどのように変化するかを推定する。例えば、図表 101 図表 101 は性別の違いが就労継続に違いをもたらすと仮定した際の就労継続率のイメージである。横軸は保護観察終了時からの期間、縦軸は就労を継続している人の割合を示す。男性の就労継続の推移を実線、女性の就労継続の推移を点線で表現している。図のような推移を取る場合、女性のほうが男性より就労が継続している。こうしたケースは推定結果では女性ダミーが正の係数を取ることで示される。

図表 101 就労継続に関する分析のイメージ



・データセット

令和元年、2年の出所者のうち、ハローワークデータと接続できている者を分析の対象とする。分析に用いる説明変数で欠損の無かった 353 人⁶が分析対象となった。

・記述統計

分析に用いる変数の記述統計は図表 102 に示すとおりである。ここでは、欠損を取り除いたことで特定の受刑者を取り出すバイアスが起きていないか確認してい

⁶ 観察期間内で離職が確認されたサンプルは 152 人で、そのうち 145 人は 1 年以内に離職が観察された。

る。出所者全体と分析対象のそれぞれについて各変数の平均、標準偏差を算出したものが以下の表である。全体の傾向として、平均値が大きく異ならないように見られる。平均を比較すると犯罪傾向の進度が A の割合が高くなり、学歴の水準が多少高く、入所度数は低くなる。また就労支援を受けた割合が高くなる傾向がある。ただし、大きく乖離しているとはいえないため、欠損によって特定のサンプルに偏っていないと考えられる。

図表 102 就労継続に関する分析で用いる変数の記述統計

変数名	R1,R2出所者全体			分析用データセット		
	N	平均	標準偏差	N	平均	標準偏差
女性	38838	0.10	0.30	353	0.10	0.31
精神障害あり	35498	0.14	0.35	353	0.08	0.27
出所時年齢	38838	47.68	14.04	353	43.27	11.13
外国籍	23291	0.04	0.20	353	0.00	0.00
犯罪傾向B	38838	0.63	0.48	353	0.50	0.50
帰住先_家族	38944	0.39	0.49	353	0.35	0.48
中卒	35816	0.37	0.48	353	0.24	0.43
高卒	35816	0.54	0.50	353	0.62	0.49
大卒	35816	0.09	0.29	353	0.14	0.35
保護観察終了までの期間	22087	4.63	2.77	353	4.37	2.34
仮釈放者	38944	0.60	0.49	353	1.00	0.00
能力検査値	33626	80.87	15.06	353	84.84	11.90
入所度数	38838	3.17	2.99	353	2.37	2.12
刑期	38805	30.13	24.86	353	32.40	17.72
出所時矯正処遇_薬物依存	38944	0.31	0.46	353	0.26	0.44
出所時矯正処遇_暴力団	38944	0.04	0.19	353	0.01	0.08
出所時矯正処遇_性犯罪	38944	0.03	0.18	353	0.08	0.27
出所時矯正処遇_就労支援	38944	0.15	0.35	353	0.33	0.47
刑名_懲役	38944	0.92	0.27	353	0.93	0.26
刑名_一部猶予付懲役	38944	0.08	0.27	353	0.07	0.26
刑名_禁固	38944	0.00	0.05	353	0.00	0.00

・分析結果

コックス比例ハザードモデルの推定結果は図表 103 に示すとおりである。係数が正值の場合、就労継続しない確率が高まることを示す。

統計的な有意差という観点からは、犯罪傾向 B の者は就労が継続しにくい傾向

が見られる。また、能力検査値が高い出所者は就労が継続しやすい傾向が見られる。性犯罪の矯正処遇を受けたことがある者はそうでないものと比較すると継続しやすい傾向にあることがわかる。

図表 103 就労継続に関するコックス比例ハザードモデルの推定結果

	係数	標準誤差	オッズ比
女性	-0.04	0.29	0.96
犯罪傾向B	0.48**	0.19	1.61
帰住先_家族	-0.17	0.20	0.84
中卒	0.02	0.20	1.02
大卒	0.34	0.25	1.40
能力検査値	-0.01*	0.01	0.99
刑期	-0.01	0.01	0.99
出所時矯正処遇_薬物依存	0.22	0.20	1.24
出所時矯正処遇_性犯罪	-1.18*	0.61	0.31
出所時矯正処遇_就労支援	0.06	0.19	1.07
精神障害あり	0.34	0.27	1.41
サービス職業従事者	0.16	0.23	1.17
建設・採掘従事者	0.25	0.20	1.29

注) ***は p 値が 0.01 以下、**は 0.05 以下、*は 0.1 以下であることを示す

4. 結果のまとめ

(1) 結果のまとめ

本分析の結果をまとめると図表 104 の通りとなる。

図表 104 分析結果の一覧

要因	就労支援を受ける人はどんな人か	就労している人はどんな人か	就労が続いている人はどんな人か
年齢	若い人ほど就労支援を受けている	若い人ほど就労している	
犯罪傾向	女性では犯罪傾向Bのほうが就労支援を受けている	-	犯罪傾向Bは続きにくい
帰住先家族の有無	家族ありだと就労支援を受けていない傾向あり	男性・犯罪傾向Bと女性では就労していない傾向	-
学歴	男性・犯罪傾向Aのみ、高いほど受けている傾向あり	男性では学歴の高いもので就労していない傾向あり	-
能力検査値	-	高いほど就労傾向がある	高い人ほど続きやすい
入所度数	男性・犯罪傾向Bについては、入所度数が多いほど受けている	一部で多いほど就労傾向が見られる	
刑期	長いほど受けている	-	-
薬物依存	就労支援を受けていない	就労していない傾向あり	-
暴力団	-	-	
性犯罪	-	-	他と比べて続きやすい傾向あり
就労支援	-	就労支援を受けている人は就労しやすい	-
精神障害	男性・犯罪傾向Aでは受けており、女性では受けていない傾向がある	障害ありだと就労していない傾向	

注) ハイフンは明確な関係が見られなかった項目、空白は分析の都合上変数としてモデルに組み込まなかった変数。

(2) 分析で残った課題、今後に向けて

本分析に関する課題等や次年度に向けての示唆をまとめる。

- ・ サンプルサイズ不足

就労継続の分析に関しては、分析に利用できた出所者数が限られていた。次年度以降、データに追加があれば、分析の精度が高まると考えられる。

- ・ 分析結果の解釈について

本分析では相関分析にとどまっており、因果関係を論じることは難しい。

- ・ 未活用変数

本分析では基本的には刑務所内で変化しない変数（性別や学歴等）について着目し、分析を進めてきた。しかしながら、SCRIP には刑務所内の態度や訓練内容、これまでの就労経験など、分析に活用できそうな変数が存在している。それらを分析可能な形に加工する必要があるが、活用の余地があると考えられる。

・取り扱った分析手法の深掘りについて

本分析ではロジスティック回帰モデルやコックス比例ハザードモデルのそれぞれについて一般的な分析手法を用いている。分析の精度を高める観点でのモデルの妥当性や設定については検討を深める余地がある。

・回帰分析以外の手法利用について

回帰分析がベースとなった分析を行ったことで、個々の要因がアウトカムとどのような関係性があるかを示すことができた。一方、SCRIP データには複数のアウトカムを含んでいるため、特定のアウトカムを組み合わせた際にどのような人であるかを確認することができる（例えば就労支援を受けたが在所中内定を得ていない人はどんな人か、就労支援を受けて在所中内定を得て、保護観察終了時に有職であるにもかかわらず再犯してしまう人はどんな人か等）。そうしたアウトカムに関して関係を整理したものが図表 105 である。各グループに含まれている人がどんな人かを示す 1 つの方法としてはクラスター分析の活用が可能⁷である。また、どのような要因の違いで異なるグループに入ってしまうのかを検討するには、例えば決定木のような手法に活用の余地がある。

図表 105 アウトカムの組み合わせ別の出所者数

グループID	就労支援の有無	在所中内定の有無	保護観察終了時 の有職	再犯（白書定 義）の有無	男性 × 犯罪傾向A	男性 × 犯罪傾向B	女性	総計
1	-	-	-	-	1837	2108	1045	4990
2	-	-	-	○	123	580	161	864
3	-	-	○	-	4682	3858	556	9096
4	-	-	○	○	228	826	69	1123
5	○	-	-	-	258	338	212	808
6	○	-	-	○	23	93	32	148
7	○	-	○	-	865	751	270	1886
8	○	-	○	○	68	203	27	298
9	○	○	-	-	41	64	21	126
10	○	○	-	○	6	31	5	42
11	○	○	○	-	428	287	57	772
12	○	○	○	○	34	104	6	144

⁷ ただし、量的・質的データの両方を含んだデータであるため、適用可能な分析手法を検討する必要がある。

令和4年度法務省委託事業

「受刑者の就労意欲喚起及び出所後の就労継続に係る課題分析を通じた問題性別就労指導プログラム及び就労問題アセスメントツールの開発のための調査研究事業」

データ分析報告書

五石敬路（大阪公立大学大学院都市経営研究科）

データ分析報告書.....	1
はじめに	1
第1章 既存研究のサーベイ：静的・動的リスクと長所.....	2
第2章 職業訓練・就労支援の就職に対する効果分析	3
2.1 データベースについて	3
2.2 マッチング作業	4
2.3 職業訓練・就労支援の職の有無に対する効果.....	6
第3章 職業訓練・就労支援の再入所防止に対する効果分析	10
3.1 保護観察開始時と終了時における変化への着目	10
3.2 職業訓練・就労支援の再入所リスクに対する効果	12
第4章 在所中内定の効果	16
第5章 考察	18
【参考文献】	19

はじめに

本報告書は、「刑事情報連携データベースシステム（System for Crime and Recidivism Prevention:SCRIP）」¹から2019年（令和元年）に刑務所を出所した者の職業訓練や就労支援の受講等に関するデータベース及び2020年（令和2年）に刑務所を出所した者の職業訓

¹ SCRIP から抽出したデータは、法務省が公表している各種統計値と一致しない場合がある。

練や就労支援の受講等に関するデータベースを用いて、職業訓練及び就労支援を受けることが、就職に影響しているか、また、再犯防止につながっているかを分析することを目的としている。分析の手法としては、職業訓練及び就労支援による介入の効果を調べるため、傾向スコアマッチングを用いた。

報告書の構成は以下のとおりである。まず職の有無が再犯に及ぼす影響、職業訓練及び就労支援が刑務所出所後の就労の確率や再犯を防止する効果に関する国内外の先行研究をサーベイした。国内では大規模なデータベースを用いた実証分析はあまり行われていないようだが、海外では、これらの研究成果が蓄積され、各分析結果を包括的に分析・評価するメタアナリシスも行われている。本報告書でも、そこから得られた知見に基づき、分析方法を検討した。

次の第2章では職業訓練及び就労支援を行ったことによる刑務所出所後の就労への効果を分析し、第3章では職業訓練及び就労支援を行ったことによる2年以内の刑務所再入所の確率に対する効果の分析を行った。第4章では在所中内定の有無の違いによって、刑務所出所後の職の有無や2年以内の刑務所再入所の確率に違いがあるかどうかを分析する。第5章では、これらの分析結果に対し、先行研究の動向をふまえた考察を行った。

第1章 既存研究のサーベイ：静的・動的リスクと長所

再犯予防に関する既存のモデルは、Risk-Need-Responsivity モデル（羽間・勝田 2021）に代表されるリスク管理モデルと、受刑者及び刑務所出所者のポジティブな面に着目した長所基盤モデル（Maruna and Lebel 2003）に大別される。このうち、リスク管理モデルでは、リスクをさらに静的な要因（犯罪歴、年齢、性別、人種等）と、動的な要因（犯罪仲間、自尊心、薬物乱用、失業等）に分けて論じる。一方、長所基盤モデルは、刑務所出所者の人格的特徴、スキル、知識、興味といった資産を特定し、それを活用しようとするものである。

このうち、リスク管理モデルは指標化しやすいので、データ分析になじみやすい面があるだろう。海外では多くの研究結果が報告されている。Eisenberg et al. (2019)は再犯のリスク要因に関するメタアナリシスを行う中で、リスク要因を動的・静的にわけ、動的リスクの方が再犯率に対する説明力が高いとした。なかでも、職の有無が再犯の確率に及ぼす影響については、失業が再犯の確率を高めるとした分析結果が多い（Lockwood et al. 2012、Lockwood et al. 2016、Siwach 2018）。一方、Ramakers et al. (2017)は、どんな仕事でも良いということではなく、特に安定した雇用と高い職業レベルの仕事が犯罪率を下げる効果を持つとした。また、Schneepel (2018)は建設業や製造業の雇用機会の増加は、再犯率の有意な低下と関連しており、社会復帰のためのプログラムを設計する際には、やはり雇用の質を考慮する必要があるとした。全体として、職を持つことによって再犯のリ

スクを下げるが、賃金等の労働条件も重要だと言えよう。

もっとも、職業訓練や就労支援の再犯に対する効果は結果がまちまちである。効果があるとした研究として、Graffam et al. (2014) は長期的な釈放後の就労支援プログラムが再犯の減少という点で好ましい効果をもたらすとし、Duwe and McNeeley (2020) は、全体の収容期間のうち刑事施設で仕事をする割合が増えるにつれて、受刑中の規律違反行為、刑務所出所後の就労、そして再犯のいくつかの指標に有意な改善が見られたと報告している。

一方では効果がなかった、もしくは確認できなかったという研究も少なくない。すなわち、Jacobs (2012) によれば、雇用プログラムは、2年間のフォローアップ期間中、再犯の主要な指標に大きな影響を与えなかった。また、Farabee (2014) は就労を中心にした再犯予防プログラムに統計的に有意な効果は見いだせなかった。Alós et al. (2015) は、再犯ではなく雇用可能性について分析した研究だが、刑務作業には雇用可能性に有利な効果があるものの、職業訓練にはあまり効果がない、あるいは全く効果がないと報告している。

以上のように、職業訓練や就労支援等のプログラムの効果については、肯定的な結果もあれば否定的な結果もある。もっとも、各国ごとの制度、プログラム内容、支援する人材等によるところも大きいと考えられるので、結果がまちまちであるのも当然かもしれない。

第2章 職業訓練・就労支援の就職に対する効果分析

2.1 データベースについて

前章における既存研究の結果を受け、ここでは、職業訓練、就労訓練の就労に対する効果及び再犯（再入所）防止に対する効果についての分析を行う。リスク要因については、性別や年齢等の静的要因だけでなく、離職や生活状況等の動的要因についても検討に入れていきたい。分析対象はデータベースのうち、仮釈放により出所したサンプルである。分析方法としては傾向スコアマッチング（ロジスティック回帰分析による最近傍マッチング）を用いた。マッチング後のサンプル数は、職業訓練を受けたケースが4,572、受けていないケースが3,180であり、就労支援を受けたケースが3,671、受けていないケースが2,995であった。図表1がデータベースの基本統計量である。職の有無は、保護観察終了時点を基準に考えている。また図表2では職業訓練・就労支援を受けた割合を示した。職業訓練を受けた割合は全体の24.3%、就労支援を受けた割合は19.5%である。

図表 1：データベースの基本統計量

	サンプル数	最小	最大	平均	標準偏差
職業訓練	18,825	0.0	1.0	0.2	0.4
就労支援	18,825	0.0	1.0	0.2	0.4
終了時有職	18,825	0.0	1.0	0.7	0.5
性別	18,825	1.0	2.0	1.1	0.3
出所時年齢	18,825	20.0	92.0	45.5	13.3
刑期	18,825	2.0	139.0	28.8	15.3
入所度数	18,825	1.0	24.0	2.6	2.3
精神障害	18,825	0.0	1.0	0.1	0.3
外国籍	18,825	0.0	1.0	0.02	0.1
学歴	18,825	0.0	4.0	2.8	0.6
帰住先_家族	18,825	0.0	1.0	0.5	0.5
能力検査値	18,825	7.0	124.0	83.7	13.4
犯罪傾向 B	18,825	0.0	1.0	0.5	0.5

(注) 性別は男性 1、女性 2。学歴は不就学 0、小学校 1、中学校 2、高等学校 3、大学 4 (不詳、未調査は除いた)。能力検査値は指数をそのまま使った (0~2 は除いた)。

図表 2：職業訓練・就労支援を受けた割合

	受けていない	受けた	計
職業訓練	14,235 (75.7%)	4,572 (24.3%)	18,825 (100.0%)
就労支援	15,154 (80.5%)	3,671 (19.5%)	18,825 (100.0%)

2. 2 マッチング作業

次に、図表 3～4 は職業訓練を受けたグループ (介入群) と受けていないグループ (統制群) のマッチングを行う前の変数の平均値と、マッチングを行った後の変数の平均値を表している。マッチングにより統制群と対照群の平均値の差が小さくなれば、ランダム化比較試験 (Random Controlled Trials) のような振り分けを疑似的に実現できたと考えるわけである。目安としては、介入群の平均と統制群の平均の差を標準偏差で割った標準化差の絶対値が 0.1 を下回れば良いとされる。図表 3 によれば、マッチング前の標準化差は絶対値が 0.1 以下という条件を満たしていない変数が多いが、マッチングを行った後の図表 4 では、いずれの変数も条件を満たしていることが分かる。

また、図表5～6は就労支援を受けたグループ（介入群）と受けていないグループ（統制群）のマッチングを行う前の変数の平均値と、マッチングを行った後の変数の平均値を表しており、マッチングを行った後の図表6では、やはりいずれの変数も条件を満たしている。

以上の作業により、職業訓練、就労支援を受けた者のもとの属性の違いによる影響を除いたと考えるわけである。ただし、あくまで図表1に掲載した変数の範囲内であるので、完全に属性の違いを除去できたわけではない点に留意が必要である。

図表3：介入群と統制群の変数の平均比較（マッチング前、職業訓練）

	介入群の平均	統制群の平均	標準化差
性別	1.17	1.09	0.23
出所時年齢	41.10	46.93	-0.53
刑期	35.92	26.50	0.54
入所度数	2.14	2.69	-0.29
精神障害	0.09	0.12	-0.10
外国籍	0.02	0.02	-0.02
学歴	2.85	2.77	0.13
帰住先_家族	0.56	0.48	0.15
能力検査値	87.50	82.45	0.45
犯罪傾向B	0.43	0.57	-0.30

図表4：介入群と統制群の変数の平均比較（マッチング後、職業訓練）

	介入群の平均	統制群の平均	標準化差
性別	1.17	1.17	0.00
出所時年齢	41.10	41.33	-0.02
刑期	35.92	36.15	-0.01
入所度数	2.14	2.17	-0.02
精神障害	0.09	0.09	-0.01
外国籍	0.02	0.02	-0.01
学歴	2.85	2.85	-0.01
帰住先_家族	0.56	0.56	0.01
能力検査値	87.50	87.52	-0.00
犯罪傾向B	0.43	0.43	-0.01

図表 5：介入群と統制群の変数の平均比較（マッチング前、就労支援）

	介入群の平均	統制群の平均	標準化差
性別	1.12	1.10	0.04
出所時年齢	43.37	46.04	-0.24
刑期	30.35	28.41	0.13
入所度数	2.58	2.55	0.01
精神障害	0.10	0.11	-0.02
外国籍	0.01	0.02	-0.07
学歴	2.83	2.78	0.09
帰住先_家族	0.38	0.53	-0.30
能力検査値	85.56	83.22	0.19
犯罪傾向 B	0.55	0.54	0.02

図表 5：介入群と統制群の変数の平均比較（マッチング後、就労支援）

	介入群の平均	統制群の平均	標準化差
性別	1.12	1.11	0.01
出所時年齢	43.37	43.37	0.00
刑期	30.35	30.40	-0.00
入所度数	2.58	2.58	0.00
精神障害	0.10	0.10	-0.00
外国籍	0.01	0.02	-0.02
学歴	2.83	2.83	-0.02
帰住先_家族	0.38	0.38	0.00
能力検査値	85.56	85.37	0.02
犯罪傾向 B	0.55	0.55	-0.02

2. 3 職業訓練・就労支援の職の有無に対する効果

では、マッチング後のデータを用いて、保護観察終了時における職の有無を目的変数としてロジスティック回帰分析を行う。ここでは、過学習（オーバーフィッティング）を防ぐため 10 分割の交差検証を採用した。

図表6は、説明変数に職業訓練を入れた場合（表中の終了時職あり（1））、就労支援を入れた場合（終了時職あり（2））の結果をそれぞれ示している。職業訓練と就労支援の係数はいずれも1%水準で有意であり、符号は+である。つまり、職業訓練や就労支援を受けていれば、保護終了時に職を持っている確率は高まる。

また、そのほかの変数も外国籍以外はすべて1%水準で有意となっている。その意味するところを列挙すれば、職を持っている確率が高いのは、男性、出所時年齢が若い、刑期が長い、入所度数が少ない、精神障害がない、学歴が低い、帰住先が家族、能力検査値が高い、犯罪傾向がBである。

では、このロジスティック回帰分析によって得られた係数が、どの程度、予測能力を持つかを示したのが、図表7（職業訓練）と図表8（就労支援）である。図表7で言えば、職業訓練を受けた者について、職がないと予測された者のうち実際に職がなかったのが586人、職があると予測された者のうち実際に職があったのが5,263人である。この予測があった人数の全体の人数に対する割合を正解率（Accuracy）と言い、75.5%であった。職があると予測された者のうち、実際に職があった割合を適合率（Precision）と言い、77.2%であった。また、実際に職があった者のうち、職があると正しく予測できた割合を再現率（Recall）と言い、93.8%であった。図表8の就労支援の場合についても、これらの数字は似たような結果を得ており、全体的にまずまずの予測率と言える。

では、図表6におけるロジスティック回帰分析において、一体どの変数の影響度が最も強いのだろうか。それを表したのが図表9（職業訓練）と図表10（就労支援）である。これを見ると、両者において、性別、年齢、精神障害といった静的な要因の重要度が高いことが分かる。しかし、図表9における職業訓練は四番目に重要度が高いことが示されており、職業訓練の効果の大きさを確認することができる。一方、図表10の就労支援については、下から四番目であり、効果は大きくないと言える。

図表6：終了時職ありを目的変数としたロジスティック回帰分析の結果

	目的変数			
	終了時職あり（1）		終了時職あり（2）	
	係数	オッズ比	係数	オッズ比
職業訓練	0.37*** (0.06)	1.45 (1.30 - 1.62)		
就労支援			0.22*** (0.06)	1.25 (1.12 - 1.40)
性別	-1.10*** (0.07)	0.33 (0.29 - 0.38)	-0.82*** (0.08)	0.44 (0.37 - 0.52)
出所時年齢	-0.04***	0.96	-0.04***	0.96

	(0.00)	(0.95 – 0.97)	(0.00)	(0.96 – 0.97)
刑期	0.01*** (0.00)	1.01 (1.00 – 1.01)	0.01*** (0.00)	1.01 (1.01 – 1.02)
入所度数	-0.06*** (0.02)	0.94 (0.91 – 0.98)	-0.08*** (0.02)	0.93 (0.89 – 0.96)
精神障害	-0.72*** (0.09)	0.49 (0.41 – 0.58)	-0.66*** (0.09)	0.52 (0.43 – 0.61)
外国籍	-0.18 (0.19)	0.84 (0.58 – 1.21)	-0.38 (0.22)	0.69 (0.45 – 1.05)
学歴	-0.16*** (0.05)	0.85 (0.77 – 0.94)	-0.17*** (0.05)	0.84 (0.76 – 0.93)
帰住先_家族	-0.21*** (0.06)	0.81 (0.72 – 0.91)	-0.37*** (0.06)	0.69 (0.61 – 0.78)
能力検査値	0.01*** (0.00)	1.01 (1.00 – 1.01)	0.02*** (0.00)	1.02 (1.01 – 1.02)
犯罪傾向 B	-0.29*** (0.08)	0.75 (0.64 – 0.87)	-0.16* (0.08)	0.85 (0.73 – 0.99)

注) 表中の係数の欄における***は1%水準で有意、**は3%水準で有意、*は5%水準で有意。また、括弧内は標準誤差。オッズ比の欄における括弧内は95%信頼区間。なお、表中の数値は小数点第3位で四捨五入している。

図表7：終了後職の有無に関する Confusion Matrix (職業訓練)

		実際	
		職なし	職あり
予測	職なし	586	347
	職あり	1,556	5,263

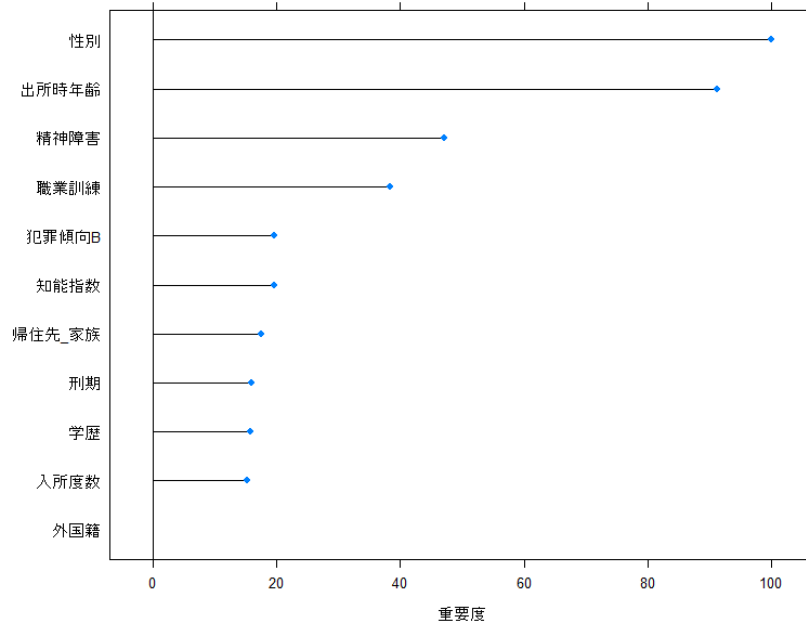
正解率 (Accuracy) =75.5%、適合率 (Precision) =77.2%、再現率 (Recall) =93.8%。

図表8：終了後職の有無に関する Confusion Matrix (就労支援)

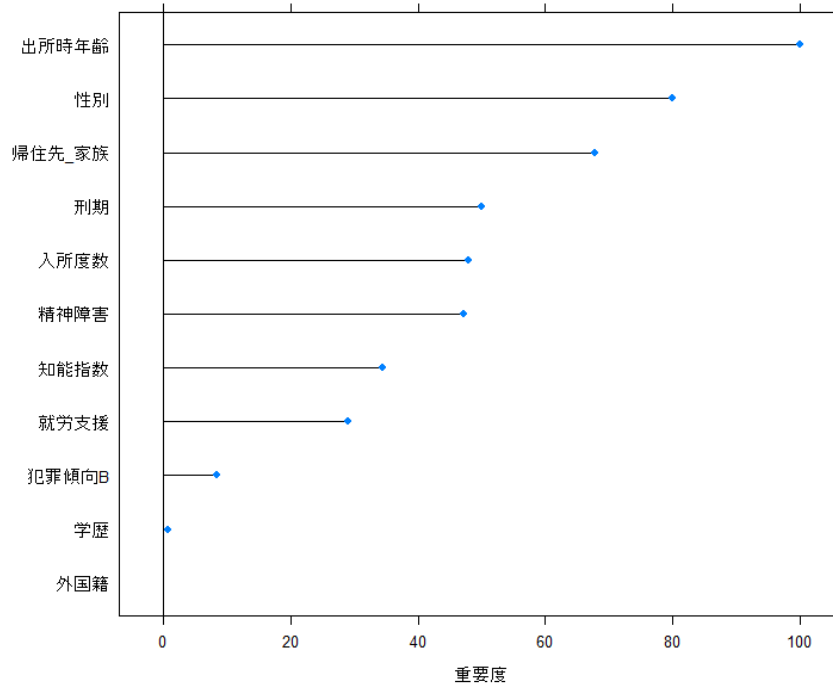
		実際	
		職なし	職あり
予測	職なし	181	135
	職あり	828	2,505

正解率 (Accuracy) =73.6%、適合率 (Precision) =75.2%、再現率 (Recall) =94.9%。

図表 9：終了後職の有無の説明力における変数の重要度（職業訓練）



図表 10：終了後職の有無の説明力における変数の重要度（就労支援）



第3章 職業訓練・就労支援の再入所防止に対する効果分析

3. 1 保護観察開始時と終了時における変化への着目

次に、職業訓練、就労支援の再犯（再入所）に対する効果についての分析を行う。分析対象は2019年（令和元年）出所者のみとした。2020年（令和2年）出所者のデータベースは2年以内再入所の変数の定義が、2019年のそれと異なっているためである。また、出所年月から2年後の年月が、保護観察終了の年月より遅いケースは、サンプルから除外した。分析方法は、前章と同様の傾向スコアマッチング（ロジスティック回帰分析による最近傍マッチング）である。

図表11は基本統計量の一覧である。2年以内に再入所した者は1,536人であり、全体の16.4%であった。図表12は、2019年における職業訓練・就労支援を受けた割合を表しており、職業訓練を受けた者は全体の23.8%、就労支援を受けた者は全体の18.9%であった。

2年以内の再入所に対する動的リスクとして、特に就労状況や生活上の変化に着目した。図表13は、保護観察開始時と終了時における職の有無の変化を表したものである。最も多いケースが、開始時には職はなかったものの、終了時には職を持っていたケースで、これが全体の53.6%を占めた。次に多かったのが、開始時においても終了時においても、職がなかったケースであり、全体の30.6%であった。開始時においても終了時においても職を持っていたケースは全体の14.2%で、開始時に職はあったが終了時には職がなかったケースは少なく全体の1.6%であった。

次に図表14は、保護観察開始時と終了時における生計状況の変化を表したものである。最も多いケースは、両時点において普通だと答えたケースで、全体の半数を占めた。次に多いのは、両時点において貧困だと答えたケースで全体の22.3%、さらに開始時には貧困だったが終了時は普通だと答えたケースは全体の14.6%であった。これらの数字の多さから、出所者の生計状況の困難さをうかがい知ることができる。

図表 11：データベースの基本統計量（2019 年度のみ）

	サンプル数	最小	最大	平均	標準偏差
2 年以内再入所	9,344	0.0	1.0	0.2	0.4
職業訓練	9,344	0.0	1.0	0.2	0.4
就労支援	9,344	0.0	1.0	0.2	0.4
終了時有職	9,344	0.0	1.0	0.7	0.5
性別	9,344	1.0	2.0	1.1	0.3
出所時年齢	9,344	21.0	92.0	45.3	13.1
刑期	9,344	2.0	117.0	28.3	14.8
入所度数	9,344	1.0	21.0	2.5	2.3
精神障害	9,344	0.0	1.0	0.1	0.3
外国籍	9,344	0.0	1.0	0.02	0.1
学歴	9,344	0.0	4.0	2.8	0.6
帰住先_家族	9,344	0.0	1.0	0.5	0.5
能力検査値	9,344	24.0	124.0	83.6	13.5
犯罪傾向 B	9,344	0.0	1.0	0.5	0.5

図表 12：職業訓練・就労支援を受けた割合（2019 年度）

	受けていない	受けた	計
職業訓練	7,124 (76.2%)	2,220 (23.8%)	9,344 (100.0%)
就労支援	7,580 (81.1%)	1,767 (18.9%)	9,344 (100.0%)

図表 13：職の有無の変化に関する内訳（2019 年度）

職の有無の変化について 開始時→終了時			
職なし→職なし		2,863	(30.6%)
職なし→職あり		5,005	(53.6%)
職あり→職なし		146	(1.6%)
職あり→職あり		1,330	(14.2%)
計		9,344	(100.0%)

図表 14：生計状況の変化に関する内訳（2019 年度）

生計状況の変化について 開始時→終了時		
富裕→富裕	20	(0.2%)
富裕→普通	64	(0.7%)
富裕→貧困	3	(0.0%)
富裕→生活保護	0	(0.0%)
普通→富裕	39	(0.4%)
普通→普通	4,723	(50.5%)
普通→貧困	420	(4.5%)
普通→生活保護	122	(1.3%)
貧困→富裕	9	(0.1%)
貧困→普通	1,365	(14.6%)
貧困→貧困	2,081	(22.3%)
貧困→生活保護	217	(2.3%)
生活保護→富裕	0	(0.0%)
生活保護→普通	73	(0.8%)
生活保護→貧困	47	(0.5%)
生活保護→生活保護	161	(1.7%)
計	9,344	(100.0%)

3. 2 職業訓練・就労支援の再入所リスクに対する効果

前章と同様、ここでもマッチングを行ったが、その結果は省略する。マッチング後のデータを用いて、「2年以内に再入所」を目的変数としてロジスティック回帰分析を行う。前章と同様に、過学習（オーバーフィッティング）を防ぐため 10 分割の交差検証を行った。分析結果は図表 15 に示したとおりであるが、表中の 2 年以内に再入所（1）は説明変数に職業訓練を入れた結果であり、2 年以内に再入所（2）は説明変数に就労支援を入れた結果をそれぞれ示している。また、説明変数として、先述した職の有無の変化および生計状況の変化のダミー変数を用いた。

「2年以内に再入所」を目的変数とした場合、職業訓練、就労支援ともに、係数は有意にならなかった。しかし、図表 15 では、職の有無の変化および生計状況の変化についての変数も入れているので、職業訓練及び就労支援が職を持つ確率を高め、その効果を通じて再入所確率に影響を及ぼす可能性を捉えることができている可能性が考えられる。そこで、図表 16 では、これらの変数を説明変数から除いた分析を行ってみたものの、やは

り同様に職業訓練と就労支援の係数は有意にならなかった。つまり、再入所に対する職業訓練と就労支援の効果は確認できない、ということである。

他の説明変数についてみると、2年以内に再入所（1）と2年以内に再入所（2）の共に有意であったのは、出所時年齢、入所度数、帰住先_家族、能力検査値、犯罪傾向 B の他、動的リスクとして含めたダミー変数のうち、職あり→職ありが2年以内に再入所の確率を有意に低め、普通→生活保護、貧困→普通、貧困→貧困が、2年以内に再入所の確率を有意に高めるという結果をなした。

図表 16 は、ロジスティック回帰分析において係数が有意であった変数と職業訓練の変数を用いた、2年以内に再入所の説明力における変数の重要度を表している。図表 9 と図表 10 における終了後職の有無の説明力における変数の重要度と比較すると、犯罪傾向 B と入所度数の重要度が高いのが目立っている。一方、出所時年齢の重要度が高いのは、図表 9、図表 10 と同様である。また、動的リスクとして職あり→職ありが上から四番目に入っている点が注目される。

図表 15：2年以内再入所を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果

	目的変数			
	2年以内に再入所（1）		2年以内に再入所（2）	
	係数	オッズ比	係数	オッズ比
職業訓練	0.09 (0.11)	1.09 (0.89 - 1.35)		
就労支援			0.17 (0.10)	1.18 (0.97 - 1.45)
性別	-0.02 (0.14)	0.98 (0.75 - 1.30)	-0.32 (0.17)	0.73 (0.53 - 1.01)
出所時年齢	-0.02*** (0.01)	0.98 (0.96 - 0.99)	-0.03*** (0.01)	0.97 (0.96 - 0.99)
刑期	-0.01*** (0.00)	0.91 (0.98 - 1.00)	-0.01 (0.00)	0.99 (0.99 - 1.00)
入所度数	0.20*** (0.03)	1.23 (1.15 - 1.30)	0.18*** (0.03)	1.20 (1.14 - 1.27)
精神障害	0.28 (0.17)	1.32 (0.95 - 1.85)	0.18 (0.16)	1.20 (0.88 - 1.63)
外国籍	0.01 (0.37)	1.01 (0.47 - 2.15)	0.72* (0.34)	2.05 (1.05 - 4.00)
学歴	-0.05	0.95	-0.16	0.85

	(0.09)	(0.79 – 1.14)	(0.09)	(0.71 – 1.01)
帰住先_家族	-0.24* (0.12)	0.78 (0.61 – 1.00)	-0.31** (0.13)	0.73 (0.57 – 0.94)
能力検査値	-0.01** (0.00)	0.99 (0.98 – 1.00)	-0.01** (0.00)	0.99 (0.98 – 1.00)
犯罪傾向 B	1.18*** (0.14)	3.25 (2.46 – 4.30)	0.88*** (0.14)	2.41 (1.82 – 3.18)
職の有無の変化				
職なし→職なし	-0.56 (0.33)	0.57 (0.30 – 1.10)	-0.49 (0.36)	0.61 (0.30 – 1.24)
職なし→職あり	-0.72** (0.33)	0.49 (0.26 – 0.92)	-0.46 (0.37)	0.63 (0.31 – 1.30)
職あり→職あり	-1.09*** (0.36)	0.34 (0.17 – 0.68)	-0.76* (0.38)	0.47 (0.22 – 1.00)
生計状況の変化				
富裕→富裕	0.93 (1.13)	2.53 (0.28 – 23.08)	-12.64 (342.03)	0.00 (0.00 – 0.00)
富裕→普通	1.02 (0.60)	2.77 (0.86 – 8.95)	0.18 (0.81)	1.20 (0.24 – 5.89)
富裕→貧困	-10.23 (397.57)	0.00 (0.00 – Inf)	15.60 (882.74)	0.00 (0.00 – Inf)
普通→富裕	-0.36 (1.08)	0.70 (0.92 – 2.25)	-0.21 (1.06)	0.81 (0.10 – 6.43)
普通→貧困	0.36 (0.23)	1.44 (0.92 – 2.25)	0.52** (0.23)	1.68 (1.08 – 2.62)
普通→生活保護	0.88** (0.38)	2.42 (1.15 – 5.11)	0.87* (0.42)	2.38 (1.04 – 5.46)
貧困→富裕	-10.36 (397.57)	0.00 (0.00 – Inf)	-12.63 (619.60)	0.00 (0.00 – Inf)
貧困→普通	0.32* (0.16)	1.38 (1.01 – 1.88)	0.36** (0.15)	1.43 (1.06 – 1.92)
貧困→貧困	0.34** (0.15)	1.40 (1.05 – 1.88)	0.55*** (0.14)	1.73 (1.32 – 2.28)
貧困→生活保護	0.54 (0.31)	1.71 (0.93 – 3.14)	0.54 (0.36)	1.72 (0.86 – 3.47)

生活保護→普通	0.13 (0.56)	1.14 (0.38 – 3.44)	-0.12 (0.62)	0.89 (2.65 – 2.99)
生活保護→貧困	-0.60 (1.30)	0.55 (0.04 – 7.03)	-0.46 (0.87)	0.63 (0.11 – 3.49)
生活保護→生活保護	0.49 (0.39)	1.63 (0.75 – 3.53)	0.49 (0.47)	1.64 (0.66 – 4.09)

注) 表中の係数の欄における***は1%水準で有意、**は3%水準で有意、*は5%水準で有意。また、括弧内は標準誤差。オッズ比の欄における括弧内は95%信頼区間。Infはinfinity(無限大)の意味。なお、表中の数値は小数点第3位で四捨五入している。

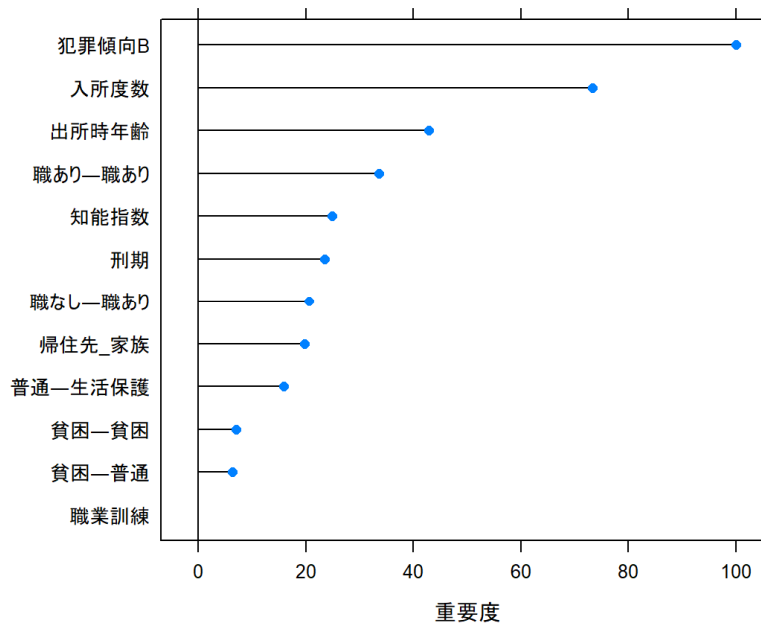
図表16: 2年以内再入所を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果
(職有無の変化、生計状況の変化に関する説明変数は除く)

	目的変数			
	2年以内に再入所(1)		2年以内に再入所(2)	
	係数	オッズ比	係数	オッズ比
職業訓練	0.08 (0.11)	1.08 (0.88 – 1.33)		
就労支援			0.23** (0.10)	1.26 (1.04 – 1.54)
性別	0.10 (0.14)	1.10 (0.84 – 1.44)	-0.28 (0.16)	0.75 (0.55 – 1.03)
出所時年齢	-0.02*** (0.01)	0.98 (0.97 – 0.99)	-0.02*** (0.01)	0.98 (0.97 – 0.99)
刑期	-0.01*** (0.00)	0.99 (0.98 – 1.00)	-0.01* (0.00)	0.99 (0.98 – 1.00)
入所度数	0.21*** (0.03)	1.23 (1.16 – 1.31)	0.19*** (0.03)	1.21 (1.14 – 1.27)
精神障害	0.37** (0.17)	1.45 (1.04 – 2.00)	0.20 (0.15)	1.22 (0.90 – 1.65)
外国籍	0.12 (0.38)	1.13 (0.54 – 2.36)	0.70* (0.34)	2.01 (1.03 – 3.89)
学歴	-0.04 (0.09)	0.96 (0.80 – 1.15)	-0.16 (0.09)	0.85 (0.71 – 1.01)
帰住先_家族	-0.37*** (0.11)	0.69 (0.56 – 0.86)	-0.53*** (0.11)	0.59 (0.47 – 0.73)
能力検査値	-0.01**	0.99	-0.01**	0.99

	(0.00)	(0.98 – 1.00)	(0.00)	(0.98 – 1.00)
犯罪傾向 B	1.19***	3.29	0.19***	2.44
	(0.14)	(2.50 – 4.35)	(0.14)	(1.85 – 3.21)

注) 表中の係数の欄における***は1%水準で有意、**は3%水準で有意、*は5%水準で有意。また、括弧内は標準誤差。オッズ比の欄における括弧内は95%信頼区間。なお、表中の数値は小数点第3位で四捨五入している。

図表 16：2年以内に再入所の説明力における変数の重要度（職業訓練）



第4章 在所中内定の効果

在所中内定の有無によって、出所後の職の有無や「2年以内に再入所」の確率に影響があるかどうかを次に調べたい。まず図表 17 では、在所中内定の有無により、保護観察開始時と終了時における職の有無の変化に違いがあるかどうかを確認する。

非就労支援対象者である在所中内定の有無のデータがない者（NA）の場合、最も多いのは保護観察開始時には職はなかったが終了時にはあった場合であった（47.8%）。また、内定がある場合もない場合も、最も多いのは、同様のケースであったが、内定なしでは63.9%、内定ありでは50.8%であるなど、在所中内定調査のデータがある者は職を持っている割合が比較的高い。内定の有無別に見た違いとしては、内定ありの場合には、保護観察開始時と終了時の両時点において職があるケースが30.3%であったのに対し、内定なしの場合には

4.5%と少ない。内定ありは保護観察終了時に職があった割合が8割を超えており、非常に高い。

図表18では、ロジスティック回帰分析により、終了時職ありと2年以内再入所に対する内定の効果を見たものである。データとしては、「終了時職あり」を目的変数としている式は第2章のマッチング後のデータベースを用い、「2年以内に再入所」を目的変数としている式は第3章のマッチング後のデータベースを用いている。

内定の効果については、「終了時職あり」については、係数の符号は正であり、1%水準で有意であった。一方、「2年以内に再入所」については、有意になっていない。この結果は職業訓練、就労支援の効果と同様であり、出所後の就労確率にはポジティブな影響があるものの、2年以内に再入所するリスクに対しては影響が認められないということである。

図表17：在所中内定の有無別に見た保護開始時と終了時における職の有無の変化

	保護開始時と終了時における職の有無の変化				計
	なし→なし	なし→あり	あり→なし	あり→あり	
内定なし	892 (31.1%)	1,834 (63.9%)	16 (0.6%)	129 (4.5%)	2,871 (100.0%)
内定あり	155 (13.7%)	574 (50.8%)	58 (5.1%)	342 (30.3%)	1,129 (100.0%)
NA	5,939 (35.4%)	8,023 (47.8%)	304 (1.8%)	2,397 (14.3%)	(100.0%)

図表18：終了時職ありと2年以内再入所に対する内定の効果

	目的変数			
	終了時職あり		2年以内に再入所	
	係数	オッズ比	係数	オッズ比
内定	0.54*** (0.10)	1.71 (1.42 – 2.07)	0.10 (0.14)	1.10 (0.84 – 1.45)
就労支援	0.32* (0.15)	1.37 (1.02 – 1.85)	-0.31 (0.25)	0.73 (0.45 – 1.20)
性別	-0.74*** (0.11)	0.48 (0.38 – 0.60)	-0.08 (0.20)	0.93 (0.62 – 1.37)
出所時年齢	-0.03*** (0.00)	0.97 (0.96 – 0.97)	-0.02*** (0.01)	0.98 (0.97 – 0.99)
刑期	0.01*** (0.00)	1.01 (1.01 – 1.02)	-0.01* (0.01)	0.99 (0.98 – 1.00)

入所度数	-0.11*** (0.02)	0.90 (0.86 – 0.94)	0.17*** (0.04)	1.18 (1.10 – 1.27)
精神障害	-0.51*** (0.12)	0.60 (0.47 – 0.76)	0.20 (0.20)	1.22 (0.82 – 1.81)
外国籍	-0.22 (0.31)	0.80 (0.44 – 1.46)	1.46 (0.46)	4.33 (1.76 – 10.61)
学歴	-0.06 (0.07)	0.94 (0.82 – 1.08)	-0.26** (0.12)	0.77 (0.61 – 0.97)
帰住先_家族	-0.44*** (0.09)	0.64 (0.54 – 0.76)	-0.54*** (0.15)	0.58 (0.44 – 0.78)
能力検査値	0.01*** (0.003)	1.01 (1.01 – 1.02)	-0.01 (0.01)	0.99 (0.98 – 1.00)
犯罪傾向 B	-0.13 (0.11)	0.88 (0.71 – 1.08)	0.90*** (0.18)	2.46 (1.72 – 3.52)

注) 表中の係数の欄における***は1%水準で有意、**は3%水準で有意、*は5%水準で有意。また、括弧内は標準誤差。オッズ比の欄における括弧内は95%信頼区間。なお、表中の数値は小数点第3位で四捨五入している。

第5章 考察

以上の分析結果をまとめると、職業訓練、就労支援は、保護観察終了時において職を持つ確率を高める効果を持っているものの、「2年以内の再入所」に対する効果は確認することはできなかった。「2年以内の再入所」に対しては、犯罪傾向 B や入所度数の重要度が高いほか、職を継続して持つことや生計状況の安定も影響していることが分かった。特に犯罪傾向 B については、保護観察終了時の職の有無に対する説明力はそれほど大きくはないものの、「2年以内の再入所」への重要度は非常に高い。これらの結果は、出所後の就労の確率を高めるプログラムと、再犯リスクを低めるプログラムが、必ずしも同一の効果を期待できるものではないということを示唆している。確かに、職業訓練、就労支援、在所中の内定は出所後の就労の確率を高め、職を持っていれば「2年以内の再入所」のリスクは低下する。しかし、職業訓練、就労支援を受け、在所中に内定を得れば、「2年以内の再入所」のリスクが低くなるかと言えば、そういうことではないのである。

このような結果がでる要因のひとつは、先行研究にもあったとおり、雇用の質であろう。本報告書で用いたデータベースにおいても、保護観察終了時に職を持っていたとしても、生計状況が貧困だと答えた割合は22.3%を占めた（富裕0.7%、普通76.1%、生活保護受給0.9%）。また、雇用の安定性も大きく関係しているに違いない。ロジスティック回帰分析の結果によれば、保護観察開始時、終了時ともに職を持っていることが、「2年以内の再入所」

の確率を下げている。

では、どうしたら安定した職に就くことができるか。

ここで、先行研究における議論をふりかえると、近年国内でも、リスク管理モデルに代わり、長所基盤モデルがより注目される傾向にある（岡邊 2022、掛川 2020、津富 2009）。長所に基づいた（strengths-based）手法は、福祉の領域でもイネーブリング（enabling）やエンパワメント（empowerment）等の用語で広く使われている。たとえば生活困窮者に対する就労支援の分野で言えば、リスクに該当する用語として「就労阻害要因」があり、課題をことさらに強調する支援は「医療モデル」として否定的にとらえられることが多い。ネガティブな側面の克服を目指すよりも、ポジティブな面に着目して、それを伸ばそうと言うのである。また、企業側の理解も必要であり、企業側への働きかけ、支援も必要だろう。

雇用の安定は長所基盤モデルにおける「Good Life」と相互関係にある。つまり、雇用が安定していなければ自尊心を失い、社会関係から孤立しがちになるし、また、自尊心を失い、社会から孤立すると安定した雇用につながらない。この時、イネーブリングやエンパワメントを目指した支援が求められる。また、職業訓練や就労支援においては職業上のスキルのみに着目するのではなく、自尊心を含めた個別的な心理状況や依存症傾向にまで配慮したアセスメントが必要である。したがって、アセスメントする際の指標としても、それに関連した項目を含めることが望ましい。

【参考文献】

- Alós, Ramon, Fernando Esteban, Pere Jódar, and Fausto Miguélez. 2015. "Effects of Prison Work Programmes on the Employability of Ex-Prisoners." *European Journal of Criminology* 12 (1): 35–50.
- Duwe, Grant, and Susan McNeeley. 2020. "The Effects of Prison Labor on Institutional Misconduct, Postprison Employment, and Recidivism." *Corrections* 5 (2): 89–108.
- Eisenberg, Mara J., Joan E. van Horn, Judith M. Dekker, Mark Assink, Claudia E. van der Put, Jan Hendriks, and Geert Jan J. M. Stams. 2019. "Static and Dynamic Predictors of General and Violent Criminal Offense Recidivism in the Forensic Outpatient Population: A Meta-Analysis." *Criminal Justice and Behavior* 46 (5): 732–50.
- Farabee, David, Sheldon X. Zhang, and Benjamin Wright. 2014. "An Experimental Evaluation of a Nationally Recognized Employment-Focused Offender Reentry Program." *Journal of Experimental Criminology* 10 (3): 309–22.
- Graffam, Joseph, Alison J. Shinkfield, and Barbara Lavelle. 2014. "Recidivism among Participants of an Employment Assistance Program for Prisoners and Offenders."

- International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology* 58 (3): 348–63.
- Jacobs, Erin. 2012. “Returning to Work after Prison - Final Results from the Transitional Jobs Reentry Demonstration.” *Available at SSRN 2056045*.
<https://doi.org/10.2139/ssrn.2056045>.
- Lockwood, Susan Klinker, John M. Nally, and Taiping Ho. 2016. “Race, Education, Employment, and Recidivism among Offenders in the United States: An Exploration of Complex Issues in the Indianapolis Metropolitan Area.” *International Journal of Criminal Justice Sciences* 11 (1). <https://ijcjs.com/menu-script/index.php/ijcjs/article/view/175>.
- Lockwood, Susan, John M. Nally, Taiping Ho, and Katie Knutson. 2012. “The Effect of Correctional Education on Postrelease Employment and Recidivism: A 5-Year Follow-Up Study in the State of Indiana.” *Crime & Delinquency* 58 (3): 380–96.
- Maruna, Shadd. n.d. *Making Good*: American Psychological Association. Accessed February 26, 2023.
- Maruna, S., and T. LeBel. 2003. “Welcome Home? Examining the Reentry Court Concept from a Strengths – Based Perspective.” *Western Criminology* 4(2) : 91 – 107.
- Ramakers, Anke, Paul Nieuwbeerta, Johan Van Wilsem, and Anja Dirkzwager. 2017. “Not Just Any Job Will Do: A Study on Employment Characteristics and Recidivism Risks After Release.” *International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology* 61 (16): 1795–1818.
- Schnepel, Kevin T. 2018. “Good Jobs and Recidivism.” *Economic Journal* 128 (608): 447–69.
- Siwach, Garima. 2018. “Unemployment Shocks for Individuals on the Margin: Exploring Recidivism Effects.” *Labour Economics* 52 (June): 231–44.
- 岡邊健. 2022. 「犯罪・非行からの離脱 研究の展開と背景」(岡邊健編. 『犯罪・非行からの離脱』 ちとせプレス、所収)。
- 掛川直之. 2020. 『犯罪からの社会復帰を問いなおす 地域共生社会におけるソーシャルワークのかたち』 旬報社。
- 津富宏. 2009. 「犯罪者処遇のパラダイムシフト (課題研究 犯罪者の立ち直りと犯罪者処遇のパラダイムシフト)」 『犯罪社会学研究』 34: 47–58。
- 羽間京子・勝田聡. 2021. 「保護観察におけるアセスメントツールの再犯予測力の検証」 『千葉大学教育学部研究紀要』 69 (March): 27–32。

資料編

- アンケート調査 単純集計表
- アンケート調査票

調査名 [1. 就労支援対象者調査]

(3) Q1 収入の伴う仕事をした経験有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	1086	96.1
2	ない	17	1.5
	無回答	27	2.4
	全体	1130	100.0

(4) Q2① これまでの合計就労期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	5年未満	189	17.4
2	5年以上10年未満	229	21.1
3	10年以上15年未満	192	17.7
4	15年以上	470	43.3
	無回答	6	0.6
	非該当	44	
	全体	1086	100.0

(5) Q2② これまでに経験した働き方...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	正規の職員・従業員	941	86.6
2	契約社員・嘱託	291	26.8
3	パート・アルバイト	832	76.6
4	派遣社員・請負社員	481	44.3
5	会社などの役員	101	9.3
6	自営業主	285	26.2
7	自家営業の手伝い	185	17.0
8	内職	42	3.9
9	その他	91	8.4
10	わからない	1	0.1
	無回答	1	0.1
	非該当	44	
	全体	1086	100.0

(7) Q2④ これまでに一番長く続いた仕事...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	理容・美容関係	2	0.2
2	金属製造関係	46	4.2
3	その他の製造関係	79	7.3
4	建設・土木関係	329	30.3
5	電気工事関係	18	1.7
6	農業・園芸関係	8	0.7
7	調理関係	86	7.9
8	コンピュータ関係	21	1.9
9	自動車整備関係	19	1.7
10	自動車運転関係	84	7.7
11	福祉関係	26	2.4
12	販売員	138	12.7
13	その他の仕事	228	21.0
	無回答	2	0.2
	非該当	44	
	全体	1086	100.0

(10) Q2⑥ 一番長く続いた仕事を辞めた主な理由...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	倒産・廃業・整理解雇	140	12.9
2	雇用期間の満了・雇止め	60	5.5
3	健康上の理由	111	10.2
4	人間関係がよくなかった	224	20.6
5	職場の上司や同僚に注意された	46	4.2
6	労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった	111	10.2
7	賃金の条件がよくなかった	176	16.2
8	勤め先や仕事に将来性がなかった	120	11.0
9	仕事が自分に合わなかった	65	6.0
10	自分の技能・能力が活かせなかった	50	4.6
11	もっとよい仕事があった	166	15.3
12	何となく	61	5.6
13	逮捕・受刑等のため	400	36.8
14	その他	245	22.6
	無回答	4	0.4
	非該当	44	
	全体	1086	100.0

(11) Q3① 自分の考え:私は、自分自身にだいたい満足している...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	38	3.4
2	そう思う	236	20.9
3	そう思わない	631	55.8
4	強くそう思わない	177	15.7
	無回答	48	4.2
	全体	1130	100.0

(12) Q3② 自分の考え:時々、自分はまったくダメだと思うことがある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	225	19.9
2	そう思う	528	46.7
3	そう思わない	250	22.1
4	強くそう思わない	78	6.9
	無回答	49	4.3
	全体	1130	100.0

(13) Q3③ 自分の考え:私には、けっこう長所があると感じている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	91	8.1
2	そう思う	442	39.1
3	そう思わない	474	41.9
4	強くそう思わない	74	6.5
	無回答	49	4.3
	全体	1130	100.0

(14) Q3④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	155	13.7
2	そう思う	520	46.0
3	そう思わない	339	30.0
4	強くそう思わない	63	5.6
	無回答	53	4.7
	全体	1130	100.0

(15) Q3⑤ 自分の考え:私には誇れるものが大してないと感じる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	144	12.7
2	そう思う	437	38.7
3	そう思わない	388	34.3
4	強くそう思わない	112	9.9
	無回答	49	4.3
	全体	1130	100.0

(16) Q3⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	114	10.1
2	そう思う	367	32.5
3	そう思わない	454	40.2
4	強くそう思わない	146	12.9
	無回答	49	4.3
	全体	1130	100.0

(17) Q3⑦ 自分の考え:自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる..
..(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	109	9.6
2	そう思う	423	37.4
3	そう思わない	461	40.8
4	強くそう思わない	85	7.5
	無回答	52	4.6
	全体	1130	100.0

(18) Q3⑧ 自分の考え:自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	232	20.5
2	そう思う	585	51.8
3	そう思わない	215	19.0
4	強くそう思わない	47	4.2
	無回答	51	4.5
	全体	1130	100.0

(19) Q3⑨ 自分の考え:よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	147	13.0
2	そう思う	377	33.4
3	そう思わない	435	38.5
4	強くそう思わない	123	10.9
	無回答	48	4.2
	全体	1130	100.0

(20) Q3⑩ 自分の考え:私は、自分のことを前向きに考えている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	248	21.9
2	そう思う	512	45.3
3	そう思わない	258	22.8
4	強くそう思わない	64	5.7
	無回答	48	4.2
	全体	1130	100.0

(21) Q4 出所後、同居予定の人物有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	いる	522	46.2
2	いない	577	51.1
	無回答	31	2.7
	全体	1130	100.0

(22) Q5 出所後の主な稼ぎ手...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あなた自身	838	74.2
2	父	90	8.0
3	母	53	4.7
4	配偶者	12	1.1
5	きょうだい	41	3.6
6	子	2	0.2
7	他の家族や親戚	15	1.3
8	年金などを受ける	4	0.4
9	生活保護などを受ける	22	1.9
10	その他	18	1.6
	無回答	35	3.1
	全体	1130	100.0

(23) Q6① 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	把握している	776	68.7
2	把握していない	323	28.6
	無回答	31	2.7
	全体	1130	100.0

(24) Q6② 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	744	65.8
2	ない	355	31.4
	無回答	31	2.7
	全体	1130	100.0

(25) Q6③ 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	562	49.7
2	ない	535	47.3
	無回答	33	2.9
	全体	1130	100.0

(26) Q7 出所後、安定した収入の伴う仕事をしたいと思うか... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	思う	1069	94.6
2	思わない	10	0.9
3	わからない	23	2.0
	無回答	28	2.5
	全体	1130	100.0

(27) Q8① 仕事をする目的... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	収入がほしいから	999	93.5
2	仕事そのものが面白い、自分の活力になるから	402	37.6
3	仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから	367	34.3
4	働くのは身体によいから・老化を防ぐから	157	14.7
5	社会の一員としてのつとめ	408	38.2
6	自分の才能や能力を発揮するため	343	32.1
7	その他	173	16.2
	無回答	2	0.2
	非該当	61	
	全体	1069	100.0

(28) Q8② 月収の希望額... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	～10万円未満	2	0.2
2	10万円以上～20万円未満	130	12.2
3	20万円以上～30万円未満	539	50.4
4	30万円以上～40万円未満	254	23.8
5	40万円以上～50万円未満	58	5.4
6	50万円以上～100万円未満	32	3.0
7	100万円以上	26	2.4
8	わからない	20	1.9
	無回答	8	0.7
	非該当	61	
	全体	1069	100.0

(29) Q8③ 刑務所内での就労支援を希望した理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	面接指導をうけられると思ったから	384	35.9
2	履歴書の書き方やビズ初め、採用面接の受け方などを学べると思ったから	331	31.0
3	求人票を見せってもらったり、就労先を紹介してもらえたりと思ったから	838	78.4
4	とにかく、在所中に内定を得たいと思ったから	611	57.2
5	帰住先が得られると思ったから	207	19.4
6	刑務所の職員にすすめられたから	155	14.5
7	家族などにすすめられたから	25	2.3
8	何となく	68	6.4
9	その他	205	19.2
	無回答	8	0.7
	非該当	61	
	全体	1069	100.0

(30) Q9 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない	2	20.0
2	自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない	2	20.0
3	勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない	1	10.0
4	今の景気や季節では仕事がありそうにない	0	0.0
5	元受刑者を受け入れてくれる職場がみつきりそうにない	0	0.0
6	仕事をしなくても生活できる	1	10.0
7	家族などに反対されている	0	0.0
8	仕事のイメージがわからない	2	20.0
9	家事・育児・介護に専念したい	1	10.0
10	資格取得等の勉強に集中するため	2	20.0
11	健康上の理由のため	1	10.0
12	何となく	0	0.0
13	その他	6	60.0
	無回答	1	10.0
	非該当	1120	
	全体	10	100.0

(31) Q10 出所後の仕事について... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	既に決まっている	285	25.2
2	まだ決まっていない	800	70.8
	無回答	45	4.0
	全体	1130	100.0

(32) Q11 仕事を決める時に重視すること... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が帰る場所の近くで出来る仕事	665	58.8
2	自分の知識・能力にあう仕事	750	66.4
3	勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事	776	68.7
4	仕事内容や業界に興味がある仕事	701	62.0
5	元受刑者を受け入れてくれる職場	576	51.0
6	刑務所の職員などにすすめられた仕事	37	3.3
7	その他	141	12.5
8	わからない	3	0.3
	無回答	32	2.8
	全体	1130	100.0

(33) Q12 出所後の仕事について不安なこと... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	仕事が見つかるかどうか	610	54.0
2	職場の上司や同僚とうまくやっていけるか	533	47.2
3	職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか	498	44.1
4	職場に元受刑者であることが知られてしまわないか	301	26.6
5	決まった時間に決まった場所に出社できるか	123	10.9
6	稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか	435	38.5
7	与えられた仕事をうまくこなせるか	438	38.8
8	昇進やキャリアアップができるか	263	23.3
9	困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない	253	22.4
10	その他	110	9.7
11	特に不安はない	97	8.6
	無回答	33	2.9
	全体	1130	100.0

(35) Q13① 仕事:自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	780	69.0
2	どちらかといえば、はい	263	23.3
3	どちらかといえば、いいえ	39	3.5
4	いいえ	16	1.4
	無回答	32	2.8
	全体	1130	100.0

(36) Q13② 仕事:まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	449	39.7
2	どちらかといえば、はい	315	27.9
3	どちらかといえば、いいえ	173	15.3
4	いいえ	162	14.3
	無回答	31	2.7
	全体	1130	100.0

(37) Q13③ 仕事:仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	194	17.2
2	どちらかといえば、はい	189	16.7
3	どちらかといえば、いいえ	193	17.1
4	いいえ	522	46.2
	無回答	32	2.8
	全体	1130	100.0

(38) Q13④ 仕事:定職に就かない方が自由でいいと思う... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	71	6.3
2	どちらかといえば、はい	155	13.7
3	どちらかといえば、いいえ	223	19.7
4	いいえ	648	57.3
	無回答	33	2.9
	全体	1130	100.0

(39) Q13⑤ 仕事:嫌いな人や気にいらぬ人とも、一緒に仕事をする事ができる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	300	26.5
2	どちらかといえば、はい	461	40.8
3	どちらかといえば、いいえ	222	19.6
4	いいえ	110	9.7
	無回答	37	3.3
	全体	1130	100.0

(40) Q14① 生活:自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	179	15.8
2	どちらかといえば、はい	395	35.0
3	どちらかといえば、いいえ	320	28.3
4	いいえ	208	18.4
	無回答	28	2.5
	全体	1130	100.0

(41) Q14② 生活:人というと、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	135	11.9
2	どちらかといえば、はい	300	26.5
3	どちらかといえば、いいえ	271	24.0
4	いいえ	394	34.9
	無回答	30	2.7
	全体	1130	100.0

(42) Q14③ 生活:周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	127	11.2
2	どちらかといえば、はい	274	24.2
3	どちらかといえば、いいえ	269	23.8
4	いいえ	430	38.1
	無回答	30	2.7
	全体	1130	100.0

(43) Q14④ 生活:他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	155	13.7
2	どちらかといえば、はい	310	27.4
3	どちらかといえば、いいえ	338	29.9
4	いいえ	296	26.2
	無回答	31	2.7
	全体	1130	100.0

(44) Q14⑤ 生活:大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	69	6.1
2	どちらかといえば、はい	142	12.6
3	どちらかといえば、いいえ	378	33.5
4	いいえ	508	45.0
	無回答	33	2.9
	全体	1130	100.0

(45) Q14⑥ 生活:大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	125	11.1
2	どちらかといえば、はい	245	21.7
3	どちらかといえば、いいえ	285	25.2
4	いいえ	443	39.2
	無回答	32	2.8
	全体	1130	100.0

(46) Q14⑦ 生活:初対面の人とすぐに会話できる自信がある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	387	34.2
2	どちらかといえば、はい	339	30.0
3	どちらかといえば、いいえ	226	20.0
4	いいえ	145	12.8
	無回答	33	2.9
	全体	1130	100.0

(47) Q14⑧ 生活:人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	202	17.9
2	どちらかといえば、はい	327	28.9
3	どちらかといえば、いいえ	269	23.8
4	いいえ	301	26.6
	無回答	31	2.7
	全体	1130	100.0

(48) Q14⑨ 生活:自分の感情を表に出すのが苦手だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	187	16.5
2	どちらかといえば、はい	315	27.9
3	どちらかといえば、いいえ	285	25.2
4	いいえ	310	27.4
	無回答	33	2.9
	全体	1130	100.0

(49) Q14⑩ 生活:周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	131	11.6
2	どちらかといえば、はい	245	21.7
3	どちらかといえば、いいえ	343	30.4
4	いいえ	379	33.5
	無回答	32	2.8
	全体	1130	100.0

(53) 罪名...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	1	0.1
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	12	1.1
6	住居侵入	11	1.0
7	通貨偽造	0	0.0
8	<small>文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係</small>	5	0.4
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	2	0.2
11	強制わいせつ・同致死傷	27	2.4
12	強制性交等・同致死傷	34	3.0
13	賭博・富くじ	0	0.0
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	16	1.4
16	傷害	24	2.1
17	傷害致死	12	1.1
18	暴行	3	0.3
19	業務上過失致死傷	0	0.0
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	5	0.4
22	略取・誘拐及び人身売買	3	0.3
23	窃盗	381	33.7
24	強盗	23	2.0
25	強盗致死傷	15	1.3
26	強盗・強制性交等及び同致死	0	0.0
27	詐欺	139	12.3
28	恐喝	7	0.6
29	横領・背任	11	1.0
30	盗品等関係	1	0.1
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	4	0.4
34	危険運転致死傷	7	0.6
35	過失運転致死傷	12	1.1
36	無免許危険運転致死傷	0	0.0
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	1	0.1
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	3	0.3
40	その他の刑法犯	10	0.9
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	2	0.2
54	売春防止法	0	0.0
55	児童福祉法	4	0.4
56	麻薬及び向精神薬取締法	2	0.2
57	覚醒剤取締法	199	17.6
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	22	1.9
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	52	4.6
	無回答	80	7.1
	全体	1130	100.0

(56) 累犯...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	累犯	348	30.8
2	非累犯	696	61.6
3	不該当	6	0.5
	無回答	80	7.1
	全体	1130	100.0

(57) 職業..(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	2	0.2
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	2	0.2
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	2	0.2
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	1	0.1
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	2	0.2
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	7	0.6
15	その他の管理的職業従事者	1	0.1
16	一般事務従事者	8	0.7
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	1	0.1
19	その他の事務従事者	11	1.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	3	0.3
21	飲食店主・店長	3	0.3
22	販売店員	9	0.8
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	1	0.1
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	4	0.4
28	家庭生活支援サービス職業従事者	0	0.0
29	理容師、美容師	0	0.0
30	浴場従事者	1	0.1
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	3	0.3
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	17	1.5
35	接客社交従事者	5	0.4
36	娯楽場等接客員	5	0.4
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	1	0.1
39	居住施設・ビル等管理人	1	0.1
40	その他のサービス職業従事者	12	1.1
41	保安職業従事者	4	0.4
42	農業従事者、林業従事者	0	0.0
43	漁業従事者	0	0.0
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	10	0.9
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	1	0.1
49	採掘従事者	1	0.1
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	5	0.4
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	6	0.5
55	生産関連・生産類似作業従事者	1	0.1
56	機械組立従事者	2	0.2
57	機械整備・修理従事者	1	0.1
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	1	0.1
68	電気工事従事者	3	0.3
69	建設従事者	42	3.7
70	土木作業従事者	26	2.3
71	その他建設作業従事者	42	3.7
72	運搬従事者	6	0.5
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	15	1.3
74	定収入のある者	69	6.1
75	学生、生徒	4	0.4
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	705	62.4
78	不詳	4	0.4
	無回答	80	7.1
	全体	1130	100.0

(58) 職業_状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	職業あり	268	23.7
2	職業なし	778	68.8
3	不詳	4	0.4
	無回答	80	7.1
	全体	1130	100.0

(59) 配偶...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	未婚	536	47.4
2	有配偶	153	13.5
3	離別	336	29.7
4	死別	4	0.4
5	不詳	1	0.1
	無回答	100	8.8
	全体	1130	100.0

(60) 最終学歴...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	不就学	14	1.2
2	中学校在学・中退	0	0.0
3	中学校卒業	237	21.0
4	高等学校在学・中退	266	23.5
5	高等学校卒業	382	33.8
6	大学在学・中退	54	4.8
7	大学卒業	90	8.0
	無回答	87	7.7
	全体	1130	100.0

(61) 属性及び犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	443	39.2
2	B	389	34.4
3	F A	1	0.1
4	F B	1	0.1
5	I A	6	0.5
6	I B	0	0.0
7	J A	5	0.4
8	J B	0	0.0
9	L A	12	1.1
10	L B	2	0.2
11	Y A	128	11.3
12	Y B	19	1.7
13	MA	1	0.1
14	MB	0	0.0
19	P A	0	0.0
20	P B	0	0.0
	無回答	123	10.9
	全体	1130	100.0

(62) 犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	596	52.7
2	B	411	36.4
	無回答	123	10.9
	全体	1130	100.0

(63) 精神状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	精神障害なし	897	79.4
2	知的障害	19	1.7
3	精神病質	4	0.4
4	神経症	21	1.9
5	その他の精神障害	72	6.4
6	不詳	3	0.3
	無回答	114	10.1
	全体	1130	100.0

(64) 精神障害の有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	116	10.3
2	なし	897	79.4
3	不詳	3	0.3
	無回答	114	10.1
	全体	1130	100.0

(66) 前刑罪名... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	2	0.4
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	2	0.4
6	住居侵入	4	0.8
7	通貨偽造	0	0.0
8	<small>文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係</small>	0	0.0
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	1	0.2
11	強制わいせつ・同致死傷	6	1.3
12	強制性交等・同致死傷	3	0.6
13	賭博・富くじ	0	0.0
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	1	0.2
16	傷害	12	2.5
17	傷害致死	0	0.0
18	暴行	3	0.6
19	業務上過失致死傷	0	0.0
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	1	0.2
22	略取・誘拐及び人身売買	0	0.0
23	窃盗	162	33.9
24	強盗	5	1.0
25	強盗致死傷	3	0.6
26	強盗・強制性交等及び同致死	1	0.2
27	詐欺	24	5.0
28	恐喝	3	0.6
29	横領・背任	3	0.6
30	盗品等関係	0	0.0
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	1	0.2
34	危険運転致死傷	0	0.0
35	過失運転致死傷	1	0.2
36	無免許危険運転致死傷	0	0.0
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	2	0.4
40	その他の刑法犯	5	1.0
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	1	0.2
54	売春防止法	0	0.0
55	児童福祉法	0	0.0
56	麻薬及び向精神薬取締法	0	0.0
57	覚醒剤取締法	139	29.1
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	6	1.3
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	4	0.8
	無回答	83	17.4
	非該当	652	
	全体	478	100.0

(67) 修了した前刑職業訓練種目... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	板金科 (塑性加工)	0	0.0
2	機械科 (機械加工)	0	0.0
3	数値制御機械科	1	0.2
4	CAD技術科	4	0.8
5	溶接科	6	1.3
6	自動車整備科	1	0.2
7	自動車整備科 (タイヤ整備)	0	0.0
8	自動車整備科 (板金塗装)	0	0.0
9	木工科	1	0.2
10	工芸科 (木材工芸)	0	0.0
11	工芸科 (漆器)	0	0.0
12	工芸科 (革工芸)	0	0.0
13	工芸科 (竹工芸)	0	0.0
14	工芸科 (石材)	0	0.0
15	工芸科 (織布)	0	0.0
16	工芸科 (剣道具)	1	0.2
17	工芸科 (窯業)	1	0.2
18	印刷科	0	0.0
19	縫製科	0	0.0
20	ビル設備管理科	3	0.6
21	建設機械科	3	0.6
22	建設機械科 (クレーン運転)	0	0.0
23	小型建設機械科	3	0.6
24	電気通信設備科	2	0.4
25	就職支援コース科	0	0.0
26	建築科	0	0.0
27	建築科 (畳)	0	0.0
28	建築科 (表具)	0	0.0
29	建築科 (建築模型製作)	0	0.0
30	建築塗装科	1	0.2
31	内装施工科	1	0.2
32	左官科	0	0.0
33	配管科	0	0.0
34	土木科	0	0.0
35	測量科	0	0.0
36	フォークリフト運転科	11	2.3
37	ビルハウスクリーニング科	2	0.4
38	クリーニング科	1	0.2
39	情報処理科	3	0.6
40	販売サービス科	1	0.2
41	ホームヘルパー科	2	0.4
42	理容科	1	0.2
43	理容科 (短期理容科)	0	0.0
44	美容科	0	0.0
45	総合美容技術科	0	0.0
46	自動車運転科	0	0.0
47	船舶職員科	0	0.0
48	農業園芸科	1	0.2
49	点字翻訳科	0	0.0
50	無線通信科	0	0.0
99	その他	27	5.6
100	Y(未修了者)	5	1.0
101	X(不詳)	0	0.0
102	0(なし)	315	65.9
	無回答	81	16.9
	非該当	652	
	全体	478	100.0

(68) 前刑での職業訓練の修了有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	77	16.1
2	未修了者	5	1.0
3	なし	315	65.9
	無回答	81	16.9
	非該当	652	
	全体	478	100.0

(69) 再犯期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	3月未満	53	11.1
2	6月未満	33	6.9
3	1年未満	74	15.5
4	2年未満	83	17.4
5	3年未満	43	9.0
6	4年未満	26	5.4
7	5年未満	28	5.9
8	5年以上	47	9.8
9	前刑出所前の犯罪	8	1.7
	無回答	83	17.4
	非該当	652	
	全体	478	100.0

(70) 前刑出所事由...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	満期釈放	165	34.5
2	仮釈放	230	48.1
	無回答	83	17.4
	非該当	652	
	全体	478	100.0

(72) 従事作業...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	農耕・牧畜	2	0.2
2	林業	0	0.0
3	漁業	0	0.0
4	鉱業	0	0.0
5	運輸	0	0.0
6	金属材料製造	1	0.1
7	金属加工・機械組立修理	19	1.7
8	電気器具組立修理	3	0.3
9	自動車整備	1	0.1
10	製糸・紡績	0	0.0
11	織物製品製造	30	2.7
12	木工	10	0.9
13	竹・草・つる製品製造	0	0.0
14	紙・紙製品製造	21	1.9
15	印刷・製本	4	0.4
16	ゴム・可塑性製品製造	6	0.5
17	皮革・皮革製品製造	7	0.6
18	窯業・土石製品製造	0	0.0
19	飲食料品製造	5	0.4
20	化学製品製造	40	3.5
21	建設作業	0	0.0
22	電工	0	0.0
23	紙細工	7	0.6
24	その他の技能工	0	0.0
25	単純労働作業	0	0.0
26	サービス工	0	0.0
27	経理作業	100	8.8
99	その他	39	3.5
100	不詳	0	0.0
	無回答	835	73.9
	全体	1130	100.0

(73) 修了職業訓練...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	板金科 (塑性加工)	0	0.0
2	機械科 (機械加工)	0	0.0
3	数値制御機械科	0	0.0
4	C A D技術科	2	0.2
5	溶接科	2	0.2
6	自動車整備科	0	0.0
7	自動車整備科 (タイヤ整備)	0	0.0
8	自動車整備科 (板金塗装)	0	0.0
9	木工科	0	0.0
10	工芸科 (木材工芸)	0	0.0
11	工芸科 (漆器)	0	0.0
12	工芸科 (革工芸)	0	0.0
13	工芸科 (竹工芸)	0	0.0
14	工芸科 (石材)	0	0.0
15	工芸科 (織布)	0	0.0
16	工芸科 (剣道具)	0	0.0
17	工芸科 (窯業)	0	0.0
18	印刷科	0	0.0
19	縫製科	0	0.0
20	ビル設備管理科	7	0.6
21	建設機械科	5	0.4
22	建設機械科 (クレーン運転)	0	0.0
23	小型建設機械科	0	0.0
24	電気通信設備科	0	0.0
25	就職支援コース科	0	0.0
26	建築科	1	0.1
27	建築科 (畳)	0	0.0
28	建築科 (表具)	0	0.0
29	建築科 (建築模型製作)	0	0.0
30	建築塗装科	2	0.2
31	内装施工科	1	0.1
32	左官科	0	0.0
33	配管科	0	0.0
34	土木科	0	0.0
35	測量科	0	0.0
36	フォークリフト運転科	9	0.8
37	ビルハウスクリーニング科	1	0.1
38	クリーニング科	1	0.1
39	情報処理科	13	1.2
40	販売サービス科	3	0.3
41	ホームヘルパー科	7	0.6
42	理容科	2	0.2
43	理容科 (短期理容科)	0	0.0
44	美容科	0	0.0
45	総合美容技術科	0	0.0
46	自動車運転科	0	0.0
47	船舶職員科	0	0.0
48	農業園芸科	0	0.0
49	点字翻訳科	0	0.0
50	無線通信科	0	0.0
99	その他	19	1.7
100	Y(未修了者)	1	0.1
101	X(不詳)	0	0.0
102	0(なし)	219	19.4
	無回答	835	73.9
	全体	1130	100.0

(74) 職業訓練の修了有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	75	6.6
2	未修了者	1	0.1
3	なし	219	19.4
	無回答	835	73.9
	全体	1130	100.0

(75) 取得資格免許...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	技能検定・技能照査	5	0.4
2	車両系建設機械運転技能者	1	0.1
3	フォークリフト運転者	9	0.8
4	クレーン運転士	1	0.1
5	溶接技能者	1	0.1
6	玉掛技能者	1	0.1
7	ボイラー技士	3	0.3
8	パソコン検定	5	0.4
9	ワープロ検定	3	0.3
10	技能講習	5	0.4
11	特別教育	0	0.0
12	ホームヘルパー	6	0.5
13	CAD利用技術者	2	0.2
14	電気工事士	0	0.0
15	無線従事者	0	0.0
16	消防設備士	0	0.0
17	自動車整備士	0	0.0
18	測量士(補)	0	0.0
19	調理師	0	0.0
20	理容師	1	0.1
21	美容師	0	0.0
22	クリーニング師	0	0.0
23	自動車運転免許	0	0.0
24	海技従事者	0	0.0
25	情報処理技術者	1	0.1
26	危険物取扱者	4	0.4
99	その他	5	0.4
100	なし	242	21.4
	無回答	835	73.9
	全体	1130	100.0

(76) 資格免許取得の有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	53	4.7
2	なし	242	21.4
	無回答	835	73.9
	全体	1130	100.0

(77) 就労支援指導の受講有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	82	7.3
2	なし	230	20.4
	無回答	818	72.4
	全体	1130	100.0

(78) CD_統計帰住先...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	父、母のもと	88	7.8
2	配偶者のもと	12	1.1
3	兄弟、姉妹のもと	17	1.5
4	その他の親族のもと	7	0.6
5	知人のもと	10	0.9
6	雇主のもと	7	0.6
7	社会福祉施設	0	0.0
8	更生保護施設等	143	12.7
9	その他	10	0.9
10	その他選択肢に含まれない自宅	1	0.1
	無回答	835	73.9
	全体	1130	100.0

(79) 職歴.. (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	35	3.1
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	3	0.3
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	28	2.5
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	105	9.3
28	家庭生活支援サービス職業従事者	32	2.8
29	理容師、美容師	2	0.2
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	28	2.5
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	84	7.4
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	104	9.2
41	保安職業従事者	13	1.2
42	農業従事者、林業従事者	11	1.0
43	漁業従事者	2	0.2
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	61	5.4
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	4	0.4
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	0	0.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	95	8.4
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	1	0.1
68	電気工事従事者	0	0.0
69	建設従事者	0	0.0
70	土木作業従事者	95	8.4
71	その他建設作業従事者	189	16.7
72	運搬従事者	45	4.0
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	48	4.2
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	3	0.3
78	不詳	0	0.0
	無回答	687	60.8
	全体	1130	100.0

(80) 希望職種... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	15	1.3
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	0	0.0
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	13	1.2
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	36	3.2
28	家庭生活支援サービス職業従事者	39	3.5
29	理容師、美容師	4	0.4
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	10	0.9
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	17	1.5
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	35	3.1
41	保安職業従事者	0	0.0
42	農業従事者、林業従事者	6	0.5
43	漁業従事者	1	0.1
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	47	4.2
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	3	0.3
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	0	0.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	51	4.5
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	3	0.3
68	電気工事従事者	0	0.0
69	建設従事者	0	0.0
70	土木作業従事者	40	3.5
71	その他建設作業従事者	101	8.9
72	運搬従事者	22	1.9
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	24	2.1
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	6	0.5
78	不詳	0	0.0
	無回答	715	63.3
	全体	1130	100.0

基本統計量

No.	項目名	件数	平均値	標準偏差	合計値	中央値	最大値	最小値
6	Q2③ これまでの転職回数	1052	5.53	4.244	5817	5.00	50	0
8	Q2⑤-1 これまでに一番長く続いた仕事(歳から)	1065	22.35	6.022	23802	21.00	51	5
9	Q2⑤-2 これまでに一番長く続いた仕事(歳まで)	1064	30.96	9.646	32937	29.00	60	15
52	年齢	1050	40.90	11.426	42940	41.00	64	20
54	刑期	1050	35.91	25.549	37708	30.00	180	4
55	入所度数	1050	2.30	2.215	2420	1.00	13	1
65	能力検査値	962	86.17	12.352	82895	87.00	130	43
71	懲罰回数	312	0.64	1.502	201	0.00	9	0

調査名 [2. 非就労支援対象者調査]

(3) Q1 収入の伴う仕事をした経験有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	692	94.5
2	ない	15	2.0
	無回答	25	3.4
	全体	732	100.0

(4) Q2① これまでの合計就労期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	5年未満	126	18.2
2	5年以上10年未満	134	19.4
3	10年以上15年未満	130	18.8
4	15年以上	300	43.4
	無回答	2	0.3
	非該当	40	
	全体	692	100.0

(5) Q2② これまでに経験した働き方...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	正規の職員・従業員	549	79.3
2	契約社員・嘱託	157	22.7
3	パート・アルバイト	445	64.3
4	派遣社員・請負社員	251	36.3
5	会社などの役員	101	14.6
6	自営業主	279	40.3
7	自家営業の手伝い	153	22.1
8	内職	36	5.2
9	その他	71	10.3
10	わからない	4	0.6
	無回答	4	0.6
	非該当	40	
	全体	692	100.0

(7) Q2④ これまでに一番長く続いた仕事...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	理容・美容関係	2	0.3
2	金属製造関係	13	1.9
3	その他の製造関係	28	4.0
4	建設・土木関係	273	39.5
5	電気工事関係	12	1.7
6	農業・園芸関係	7	1.0
7	調理関係	46	6.6
8	コンピュータ関係	12	1.7
9	自動車整備関係	10	1.4
10	自動車運転関係	53	7.7
11	福祉関係	9	1.3
12	販売員	72	10.4
13	その他の仕事	151	21.8
	無回答	4	0.6
	非該当	40	
	全体	692	100.0

(10) Q2⑥ 一番長く続いた仕事を辞めた主な理由...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	倒産・廃業・整理解雇	86	12.4
2	雇用期間の満了・雇止め	26	3.8
3	健康上の理由	78	11.3
4	人間関係がよくなかった	121	17.5
5	職場の上司や同僚に注意された	14	2.0
6	労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった	58	8.4
7	賃金の条件がよくなかった	110	15.9
8	勤め先や仕事に将来性がなかった	67	9.7
9	仕事が自分に合わなかった	46	6.6
10	自分の技能・能力が活かせなかった	21	3.0
11	もっとよい仕事があった	82	11.8
12	何となく	47	6.8
13	逮捕・受刑等のため	263	38.0
14	その他	137	19.8
	無回答	14	2.0
	非該当	40	
	全体	692	100.0

(11) Q3① 自分の考え:私は、自分自身にだいたい満足している...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	48	6.6
2	そう思う	211	28.8
3	そう思わない	351	48.0
4	強くそう思わない	83	11.3
	無回答	39	5.3
	全体	732	100.0

(12) Q3② 自分の考え:時々、自分はまったくダメだと思うことがある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	109	14.9
2	そう思う	356	48.6
3	そう思わない	165	22.5
4	強くそう思わない	62	8.5
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(13) Q3③ 自分の考え:私には、けっこう長所があると感じている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	64	8.7
2	そう思う	328	44.8
3	そう思わない	263	35.9
4	強くそう思わない	32	4.4
	無回答	45	6.1
	全体	732	100.0

(14) Q3④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	109	14.9
2	そう思う	350	47.8
3	そう思わない	205	28.0
4	強くそう思わない	25	3.4
	無回答	43	5.9
	全体	732	100.0

(15) Q3⑤ 自分の考え:私には誇れるものが大してないと感じる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	43	5.9
2	そう思う	263	35.9
3	そう思わない	295	40.3
4	強くそう思わない	87	11.9
	無回答	44	6.0
	全体	732	100.0

(16) Q3⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	53	7.2
2	そう思う	229	31.3
3	そう思わない	314	42.9
4	強くそう思わない	94	12.8
	無回答	42	5.7
	全体	732	100.0

(17) Q3⑦ 自分の考え:自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる..
..(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	67	9.2
2	そう思う	317	43.3
3	そう思わない	266	36.3
4	強くそう思わない	36	4.9
	無回答	46	6.3
	全体	732	100.0

(18) Q3⑧ 自分の考え:自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	123	16.8
2	そう思う	360	49.2
3	そう思わない	170	23.2
4	強くそう思わない	35	4.8
	無回答	44	6.0
	全体	732	100.0

(19) Q3⑨ 自分の考え:よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	68	9.3
2	そう思う	212	29.0
3	そう思わない	307	41.9
4	強くそう思わない	102	13.9
	無回答	43	5.9
	全体	732	100.0

(20) Q3⑩ 自分の考え:私は、自分のことを前向きに考えている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	166	22.7
2	そう思う	336	45.9
3	そう思わない	160	21.9
4	強くそう思わない	26	3.6
	無回答	44	6.0
	全体	732	100.0

(21) Q4 出所後、同居予定の人物有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	いる	464	63.4
2	いない	228	31.1
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(22) Q5 出所後の主な稼ぎ手...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あなた自身	467	63.8
2	父	64	8.7
3	母	40	5.5
4	配偶者	21	2.9
5	きょうだい	27	3.7
6	子	3	0.4
7	他の家族や親戚	11	1.5
8	年金などを受ける	6	0.8
9	生活保護などを受ける	32	4.4
10	その他	19	2.6
	無回答	42	5.7
	全体	732	100.0

(23) Q6① 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	把握している	527	72.0
2	把握していない	163	22.3
	無回答	42	5.7
	全体	732	100.0

(24) Q6② 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	411	56.1
2	ない	280	38.3
	無回答	41	5.6
	全体	732	100.0

(25) Q6③ 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	324	44.3
2	ない	365	49.9
	無回答	43	5.9
	全体	732	100.0

(26) Q7 出所後、安定した収入の伴う仕事をしたいと思うか... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	思う	634	86.6
2	思わない	21	2.9
3	わからない	40	5.5
	無回答	37	5.1
	全体	732	100.0

(27) Q8① 仕事をする目的... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	収入がほしいから	577	91.0
2	仕事そのものが面白い、自分の活力になるから	264	41.6
3	仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから	188	29.7
4	働くのは身体によいから・老化を防ぐから	121	19.1
5	社会の一員としてのつとめ	188	29.7
6	自分の才能や能力を発揮するため	200	31.5
7	その他	94	14.8
	無回答	4	0.6
	非該当	98	
	全体	634	100.0

(28) Q8② 月収の希望額... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	～10万円未満	5	0.8
2	10万円以上～20万円未満	59	9.3
3	20万円以上～30万円未満	220	34.7
4	30万円以上～40万円未満	165	26.0
5	40万円以上～50万円未満	72	11.4
6	50万円以上～100万円未満	53	8.4
7	100万円以上	38	6.0
8	わからない	16	2.5
	無回答	6	0.9
	非該当	98	
	全体	634	100.0

(29) Q8③ 刑務所内での就労支援を希望しなかった理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	仕事に既に決まっている	362	57.1
2	自分で仕事を見つけたい	285	45.0
3	ハローワークや事業主などに受刑歴を知られたくない	88	13.9
4	帰宅先と離れているため、刑務所内では仕事が見つからない	72	11.4
5	刑務所内では希望する内容や条件の仕事が見つからない	96	15.1
6	グループなど、依存症の自助グループの活動を優先したい	38	6.0
7	仕事をしなくても生活できる	14	2.2
8	家族などに反対されている	6	0.9
9	家事・育児・介護に専念したい	9	1.4
10	健康上の理由のため	36	5.7
11	就労支援の存在を知らなかった	11	1.7
12	刑務所内での就労支援を希望したが、対象者に選ばれなかった	25	3.9
13	その他	65	10.3
	無回答	14	2.2
	非該当	98	
	全体	634	100.0

(30) Q8④ 出所後の仕事についての不安... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	仕事が見つかるかどうか	179	28.2
2	職場の上司や同僚とうまくやっていけるか	182	28.7
3	職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか	103	16.2
4	職場に元受刑者であることが知られてしまわないか	119	18.8
5	決まった時間に決まった場所に出社できるか	39	6.2
6	稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか	198	31.2
7	与えられた仕事をうまくこなせるか	162	25.6
8	昇進やキャリアアップができるか	77	12.1
9	困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない	67	10.6
10	その他	48	7.6
11	特に不安はない	191	30.1
	無回答	19	3.0
	非該当	98	
	全体	634	100.0

(32) Q9 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない	0	0.0
2	自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない	4	19.0
3	勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない	5	23.8
4	今の景気や季節では仕事がありそうにない	3	14.3
5	元受刑者を受け入れてくれる職場が見つかりそうにない	1	4.8
6	仕事をしなくても生活できる	5	23.8
7	家族などに反対されている	0	0.0
8	仕事のイメージがわからない	2	9.5
9	家事・育児・介護に専念したい	1	4.8
10	資格取得等の勉強に集中するため	2	9.5
11	健康上の理由のため	2	9.5
12	何となく	1	4.8
13	その他	9	42.9
	無回答	3	14.3
	非該当	711	
	全体	21	100.0

(33) Q10 出所後の仕事について... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	既に決まっている	395	54.0
2	まだ決まっていない	276	37.7
	無回答	61	8.3
	全体	732	100.0

(34) Q11① 仕事が決まった経緯... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	刑務所内で求人情報誌を見て応募し、内定した	8	2.0
2	親族や知人に就職先を紹介してもらった	106	26.8
3	入所前に働いていた職場に戻る、または自営している職場に戻る	221	55.9
4	出所後、起業する	32	8.1
5	その他	21	5.3
	無回答	7	1.8
	非該当	337	
	全体	395	100.0

(35) Q11② 出所後に働く予定の仕事先から、最後に連絡をもらった時期... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	入所前	110	27.8
2	入所後(今から1年以上前)	24	6.1
3	入所後(今から半年～1年前)	20	5.1
4	入所後(今から半年以内)	176	44.6
5	連絡をもらっていない	45	11.4
	無回答	20	5.1
	非該当	337	
	全体	395	100.0

(36) Q12 仕事を決める時に重視すること... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が帰る場所の近くで出来る仕事	350	47.8
2	自分の知識・能力にあう仕事	456	62.3
3	勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事	396	54.1
4	仕事内容や業界に興味がある仕事	336	45.9
5	元受刑者を受け入れてくれる職場	144	19.7
6	刑務所の職員などにすすめられた仕事	10	1.4
7	その他	73	10.0
8	わからない	14	1.9
	無回答	78	10.7
	全体	732	100.0

(37) Q13① 仕事:自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	504	68.9
2	どちらかといえば、はい	157	21.4
3	どちらかといえば、いいえ	26	3.6
4	いいえ	13	1.8
	無回答	32	4.4
	全体	732	100.0

(38) Q13② 仕事:まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	221	30.2
2	どちらかといえば、はい	216	29.5
3	どちらかといえば、いいえ	123	16.8
4	いいえ	134	18.3
	無回答	38	5.2
	全体	732	100.0

(39) Q13③ 仕事:仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	166	22.7
2	どちらかといえば、はい	129	17.6
3	どちらかといえば、いいえ	138	18.9
4	いいえ	261	35.7
	無回答	38	5.2
	全体	732	100.0

(40) Q13④ 仕事:定職に就かない方が自由でいいと思う... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	77	10.5
2	どちらかといえば、はい	105	14.3
3	どちらかといえば、いいえ	155	21.2
4	いいえ	359	49.0
	無回答	36	4.9
	全体	732	100.0

(41) Q13⑤ 仕事:嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をすることができる... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	206	28.1
2	どちらかといえば、はい	260	35.5
3	どちらかといえば、いいえ	147	20.1
4	いいえ	78	10.7
	無回答	41	5.6
	全体	732	100.0

(42) Q14① 生活:自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	102	13.9
2	どちらかといえば、はい	246	33.6
3	どちらかといえば、いいえ	171	23.4
4	いいえ	178	24.3
	無回答	35	4.8
	全体	732	100.0

(43) Q14② 生活:人というと、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	78	10.7
2	どちらかといえば、はい	168	23.0
3	どちらかといえば、いいえ	179	24.5
4	いいえ	270	36.9
	無回答	37	5.1
	全体	732	100.0

(44) Q14③ 生活:周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	73	10.0
2	どちらかといえば、はい	141	19.3
3	どちらかといえば、いいえ	182	24.9
4	いいえ	296	40.4
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(45) Q14④ 生活:他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	99	13.5
2	どちらかといえば、はい	202	27.6
3	どちらかといえば、いいえ	178	24.3
4	いいえ	213	29.1
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(46) Q14⑤ 生活:大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	40	5.5
2	どちらかといえば、はい	102	13.9
3	どちらかといえば、いいえ	210	28.7
4	いいえ	340	46.4
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(47) Q14⑥ 生活:大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	73	10.0
2	どちらかといえば、はい	155	21.2
3	どちらかといえば、いいえ	179	24.5
4	いいえ	285	38.9
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(48) Q14⑦ 生活:初対面の人とすぐに会話できる自信がある... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	268	36.6
2	どちらかといえば、はい	217	29.6
3	どちらかといえば、いいえ	118	16.1
4	いいえ	89	12.2
	無回答	40	5.5
	全体	732	100.0

(49) Q14⑧ 生活:人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	112	15.3
2	どちらかといえば、はい	163	22.3
3	どちらかといえば、いいえ	180	24.6
4	いいえ	239	32.7
	無回答	38	5.2
	全体	732	100.0

(50) Q14⑨ 生活:自分の感情を表に出すのが苦手だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	87	11.9
2	どちらかといえば、はい	177	24.2
3	どちらかといえば、いいえ	179	24.5
4	いいえ	250	34.2
	無回答	39	5.3
	全体	732	100.0

(51) Q14⑩ 生活:周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	81	11.1
2	どちらかといえば、はい	104	14.2
3	どちらかといえば、いいえ	221	30.2
4	いいえ	287	39.2
	無回答	39	5.3
	全体	732	100.0

(55) 罪名...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	2	0.3
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	2	0.3
6	住居侵入	4	0.5
7	通貨偽造	0	0.0
8	<small>文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係</small>	2	0.3
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	4	0.5
11	強制わいせつ・同致死傷	16	2.2
12	強制性交等・同致死傷	7	1.0
13	賭博・富くじ	2	0.3
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	1	0.1
16	傷害	29	4.0
17	傷害致死	7	1.0
18	暴行	6	0.8
19	業務上過失致死傷	0	0.0
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	1	0.1
22	略取・誘拐及び人身売買	2	0.3
23	窃盗	181	24.7
24	強盗	13	1.8
25	強盗致死傷	8	1.1
26	強盗・強制性交等及び同致死	0	0.0
27	詐欺	90	12.3
28	恐喝	5	0.7
29	横領・背任	3	0.4
30	盗品等関係	2	0.3
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	3	0.4
34	危険運転致死傷	0	0.0
35	過失運転致死傷	8	1.1
36	無免許危険運転致死傷	1	0.1
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	1	0.1
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	3	0.4
40	その他の刑法犯	11	1.5
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	0	0.0
54	売春防止法	1	0.1
55	児童福祉法	3	0.4
56	麻薬及び向精神薬取締法	2	0.3
57	覚醒剤取締法	202	27.6
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	37	5.1
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	36	4.9
	無回答	37	5.1
	全体	732	100.0

(58) 累犯...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	累犯	299	40.8
2	非累犯	393	53.7
3	不該当	3	0.4
	無回答	37	5.1
	全体	732	100.0

(59) 職業..(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	3	0.4
4	社会福祉専門職業従事者	4	0.5
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	1	0.1
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	9	1.2
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	15	2.0
15	その他の管理的職業従事者	2	0.3
16	一般事務従事者	15	2.0
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	2	0.3
21	飲食店主・店長	4	0.5
22	販売店員	6	0.8
23	商品訪問・移動販売従事者	1	0.1
24	再生資源回収・卸売従事者	1	0.1
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	5	0.7
28	家庭生活支援サービス職業従事者	0	0.0
29	理容師、美容師	0	0.0
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	1	0.1
32	調理人	0	0.0
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	15	2.0
35	接客社交従事者	2	0.3
36	娯楽場等接客員	3	0.4
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	15	2.0
41	保安職業従事者	2	0.3
42	農業従事者、林業従事者	5	0.7
43	漁業従事者	1	0.1
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	8	1.1
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	0	0.0
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	3	0.4
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	7	1.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	3	0.4
56	機械組立従事者	1	0.1
57	機械整備・修理従事者	2	0.3
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	0	0.0
68	電気工事従事者	5	0.7
69	建設従事者	51	7.0
70	土木作業従事者	27	3.7
71	その他建設作業従事者	48	6.6
72	運搬従事者	9	1.2
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	18	2.5
74	定収入のある者	49	6.7
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	349	47.7
78	不詳	2	0.3
	無回答	38	5.2
	全体	732	100.0

(60) 職業_状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	職業あり	294	40.2
2	職業なし	398	54.4
3	不詳	2	0.3
	無回答	38	5.2
	全体	732	100.0

(61) 配偶...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	未婚	296	40.4
2	有配偶	134	18.3
3	離別	255	34.8
4	死別	4	0.5
5	不詳	0	0.0
	無回答	43	5.9
	全体	732	100.0

(62) 最終学歴...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	不就学	1	0.1
2	中学校在学・中退	1	0.1
3	中学校卒業	228	31.1
4	高等学校在学・中退	195	26.6
5	高等学校卒業	182	24.9
6	大学在学・中退	28	3.8
7	大学卒業	55	7.5
	無回答	42	5.7
	全体	732	100.0

(63) 属性及び犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	250	34.2
2	B	357	48.8
3	F A	1	0.1
4	F B	0	0.0
5	I A	3	0.4
6	I B	0	0.0
7	J A	0	0.0
8	J B	0	0.0
9	L A	2	0.3
10	L B	0	0.0
11	Y A	59	8.1
12	Y B	9	1.2
13	MA	1	0.1
14	MB	2	0.3
19	P A	2	0.3
20	P B	1	0.1
	無回答	45	6.1
	全体	732	100.0

(64) 犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	318	43.4
2	B	369	50.4
	無回答	45	6.1
	全体	732	100.0

(65) 精神状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	精神障害なし	589	80.5
2	知的障害	18	2.5
3	精神病質	2	0.3
4	神経症	17	2.3
5	その他の精神障害	60	8.2
6	不詳	0	0.0
	無回答	46	6.3
	全体	732	100.0

(66) 精神障害の有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	97	13.3
2	なし	589	80.5
3	不詳	0	0.0
	無回答	46	6.3
	全体	732	100.0

(68) 前刑罪名... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	1	0.2
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	2	0.5
6	住居侵入	2	0.5
7	通貨偽造	0	0.0
8	<small>文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係</small>	2	0.5
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	1	0.2
11	強制わいせつ・同致死傷	6	1.5
12	強制性交等・同致死傷	3	0.7
13	賭博・富くじ	0	0.0
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	2	0.5
16	傷害	14	3.5
17	傷害致死	0	0.0
18	暴行	1	0.2
19	業務上過失致死傷	1	0.2
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	1	0.2
22	略取・誘拐及び人身売買	1	0.2
23	窃盗	110	27.4
24	強盗	4	1.0
25	強盗致死傷	3	0.7
26	強盗・強制性交等及び同致死	2	0.5
27	詐欺	19	4.7
28	恐喝	1	0.2
29	横領・背任	4	1.0
30	盗品等関係	0	0.0
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	5	1.2
34	危険運転致死傷	1	0.2
35	過失運転致死傷	3	0.7
36	無免許危険運転致死傷	0	0.0
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	3	0.7
40	その他の刑法犯	4	1.0
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	1	0.2
54	売春防止法	0	0.0
55	児童福祉法	0	0.0
56	麻薬及び向精神薬取締法	3	0.7
57	覚醒剤取締法	136	33.9
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	10	2.5
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	13	3.2
	無回答	42	10.5
	非該当	331	
	全体	401	100.0

(69) 修了した前刑職業訓練種目... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	板金科 (塑性加工)	0	0.0
2	機械科 (機械加工)	0	0.0
3	数値制御機械科	2	0.5
4	CAD技術科	3	0.7
5	溶接科	0	0.0
6	自動車整備科	0	0.0
7	自動車整備科 (タイヤ整備)	0	0.0
8	自動車整備科 (板金塗装)	0	0.0
9	木工科	0	0.0
10	工芸科 (木材工芸)	0	0.0
11	工芸科 (漆器)	0	0.0
12	工芸科 (革工芸)	1	0.2
13	工芸科 (竹工芸)	0	0.0
14	工芸科 (石材)	0	0.0
15	工芸科 (織布)	0	0.0
16	工芸科 (剣道具)	1	0.2
17	工芸科 (窯業)	1	0.2
18	印刷科	0	0.0
19	縫製科	0	0.0
20	ビル設備管理科	3	0.7
21	建設機械科	0	0.0
22	建設機械科 (クレーン運転)	0	0.0
23	小型建設機械科	0	0.0
24	電気通信設備科	0	0.0
25	就職支援コース科	2	0.5
26	建築科	2	0.5
27	建築科 (畳)	0	0.0
28	建築科 (表具)	0	0.0
29	建築科 (建築模型製作)	0	0.0
30	建築塗装科	1	0.2
31	内装施工科	2	0.5
32	左官科	0	0.0
33	配管科	0	0.0
34	土木科	0	0.0
35	測量科	0	0.0
36	フォークリフト運転科	7	1.7
37	ビルハウスクリーニング科	2	0.5
38	クリーニング科	1	0.2
39	情報処理科	6	1.5
40	販売サービス科	1	0.2
41	ホームヘルパー科	0	0.0
42	理容科	0	0.0
43	理容科 (短期理容科)	0	0.0
44	美容科	0	0.0
45	総合美容技術科	0	0.0
46	自動車運転科	0	0.0
47	船舶職員科	0	0.0
48	農業園芸科	2	0.5
49	点字翻訳科	0	0.0
50	無線通信科	0	0.0
99	その他	9	2.2
100	Y(未修了者)	5	1.2
101	X(不詳)	2	0.5
102	0(なし)	310	77.3
	無回答	38	9.5
	非該当	331	
	全体	401	100.0

(70) 前刑での職業訓練の修了有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	48	12.0
2	未修了者	5	1.2
3	なし	310	77.3
	無回答	38	9.5
	非該当	331	
	全体	401	100.0

(71) 再犯期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	3月未満	28	7.0
2	6月未満	29	7.2
3	1年未満	51	12.7
4	2年未満	79	19.7
5	3年未満	47	11.7
6	4年未満	27	6.7
7	5年未満	30	7.5
8	5年以上	63	15.7
9	前刑出所前の犯罪	6	1.5
	無回答	41	10.2
	非該当	331	
	全体	401	100.0

(72) 前刑出所事由...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	満期釈放	150	37.4
2	仮釈放	209	52.1
	無回答	42	10.5
	非該当	331	
	全体	401	100.0

(74) 従事作業...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	農耕・牧畜	4	0.5
2	林業	0	0.0
3	漁業	0	0.0
4	鉱業	0	0.0
5	運輸	0	0.0
6	金属材料製造	11	1.5
7	金属加工・機械組立修理	36	4.9
8	電気器具組立修理	11	1.5
9	自動車整備	0	0.0
10	製糸・紡績	1	0.1
11	織物製品製造	71	9.7
12	木工	29	4.0
13	竹・草・つる製品製造	0	0.0
14	紙・紙製品製造	44	6.0
15	印刷・製本	11	1.5
16	ゴム・可塑性製品製造	5	0.7
17	皮革・皮革製品製造	6	0.8
18	窯業・土石製品製造	2	0.3
19	飲食料品製造	4	0.5
20	化学製品製造	57	7.8
21	建設作業	2	0.3
22	電工	0	0.0
23	紙細工	20	2.7
24	その他の技能工	3	0.4
25	単純労働作業	1	0.1
26	サービス工	3	0.4
27	経理作業	184	25.1
99	その他	105	14.3
100	不詳	0	0.0
	無回答	122	16.7
	全体	732	100.0

(75) 修了職業訓練... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	板金科 (塑性加工)	0	0.0
2	機械科 (機械加工)	0	0.0
3	数値制御機械科	0	0.0
4	C A D技術科	2	0.3
5	溶接科	9	1.2
6	自動車整備科	0	0.0
7	自動車整備科 (タイヤ整備)	0	0.0
8	自動車整備科 (板金塗装)	0	0.0
9	木工科	0	0.0
10	工芸科 (木材工芸)	0	0.0
11	工芸科 (漆器)	0	0.0
12	工芸科 (革工芸)	0	0.0
13	工芸科 (竹工芸)	0	0.0
14	工芸科 (石材)	0	0.0
15	工芸科 (織布)	0	0.0
16	工芸科 (剣道具)	0	0.0
17	工芸科 (窯業)	0	0.0
18	印刷科	0	0.0
19	縫製科	0	0.0
20	ビル設備管理科	12	1.6
21	建設機械科	7	1.0
22	建設機械科 (クレーン運転)	0	0.0
23	小型建設機械科	2	0.3
24	電気通信設備科	2	0.3
25	就職支援コース科	0	0.0
26	建築科	0	0.0
27	建築科 (畳)	0	0.0
28	建築科 (表具)	0	0.0
29	建築科 (建築模型製作)	0	0.0
30	建築塗装科	3	0.4
31	内装施工科	2	0.3
32	左官科	0	0.0
33	配管科	0	0.0
34	土木科	0	0.0
35	測量科	0	0.0
36	フォークリフト運転科	20	2.7
37	ビルハウスクリーニング科	0	0.0
38	クリーニング科	0	0.0
39	情報処理科	18	2.5
40	販売サービス科	4	0.5
41	ホームヘルパー科	3	0.4
42	理容科	1	0.1
43	理容科 (短期理容科)	0	0.0
44	美容科	0	0.0
45	総合美容技術科	0	0.0
46	自動車運転科	0	0.0
47	船舶職員科	0	0.0
48	農業園芸科	0	0.0
49	点字翻訳科	1	0.1
50	無線通信科	0	0.0
99	その他	40	5.5
100	Y(未修了者)	11	1.5
101	X(不詳)	0	0.0
102	0(なし)	475	64.9
	無回答	120	16.4
	全体	732	100.0

(76) 職業訓練の修了有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	131	17.9
2	未修了者	11	1.5
3	なし	489	66.8
	無回答	101	13.8
	全体	732	100.0

(77) 取得資格免許... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	技能検定・技能照査	8	1.1
2	車両系建設機械運転技能者	5	0.7
3	フォークリフト運転者	15	2.0
4	クレーン運転士	0	0.0
5	溶接技能者	8	1.1
6	玉掛技能者	1	0.1
7	ボイラー技士	6	0.8
8	パソコン検定	5	0.7
9	ワープロ検定	3	0.4
10	技能講習	10	1.4
11	特別教育	1	0.1
12	ホームヘルパー	1	0.1
13	CAD利用技術者	3	0.4
14	電気工事士	2	0.3
15	無線従事者	0	0.0
16	消防設備士	1	0.1
17	自動車整備士	0	0.0
18	測量士(補)	0	0.0
19	調理師	0	0.0
20	理容師	1	0.1
21	美容師	0	0.0
22	クリーニング師	0	0.0
23	自動車運転免許	0	0.0
24	海技従事者	0	0.0
25	情報処理技術者	3	0.4
26	危険物取扱者	6	0.8
99	その他	10	1.4
100	なし	523	71.4
	無回答	120	16.4
	全体	732	100.0

(78) 資格免許取得の有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	91	12.4
2	なし	540	73.8
	無回答	101	13.8
	全体	732	100.0

(79) 就労支援指導の受講有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	117	16.0
2	なし	562	76.8
	無回答	53	7.2
	全体	732	100.0

(80) CD_統計帰住先... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	父、母のもと	222	30.3
2	配偶者のもと	50	6.8
3	兄弟、姉妹のもと	32	4.4
4	その他の親族のもと	18	2.5
5	知人のもと	64	8.7
6	雇主のもと	15	2.0
7	社会福祉施設	2	0.3
8	更生保護施設等	128	17.5
9	その他	70	9.6
10	その他選択肢に含まれない自宅	14	1.9
	無回答	117	16.0
	全体	732	100.0

(81) 職歴... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	24	3.3
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	6	0.8
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	13	1.8
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	82	11.2
28	家庭生活支援サービス職業従事者	6	0.8
29	理容師、美容師	3	0.4
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	23	3.1
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	72	9.8
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	81	11.1
41	保安職業従事者	13	1.8
42	農業従事者、林業従事者	8	1.1
43	漁業従事者	5	0.7
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	42	5.7
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	4	0.5
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	0	0.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	59	8.1
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	6	0.8
68	電気工事従事者	0	0.0
69	建設従事者	0	0.0
70	土木作業従事者	80	10.9
71	その他建設作業従事者	189	25.8
72	運搬従事者	24	3.3
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	28	3.8
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	6	0.8
78	不詳	0	0.0
	無回答	362	49.5
	全体	732	100.0

(82) 希望職種... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	12	1.6
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	4	0.5
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	8	1.1
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	20	2.7
28	家庭生活支援サービス職業従事者	7	1.0
29	理容師、美容師	1	0.1
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	8	1.1
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	19	2.6
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	25	3.4
41	保安職業従事者	1	0.1
42	農業従事者、林業従事者	10	1.4
43	漁業従事者	2	0.3
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	18	2.5
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	1	0.1
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	0	0.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	15	2.0
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	3	0.4
68	電気工事従事者	0	0.0
69	建設従事者	0	0.0
70	土木作業従事者	28	3.8
71	その他建設作業従事者	99	13.5
72	運搬従事者	14	1.9
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	9	1.2
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	12	1.6
78	不詳	0	0.0
	無回答	443	60.5
	全体	732	100.0

基本統計量

No.	項目名	件数	平均値	標準偏差	合計値	中央値	最大値	最小値
6	Q2③ これまでの転職回数	652	5.26	3.836	3432	5.00	30	0
8	Q2⑤-1 これまでに一番長く続いた仕事(歳から)	674	22.84	6.634	15393	21.00	55	2
9	Q2⑤-2 これまでに一番長く続いた仕事(歳まで)	671	32.44	10.015	21764	31.00	63	16
54	年齢	695	43.36	11.464	30135	44.00	64	21
56	刑期	695	28.68	18.799	19935	24.00	168	3
57	入所度数	695	2.62	2.274	1824	2.00	15	1
67	能力検査値	677	84.56	12.864	57244	85.00	122	42
73	懲罰回数	660	0.83	1.788	551	0.00	9	0

調査名 [4. 再入所者調査]

(3) 再入受刑者タイプ... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	保護観察終了時及び再入所時に就労 (A)	100	33.8
2	保護観察終了時には就労していたものの、再入所時には不就労 (B)	98	33.1
3	保護観察終了時及び再入所時に不就労 (C)	98	33.1
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(4) Q1 前回出所時に、在所中内定の有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	97	32.8
2	いいえ	187	63.2
	無回答	12	4.1
	全体	296	100.0

(5) Q2 前回出所時から、今回入所の間に、収入の伴う仕事をした経験有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	222	75.0
2	いいえ	67	22.6
	無回答	7	2.4
	全体	296	100.0

(6) Q3 前回出所時から、今回入所の間の転職回数... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	転職はしていない	154	69.4
2	1回	45	20.3
3	2回	17	7.7
4	3回以上	6	2.7
	無回答	0	0.0
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(7) Q4 前回出所時から、今回入所の間の合計就労期間... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1か月未満	9	4.1
2	1か月以上3か月未満	38	17.1
3	3か月以上6か月未満	48	21.6
4	6か月以上12か月未満	70	31.5
5	1年以上3年未満	53	23.9
6	3年以上5年未満	2	0.9
7	5年以上	2	0.9
	無回答	0	0.0
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(8) Q5 前回出所時から、今回入所の間で最も長い仕事の期間... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1か月未満	9	4.1
2	1か月以上3か月未満	38	17.1
3	3か月以上6か月未満	48	21.6
4	6か月以上12か月未満	62	27.9
5	1年以上3年未満	52	23.4
6	3年以上5年未満	5	2.3
7	5年以上	8	3.6
	無回答	0	0.0
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(9) Q6 前回出所時から、今回入所の間で一番長く続いた仕事...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	理容・美容関係	1	0.5
2	金属製造関係	4	1.8
3	その他の製造関係	3	1.4
4	建設・土木関係	124	55.9
5	電気工事関係	6	2.7
6	農業・園芸関係	5	2.3
7	調理関係	4	1.8
8	コンピュータ関係	5	2.3
9	自動車整備関係	1	0.5
10	自動車運転関係	15	6.8
11	福祉関係	7	3.2
12	販売員	6	2.7
13	その他の仕事	40	18.0
	無回答	1	0.5
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(11) Q7 前回出所時から、今回入所の間で一番長く続いた仕事を辞めた理由...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	辞めていない	30	13.5
2	倒産、廃業、整理解雇	1	0.5
3	雇用期間の満了・雇止め	8	3.6
4	健康上の理由	16	7.2
5	人間関係がよくなかった	30	13.5
6	職場の上司や同僚に注意された	3	1.4
7	労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった	14	6.3
8	賃金の条件がよくなかった	17	7.7
9	勤め先や仕事に将来性がなかった	13	5.9
10	仕事が自分に合わなかった	15	6.8
11	自分の技能・能力が活かせなかった	3	1.4
12	もっとよい仕事があった	14	6.3
13	何となく	10	4.5
14	逮捕・受刑等のため	122	55.0
15	その他	43	19.4
	無回答	0	0.0
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(12) Q8 前回出所時から、今回入所の間で、3か月以上収入のある仕事をしていなかった経験...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	58	26.1
2	いいえ	164	73.9
	無回答	0	0.0
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(13) Q9 逮捕されたときの就労状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	仕事に就いていた	146	65.8
2	無職だったが、仕事のあてがあった	35	15.8
3	無職で、仕事をする予定もなかった	40	18.0
	無回答	1	0.5
	非該当	74	
	全体	222	100.0

(14) Q10 前回出所時から、今回入所の間で収入の伴う仕事をしなかった理由...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	仕事を探したが、採用されなかった	11	16.4
2	仕事を探したが、希望する仕事なかった	9	13.4
3	仕事には就きたかったが、仕事を探さなかった	5	7.5
4	仕事をしなくても生活できた	8	11.9
5	家族などに反対された	0	0.0
6	家事・育児・介護に専念した	1	1.5
7	健康上の理由のため	11	16.4
8	働きたくなかった	4	6.0
9	何となく	1	1.5
10	その他	16	23.9
	無回答	1	1.5
	非該当	229	
	全体	67	100.0

(15) Q11 収入を伴う仕事をした経験...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	60	89.6
2	ない	4	6.0
	無回答	3	4.5
	非該当	229	
	全体	67	100.0

(16) Q12 前回出所時から、今回入所の間で仕事を決める時に重視したこと...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	家の近くで出来る仕事	114	38.5
2	自分の知識・能力にあう仕事	177	59.8
3	勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事	146	49.3
4	仕事内容や業界に興味がある仕事	139	47.0
5	元受刑者を受け入れてくれる職場	100	33.8
6	刑務所の職員などにすすめられた仕事	14	4.7
7	その他	55	18.6
8	わからない	2	0.7
9	仕事をするつもりはなかった	5	1.7
	無回答	10	3.4
	全体	296	100.0

(17) Q13 前回の在所中から、出所後の仕事について持っていた不安...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	特に不安はなかった	83	28.0
2	仕事が見つかるかどうか	123	41.6
3	職場の上司や同僚とうまくやっていけるか	81	27.4
4	職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか	61	20.6
5	職場に元受刑者であることが知られてしまわないか	55	18.6
6	決まった時間に決まった場所に出社できるか	21	7.1
7	稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか	112	37.8
8	与えられた仕事をうまくこなせるか	83	28.0
9	昇進やキャリアアップができるか	30	10.1
10	困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない	49	16.6
11	その他	21	7.1
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(18) Q14 前回の出所時に、同居家族等の有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	いた	133	44.9
2	いなかった	155	52.4
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(19) Q15 前回の出所時の主な稼ぎ手...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あなた自身	194	65.5
2	父	23	7.8
3	母	13	4.4
4	配偶者	4	1.4
5	きょうだい	8	2.7
6	子	0	0.0
7	他の家族や親戚	2	0.7
8	年金などを受ける	1	0.3
9	生活保護などを受ける	25	8.4
10	その他	11	3.7
	無回答	15	5.1
	全体	296	100.0

(20) Q16 前回の出所時の住居の状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分や家族の持ち家	83	28.0
2	賃貸(公営)	27	9.1
3	賃貸(民営)	79	26.7
4	勤め先の寮・社宅	30	10.1
5	住み込み	2	0.7
6	その他	63	21.3
	無回答	12	4.1
	全体	296	100.0

(21) Q17① 自分の考え:私は、自分自身にだいたい満足している...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
-----	--------	---	---

1	強くそう思う	10	3.4
2	そう思う	64	21.6
3	そう思わない	173	58.4
4	強くそう思わない	41	13.9
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(22) Q17② 自分の考え:時々、自分はまったくダメだと思ふことがある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	53	17.9
2	そう思う	147	49.7
3	そう思わない	79	26.7
4	強くそう思わない	10	3.4
	無回答	7	2.4
	全体	296	100.0

(23) Q17③ 自分の考え:私には、けっこう長所があると感じている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	12	4.1
2	そう思う	136	45.9
3	そう思わない	128	43.2
4	強くそう思わない	12	4.1
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(24) Q17④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	32	10.8
2	そう思う	147	49.7
3	そう思わない	94	31.8
4	強くそう思わない	15	5.1
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(25) Q17⑤ 自分の考え:私には誇れるものが大してないと感じる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	30	10.1
2	そう思う	136	45.9
3	そう思わない	106	35.8
4	強くそう思わない	15	5.1
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(26) Q17⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	22	7.4
2	そう思う	90	30.4
3	そう思わない	146	49.3
4	強くそう思わない	29	9.8
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(27) Q17⑦ 自分の考え:自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	20	6.8
2	そう思う	114	38.5
3	そう思わない	136	45.9
4	強くそう思わない	17	5.7
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(28) Q17⑧ 自分の考え:自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	64	21.6
2	そう思う	147	49.7
3	そう思わない	66	22.3
4	強くそう思わない	10	3.4
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(29) Q17⑨ 自分の考え:よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	36	12.2
2	そう思う	102	34.5
3	そう思わない	122	41.2
4	強くそう思わない	27	9.1
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(30) Q17⑩ 自分の考え:私は、自分のことを前向きに考えている... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	48	16.2
2	そう思う	133	44.9
3	そう思わない	86	29.1
4	強くそう思わない	20	6.8
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(31) Q18-1 前回の在所中:受けた職業訓練... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	下記のようなものは受けていない	121	40.9
2	職業訓練	91	30.7
3	職場体験制度	10	3.4
4	就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング	44	14.9
5	ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介	88	29.7
6	事業主による職業講話	39	13.2
7	【特別改善指導】就労支援指導	47	15.9
	無回答	17	5.7
	全体	296	100.0

(32) Q18-2 前回の在所中:就労支援を受けなかった理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	刑務所内での就労支援を希望したが、対象者に選ばれなかった	20	11.0
2	就労支援の存在を知らなかった	8	4.4
3	仕事が決まっていた	76	42.0
4	自分で仕事を見つけたかった	63	34.8
5	ハローワークや事業主などに受刑歴を知られたくなかった	12	6.6
6	帰住先と離れているため、刑務所内では仕事が見つからなかった	20	11.0
7	刑務所内では希望する内容や条件の仕事が見つからなかった	17	9.4
8	がめなど、依存症の自助グループの活動を優先したかった	6	3.3
9	仕事をしなくても生活できた	7	3.9
10	家族などに反対されていた	2	1.1
11	家事・育児・介護に専念したかった	0	0.0
12	健康上の理由のため	7	3.9
13	その他	34	18.8
	無回答	12	6.6
	非該当	115	
	全体	181	100.0

(33) Q18-3 前回の在所中:就労支援を受けた理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	面接指導をうけられると思ったから	27	27.6
2	履歴書の書き方やビズネスカード、採用面接の受け方などを学べたから	30	30.6
3	求人票を見せってもらったり、就労先を紹介してもらえたりと思ったから	58	59.2
4	とにかく、在所中に内定を得たいと思ったから	35	35.7
5	帰住先が得られると思ったから	10	10.2
6	刑務所の職員にすすめられたから	25	25.5
7	家族などにすすめられたから	2	2.0
8	何となく	8	8.2
9	その他	6	6.1
	無回答	13	13.3
	非該当	198	
	全体	98	100.0

(34) Q18-4 前回の在所中:就労に役立ったと思う職業訓練... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
-----	--------	---	---

1	役立ったものは特にな	37	23.4
2	職業訓練	59	37.3
3	職場体験制度	8	5.1
4	就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング	22	13.9
5	ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介	59	37.3
6	事業主による職業講話	25	15.8
7	【特別改善指導】就労支援指導	22	13.9
	無回答	5	3.2
	非該当	138	
	全体	158	100.0

(35) Q18-5 今回の入所中:職業訓練や就労支援の意向...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	思う	178	60.1
2	思わない	63	21.3
3	わからない	43	14.5
	無回答	12	4.1
	全体	296	100.0

(37) Q19 出所後、安定した収入の伴う仕事をしたいと思うか...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	思う	268	90.5
2	思わない	4	1.4
3	わからない	14	4.7
	無回答	10	3.4
	全体	296	100.0

(38) Q20 仕事をする目的...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	収入がほしいから	242	90.3
2	仕事そのものが面白い、自分の活力になるから	106	39.6
3	仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから	73	27.2
4	働くのは身体によいから・老化を防ぐから	51	19.0
5	社会の一員としてのつとめ	107	39.9
6	自分の才能や能力を発揮するため	63	23.5
7	その他	27	10.1
	無回答	0	0.0
	非該当	28	
	全体	268	100.0

(39) Q21 月収の希望額...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	~10万円未満	0	0.0
2	10万円以上~20万円未満	25	9.3
3	20万円以上~30万円未満	111	41.4
4	30万円以上~40万円未満	88	32.8
5	40万円以上~50万円未満	23	8.6
6	50万円以上~100万円未満	4	1.5
7	100万円以上	7	2.6
8	わからない	8	3.0
	無回答	2	0.7
	非該当	28	
	全体	268	100.0

(40) Q22 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない	0	0.0
2	自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない	0	0.0
3	勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない	0	0.0
4	今の景気や季節では仕事がありそうにない	0	0.0
5	元受刑者を受け入れてくれる職場がみつかりそうにない	0	0.0
6	仕事をしなくても生活できる	2	50.0
7	家族などに反対されている	0	0.0
8	仕事のイメージがわからない	2	50.0
9	家事・育児・介護に専念したい	0	0.0
10	資格取得等の勉強に集中するため	0	0.0
11	健康上の理由のため	1	25.0
12	何となく	0	0.0
13	その他	1	25.0
	無回答	0	0.0
	非該当	292	
	全体	4	100.0

(41) Q23① 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	把握している	217	73.3
2	把握していない	69	23.3
	無回答	10	3.4
	全体	296	100.0

(42) Q23② 入所前5年間に、生活費が足りなくなった経験有無... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	179	60.5
2	ない	106	35.8
	無回答	11	3.7
	全体	296	100.0

(43) Q23③ 入所前5年間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験有無... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	110	37.2
2	ない	175	59.1
	無回答	11	3.7
	全体	296	100.0

(44) Q24 仕事をしていることと、再犯をしないことは関係があると思うか... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	228	77.0
2	ない	57	19.3
	無回答	11	3.7
	全体	296	100.0

(46) Q25① 仕事:自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	211	71.3
2	どちらかといえば、はい	63	21.3
3	どちらかといえば、いいえ	9	3.0
4	いいえ	5	1.7
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(47) Q25② 仕事:まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う... (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	117	39.5
2	どちらかといえば、はい	84	28.4
3	どちらかといえば、いいえ	43	14.5
4	いいえ	42	14.2
	無回答	10	3.4
	全体	296	100.0

(48) Q25③ 仕事:仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	75	25.3
2	どちらかといえば、はい	37	12.5
3	どちらかといえば、いいえ	55	18.6
4	いいえ	120	40.5
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(49) Q25④ 仕事:定職に就かない方が自由でいいと思う... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	28	9.5
2	どちらかといえば、はい	36	12.2
3	どちらかといえば、いいえ	64	21.6
4	いいえ	159	53.7
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(50) Q25⑤ 仕事:嫌いな人や気にいらぬ人とも、一緒に仕事をする事ができる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	66	22.3
2	どちらかといえば、はい	98	33.1
3	どちらかといえば、いいえ	87	29.4
4	いいえ	32	10.8
	無回答	13	4.4
	全体	296	100.0

(51) Q26① 生活:自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	47	15.9
2	どちらかといえば、はい	105	35.5
3	どちらかといえば、いいえ	90	30.4
4	いいえ	46	15.5
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(52) Q26② 生活:人というと、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	25	8.4
2	どちらかといえば、はい	81	27.4
3	どちらかといえば、いいえ	83	28.0
4	いいえ	98	33.1
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(53) Q26③ 生活:周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	20	6.8
2	どちらかといえば、はい	65	22.0
3	どちらかといえば、いいえ	88	29.7
4	いいえ	115	38.9
	無回答	8	2.7
	全体	296	100.0

(54) Q26④ 生活:他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	42	14.2
2	どちらかといえば、はい	84	28.4
3	どちらかといえば、いいえ	97	32.8
4	いいえ	64	21.6
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(55) Q26⑤ 生活:大事なことを決めるときは、家族や目上の人の言うことに従わないと不安だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	17	5.7
2	どちらかといえば、はい	43	14.5
3	どちらかといえば、いいえ	98	33.1
4	いいえ	128	43.2
	無回答	10	3.4
	全体	296	100.0

(56) Q26⑥ 生活:大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	31	10.5
2	どちらかといえば、はい	62	20.9
3	どちらかといえば、いいえ	84	28.4
4	いいえ	110	37.2
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(57) Q26⑦ 生活:初対面の人とすぐに会話できる自信がある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	107	36.1
2	どちらかといえば、はい	86	29.1
3	どちらかといえば、いいえ	62	20.9
4	いいえ	32	10.8
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(58) Q26⑧ 生活:人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	37	12.5
2	どちらかといえば、はい	73	24.7
3	どちらかといえば、いいえ	84	28.4
4	いいえ	92	31.1
	無回答	10	3.4
	全体	296	100.0

(59) Q26⑨ 生活:自分の感情を表に出すのが苦手だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	30	10.1
2	どちらかといえば、はい	85	28.7
3	どちらかといえば、いいえ	83	28.0
4	いいえ	89	30.1
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(60) Q26⑩ 生活:周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	23	7.8
2	どちらかといえば、はい	61	20.6
3	どちらかといえば、いいえ	87	29.4
4	いいえ	116	39.2
	無回答	9	3.0
	全体	296	100.0

(63) 罪名...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	0	0.0
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	0	0.0
6	住居侵入	2	0.7
7	通貨偽造	0	0.0
8	文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係	0	0.0
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	0	0.0
11	強制わいせつ・同致死傷	3	1.0
12	強制性交等・同致死傷	1	0.3
13	賭博・富くじ	0	0.0
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	0	0.0
16	傷害	5	1.7
17	傷害致死	0	0.0
18	暴行	0	0.0
19	業務上過失致死傷	0	0.0
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	0	0.0
22	略取・誘拐及び人身売買	0	0.0
23	窃盗	116	39.2
24	強盗	0	0.0
25	強盗致死傷	1	0.3
26	強盗・強制性交等及び同致死	0	0.0
27	詐欺	8	2.7
28	恐喝	1	0.3
29	横領・背任	0	0.0
30	盗品等関係	0	0.0
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	0	0.0
34	危険運転致死傷	0	0.0
35	過失運転致死傷	0	0.0
36	無免許危険運転致死傷	0	0.0
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	1	0.3
40	その他の刑法犯	1	0.3
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	0	0.0
54	売春防止法	0	0.0
55	児童福祉法	0	0.0
56	麻薬及び向精神薬取締法	0	0.0
57	覚醒剤取締法	149	50.3
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	2	0.7
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	4	1.4
	無回答	2	0.7
	全体	296	100.0

(66) 累犯...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	累犯	286	96.6
2	非累犯	8	2.7
	無回答	2	0.7
	全体	296	100.0

(67) 職業...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	3	1.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	1	0.3
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	1	0.3
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	0	0.0
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	1	0.3
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	1	0.3
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	1	0.3
21	飲食店主・店長	1	0.3
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	1	0.3
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	1	0.3
28	家庭生活支援サービス職業従事者	0	0.0
29	理容師、美容師	0	0.0
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	0	0.0
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	2	0.7
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	1	0.3
41	保安職業従事者	0	0.0
42	農業従事者、林業従事者	3	1.0
43	漁業従事者	0	0.0
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	4	1.4
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	1	0.3
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	1	0.3
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	1	0.3
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	0	0.0
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	0	0.0
68	電気工事従事者	2	0.7
69	建設従事者	24	8.1
70	土木作業従事者	19	6.4
71	その他建設作業従事者	24	8.1
72	運搬従事者	5	1.7
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	3	1.0
74	定収入のある者	5	1.7
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	188	63.5
78	X（不詳）	0	0.0
	無回答	2	0.7
	全体	296	100.0

(68) 職業_状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	職業あり	101	34.1
2	職業なし	193	65.2
3	X (不詳)	0	0.0
	無回答	2	0.7
	全体	296	100.0

(69) 配偶...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	未婚	126	42.6
2	有配偶	35	11.8
3	離別	111	37.5
4	死別	2	0.7
	無回答	22	7.4
	全体	296	100.0

(70) 最終学歴...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	不就学	2	0.7
2	中学校在学・中退	0	0.0
3	中学校卒業	106	35.8
4	高等学校在学・中退	100	33.8
5	高等学校卒業	69	23.3
6	大学在学・中退	7	2.4
7	大学卒業	10	3.4
	無回答	2	0.7
	全体	296	100.0

(71) 属性および犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	2	0.7
2	B	268	90.5
3	F A	0	0.0
4	F B	1	0.3
5	I A	0	0.0
6	I B	0	0.0
7	J A	0	0.0
8	J B	0	0.0
9	L A	0	0.0
10	L B	0	0.0
11	Y A	0	0.0
12	Y B	5	1.7
13	MA	0	0.0
14	MB	0	0.0
19	P A	0	0.0
20	P B	0	0.0
	無回答	20	6.8
	全体	296	100.0

(72) 犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	2	0.7
2	B	292	98.6
	無回答	2	0.7
	全体	296	100.0

(73) 精神状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	精神障害なし	244	82.4
2	知的障害	2	0.7
3	精神病質	1	0.3
4	神経症	5	1.7
5	その他の精神障害	40	13.5
	無回答	4	1.4
	全体	296	100.0

(74) 精神障害の有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	48	16.2
2	なし	244	82.4
	無回答	4	1.4
	全体	296	100.0

(76) 前刑罪名...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	0	0.0
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	0	0.0
6	住居侵入	2	0.7
7	通貨偽造	0	0.0
8	文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係	2	0.7
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	1	0.3
11	強制わいせつ・同致死傷	3	1.0
12	強制性交等・同致死傷	1	0.3
13	賭博・富くじ	0	0.0
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	0	0.0
16	傷害	9	3.0
17	傷害致死	0	0.0
18	暴行	0	0.0
19	業務上過失致死傷	0	0.0
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	1	0.3
22	略取・誘拐及び人身売買	1	0.3
23	窃盗	107	36.1
24	強盗	2	0.7
25	強盗致死傷	6	2.0
26	強盗・強制性交等及び同致死	0	0.0
27	詐欺	19	6.4
28	恐喝	0	0.0
29	横領・背任	1	0.3
30	盗品等関係	0	0.0
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	0	0.0
34	危険運転致死傷	0	0.0
35	過失運転致死傷	1	0.3
36	無免許危険運転致死傷	0	0.0
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	0	0.0
40	その他の刑法犯	1	0.3
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	0	0.0
54	売春防止法	0	0.0
55	児童福祉法	0	0.0
56	麻薬及び向精神薬取締法	0	0.0
57	覚醒剤取締法	126	42.6
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	3	1.0
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	5	1.7
	無回答	5	1.7
	全体	296	100.0

(77) 修了した前刑職業訓練種目...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	板金科 (塑性加工)	0	0.0
2	機械科 (機械加工)	0	0.0
3	数値制御機械科	0	0.0
4	C A D技術科	3	1.0
5	溶接科	4	1.4
6	自動車整備科	0	0.0
7	自動車整備科 (タイヤ整備)	0	0.0
8	自動車整備科 (板金塗装)	0	0.0
9	木工科	0	0.0
10	工芸科 (木材工芸)	1	0.3
11	工芸科 (漆器)	0	0.0
12	工芸科 (革工芸)	0	0.0
13	工芸科 (竹工芸)	0	0.0
14	工芸科 (石材)	0	0.0
15	工芸科 (織布)	0	0.0
16	工芸科 (剣道具)	0	0.0
17	工芸科 (窯業)	1	0.3
18	印刷科	0	0.0
19	縫製科	0	0.0
20	ビル設備管理科	3	1.0
21	建設機械科	2	0.7
22	建設機械科 (クレーン運転)	0	0.0
23	小型建設機械科	0	0.0
24	電気通信設備科	0	0.0
25	就職支援コース科	1	0.3
26	建築科	0	0.0
27	建築科 (畳)	0	0.0
28	建築科 (表具)	0	0.0
29	建築科 (建築模型製作)	0	0.0
30	建築塗装科	0	0.0
31	内装施工科	2	0.7
32	左官科	0	0.0
33	配管科	0	0.0
34	土木科	0	0.0
35	測量科	0	0.0
36	フォークリフト運転科	9	3.0
37	ビルハウスクリーニング科	1	0.3
38	クリーニング科	1	0.3
39	情報処理科	5	1.7
40	販売サービス科	1	0.3
41	ホームヘルパー科	1	0.3
42	理容科	0	0.0
43	理容科 (短期理容科)	0	0.0
44	美容科	0	0.0
45	総合美容技術科	0	0.0
46	自動車運転科	0	0.0
47	船舶職員科	0	0.0
48	農業園芸科	1	0.3
49	点字翻訳科	0	0.0
50	無線通信科	0	0.0
99	その他	25	8.4
100	Y (未修了者)	4	1.4
101	X (不詳)	0	0.0
102	0 (なし)	228	77.0
	無回答	3	1.0
	全体	296	100.0

(78) 前刑での職業訓練の修了有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	61	20.6
2	未修了者	4	1.4
3	なし	228	77.0
	無回答	3	1.0
	全体	296	100.0

(79) 再犯期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	3月未満	30	10.1
2	6月未満	59	19.9
3	1年未満	105	35.5
4	2年未満	80	27.0
5	3年未満	6	2.0
6	4年未満	1	0.3
7	5年未満	0	0.0
8	5年以上	0	0.0
9	前刑出所前の犯罪	9	3.0
	無回答	6	2.0
	全体	296	100.0

(80) 前刑出所事由...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	満期釈放	22	7.4
2	仮釈放	269	90.9
	無回答	5	1.7
	全体	296	100.0

(81) 令和二年出所時_罪名...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	公務執行妨害	0	0.0
2	逃走	0	0.0
3	犯人蔵匿・証拠隠滅	0	0.0
4	騒乱	0	0.0
5	放火	0	0.0
6	住居侵入	2	0.7
7	通貨偽造	0	0.0
8	文書偽造・有価証券偽造・支払用カード電磁的記録関係・印章偽造・不正指令電磁的記録関係	2	0.7
9	偽証・虚偽告訴	0	0.0
10	わいせつ・わいせつ文書頒布等	0	0.0
11	強制わいせつ・同致死傷	3	1.0
12	強制性交等・同致死傷	1	0.3
13	賭博・富くじ	0	0.0
14	贈収賄	0	0.0
15	殺人	0	0.0
16	傷害	9	3.0
17	傷害致死	0	0.0
18	暴行	0	0.0
19	業務上過失致死傷	0	0.0
20	重過失致死傷	0	0.0
21	脅迫	1	0.3
22	略取・誘拐及び人身売買	1	0.3
23	窃盗	108	36.5
24	強盗	3	1.0
25	強盗致死傷	5	1.7
26	強盗・強制性交等及び同致死	0	0.0
27	詐欺	20	6.8
28	恐喝	0	0.0
29	横領・背任	1	0.3
30	盗品等関係	0	0.0
31	決闘罪に関する件	0	0.0
32	爆発物取締罰則	0	0.0
33	暴力行為等処罰に関する法律	0	0.0
34	危険運転致死傷	0	0.0
35	過失運転致死傷	0	0.0
36	無免許危険運転致死傷	0	0.0
37	過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
38	無免許過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱	0	0.0
39	無免許過失運転致死傷	1	0.3
40	その他の刑法犯	0	0.0
51	公職選挙法	0	0.0
52	軽犯罪法	0	0.0
53	銃砲刀剣類所持等取締法	0	0.0
54	売春防止法	0	0.0
55	児童福祉法	0	0.0
56	麻薬及び向精神薬取締法	0	0.0
57	覚醒剤取締法	130	43.9
58	職業安定法	0	0.0
59	道路交通法	3	1.0
60	出入国管理及び難民認定法	0	0.0
70	その他の特別法犯	6	2.0
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(84) 令和二年出所時_作業名...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	農耕・牧畜	1	0.3
2	林業	0	0.0
3	漁業	0	0.0
4	鉱業	0	0.0
5	運輸	0	0.0
6	金属材料製造	11	3.7
7	金属加工・機械組立修理	14	4.7
8	電気器具組立修理	1	0.3
9	自動車整備	0	0.0
10	製糸・紡績	1	0.3
11	織物製品製造	40	13.5
12	木工	15	5.1
13	竹・草・つる製品製造	0	0.0
14	紙・紙製品製造	15	5.1
15	印刷・製本	7	2.4
16	ゴム・可塑物製品製造	4	1.4
17	皮革・皮革製品製造	8	2.7
18	窯業・土石製品製造	1	0.3
19	飲食料品製造	1	0.3
20	化学製品製造	27	9.1
21	建設作業	2	0.7
22	電工	0	0.0
23	紙細工	20	6.8
24	その他の技能工	2	0.7
25	単純労働作業	2	0.7
26	サービス工	1	0.3
27	経理作業	96	32.4
99	その他	27	9.1
100	X(不詳)	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(85) 令和二年出所時_取得資格免許...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	技能検定・技能照査	3	1.0
2	車両系建設機械運転技能者	0	0.0
3	フォークリフト運転者	8	2.7
4	クレーン運転士	0	0.0
5	溶接技能者	3	1.0
6	玉掛技能者	0	0.0
7	ボイラー技士	4	1.4
8	パソコン検定	3	1.0
9	ワープロ検定	1	0.3
10	技能講習	5	1.7
11	特別教育	0	0.0
12	ホームヘルパー	1	0.3
13	CAD利用技術者	4	1.4
14	電気工事士	0	0.0
15	無線従事者	0	0.0
16	消防設備士	1	0.3
17	自動車整備士	0	0.0
18	測量士(補)	0	0.0
19	調理師	0	0.0
20	理容師	0	0.0
21	美容師	0	0.0
22	クリーニング師	0	0.0
23	自動車運転免許	1	0.3
24	海技従事者	0	0.0
25	情報処理技術者	0	0.0
26	危険物取扱者	0	0.0
99	その他	2	0.7
	無回答	260	87.8
	全体	296	100.0

(86) 令和二年出所時_犯罪傾向の進捗...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	48	16.2
2	B	248	83.8
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(87) 令和二年出所時_就労支援指導の受講有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	69	23.3

2	なし	227	76.7
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(88) 令和二年出所時_帰住先...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	父、母のもと	92	31.1
2	配偶者のもと	11	3.7
3	兄弟、姉妹のもと	16	5.4
4	その他の親族のもと	1	0.3
5	知人のもと	26	8.8
6	雇主のもと	7	2.4
7	社会福祉施設	1	0.3
8	更生保護施設等	137	46.3
9	その他	4	1.4
10	その他選択肢に含まれない自宅	1	0.3
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(89) 令和二年出所時_保護観察終了事由...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	期間満了	254	85.8
2	保護観察取り消し	42	14.2
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(91) 令和二年出所時_保護観察終了時生計状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	富裕	0	0.0
2	普通	176	59.5
3	貧困	109	36.8
4	生活保護受給	9	3.0
9	不詳	2	0.7
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(92) 令和二年出所時_保護観察終了時職業...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	1	0.3
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	1	0.3
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	0	0.0
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	0	0.0
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	1	0.3
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	2	0.7
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	1	0.3
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	7	2.4
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	0	0.0
28	家庭生活支援サービス職業従事者	2	0.7
29	理容師、美容師	0	0.0
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	1	0.3
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	1	0.3
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	2	0.7
40	その他のサービス職業従事者	7	2.4
41	保安職業従事者	0	0.0
42	農業従事者、林業従事者	6	2.0
43	漁業従事者	1	0.3
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	2	0.7
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	5	1.7
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	1	0.3
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	3	1.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	1	0.3
57	機械整備・修理従事者	2	0.7
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	0	0.0
68	電気工事従事者	3	1.0
69	建設従事者	44	14.9
70	土木作業従事者	56	18.9
71	その他建設作業従事者	27	9.1
72	運搬従事者	7	2.4
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	14	4.7
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	1	0.3
77	その他の無職者	97	32.8
78	X（不詳）	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(93) 令和二年出所時_希望職種とのマッチングの有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あり	11	3.7
2	なし	285	96.3
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(94) 令和二年出所時_終了時有職...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	有職	198	66.9
2	無職	98	33.1
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(95) 令和二年出所時_希望職種...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	4	1.4
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	1	0.3
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	1	0.3
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	7	2.4
28	家庭生活支援サービス職業従事者	6	2.0
29	理容師、美容師	1	0.3
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	6	2.0
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	11	3.7
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	13	4.4
41	保安職業従事者	0	0.0
42	農業従事者、林業従事者	4	1.4
43	漁業従事者	1	0.3
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	11	3.7
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	0	0.0
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	0	0.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	9	3.0
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	1	0.3
68	電気工事従事者	0	0.0
69	建設従事者	0	0.0
70	土木作業従事者	18	6.1
71	その他建設作業従事者	33	11.1
72	運搬従事者	15	5.1
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	7	2.4
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	5	1.7
78	X（不詳）	0	0.0
	無回答	142	48.0
	全体	296	100.0

(96) 令和二年出所時_就労支援指導の受講有無(2)...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	受講	93	31.4
2	受講なし	203	68.6
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(97) 令和二年出所時_就労支援指導の評定...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	A	6	2.0
2	B	19	6.4
3	C	32	10.8
4	受講なし	239	80.7
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(98) 令和二年出所時点での職歴... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	11	3.7
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	2	0.7
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	3	1.0
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	0	0.0
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	26	8.8
28	家庭生活支援サービス職業従事者	8	2.7
29	理容師、美容師	3	1.0
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	16	5.4
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	21	7.1
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	32	10.8
41	保安職業従事者	5	1.7
42	農業従事者、林業従事者	5	1.7
43	漁業従事者	2	0.7
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	26	8.8
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	3	1.0
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	0	0.0
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	27	9.1
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	1	0.3
68	電気工事従事者	0	0.0
69	建設従事者	0	0.0
70	土木作業従事者	58	19.6
71	その他建設作業従事者	79	26.7
72	運搬従事者	21	7.1
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	15	5.1
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	2	0.7
78	X（不詳）	0	0.0
	無回答	130	43.9
	全体	296	100.0

(99) 令和二年出所時での二年以内再入... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	該当	168	56.8
2	非該当	128	43.2
	無回答	0	0.0
	全体	296	100.0

(102) 令和二年出所時での在所中内定の有無... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	有	20	6.8
2	無	52	17.6
	無回答	224	75.7
	全体	296	100.0

(103) 令和二年出所時での内定職種... (S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	研究者	0	0.0
2	技術者	0	0.0
3	保健医療従事者	0	0.0
4	社会福祉専門職業従事者	0	0.0
5	法務従事者	0	0.0
6	公認会計士、税理士、社会保険労務士	0	0.0
7	教員	0	0.0
8	宗教家	0	0.0
9	著述家、記者、編集者	0	0.0
10	美術家、写真家、デザイナー、映像撮影者	0	0.0
11	音楽家、舞台芸術家	0	0.0
12	その他の専門的職業従事者	0	0.0
13	管理的公務員	0	0.0
14	会社・団体等の役員	0	0.0
15	その他の管理的職業従事者	0	0.0
16	一般事務従事者	0	0.0
17	外勤事務従事者	0	0.0
18	運輸・郵便事務従事者	0	0.0
19	その他の事務従事者	0	0.0
20	小売店主・店長、卸売店主・店長	0	0.0
21	飲食店主・店長	0	0.0
22	販売店員	0	0.0
23	商品訪問・移動販売従事者	0	0.0
24	再生資源回収・卸売従事者	1	0.3
25	商品仕入外交員	0	0.0
27	販売類似職業従事者・営業職業従事者	0	0.0
28	家庭生活支援サービス職業従事者	2	0.7
29	理容師、美容師	0	0.0
30	浴場従事者	0	0.0
31	クリーニング職、洗張職	0	0.0
32	調理人	0	0.0
33	バーテンダー	0	0.0
34	飲食物給仕従事者、身の回り世話従事者	0	0.0
35	接客社交従事者	0	0.0
36	娯楽場等接客員	0	0.0
37	芸者、ダンサー	0	0.0
38	旅館主・支配人	0	0.0
39	居住施設・ビル等管理人	0	0.0
40	その他のサービス職業従事者	1	0.3
41	保安職業従事者	0	0.0
42	農業従事者、林業従事者	0	0.0
43	漁業従事者	0	0.0
44	鉄道運転従事者	0	0.0
45	自動車運転従事者	3	1.0
46	船舶・航空機運転従事者	0	0.0
47	その他の輸送従事者	0	0.0
49	採掘従事者	0	0.0
50	生産設備制御・監視従事者（金属製品）	0	0.0
51	生産設備制御・監視従事者（金属製品を除く）	0	0.0
52	機械組立設備制御・監視従事者	0	0.0
53	製品製造・加工処理従事者（金属製品）	0	0.0
54	製品製造・加工処理従事者（金属製品を除く）	1	0.3
55	生産関連・生産類似作業従事者	0	0.0
56	機械組立従事者	0	0.0
57	機械整備・修理従事者	0	0.0
58	製品検査従事者（金属製品）	0	0.0
59	製品検査従事者（金属製品を除く）	0	0.0
60	機械検査従事者	0	0.0
67	定置・建設機械運転従事者	0	0.0
68	電気工事従事者	3	1.0
69	建設従事者	4	1.4
70	土木作業従事者	3	1.0
71	その他建設作業従事者	1	0.3
72	運搬従事者	0	0.0
73	その他の運搬・清掃・包装等従事者	1	0.3
74	定収入のある者	0	0.0
75	学生、生徒	0	0.0
76	家事従事者	0	0.0
77	その他の無職者	0	0.0
78	X（不詳）	0	0.0
	無回答	276	93.2
	全体	296	100.0

基本統計量

No.	項目名	件数	平均値	標準偏差	合計値	中央値	最大値	最小値
62	年齢	294	46.14	9.447	13564	46.00	66	24
64	刑期	294	32.74	13.531	9626	30.00	140	8
65	入所度数	294	4.75	2.295	1397	4.00	14	2
75	能力検査値	291	86.19	12.509	25082	87.00	117	55
82	令和二年出所時_刑期	296	29.64	14.880	8772	27.50	110	5
83	令和二年出所時_在所期間	296	26.51	14.054	7848	24.00	108	5
90	令和二年出所時_保護観察終了までの期間	296	4.01	2.725	1186	3.00	22	1
100	令和二年出所時での就労支援面接回数	275	0.58	1.988	159	0.00	14	0
101	令和二年出所時でのハローワーク面接回数	275	0.21	0.697	57	0.00	6	0

調査名 [5. 出所者調査]

(2) Q1 職親プロジェクト対象の有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	40	67.8
2	いいえ	14	23.7
3	わからない	5	8.5
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(3) Q2 在所中に内定の有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	6	31.6
2	いいえ	13	68.4
	無回答	0	0.0
	非該当	40	
	全体	19	100.0

(4) Q3 年齢...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	20歳未満	3	5.1
2	20代	12	20.3
3	30代	12	20.3
4	40代	20	33.9
5	50代	9	15.3
6	60代以上	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(5) Q4 住居の状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分や家族の持ち家	6	10.2
2	賃貸(公営)	3	5.1
3	賃貸(民営)	18	30.5
4	勤め先の寮・社宅	26	44.1
5	住み込み	3	5.1
6	その他	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(6) Q5 同居・生計家族の有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	一緒に暮らしている	15	25.4
2	離れて暮らしている	15	25.4
3	いない	29	49.2
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(7) Q6 主な稼ぎ手...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	あなた自身	57	96.6
2	父	0	0.0
3	母	1	1.7
4	配偶者	0	0.0
5	きょうだい	0	0.0
6	子	0	0.0
7	他の家族や親戚	0	0.0
8	年金などを受ける	0	0.0
9	生活保護などを受ける	0	0.0
10	その他	1	1.7
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(10) Q8① 自分の考え:私は、自分自身にだいたい満足している...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	4	6.8
2	そう思う	26	44.1
3	そう思わない	24	40.7
4	強くそう思わない	4	6.8
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(11) Q8② 自分の考え:時々、自分はまったくダメだと思ふことがある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	8	13.6
2	そう思う	25	42.4
3	そう思わない	21	35.6
4	強くそう思わない	5	8.5
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(12) Q8③ 自分の考え:私には、けっこう長所があると感じている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	5	8.5
2	そう思う	23	39.0
3	そう思わない	28	47.5
4	強くそう思わない	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(13) Q8④ 自分の考え:私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	5	8.5
2	そう思う	27	45.8
3	そう思わない	20	33.9
4	強くそう思わない	7	11.9
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(14) Q8⑤ 自分の考え:私には誇れるものが大してないと感じる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	5	8.5
2	そう思う	25	42.4
3	そう思わない	26	44.1
4	強くそう思わない	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(15) Q8⑥ 自分の考え:時々、自分は役に立たないと強く感じることもある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	8	13.6
2	そう思う	19	32.2
3	そう思わない	28	47.5
4	強くそう思わない	4	6.8
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(16) Q8⑦ 自分の考え:自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる..
..(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	4	6.8
2	そう思う	22	37.3
3	そう思わない	30	50.8
4	強くそう思わない	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(17) Q8⑧ 自分の考え:自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	9	15.3
2	そう思う	38	64.4
3	そう思わない	8	13.6
4	強くそう思わない	4	6.8
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(18) Q8⑨ 自分の考え:よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	11	18.6
2	そう思う	18	30.5
3	そう思わない	25	42.4
4	強くそう思わない	5	8.5
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(19) Q8⑩ 自分の考え:私は、自分のことを前向きに考えている...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	強くそう思う	12	20.3
2	そう思う	32	54.2
3	そう思わない	12	20.3
4	強くそう思わない	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(20) Q9 いまの仕事...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	理容・美容関係	0	0.0
2	金属製造関係	2	3.4
3	その他の製造関係	2	3.4
4	建設・土木関係	19	32.2
5	電気工事関係	0	0.0
6	農業・園芸関係	0	0.0
7	調理関係	6	10.2
8	コンピュータ関係	0	0.0
9	自動車整備関係	0	0.0
10	自動車運転関係	3	5.1
11	福祉関係	16	27.1
12	販売員	3	5.1
13	その他の仕事	8	13.6
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(22) Q10 いまの仕事:就労期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1か月未満	5	8.5
2	1か月以上3か月未満	5	8.5
3	3か月以上6か月未満	6	10.2
4	6か月以上12か月未満	6	10.2
5	1年以上	37	62.7
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(23) Q11 いまの仕事:就労意向...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	いつまでも・できるだけ長く働きたい	33	55.9
2	嫌にならないうちは、働いてもよい	16	27.1
3	もっとよい勤め先が見つかるまで	11	18.6
4	独立できるまで・一人前になるまで	19	32.2
5	できるだけ早く辞めたい	2	3.4
6	特に考えたことはない	5	8.5
7	わからない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(24) Q12 出所後:初めての職場...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	53	89.8
2	いいえ	5	8.5
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(25) Q13 出所後:転職回数...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1回	2	40.0
2	2回	1	20.0
3	3回以上	2	40.0
	無回答	0	0.0
	非該当	54	
	全体	5	100.0

(26) Q14 出所後:合計就労期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1か月未満	1	20.0
2	1か月以上3か月未満	1	20.0
3	3か月以上6か月未満	0	0.0
4	6か月以上12か月未満	1	20.0
5	1年以上	2	40.0
	無回答	0	0.0
	非該当	54	
	全体	5	100.0

(27) Q15-1 出所後:最も長い仕事の期間...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1か月未満	0	0.0
2	1か月以上3か月未満	0	0.0
3	3か月以上6か月未満	0	0.0
4	6か月以上12か月未満	1	20.0
5	1年以上	4	80.0
	無回答	0	0.0
	非該当	54	
	全体	5	100.0

(28) Q15-2 出所後:最も長い仕事を辞めた理由...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	辞めていない	1	20.0
2	倒産・廃業・整理解雇	0	0.0
3	雇用期間の満了・雇止め	1	20.0
4	健康上の理由	1	20.0
5	人間関係がよくなかった	1	20.0
6	職場の上司や同僚に注意された	0	0.0
7	労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった	0	0.0
8	賃金の条件がよくなかった	1	20.0
9	勤め先や仕事に将来性がなかった	1	20.0
10	仕事が自分に合わなかった	0	0.0
11	自分の技能・能力が活かせなかった	0	0.0
12	もっとよい仕事があった	1	20.0
13	何となく	1	20.0
14	逮捕・受刑等のため	0	0.0
15	その他	1	20.0
	無回答	0	0.0
	非該当	54	
	全体	5	100.0

(29) Q16 出所後:3か月以上収入のある仕事をしていなかった経験...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	4	6.8
2	いいえ	55	93.2
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(30) Q17 出所後:仕事を決める時に重視したこと... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	家の近くで出来る仕事	11	18.6
2	自分の知識・能力にあう仕事	25	42.4
3	勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事	18	30.5
4	仕事内容や業界に興味がある仕事	24	40.7
5	元受刑者を受け入れてくれる職場	44	74.6
6	刑務所の職員などにすすめられた仕事	11	18.6
7	その他	8	13.6
8	わからない	2	3.4
9	重視したことは特にない	3	5.1
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(31) Q18 出所後:仕事について持っていた不安... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	特に不安はなかった	11	18.6
2	仕事が見つかるかどうか	15	25.4
3	職場の上司や同僚とうまくやっていけるか	31	52.5
4	職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか	22	37.3
5	職場に元受刑者であることが知られてしまわないか	6	10.2
6	決まった時間に決まった場所に出社できるか	7	11.9
7	稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか	24	40.7
8	与えられた仕事をうまくこなせるか	36	61.0
9	昇進やキャリアアップができるか	16	27.1
10	困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない	13	22.0
11	その他	4	6.8
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(32) Q19-1 入所中:受けた職業訓練... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	下記のようなものは受けていない	8	13.6
2	職業訓練	28	47.5
3	職場体験制度	6	10.2
4	就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング	29	49.2
5	ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介	26	44.1
6	事業主による職業講話	18	30.5
7	【特別改善指導】就労支援指導	22	37.3
	無回答	2	3.4
	全体	59	100.0

(33) Q19-2 入所中:就労支援を受けなかった理由... (MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	刑務所内での就労支援を希望したが、対象者に選ばれなかった	4	22.2
2	就労支援の存在を知らなかった	4	22.2
3	仕事が既に決まっていた	0	0.0
4	自分で仕事を見つけたかった	3	16.7
5	ハローワークや事業主などに受刑歴を知られたくなかった	0	0.0
6	帰住先と離れているため、刑務所内では仕事が見つからなかった	0	0.0
7	刑務所内では希望する内容や条件の仕事が見つからなかった	2	11.1
8	ダルクなど、依存症の自助グループの活動を優先したかった	0	0.0
9	仕事をしなくても生活できた	0	0.0
10	家族などに反対されていた	0	0.0
11	家事・育児・介護に専念したかった	1	5.6
12	健康上の理由のため	0	0.0
13	その他	4	22.2
	無回答	6	33.3
	非該当	41	
	全体	18	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(34) Q19-3 入所中:就労支援を受けた理由...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	面接指導をうけられると思ったから	14	35.9
2	履歴書の書き方やビジネスマナー、採用面接の受け方などを学べると思ったから	13	33.3
3	求人票を見せてもらったり、就労先を紹介してもらえたりすると思ったから	22	56.4
4	とにかく、在所中に内定を得たいと思ったから	29	74.4
5	帰住先が得られると思ったから	17	43.6
6	刑務所の職員にすすめられたから	6	15.4
7	家族などにすすめられたから	0	0.0
8	何となく	0	0.0
9	その他	1	2.6
	無回答	3	7.7
	非該当	20	
	全体	39	100.0

(35) Q19-4 入所中:就労に役立ったと思う職業訓練...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	役立ったものは特にない	4	8.2
2	職業訓練	20	40.8
3	職場体験制度	4	8.2
4	就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング	19	38.8
5	ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介	18	36.7
6	事業主による職業講話	13	26.5
7	【特別改善指導】就労支援指導	11	22.4
	無回答	3	6.1
	非該当	10	
	全体	49	100.0

(36) Q19-5 入所中:受けた職業訓練の詳細...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	金属関係	5	17.9
2	コンピュータ関係	8	28.6
3	建築・土木・測量関係	9	32.1
4	介護・福祉関係	3	10.7
5	自動車関係	1	3.6
6	電気通信関係	1	3.6
7	販売・サービス関係	4	14.3
8	理容・美容関係	1	3.6
9	農業・園芸関係	1	3.6
10	調理関係	1	3.6
11	その他の訓練	5	17.9
	無回答	0	0.0
	非該当	31	
	全体	28	100.0

(37) Q20 安定した収入の伴う仕事をしたいと思うか...(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	思う	57	96.6
2	思わない	0	0.0
3	わからない	2	3.4
	無回答	0	0.0
	全体	59	100.0

(38) Q21 仕事をする目的...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	収入がほしいから	47	82.5
2	仕事そのものが面白い、自分の活力になるから	21	36.8
3	仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから	17	29.8
4	働くのは身体によいから・老化を防ぐから	3	5.3
5	社会の一員としてのつとめ	23	40.4
6	自分の才能や能力を発揮するため	17	29.8
7	その他	4	7.0
	無回答	2	3.5
	非該当	2	
	全体	57	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(39) Q22 月収の希望額...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	～10万円未満	0	0.0
2	10万円以上～20万円未満	6	10.5
3	20万円以上～30万円未満	29	50.9
4	30万円以上～40万円未満	11	19.3
5	40万円以上～50万円未満	2	3.5
6	50万円以上～100万円未満	0	0.0
7	100万円以上	5	8.8
8	わからない	1	1.8
	無回答	3	5.3
	非該当	2	
	全体	57	100.0

(40) Q23 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由...(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない	0	0.0
2	自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない	0	0.0
3	勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない	0	0.0
4	今の景気や季節では仕事がありそうにない	0	0.0
5	元受刑者を受け入れてくれる職場がみつきりそうにない	0	0.0
6	仕事をしなくても生活できる	0	0.0
7	家族などに反対されている	0	0.0
8	仕事のイメージがわからない	0	0.0
9	家事・育児・介護に専念したい	0	0.0
10	資格取得等の勉強に集中するため	0	0.0
11	健康上の理由のため	0	0.0
12	何となく	0	0.0
13	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	非該当	59	
	全体	0	0.0

(41) Q24-1 出所後、1か月間に必要な生活費の把握状況...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	把握している	45	76.3
2	把握していない	13	22.0
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(42) Q24-2 生活費が足りなくなった経験有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	30	50.8
2	ない	28	47.5
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(43) Q24-3 家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかった経験有無...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	21	35.6
2	ない	37	62.7
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(44) Q25 仕事をしていることと、再犯をしないことは関係があると思うか...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	52	88.1
2	ない	6	10.2
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(46) Q26① 仕事:自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	33	55.9
2	どちらかといえば、はい	18	30.5
3	どちらかといえば、いいえ	4	6.8
4	いいえ	2	3.4
	無回答	2	3.4
	全体	59	100.0

(47) Q26② 仕事:まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	12	20.3
2	どちらかといえば、はい	15	25.4
3	どちらかといえば、いいえ	18	30.5
4	いいえ	12	20.3
	無回答	2	3.4
	全体	59	100.0

(48) Q26③ 仕事:仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	10	16.9
2	どちらかといえば、はい	8	13.6
3	どちらかといえば、いいえ	8	13.6
4	いいえ	32	54.2
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(49) Q26④ 仕事:定職に就かない方が自由でいいと思う...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	3	5.1
2	どちらかといえば、はい	5	8.5
3	どちらかといえば、いいえ	8	13.6
4	いいえ	42	71.2
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(50) Q26⑤ 仕事:嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をすることができる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	24	40.7
2	どちらかといえば、はい	24	40.7
3	どちらかといえば、いいえ	8	13.6
4	いいえ	2	3.4
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(51) Q27① 生活:自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	13	22.0
2	どちらかといえば、はい	13	22.0
3	どちらかといえば、いいえ	16	27.1
4	いいえ	16	27.1
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(52) Q27② 生活:人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	14	23.7
2	どちらかといえば、はい	15	25.4
3	どちらかといえば、いいえ	12	20.3
4	いいえ	17	28.8
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(53) Q27③ 生活:周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	12	20.3
2	どちらかといえば、はい	15	25.4
3	どちらかといえば、いいえ	14	23.7
4	いいえ	17	28.8
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(54) Q27④ 生活:他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	11	18.6
2	どちらかといえば、はい	8	13.6
3	どちらかといえば、いいえ	21	35.6
4	いいえ	18	30.5
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(55) Q27⑤ 生活:大事なことを決めるときは、家族や目上の人言うことに従わないと不安だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	12	20.3
2	どちらかといえば、はい	10	16.9
3	どちらかといえば、いいえ	18	30.5
4	いいえ	18	30.5
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(56) Q27⑥ 生活:大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	15	25.4
2	どちらかといえば、はい	13	22.0
3	どちらかといえば、いいえ	15	25.4
4	いいえ	15	25.4
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(57) Q27⑦ 生活:初対面の人とすぐに会話できる自信がある...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	25	42.4
2	どちらかといえば、はい	14	23.7
3	どちらかといえば、いいえ	11	18.6
4	いいえ	8	13.6
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(58) Q27⑧ 生活:人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	15	25.4
2	どちらかといえば、はい	18	30.5
3	どちらかといえば、いいえ	14	23.7
4	いいえ	11	18.6
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

(59) Q27⑨ 生活:自分の感情を表に出すのが苦手だ...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	11	18.6
2	どちらかといえば、はい	17	28.8
3	どちらかといえば、いいえ	14	23.7
4	いいえ	16	27.1
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

(60) Q27⑩ 生活:周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない...(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	9	15.3
2	どちらかといえば、はい	13	22.0
3	どちらかといえば、いいえ	23	39.0
4	いいえ	13	22.0
	無回答	1	1.7
	全体	59	100.0

調査名 [5. 出所者調査]

No.	項目名	件数	平均値	標準偏差	合計値	中央値	最大値	最小値
8	Q7-1 出所年	54	2019.09	6.600	109031	2021.00	2023	1979
9	Q7-2 出所月	54	7.56	3.606	408	8.00	12	1

就労支援を受けている皆さんへ

このアンケートは、皆さんに、刑務所に入る前のことや、これからの仕事や生活、働くことについての考え等をうかがい、今後の施設運営の参考とするために行うものです。

回答した内容が、目的以外に使われることはありませんので、ありのままを教えてください。

また、このアンケートへの協力は任意です。回答しない場合でも、あなたが不利益になることは一切なく、刑務所内での評価や仮釈放の審査にも影響はありません。

ただし、皆さんの回答が大変参考になりますので、できるだけ協力をお願いします。

<回答の取り扱いについて>

※ 回答は統計的に処理され、あなた個人の回答の内容や個人情報そのまま公表されることはありません。

－アンケートは、以下の記入例をもとに、教えてください－

記入例

問 出所後、仕事をしたいですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄に番号を書いてください。)

1. はい

2. いいえ

選んだ番号を回答欄(口の中)に書いてください



1

1. あなたの^{たす}ことについて、お尋ねします。

問1 これまでに、収入の伴う仕事をした経験はありますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. ある →^と問2へ 2. ない →^{つぎ}次のページの問3へ

【回答欄】

問2 (問1で「1. ある」を選んだ人)

①これまでの合計で、どのくらいの期間、仕事をしましたか。短期のアルバイト等も含めてお答えください。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 5年未満 3. 10年以上15年未満
2. 5年以上10年未満 4. 15年以上

【回答欄】

②これまでに、どのような働き方をした経験がありますか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 正規の職員・従業員 6. 自営業主
2. 契約社員・嘱託 7. 自家営業の手伝い
3. パート・アルバイト 8. 内職
4. 派遣社員・請負社員 9. その他
5. 会社などの役員 10. わからない

【回答欄】

③これまでに、何回、転職をしましたか。

(回答欄(口の中)に数字を書いてください。転職をしたことがない人は「0(ゼロ)」と書いてください。)

【回答欄】

--	--

【回答欄】

④これまでに、一番長く続いた仕事はどんな仕事でしたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 理容・美容関係 8. コンピュータ関係
2. 金属製造関係 9. 自動車整備関係
3. その他の製造関係 10. 自動車運転関係
4. 建設・土木関係 11. 福祉関係
5. 電気工事関係 12. 販売員(営業・セールスマン、店員)
6. 農業・園芸関係 13. その他の仕事
7. 調理関係

【回答欄】

⑤これまでに、一番長く続いた仕事は、何歳から何歳までの時でしたか。

(回答欄(口の中)に数字を書いてください。)

【回答欄】

歳から

歳まで

⑥一番長く続いた仕事を辞めた主な理由は何ですか。

(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 倒産、廃業、整理解雇 | 7. 賃金の条件がよくなかった |
| 2. 雇用期間の満了・雇止め | 8. 勤め先や仕事に将来性がなかった |
| 3. 健康上の理由 | 9. 仕事が自分に合わなかった |
| 4. 人間関係がよくなかった | 10. 自分の技能・能力が活かせなかった |
| 5. 職場の上司や同僚に注意された | 11. もっとよい仕事があった |
| 6. 労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった | 12. 何となく |
| | 13. 逮捕・受刑等のため |
| | 14. その他 |

【回答欄】

問3 以下の①から⑩について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	強く そう 思う	そう 思う	そう 思わ ない	強くそ う思わ ない	回答欄
① 私は、自分自身にだいたい満足している	1	2	3	4	
② 時々、自分はまったくダメだと思うことがある	1	2	3	4	
③ 私には、けっこう長所があると感じている	1	2	3	4	
④ 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	1	2	3	4	
⑤ 私には誇れるものが大してないと感じる	1	2	3	4	
⑥ 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	1	2	3	4	
⑦ 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	1	2	3	4	
⑧ 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	1	2	3	4	
⑨ よく、私は落ちこぼれたと思ってしまう	1	2	3	4	
⑩ 私は、自分のことを前向きに考えている	1	2	3	4	

②月収（手取り）はどのくらいを希望しますか。（あてはまる番号を1つ選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. ~10万円未満 | 5. 40万円以上~50万円未満 |
| 2. 10万円以上~20万円未満 | 6. 50万円以上~100万円未満 |
| 3. 20万円以上~30万円未満 | 7. 100万円以上 |
| 4. 30万円以上~40万円未満 | 8. わからない |

【回答欄】

--

③刑務所内での就労支援を希望したのはなぜですか。（あてはまる番号をすべて選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。）

- 面接指導をうけられると思ったから
- 履歴書の書き方やビジネスマナー、採用面接の受け方などを学べると思ったから
- 求人票を見せてもらったり、就労先を紹介してもらえたりすると思ったから
- とにかく、在所中に内定を得たいと思ったから
- 帰任先が得られると思ったから
- 刑務所の職員にすすめられたから
- 家族などにすすめられたから
- 何となく
- その他

【回答欄】

⇒次のページの問10へ進んでください。

問9（問7で「2. 思わない」を選んだ人）安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由は何ですか。

（あてはまる番号をすべて選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。）

- 自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない
- 自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない
- 勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない
- 今の景気や季節では仕事がありそうにない
- 元受刑者を受け入れてくれる職場がみつきりそうにない
- 仕事をしなくても生活できる
- 家族などに反対されている
- 仕事のイメージがわからない
- 家事・育児・介護に専念したい
- 資格取得等の勉強に集中するため
- 健康上の理由のため
- 何となく
- その他

【回答欄】

問10 出所後の仕事は決まっていますか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 既に決まっている	2. まだ決まっていない	【回答欄】
-------------	--------------	-------

問11 仕事を決める時に、重視することは何ですか。(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が帰る場所の近くで出来る仕事 2. 自分の知識・能力にあう仕事 3. 勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事 4. 仕事内容や業界に興味がある仕事 5. 元受刑者を受け入れてくれる職場 6. 刑務所の職員などにすすめられた仕事 7. その他 8. わからない 	【回答欄】								
	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> </table>								

問12 出所後の仕事について、どのような不安がありますか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事が見つかるかどうか 2. 職場の上司や同僚とうまくやっていけるか 3. 職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか 4. 職場に元受刑者であることが知られてしまわないか 5. 決まった時間に決まった場所に出社できるか 6. 稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか 7. 与えられた仕事をうまくこなせるか 8. 昇進やキャリアアップができるか 9. 困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない 10. その他 11. 特に不安はない 	【回答欄】												
	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 30px;"></td><td style="width: 50%; height: 30px;"></td></tr> </table>												

→ 「10.その他」を選んだ方：可能な範囲で、具体的な内容をご記入ください。

3. 仕事や生活についての、あなたの考えをお尋ねします。

問13 以下の仕事に関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う	1	2	3	4	
② まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	1	2	3	4	
③ 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1	2	3	4	
④ 定職に就かない方が自由でいいと思う	1	2	3	4	
⑤ 嫌いな人や気にいらぬ人とも、一緒に仕事をする事ができる	1	2	3	4	

問14 以下のまわりの人とのつきあいに関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1	2	3	4	
② 人という、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	1	2	3	4	
③ 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1	2	3	4	
④ 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	1	2	3	4	
⑤ 大事なことを決めるときは、家族や自上の人の言うことに従わないと不安だ	1	2	3	4	
⑥ 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1	2	3	4	
⑦ 初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1	2	3	4	
⑧ 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1	2	3	4	
⑨ 自分の感情を表に出すのが苦手だ	1	2	3	4	
⑩ 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1	2	3	4	

問15 最後に、刑務所の中での就労支援や、出所後の仕事や生活について、ご意見があれば自由にご記入ください。

～以上で アンケート調査は 終わりです。ご協力 ありがとうございました。～

もうすぐ出所する予定の皆さんへ

このアンケートは、皆さんに、刑務所に入る前のことや、これからの仕事や生活、働くことについての考え等をうかがい、今後の施設運営の参考とするために行うものです。

回答した内容が、目的以外に使われることはありませんので、ありのままを教えてください。

また、このアンケートへの協力は任意です。回答しない場合でも、あなたが不利益になることは一切なく、刑務所内での評価や仮釈放の審査にも影響はありません。

ただし、皆さんの回答が大変参考になりますので、できるだけ協力をお願いします。

<回答の取り扱いについて>

※ 回答は統計的に処理され、あなた個人の回答の内容や個人情報そのまま公表されることはありません。

－アンケートは、以下の記入例をもとに、教えてください－

記入例

問 出所後、仕事をしたいですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄に番号を書いてください。)

1. はい

2. いいえ

選んだ番号を回答欄(口の中)に書いてください



1

1. あなたの^{たす}ことについて、お尋ねします。

問1 これまでに、^{しゅうにゅう}収入の^{ともな}伴う^{しごと}仕事をした^{けいけん}経験はありますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、^{かいとうらん}回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. ある →^と問2へ 2. ない →^{つぎ}次のページの^と問3へ

【^{かいとうらん}回答欄】

問2 (問1で「1. ある」を選んだ人)

①これまでの^{ごうけい}合計で、どの^{きかん}くらいの^{しごと}期間、^{たんき}仕事をしましたか。^{など}短期の^あアルバイト等も含めてお答えください。

(あてはまる番号を1つ選んで、^{かいとうらん}回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. ^{ねんみまん}5年未満 3. ^{ねんいじょう}10年以上^{ねんみまん}15年未満
2. ^{ねんいじょう}5年以上^{ねんみまん}10年未満 4. ^{ねんいじょう}15年以上

【^{かいとうらん}回答欄】

②これまでに、どのような^{はたら}働き方をした^{けいけん}経験がありますか。

(あてはまる番号をすべて選んで、^{かいとうらん}回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. ^{せいぎ}正規の^{しよくいん}職員・^{じゅうぎやういん}従業員 6. ^{じえいぎやうしゆ}自営業主
2. ^{けいやくしやくいん}契約社員・^{しよくたく}嘱託 7. ^{じかえいぎやう}自家営業の^{てつだ}手伝い
3. ^{ぱーと}パート・^{あるばいと}アルバイト 8. ^{ないしよく}内職
4. ^{はけんしやくいん}派遣社員・^{うけいしやくいん}請負社員 9. ^{ほか}その他
5. ^{かいしゃ}会社などの^{やくいん}役員 10. ^{わからない}わからない

【^{かいとうらん}回答欄】

③これまでに、何回、^{なんかい}転職を^{てんしよく}しましたか。

(^{かいとうらん}回答欄(口の中)に^{すうじ}数字を書いてください。^{てんしよく}転職をしたことがない人は「0(ゼロ)」と書いてください。)

【^{かいとうらん}回答欄】

--	--

【^{かい}回】

④これまでに、^{いちばんなが}一番長く続いた^{しごと}仕事はどんな^{しごと}仕事でしたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、^{かいとうらん}回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. ^{りよう}理容・^{びようかんけい}美容関係 8. ^{かんけい}コンピュータ関係
2. ^{きんぞくせいぞうかんけい}金属製造関係 9. ^{じどうしゃせいひかんけい}自動車整備関係
3. ^たその他の^{せいぞうかんけい}製造関係 10. ^{じどうしゃうんてんかんけい}自動車運転関係
4. ^{けんせつ}建設・^{どぼくかんけい}土木関係 11. ^{ふくしかんけい}福祉関係
5. ^{でんきこうじかんけい}電気工事関係 12. ^{はんばいいん}販売員(営業・^{えいぎやう}セールスマン、^{てんいん}店員)
6. ^{のうぎやう}農業・^{えんげいかんけい}園芸関係 13. ^{ほか}その他の^{しごと}仕事
7. ^{ちやうりかんけい}調理関係

【^{かいとうらん}回答欄】

⑤これまでに、^{いちばんなが}一番長く続いた^{しごと}仕事は、何^{なんさい}歳から何^{なんさい}歳までの^{とき}時でしたか。

(^{かいとうらん}回答欄(口の中)に^{すうじ}数字を書いてください。)

【^{かいとうらん}回答欄】

【^{さい}歳から

【^{さい}歳まで

⑥一番長く続いた仕事を辞めた主な理由は何ですか。

(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 倒産、廃業、整理解雇 | 7. 賃金の条件がよくなかった |
| 2. 雇用期間の満了・雇止め | 8. 勤め先や仕事に将来性がなかった |
| 3. 健康上の理由 | 9. 仕事が自分に合わなかった |
| 4. 人間関係がよくなかった | 10. 自分の技能・能力が活かせなかった |
| 5. 職場の上司や同僚に注意された | 11. もっとよい仕事があった |
| 6. 労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった | 12. 何となく |
| | 13. 逮捕・受刑等のため |
| | 14. その他 |

【回答欄】

問3 以下の①から⑩について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	強く そう 思う	そう 思う	そう 思わ ない	強くそ う思わ ない	回答欄
① 私は、自分自身にだいたい満足している	1	2	3	4	
② 時々、自分はまったくダメだと思うことがある	1	2	3	4	
③ 私には、けっこう長所があると感じている	1	2	3	4	
④ 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	1	2	3	4	
⑤ 私には誇れるものが大してないと感じる	1	2	3	4	
⑥ 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	1	2	3	4	
⑦ 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	1	2	3	4	
⑧ 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	1	2	3	4	
⑨ よく、私は落ちこぼれたと思ってしまう	1	2	3	4	
⑩ 私は、自分のことを前向きに考えている	1	2	3	4	

問7 出所後に、安定した収入の伴う仕事をしたいと思えますか。実際に仕事をするかどうかにかかわらず、あなたの希望をお答えください。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 思う → 問8へ 2. 思わない → 問9へ 3. わからない → 問10へ

【回答欄】

--

問8 (問7で「1. 思う」を選んだ人)

①あなたが仕事をする目的は何ですか。(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 収入がほしいから | 5. 社会の一員としてのつとめ |
| 2. 仕事そのものが面白い、自分の活力になるから | 6. 自分の才能や能力を発揮するため |
| 3. 仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから | 7. その他 |
| 4. 働くのは身体によいから・老化を防ぐから | |

【回答欄】

②月収(手取り)はどのくらいを希望しますか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. ~10万円未満 | 5. 40万円以上~50万円未満 |
| 2. 10万円以上~20万円未満 | 6. 50万円以上~100万円未満 |
| 3. 20万円以上~30万円未満 | 7. 100万円以上 |
| 4. 30万円以上~40万円未満 | 8. わからない |

【回答欄】

--

③刑務所内での就労支援を希望しなかったのはなぜですか。(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 仕事が決まっている(自営を含む)
2. 自分で仕事を見つけない(起業を含む)
3. ハローワークや事業主などに受刑歴を知られたくない
4. 帰任先と離れているため、刑務所内では仕事が見つからない
5. 刑務所内では希望する内容や条件の仕事が見つからない
6. ダルクなど、依存症の自助グループの活動を優先したい
7. 仕事をしなくても生活できる
8. 家族などに反対されている
9. 家事・育児・介護に専念したい
10. 健康上の理由のため
11. 就労支援の存在を知らなかった
12. 刑務所内での就労支援を希望したが、対象者に選ばれなかった
13. その他

【回答欄】

④出所後の仕事について、どのような不安がありますか。
 (あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

【回答欄】

1. 仕事が見つかるかどうか
2. 職場の上司や同僚とうまくやっていけるか
3. 職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか
4. 職場に元受刑者であることが知られてしまわないか
5. 決まった時間に決まった場所に出社できるか
6. 稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか
7. 与えられた仕事をうまくこなせるか
8. 昇進やキャリアアップができるか
9. 困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない
10. その他
11. 特に不安はない

▶「10.その他」を選んだ方：可能な範囲で、具体的な内容をご記入ください。

⇒次のページの間10へ進んでください。

問9 (問7で「2. 思わない」を選んだ人) 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由は何ですか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

【回答欄】

1. 自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない
2. 自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない
3. 勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない
4. 今の景気や季節では仕事がありそうにない
5. 元受刑者を受け入れてくれる職場がみつきりそうにない
6. 仕事をしなくても生活できる
7. 家族などに反対されている
8. 仕事のイメージがわからない
9. 家事・育児・介護に専念したい
10. 資格取得等の勉強に集中するため
11. 健康上の理由のため
12. 何となく
13. その他

問10 出所後の仕事は決まっていますか。仕事をしたいかどうかの希望を問わず、現在の状況を教えてください。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

【回答欄】

1. 既に決まっている → 問11へ 2. まだ決まっていない → 問12へ

問11 (問10で「1」を選んだ人)

①どのようにして仕事が決まりましたか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄に番号を書いてください。)

1. 刑務所内で求人情報誌(chance!やNEXTなど)を見て応募し、内定した
2. 親族や知人に就職先を紹介してもらった
3. 入所前に働いていた職場に戻る、または自営している職場に戻る
4. 出所後、起業(自営)する
5. その他

【回答欄】

②出所後に働く予定の仕事先から、最後に連絡をもらった(面会または手紙の受信)のはいつですか。
(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄に番号を書いてください。)

1. 入所前
2. 入所後(今から1年以上前)
3. 入所後(今から半年~1年前)
4. 入所後(今から半年以内)
5. 連絡をもらっていない

【回答欄】

問12 仕事を決める時に、重視することは何ですか。(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 自分が帰る場所の近くで出来る仕事
2. 自分の知識・能力にあう仕事
3. 勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事
4. 仕事内容や業界に興味がある仕事
5. 元受刑者を受け入れてくれる職場
6. 刑務所の職員などにすすめられた仕事
7. その他
8. わからない

【回答欄】

3. 仕事や生活についての、あなたの考えをお尋ねします。

問13 以下の仕事に関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う	1	2	3	4	
② まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	1	2	3	4	
③ 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1	2	3	4	
④ 定職に就かない方が自由でいいと思う	1	2	3	4	
⑤ 嫌いな人や気にいらぬ人とも、一緒に仕事をする事ができる	1	2	3	4	

問14 以下のまわりの人とのつきあいに関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1	2	3	4	
② 人といると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	1	2	3	4	
③ 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1	2	3	4	
④ 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	1	2	3	4	
⑤ 大事なことを決めるときは、家族や自上の人の言うことに従わないと不安だ	1	2	3	4	
⑥ 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1	2	3	4	
⑦ 初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1	2	3	4	
⑧ 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1	2	3	4	
⑨ 自分の感情を表に出すのが苦手だ	1	2	3	4	
⑩ 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1	2	3	4	

問15 最後に、刑務所の中での就労支援や、出所後の仕事や生活について、ご意見があれば自由に記入ください。

～以上で アンケート調査は 終わりです。ご協力 ありがとうございます。～

しごとけいけん 仕事経験についてのアンケート

このアンケートは、皆さんに、刑務所に入る前のことや、これからの仕事や生活、働くことについての考え等をうかがい、今後の施設運営の参考とするために行うものです。

回答した内容が、目的以外に使われることはありませんので、ありのままを答えてください。

また、このアンケートへの協力は任意です。回答しない場合でも、あなたが不利益になることは一切なく、刑務所内での評価や仮釈放の審査にも影響はありません。

ただし、皆さんの回答が大変参考になりますので、できるだけ協力をお願いします。

<回答の取り扱いについて>

※ 回答は統計的に処理され、あなた個人の回答の内容がそのまま公表されたり、個人情報公表されることはありません。

—アンケートは、以下の記入例をもとに、答えてください—

きにゅうれい 記入例

問 出所後、仕事をしたいですか。（あてはまる番号を1つ選んで、回答欄に番号を書いてください。）

1. はい

2. いいえ

選んだ番号を回答欄（口の中）に書いてください



1

1. 前回の出所から、今回の入所までのあいだの仕事経験等についてお尋ねします。

問1 前回出所したときに、在所中内定はありましたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. はい	2. いいえ	【回答欄】	<input type="text"/>
-------	--------	-------	----------------------

問2 前回出所したときから、今回入所するまでの間に、収入の伴う仕事をしましたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. はい →問3へ	2. いいえ →次のページの問10へ	【回答欄】	<input type="text"/>
------------	--------------------	-------	----------------------

(問2で「1. はい」を選んだ人に聞きます。)

問3 前回出所したときから、今回入所するまでの間に、何回転職をしましたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 転職はしていない	2. 1回	3. 2回	4. 3回以上	【回答欄】	<input type="text"/>
-------------	-------	-------	---------	-------	----------------------

問4 前回出所したときから、今回入所するまでの間で、収入の伴う仕事をしていた期間を通算(合算)すると、どのくらいの長さですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 1か月未満	5. 1年以上 3年未満	【回答欄】	<input type="text"/>
2. 1か月以上 3か月未満	6. 3年以上 5年未満		
3. 3か月以上 6か月未満	7. 5年以上		
4. 6か月以上 12か月未満			

問5 前回出所したときから、今回入所するまでの間で、最も長くて勤めた先(会社等)では、どのくらいの期間、仕事をしていましたか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 1か月未満	5. 1年以上 3年未満	【回答欄】	<input type="text"/>
2. 1か月以上 3か月未満	6. 3年以上 5年未満		
3. 3か月以上 6か月未満	7. 5年以上		
4. 6か月以上 12か月未満			

問6 前回出所したときから、今回入所するまでの間に、一番長く続いた仕事はどんな仕事でしたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 理容・美容関係	8. コンピュータ関係	【回答欄】	<input type="text"/>
2. 金属製造関係	9. 自動車整備関係		
3. その他の製造関係	10. 自動車運転関係		
4. 建設・土木関係	11. 福祉関係		
5. 電気工事関係	12. 販売員(営業・セールスマン、店員)		
6. 農業・園芸関係	13. その他の仕事		
7. 調理関係			

どんな仕事か、もう少し詳しく教えてください。

(例)「住宅建設の現場で資材運びをしている」「ダイレクトメールを封入したり、発送する仕事」等

<input style="width: 100%; height: 50px;" type="text"/>

問7 前回出所したときから、今回入所するまでの間に、一番長く続いた仕事を辞めた主な理由は何ですか。

(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 辞めていない とうさん はいぎょう せいりかいこ	8. 賃金の条件がよくなかった ちんぎん じょうけん	【回答欄】	<input type="checkbox"/>
2. 倒産、廃業、整理解雇 たうさん まんりよう やといど	9. 勤め先や仕事に将来性がなかった つと さき しごと しょうらいせい		
3. 雇用期間の満了・雇止め こようきかん まんりよう やといど	10. 仕事が自分に合わなかった しごと じぶん あ		
4. 健康上の理由 けんこうじょう りゆう	11. 自分の技能・能力が活かせなかった じぶん ぎのう のうりよく い		
5. 人間関係がよくなかった にんげんかんけい	12. もっとよい仕事があった しごと		
6. 職場の上司や同僚に注意された しょくば じょうし どうりょう ちゅうい	13. 何となく なん		
7. 労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった ろうどうじかん きゅうじつ きゅうか じゅうげん	14. 逮捕・受刑等のため たいほ じゅけいなど		
	15. その他 ほか		

問8 前回出所したときから、今回入所するまでの間に、3か月以上、収入のある仕事をしていなかったことがありますか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. はい	2. いいえ	【回答欄】	<input type="checkbox"/>
-------	--------	-------	--------------------------

問9 逮捕されたときに、あなたは収入のある仕事に就いていましたか。無職でしたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 仕事に就いていた しごと つか	2. 無職だったが、仕事のあてがあった むしょく したが しごとのあて	3. 無職で、仕事をする予定もなかった むしょく しごと する よてい も なかった	【回答欄】	<input type="checkbox"/>
-----------------------	--	---	-------	--------------------------

(問2で「2. いいえ」を選んだ人に聞きます。)

問10 前回出所したときから、今回入所するまでの間に、収入の伴う仕事をしなかったのはなぜですか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 仕事を探したが、採用されなかった しごと さが さいよう	6. 家事・育児・介護に専念した かじ いくじ かいご	【回答欄】	<input type="checkbox"/>
2. 仕事を探したが、希望する仕事なかった しごと さが きぼう	7. 健康上の理由のため けんこうじょう りゆう		
3. 仕事には就きたかったが、仕事を探さなかった しごと つか	8. 働きたくなかった はたら		
4. 仕事をしなくても生活できた しごと せいかつ	9. 何となく なん		
5. 家族などに反対された かぞく など はんたい	10. その他 ほか		

問11 あなたは、過去に、収入の伴う仕事をしたことがありますか。短期のアルバイト等も含めてお答え下さい。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. ある	2. ない	【回答欄】	<input type="checkbox"/>
-------	-------	-------	--------------------------

(すべての人に聞きます。)

問12 前回出所したときから、今回入所するまでの間において、あなたが仕事を決める時に、重視したことは何ですか。(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 家の近くで出来る仕事 いえ ちか で き しごと	【回答欄】	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 自分の知識・能力にあう仕事 じぶん ちしき のうりよく しごと			
3. 勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事 きんむじかん ちんぎん きぼう あ しごと			
4. 仕事内容や業界に興味がある仕事 しごとないよう ぎょうかい きょうみ しごと			
5. 元受刑者を受け入れてくれる職場 もとじゅけいしや う い しょくば			
6. 刑務所の職員などにすすめられた仕事 けいむしょ しょくいん など しごと			
7. その他 8. わからない 9. 仕事をするつもりはなかった ほか しごと			

問13 前回の在所中に、出所後の仕事についてどのような不安を持っていましたか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. 特に不安はなかった
2. 仕事が見つかるかどうか
3. 職場の上司や同僚とうまくやっていけるか
4. 職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか
5. 職場に元受刑者であることが知られてしまわないか
6. 決まった時間に決まった場所に出社できるか
7. 稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか
8. 与えられた仕事をうまくこなせるか
9. 昇進やキャリアアップができるか
10. 困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない
11. その他

【回答欄】

問14 前回の出所時、同居する家族等はいましたか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. いた	2. いなかった	【回答欄】	<input type="text"/>
-------	----------	-------	----------------------

問15 前回の出所時、主な稼ぎ手は誰でしたか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. あなた自身	2. 父	3. 母	4. 配偶者	5. きょうだい	6. 子	7. 他の家族や親戚	8. 年金などを受ける	9. 生活保護などを受ける	10. その他	【回答欄】	<input type="text"/>
----------	------	------	--------	----------	------	------------	-------------	---------------	---------	-------	----------------------

問16 前回の出所時、住居の状況はどうでしたか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. 自分や家族の持ち家	2. 賃貸(公営)	3. 賃貸(民営)	4. 勤め先の寮・社宅	5. 住み込み	6. その他	【回答欄】	<input type="text"/>
--------------	-----------	-----------	-------------	---------	--------	-------	----------------------

問17 あなたのことについてお尋ねします。以下の①から⑩について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

	強くそ おも う思う	そう思 う	そう思 わない	つよ 強くそう おも 思わない	【回答欄】
① 私は、自分自身にだいたい満足している	1	2	3	4	
② 時々、自分はまったくダメだと思うことがある	1	2	3	4	
③ 私には、けっこう長所があると感じている	1	2	3	4	
④ 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	1	2	3	4	
⑤ 私には、誇れるものが大してないと感じる	1	2	3	4	
⑥ 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	1	2	3	4	
⑦ 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる	1	2	3	4	
⑧ 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	1	2	3	4	
⑨ よく、私は落ちこぼれたと思ってしまう	1	2	3	4	
⑩ 私は、自分のことを前向きに考えている	1	2	3	4	

(4) (1) で選んだもののうち、出所後の就労に役立ったと思うものを選んでください。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 役立ったものは特にない 2. 職業訓練 3. 職場体験制度(内定企業や就労を希望する業種での就労体験) 4. 就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング (個別面接等での就労意欲や職業適性等を把握するためのアセスメント) 5. ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介 6. 事業主による職業講話 7. 【特別改善指導】就労支援指導(就労に必要な基本的スキルやマナーの習得、出所後の就労に向けての取組の実施。5日間) 	<p>【回答欄】</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 50px;"></td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>						

(5) すべての人に聞きます。今回の入所中に、職業訓練や就労支援を受けたいと思いますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 思う	2. 思わない	3. わからない	【回答欄】	
-------	---------	----------	-------	--

その理由について教えてください。

3. あなたの出所後の仕事や生活のことについて、お尋ねします。

問19 出所後に、安定した収入の伴う仕事をしたいと思いますか。実際に仕事をするかどうかにかかわらず、あなたの希望をお答えください。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 思う →問20へ	2. 思わない →問22へ	3. わからない →問23へ	【回答欄】	
-------------	---------------	----------------	-------	--

→ (問19で「1. 思う」を選んだ人に聞きます。)

問20 あなたが仕事をする目的は何ですか。(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 収入がほしいから 2. 仕事そのものが面白い、自分の活力になるから 3. 仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから 4. 働くのは身体によいから・老化を防ぐから 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 社会の一員としてのつとめ 6. 自分の才能や能力を発揮するため 7. その他 	<p>【回答欄】</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 50px;"></td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>						

問21 月収(手取り)はどのくらいを希望しますか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

<ol style="list-style-type: none"> 1. ~10万円未満 2. 10万円以上~20万円未満 3. 20万円以上~30万円未満 4. 30万円以上~40万円未満 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 40万円以上~50万円未満 6. 50万円以上~100万円未満 7. 100万円以上 8. わからない 	<p>【回答欄】</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 50px;"></td><td style="width: 50%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>						

⇒問23へ進んでください。

(問19で「2. 思わない」を選んだ人に聞きます。)

問22 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由は何ですか。(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 自分が帰る場所の近くに仕事がありそうにない
2. 自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない
3. 勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない
4. 今の景気や季節では仕事がありそうにない
5. 元受刑者を受け入れてくれる職場が見つかりそうにない
6. 仕事をしなくても生活できる
7. 家族などに反対されている
8. 仕事のイメージがわからない
9. 家事・育児・介護に専念したい
10. 資格取得等の勉強に集中するため
11. 健康上の理由のため
12. 何となく
13. その他

【回答欄】

(すべての人に聞きます。)

問23 生活費について、お尋ねします。

(1) 出所後、1か月間に必要な生活費を把握していますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | | | |
|-----------|------------|-------|----------------------|
| 1. 把握している | 2. 把握していない | 【回答欄】 | <input type="text"/> |
|-----------|------------|-------|----------------------|

(2) 入所前の5年くらいの間に、うまくお金のやりくりができず、生活費が足りなくなることがあります。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | | | |
|-------|-------|-------|----------------------|
| 1. ある | 2. ない | 【回答欄】 | <input type="text"/> |
|-------|-------|-------|----------------------|

(3) 入所前の5年くらいの間に、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかったことがあります。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | | | |
|-------|-------|-------|----------------------|
| 1. ある | 2. ない | 【回答欄】 | <input type="text"/> |
|-------|-------|-------|----------------------|

問24 仕事をしていることと、再犯をしないことは関係があると思いますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | | | |
|-------|-------|-------|----------------------|
| 1. ある | 2. ない | 【回答欄】 | <input type="text"/> |
|-------|-------|-------|----------------------|

そのように思う理由について教えてください。

(関係あると思う方は、なぜ関係があると思いますか。関係ないと思う方は、なぜ関係ないと思いますか。)

⇒次のページにもお答えください。

4. 仕事や生活についての、あなたの考えをお尋ねします。

問25 以下の仕事に関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分にふさわしい仕事があるところがあると思う	1	2	3	4	
② まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	1	2	3	4	
③ 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1	2	3	4	
④ 定職に就かない方が自由でいいと思う	1	2	3	4	
⑤ 嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事することができる	1	2	3	4	

問26 以下のまわりの人とのつきあいに関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1	2	3	4	
② 人という、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	1	2	3	4	
③ 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1	2	3	4	
④ 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	1	2	3	4	
⑤ 大事なことを決めるときは、家族や上司の人の言うことに従わないと不安だ	1	2	3	4	
⑥ 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1	2	3	4	
⑦ 初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1	2	3	4	
⑧ 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1	2	3	4	
⑨ 自分の感情を表に出すのが苦手だ	1	2	3	4	
⑩ 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1	2	3	4	

問27 最後に、刑務所の中での就労支援や、出所後の仕事や生活について、ご意見があれば自由に記入ください。

～以上で アンケート調査は 終わります。ご協力 ありがとうございます。～

出所後の仕事経験についてのアンケート

このアンケートは、皆さんに、出所後の仕事経験や、これからの仕事や生活、働くことについての考え等をうかがい、今後の施設運営の参考とするために 行 います。

回答した内容が、目的以外に使われることはありませんので、ありのままを教えてください。

また、このアンケートへの協力は任意です。回答しない場合でも、あなたが不利益になることは一切ありません。

ただし、皆さんの回答が大変参考になりますので、できるだけ協力をお願いします。

<回答の取り扱いについて>

※ 回答は統計的に処理され、あなた個人の回答の内容がそのまま公表されたり、個人情報公表されることはありません。

—アンケートは、以下の記入例をもとに、教えてください—

記入例

問 出所後、仕事をしたいですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄に番号を書いてください。)

1. はい

2. いいえ

選んだ番号を回答欄(口の中)に書いてください



1

1. あなたのことについてお尋ねします。

問1 あなたは職親プロジェクトの対象者ですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. はい → 箇3へ 2. いいえ → 箇2へ 3. わからない → 箇2へ

【回答欄】

問2 あなたは在所中に内定はありましたか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. はい 2. いいえ

【回答欄】

問3 あなたの年齢はいくつですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 20歳未満 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上

【回答欄】

問4 住居の状況はどうか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. 自分や家族の持ち家 2. 賃貸(公営) 3. 賃貸(民営)
4. 勤め先の寮・社宅 5. 住み込み 6. その他

【回答欄】

問5 同居したり生計を共にする家族等はいますか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. 一緒に暮らしている 2. 離れて暮らしている 3. いない

【回答欄】

問6 主な稼ぎ手は誰ですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください)

1. あなた自身 6. 子
2. 父 7. 他の家族や親戚
3. 母 8. 年金などを受ける
4. 配偶者 9. 生活保護などを受ける
5. きょうだい 10. その他

【回答欄】

問7 出所したのはいつですか。数字を記入してください。(数字を口の中に書いてください)

西暦

年

月

問8 以下の①から⑩について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	強く思う	そう思う	そう思わない	強く思う	そう思わない	【回答欄】
① 私は、自分自身にだいたい満足している	1	2	3	4		
② 時々、自分はまったくダメだと思うことがある	1	2	3	4		
③ 私には、けっこう長所があると感じている	1	2	3	4		
④ 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる	1	2	3	4		
⑤ 私には誇れるものが大してないと感じる	1	2	3	4		
⑥ 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある	1	2	3	4		
⑦ 自分は少なくとも他の人と同じくらいに価値のある人間だと感じる	1	2	3	4		
⑧ 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う	1	2	3	4		
⑨ よく、私は落ちこぼれたと思ってしまう	1	2	3	4		
⑩ 私は、自分のことを前向きに考えている	1	2	3	4		

2. いまの仕事についてお尋ねします。

問9 あなたの仕事は何ですか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 理容・美容関係	8. コンピュータ関係
2. 金属製造関係	9. 自動車整備関係
3. その他の製造関係	10. 自動車運転関係
4. 建設・土木関係	11. 福祉関係
5. 電気工事関係	12. 販売員(営業・セールスマン、店員)
6. 農業・園芸関係	13. その他の仕事
7. 調理関係	

【回答欄】

どんな仕事か、もう少し詳しく教えて下さい。

(例)「住宅建設の現場で資材運びをしている」「ダイレクトメールを封入したり、発送する仕事」等

問10 いまの勤め先(会社等)に就職してどのくらいですか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 1か月未満	4. 6か月以上 12か月未満
2. 1か月以上 3か月未満	5. 1年以上
3. 3か月以上 6か月未満	

【回答欄】

問11 いまの勤め先(会社等)でいつまで働きたいですか。

(あてはまる番号を2つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. いつまでも・できるだけ長く働きたい	5. できるだけ早く辞めたい
2. 嫌にならないうちは、働いてもよい	6. 特に考えたことはない
3. もっとよい勤め先が見つかるまで	7. わからない
4. 独立できるまで・一人前になるまで	

【回答欄】

問12 いまの勤め先(会社等)は、出所して初めての勤め先ですか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. はい →問16へ	2. いいえ →問13へ
-------------	--------------

【回答欄】

3. 出所後の転職経験についてお尋ねします。

(問12で「2. いいえ」を選んだ人に聞きます。)

問13 出所してから、何回転職しましたか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 1回	2. 2回	3. 3回以上
-------	-------	---------

【回答欄】

問14 出所後、収入の伴う仕事をしていた期間を通算(合算)すると、どのくらいの長さですか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 1か月未満	4. 6か月以上 12か月未満
2. 1か月以上 3か月未満	5. 1年以上
3. 3か月以上 6か月未満	

【回答欄】

問15 出所後、最も長くて勤め先（会社等）での仕事について聞きます。

(1) その勤め先（会社等）では、どのくらいの期間、仕事をしていましたか。
 (あてはまる番号を1つ選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。)

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. 1か月未満 | 2. 1か月以上 3か月未満 | 3. 3か月以上 6か月未満 |
| 4. 6か月以上 12か月未満 | 5. 1年以上 | |

【回答欄】

(2) その仕事を辞めた主な理由は何ですか。(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。)

- | | |
|---|---|
| 1. 辞めていない
とうさん はいぎょう せいりかいこ | 8. 賃金の条件がよくなかった
ちんぎん じょうけん |
| 2. 倒産、廃業、整理解雇
こようきかん まんりよう やといど | 9. 勤め先や仕事に将来性がなかった
つと さき しごと しょうらいせい |
| 3. 雇用期間の満了・雇止め
けんこうじじょう りゆう | 10. 仕事が自分に合わなかった
しごと じぶん あ |
| 4. 健康上の理由
けんこうじじょう りゆう | 11. 自分の技能・能力が活かせなかった
じぶん ぎのう のうりよく い |
| 5. 人間関係がよくなかった
にんげんかんけい | 12. もっとよい仕事があった
しごと |
| 6. 職場の上司や同僚に注意された
しよくば じょうし とうりよう ちゅうい | 13. 何となく
なん |
| 7. 労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった
ろうどうじかん きゅうじつ きゅうか じゅうけん | 14. 逮捕・受刑等のため
たいほ じゅけいなど |
| | 15. その他
ほか |

【回答欄】

(すべての人に聞きます。)

問16 出所後、3か月以上、収入のある仕事をしていなかったことがありますか。
 (あてはまる番号を1つ選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

【回答欄】

問17 あなたが出所後の仕事を決める時に、重視したことは何ですか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。)

- | | | |
|--|----------|------------------------|
| 1. 家の近くで出来る仕事
いえ ちか で き しごと | 8. わからない | 9. 重視したことは特にない
じゅうし |
| 2. 自分の知識・能力にあう仕事
じぶん ちしき のうりよく しごと | | |
| 3. 勤務時間・賃金などが希望に合っている仕事
きんむじかん ちんぎん きぼう あ しごと | | |
| 4. 仕事内容や業界に興味がある仕事
しごとないよう ぎょうかい きょうみ しごと | | |
| 5. 元受刑者を受け入れてくれる職場
もとじゅけいしや う い しよくば | | |
| 6. 刑務所の職員などにすすめられた仕事
けいむしょ じよくいん しごと | | |
| 7. その他
ほか | | |

【回答欄】

問18 出所後の仕事についてどのような不安を持っていましたか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄（口の中）に番号を書いてください。)

- | | |
|--|--|
| 1. 特に不安はなかった
とく ふあん | 8. 与えられた仕事をうまくこなせるか
あた しごと |
| 2. 仕事が見つかるかどうか
しごと | 9. 昇進やキャリアアップができるか
しょうしん |
| 3. 職場の上司や同僚とうまくやっていたら
しよくば じょうし とうりよう | 10. 困った時や不当な扱いを受けた時にどこに相談してよいかわからない
こま とき ふとう あつか う とき そうだん |
| 4. 職場の同僚や上司が元受刑者を受け入れてくれるか
しよくば とうりよう じょうし もとじゅけいしや う い | 11. その他
ほか |
| 5. 職場に元受刑者であることが知られてしまわないか
しよくば もとじゅけいしや | |
| 6. 決まった時間に決まった場所に出社できるか
き まった じかん に き まった ばしょ しゅつしや | |
| 7. 稼いだお金で生活をうまくやりくりできるか
かせ かね せいかつ | |

【回答欄】

(4) (1) で選んだもののうち、出所後の就労に役立ったと思うものを選んでください。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 役立ったものは特にない
2. 職業訓練
3. 職場体験制度(内定企業や就労を希望する業種での就労体験)
4. 就労支援スタッフによるキャリアカウンセリング
(個別面接等での就労意欲や職業適性等を把握するためのアセスメント)
5. ハローワークと矯正施設が連携して行う、職業相談・職業紹介
6. 事業主による職業講話
7. 【特別改善指導】就労支援指導(就労に必要な基本的スキルやマナーの習得、出所後の就労に向けての取組の実施。5日間)

【回答欄】

(5) 入所中に、職業訓練を受けた人に聞きます。受けた職業訓練はどれですか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 金属関係(板金・機械・溶接・数値制御機械等)
2. コンピュータ関係(情報処理技術・CAD技術等)
3. 建築・土木・測量関係(左官・土木・配管・建築・建設機械・建設く体工事・建築塗装等)
4. 介護・福祉関係(ホームヘルパー等)
5. 自動車関係(自動車整備等)
6. 電気通信関係(電気通信設備等)
7. 販売・サービス関係(クリーニング・販売サービス・ビル設備管理等)
8. 理容・美容関係 9. 農業・園芸関係 10. 調理関係 11. その他の訓練

【回答欄】

5. あなたの出所後の仕事や生活のことについて、お尋ねします。

問20 あなたは、安定した収入の伴う仕事をしたいと思いませんか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 思う →問21へ 2. 思わない →問23へ 3. わからない →問24へ

【回答欄】

--

(問20で「1. 思う」を選んだ人に聞きます。)

問21 あなたが仕事をする目的は何ですか。(あてはまる番号を3つまで選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 収入がほしいから | 5. 社会の一員としてのつとめ |
| 2. 仕事そのものが面白い、自分の活力になるから | 6. 自分の才能や能力を発揮するため |
| 3. 仕事を通じて友人や仲間を得ることができるから | 7. その他 |
| 4. 働くのは身体によいから・老化を防ぐから | |

【回答欄】

問22 月収(手取り)はどのくらいを希望しますか。(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. ~10万円未満 | 5. 40万円以上~50万円未満 |
| 2. 10万円以上~20万円未満 | 6. 50万円以上~100万円未満 |
| 3. 20万円以上~30万円未満 | 7. 100万円以上 |
| 4. 30万円以上~40万円未満 | 8. わからない |

【回答欄】

--

⇒問24へ進んでください。

(問20で「2. 思わない」を選んだ人に聞きます。)

問23 安定した収入の伴う仕事をしたいと思わない理由は何ですか。

(あてはまる番号をすべて選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

1. 自分が帰る場所の近く(家の近く)に仕事がありそうにない
2. 自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない
3. 勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない
4. 今の景気や季節では仕事がありそうにない
5. 元受刑者を受け入れてくれる職場がみつきりそうにない
6. 仕事をしなくても生活できる
7. 家族などに反対されている
8. 仕事のイメージがわからない
9. 家事・育児・介護に専念したい
10. 資格取得等の勉強に集中するため
11. 健康上の理由のため
12. 何となく
13. その他

【回答欄】

(すべての人に聞きます。)

問24 生活費について、お尋ねします。

(1) 出所後、1か月間に生活費がいくら必要なか把握していますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 把握している | 2. 把握していない |
|-----------|------------|

【回答欄】

(2) あなたは、うまくお金のやりくりができず、生活費が足りなくなったことがありますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

【回答欄】

(3) あなたは、家賃や公共料金の支払いが遅れたり、払わなかったことがありますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

【回答欄】

問25 仕事をしていることと、再犯をしないことは関係があると思いますか。

(あてはまる番号を1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

【回答欄】

そのように思う理由について教えてください。

(関係あると思う方は、なぜ関係があると思いますか。関係ないと思う方は、なぜ関係ないと思いますか。)

⇒次のページにもお答えください。

6. 仕事や生活についての、あなたの考えをお尋ねします。

問26 以下の仕事に関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分にふさわしい仕事がどこかにあると思う	1	2	3	4	
② まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う	1	2	3	4	
③ 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1	2	3	4	
④ 定職に就かない方が自由でいいと思う	1	2	3	4	
⑤ 嫌いな人や気に入らない人とも、一緒に仕事をする事ができる	1	2	3	4	

問27 以下のまわりの人とのつきあいに関する意見について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。

(あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで、回答欄(口の中)に番号を書いてください。)

	はい	どちらかといえば	どちらかといえばいい	いい	回答欄
① 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1	2	3	4	
② 人となると、馬鹿にされたり軽く扱われたりはしないかと不安になる	1	2	3	4	
③ 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1	2	3	4	
④ 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く	1	2	3	4	
⑤ 大事なことを決めるときは、家族や上司の人の言うことに従わないと不安だ	1	2	3	4	
⑥ 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1	2	3	4	
⑦ 初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1	2	3	4	
⑧ 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1	2	3	4	
⑨ 自分の感情を表に出すのが苦手だ	1	2	3	4	
⑩ 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1	2	3	4	

問28 最後に、刑務所の中での就労支援や、出所後の仕事や生活について、ご意見があれば自由に記入ください。

～以上で アンケート調査は 終わりです。ご協力 ありがとうございます。～